

青森県埋蔵文化財調査報告書 第244集

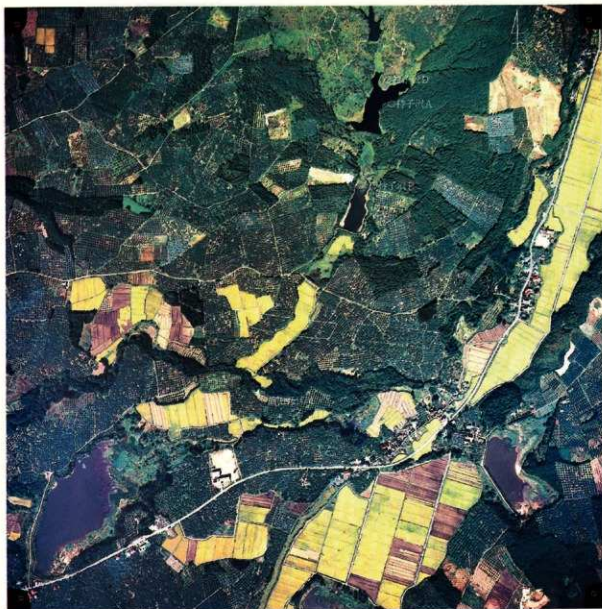
隠川(4)遺跡

隠川(12)遺跡 I

— 国道101号浪岡五所川原道路建設事業に伴う遺跡発掘調査報告 —

1998年3月

青森県教育委員会



隠川(4)・(12)遺跡周辺の環境 この写真は、建設省国土地理院の承認を得て、掲載したものである。(昭和50年9月30日撮影)



調査区上空 (左(12)A区・右(4))



隠川(4)遺跡



隠川(12)遺跡



(4) 4 H (中央の黒い部分は RP 01)



(4) 4 HRP01粘土堆積状態



(4) 4 HRP01粘土除去後の状態



(4) 4 HRP02粘土堆積状態



(4) 4 HCL01 (粘土塊出土状態・16区)



(4) 1 HRP01粘土堆積状態



(4) 1 HRP01セクション (上位)



(4) 1 HRP01土器出土状態



(4) 3 HRP01完掘状態



(4) 4 HRP01磚出土状態



(4) 4 HRP01粘土中の赤色顔料塊検出状態



(4) 4 HRP02粘土セクション



(4) 6 HRP01確認状態



(4) 6 HRP01セクション



(4) 6 HRP01土器出土状態



(4) 6 HRP02礫・粘土塊検出状態



(4) 6 HRP02礫・シルト礫検出状態



(12) 2 HRP01完掘状態



(12) 2 HRP01セクション



(12) 5 HRP01完掘状態



(12) 5 HRP01セクション



(12) 4 HRP01土器出土状態



(12) 5 HSK01粘土塊出土状態



(4) SK05完掘状態



(4) SK05土器出土状態



(4) SK17遺物出土状態



(4) SK17セクション



(4)・(12)土師質特殊遺物・(12)土器 (図40-26)



(4)土師質特殊遺物



(12) 4 Hカマド須恵器窯壁片出土状態



(12) SK19須恵器窯壁片出土状態



(12) 2 H須恵器窯壁片出土状態 (5区)



(4)・(12)須恵器窯壁片



(12) 2 Hカマドシルト礫出土状態



(4) 1 HSD03シルト礫出土状態



(12) 2 Hシルト礫出土状態 (1区)



(4)・(12)シルト礫



(12)SDX01完掘状態



(12)SDX02・03・04完掘状態



(4)SE01井戸枠・土器出土状態



(12)SE01土器出土状態



須恵器



破裂刹片



土師器



ミニチュア土器

序

津軽平野に位置する五所川原市には、観音林遺跡や前田野目の須恵器窯跡をはじめ数多くの埋蔵文化財が包蔵されています。青森県教育委員会では、国道101号浪岡五所川原道路（津軽自動車道）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査を平成7年度から実施しております。

この度、平成8年度に発掘調査した五所川原市隠川(4)・(12)遺跡の報告書がまとまり、これを刊行することになりました。

調査の結果によると、縄文時代から平安時代までの各時代の遺物が出土し、長い時代にわたって人々が生活した遺跡であることが判明しました。特に、本県において初めて検出された土器の工房跡は、前田野目の須恵器窯跡に関連する遺構として注目されるものです。

この調査成果が広く文化財の保護と研究に活用され、また地域社会の歴史学習や地域住民の文化財保護の意識の高揚につながることを期待したいと存じます。

最後に、平素より埋蔵文化財の保護に対し御理解を賜っている建設省青森工事事務所並びに五所川原市教育委員会と、発掘調査の実施と報告書の作成にあたり御指導、御協力を賜った関係各位に対しまして、厚くお礼申し上げます。

平成10年3月

青森県教育委員会

教育長 松森 永祐

例 言

- 1 本報告書は、平成8年度に実施した国道101号浪岡五所川原道路建設事業予定地内に所在する隠川(4)遺跡・隠川(12)遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本遺跡の遺跡番号は、隠川(4)遺跡が05064番、隠川(12)遺跡が05072番である。
- 3 資料の鑑定及び試料の鑑定・分析については次の方々と機関に依頼した(順不同、敬称略)。

火山灰の蛍光X線分析	奈良教育大学教授	三辻 利一
土師器・須恵器の蛍光X線分析	奈良教育大学教授	三辻 利一
木製品・炭化材の樹種同定	東北大学教授	鈴木 三男
石器の石質鑑定	青森県立板柳高等学校教諭	山口 義伸
植物珪酸体分析	(株)古環境研究所	
植物種子の種実同定	(株)パレオ・ラボ	
- 4 本報告書の依頼原稿の執筆者名は目次と文頭に示した。土師器・須恵器・ミニチュア土器・縄文土器の執筆は三林が、それ以外は木村が執筆した。編集は木村が行った。
- 5 本報告書に掲載した地形図(遺跡位置図)は、建設省国土地理院発行の2万5千分の1の地形図(「浪岡」・「大釈迦」)を複写、合成したものである。
- 6 出土遺物・実測図・写真等は、現在青森県埋蔵文化財調査センターで保管している。
- 7 発掘調査及び本報告書の作成にあたり、次の機関および方々から御協力・御助言を頂いた。ご芳名を記し、感謝申し上げる次第である(順不同、敬称略)。
 津軽金山焼窯業協同組合 赤熊浩一 天野哲也 新谷久雄 井上雅孝 遠藤正夫 利部修
 角張淳一 北林八洲晴 工藤清泰 鈴木徹 高橋学 田中寿明 豊田宏良 羽柴直人 半沢紀
 福田友之 松田隆二 松宮亮二 松谷純一 光谷拓実 百瀬正恒 森内秀造 森岡健治 渡辺一
 渡部学

凡 例

- 1 本報告書の依頼原稿については執筆者名を文頭に記した。
- 2 引用・参考文献については、本文末に収めた。文中に引用した文献名については、著者名(編集機関)と西暦年で示した。
- 3 土層の色調・注記では、『新版標準土色帖』(小山・竹原1967(17版1995.1))を参考にした。また、基本土層の番号にはローマ数字(I・II・III…)を使用し、遺構内の層序を表記する際はアラビア数字(1・2・3…)を使用した。遺構内の土層注記において、土質の記されていない土層は、全てシルト質であり、しまり具合が記されていない土層は、全て「しまりの有る」ものである。
- 4 遺構名は、基本的に調査時の名称を使用した。遺構名を変更したものは下記の通りである(()内は調査時の遺構名)。
 遺構原図面と遺物の注記には調査時の遺構名を使用している。

隠川(4)遺跡		隠川(12)遺跡		
IHRP01(1HSX01)	6HSD02(1HSD05)	2HSK01(2HSX06)	4HRP01(4HSX03)	SK22(第1号埋設)
IHRP02(1HPHt3)	SK16(1HSK01)	2HSK02(2HSX10)	4HSD01(SD05)	SE01(SK03)
3HRP01(3HPHt2)	SK17(1HSK02)	2HRP01(2HSX01)	5HRP01(5HSX01)	SDX01(連続溝状遺構)

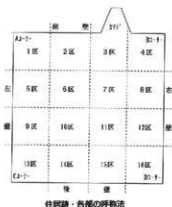
隠川(4)遺跡

4HRP01 (4HSX01)	SK18 (2HSK02)
4HRP02 (4HSX02)	6HSB01Pa01 (HSB01Pa01)
4HCL01 (4HSX03)	6HSB01Pa04 (HSB01Pa04)
6HRP01 (6HSK01)	6HSB01Pa06 (HSB01Pa06)
6HRP02 (6HSK02)	6HSB01Pa09 (HSB01Pa09)
6HSD01 (1HSD04)	6HSB01Pa14 (HSB01Pa14)

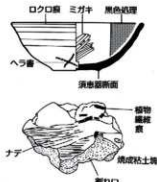
隠川(12)遺跡

2HPi2 (2HSX03)	5HSK01 (5HSX03)	SDX02 (第2号小連続溝状遺構)
2HPi3 (2HSX04)	6HSK02 (4HSX04)	SDX03 (第3号小連続溝状遺構)
2HPi4 (2HSX05)	5HPi4 (5HSX02)	SDX04 (第1号小連続溝状遺構)
2HPi6 (2HSX07)	SK18 (2HSK01)	E-152-13 Pit3.4 (2HSK04)
2HPi7 (2HSX08)	SK19 (2HSK02)	
2HPi8 (2HSX09)	SK20 (2HSK03)	

- 5 遺構の表記には以下に示す略号を使用し、原則として遺構の検出順に付番した。
 H：住居跡 HSD：住居跡に付随する外周溝・外延溝 HSDSK：住居跡外周溝に付随する土坑
 HSB：住居跡に付随する掘立柱建物跡 HRP：住居跡に付随するロクロピット P：住居跡に付随する柱穴・小穴
 SK：土坑 SD：溝跡 SDX：並列溝状遺構 SE：井戸跡 SX：その他の遺構
- 6 住居跡の規模については、原則として4壁の中間点を計測箇所とし、対峙する2壁の各中間点を結ぶ長さを平均壁長とした。
- 7 住居跡の四壁を表現する際に、方位で表現すると煩雑になるため、便宜的に前壁、後壁、右壁、左壁と呼称した。即ち、住居跡の中心からカマドの作りつけられる壁を見た際、その壁が前壁、後ろにある壁が後壁、右にある壁が右壁、左にある壁が左壁である(下図)。
- 8 住居跡の隅を、方位で呼称すると複雑になるため、便宜的にA～Dの名称で呼称した。即ち、住居跡の中心からカマドの作りつけられる壁を見た際、左前方にある隅がAコーナー、右前方にある隅がBコーナー、左後方にある隅がCコーナー、右後方にある隅がDコーナーである(下図)。
- 9 住居跡内における出土遺物と付属施設の平面的位置を述べる際に、住居跡の平面図を16分割し、各々の区画の名称を用いた。分割の方法は、各壁長を二等分し、前壁と後壁の中央、左壁と右壁の中央を線で結んで四分し、次に各々の区画をさらに四分するものである。あくまでも各々の住居内を等分したものであるため、各区画の形状・面積は住居跡毎に異なり、菱形の住居跡などは、各分割区も菱形となる。各々の分割区の名称は、カマドの作りつけられる壁の左端(Aコーナー)からBコーナー方向に1～16区とした(下図)。
- 10 掘立柱建物跡の主軸方位は、桁行方向の長軸を基準線とした。
- 11 遺物には、観察表を付し、出土地点や諸特徴を一覧できるようにした。
- 12 陶磁器の年代は廃棄年代ではなく、およその焼造年代を記載した。
- 13 埴田の縮尺は、各図ごとにスケールを掲載した。
- 14 埴田中のスクリーン・トーンは、各図ごとに凡例を付した。
- 15 埴田中の北の方位表示は、全図とも座標北である。
- 16 遺構図版中の土器の縮尺は、約8分の1である。なお、遺物写真の縮尺は、統一しなかった。
- 17 遺物図版中において、床面・底面出土遺物に●印を、床構築土(貼床)出土遺物には○を、実測図の左下に記した。



実測図凡例



目 次

巻頭図版	
序	
例言 凡例	
第I章 調査に至る経緯と調査要項	1
第1節 調査に至る経緯	木村謙次郎 1
第2節 調査要項	1
第II章 調査の方法と調査の経過	4
第1節 調査の方法	4
第2節 調査の経過	5
第III章 遺跡周辺の環境	7
第1節 地形及び地質	山口 義伸 7
第2節 周辺の遺跡	10
第IV章 遺跡の概要	14
第V章 遺物の分類	16
第VI章 隠川(4)遺跡の検出遺構と出土遺物	23
第1節 平安時代の検出遺構	25
1 住居跡	25
2 土 坑	64
3 井戸跡	68
4 並列溝状遺構	71
5 溝 跡	73
6 特殊遺構	73
第2節 平安時代の出土遺物	74
1 土師器	74
2 須恵器	76
3 ミニチュア土器	77
4 土製品	95
5 土師質特殊遺物	96
6 焼成粘土塊	98
7 粘土塊	100
8 窯壁片	101
9 石製品	101
10 鉄製品	104
11 鉄 滓	104
12 木製品	105
第3節 縄文時代の検出遺構	106
1 土 坑	106
第4節 縄文時代の出土遺物	109
1 土 器	109
2 石 器	111
第5節 弥生時代の出土遺物	114
1 土 器	114
第6節 近世以降の出土遺物	115
1 陶磁器	115
2 瓦質土器	115
3 銅製品	115
4 土製品	115

第七章 隠川(12)遺跡の検出遺構と出土遺物	127
第1節 平安時代の検出遺構	129
1 住居跡	129
2 土坑	150
3 井戸跡	161
4 並列溝状遺構	163
5 溝跡	169
第2節 平安時代の出土遺物	170
1 土師器	170
2 須恵器	171
3 ミニチュア土器	172
4 土製品	188
5 土師質特殊遺物	189
6 粘土塊	191
7 焼成粘土塊	191
8 窯壁片	193
9 石製品	194
10 鉄製品	196
第3節 縄文時代の検出遺構	197
1 土坑	197
第4節 縄文時代の出土遺物	198
1 土器	198
2 土製品	198
3 石器	200
4 石製品	201
第5節 弥生時代の出土遺物	205
1 土器	205
第6節 近世以降の出土遺物	206
1 陶磁器	206
2 石製品	206
3 銅製品	206
第7節 時代不明の検出遺構	207
1 溝跡	207
2 ビット群	207
第八章 調査の成果	221
第1節 遺構	221
第2節 遺物	228
第九章 自然科学的分析	235
第1節 火山灰の蛍光X線分析	三辻 利一 235
第2節 土器類・粘土の蛍光X線分析	三辻 利一 237
第3節 木製品及び炭化材の樹種同定	鈴木 三男 244
第4節 並列溝状遺構の植物珪酸体分析	瀬古塚境研究所 249
第5節 大型植物化石の同定	園バレオ・ラボ 255
第十章 調査のまとめ	258
写真図版	
報告書抄録	

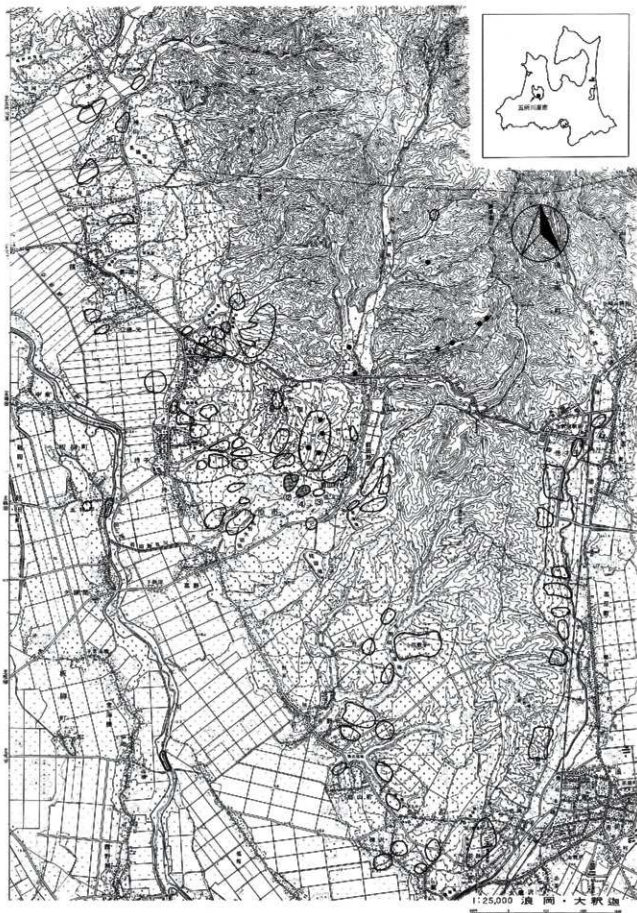


図1 遺跡の位置 (本図は建設省国土地理院発行の25,000分の1地形図「濃岡」・「大野池」を複製したものである)
(スクリーン・トーン部分)

第1章 調査に至る経緯と調査要項

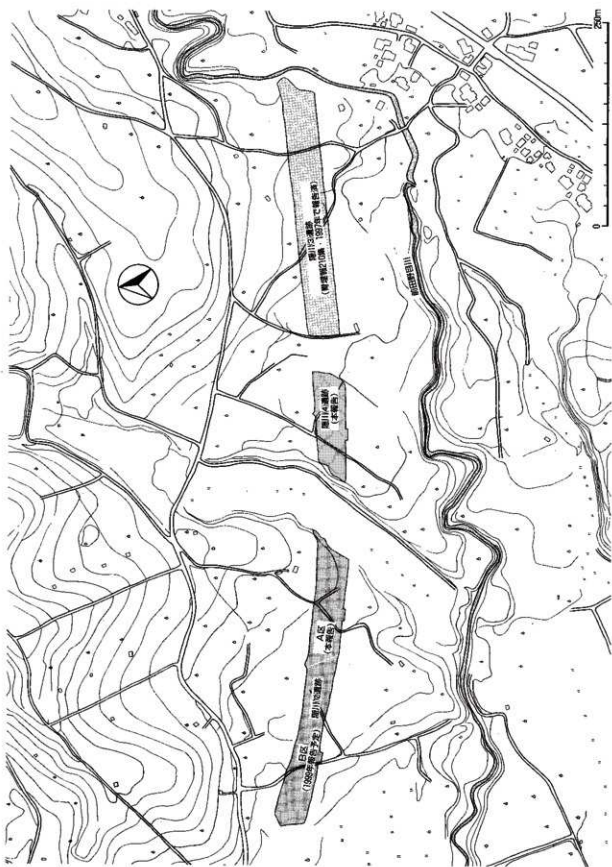
第1節 調査に至る経緯

国道101号浪岡五所川原道路は、南津軽郡浪岡町から五所川原市までの全長15.7kmを結ぶ自動車専用道路で、津軽自動車道の一部を形成するものである。平成3年度に青森県の事業として着手され、平成5年度からは建設省の事業となっている。青森県教育庁文化課では、平成3年度に津軽自動車道建設事業と文化財保護の調整を図るため分布調査を実施した（『青森県遺跡詳細分布調査報告書Ⅳ』青森県埋蔵文化財報告書第146集）。隠川(4)遺跡・隠川(12)遺跡はその際に新たに確認された遺跡で、青森県遺跡番号は(4)が05064、(12)が05072で、平安時代の遺跡とされた。

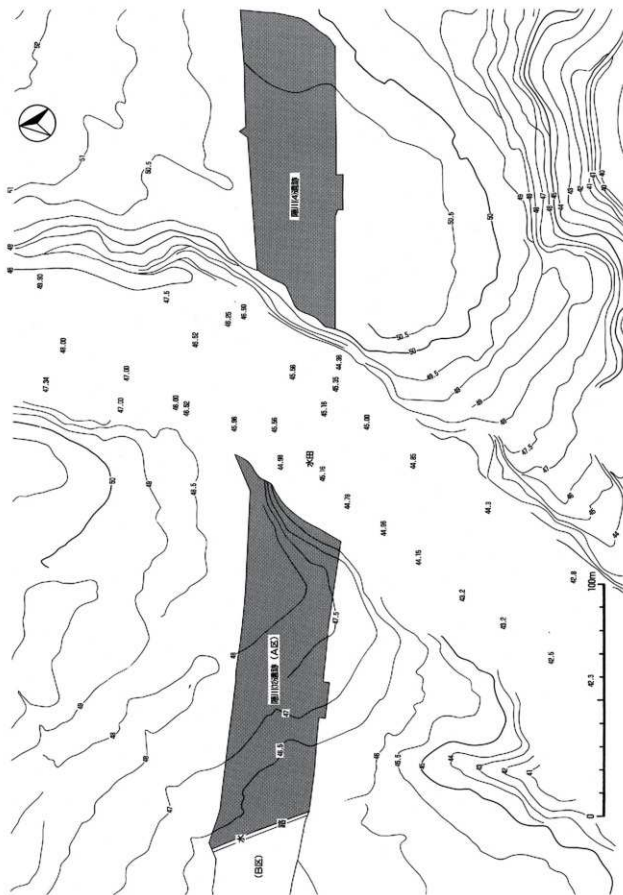
平成8年度に隠川(4)・(12)遺跡の発掘調査を青森県埋蔵文化財調査センターが実施することになり、平成8年5月8日から調査を開始した。(木村 鐵次郎)

第2節 調査要項

1	調査目的	国道101号浪岡五所川原道路建設事業の実施に先立ち、当該地区に所在する隠川(4)・(12)遺跡の発掘調査を行い、その記録保存を図り、地域社会の文化財活用に資する。
2	発掘調査期間	平成8年5月8日(水)から同年10月30日(水)まで
3	遺跡名及び所在地	隠川(4)遺跡(青森県遺跡番号05-064) 五所川原市大字持子沢字隠川616、外 隠川(12)遺跡(青森県遺跡番号05-072) 五所川原市大字持子沢字隠川622、外
4	調査対象面積	隠川(4)遺跡 5,000平方メートル 隠川(12)遺跡 5,000平方メートル
5	調査委託者	建設省東北地方建設局青森工事事務所
6	調査受託者	青森県教育委員会
7	調査担当機関	青森県埋蔵文化財調査センター
8	調査協力機関	五所川原市教育委員会、西北教育事務所
9	調査員等	調査指導員 村越 潔 青森大学教授(考古学) 調査協力員 釜菴 裕 五所川原市教育委員会教育長 調査員 高島 成侑 八戸工業大学教授(建築学) 葛西 勳 青森短期大学助教授(考古学) 山口 義伸 青森県立板柳高等学校教諭(地質学)
	調査担当者	青森県埋蔵文化財調査センター 調査第四課 課長 木村 鐵次郎 主 事 木村 高 主 事 三林 健一 調査補助員 中村 行西、小野 悦子 本間 小夜佳、今 直子



図Ⅱ 隠川(3)・(4)・(2)遺跡の調査区及び周辺の地形の環境



図Ⅲ 調査区周辺の地形

第Ⅱ章 調査の方法と調査の経過

第1節 調査の方法

グリッドの設定 (図Ⅳ) 調査区域内におけるグリッドは、隠川(3)遺跡(平成7年度に調査実施)で使用したグリッド(青森県教育委員会1997)を延長して設定した。

1グリッドの規模は4m×4mに設定し、各グリッドには南北線の北から南へA・B・C……とアルファベットを、東西線の東から西へ1・2・3……と算用数字を付した。

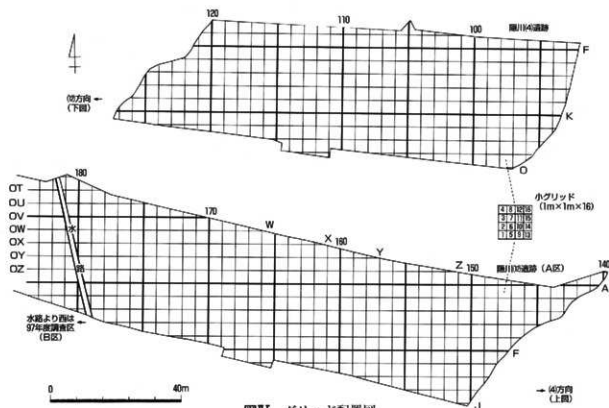
グリッドの呼称は、北東隅の交点を使用することにした(アルファベットのPは付さなかった)。さらに4m×4mの1グリッドの中には16個の1m×1m小グリッドを設け、1～16の番号を付した(グリッド配置図参照)。なお、グリッドの南北方向線は、座標北より東に2度傾いている。

遺物包含層の調査方法 発掘調査に当たっては、各地区ごとに適宜、遺跡に堆積する土壌の層位的な堆積状況を観察するために数本のセクションベルトを設け、各グリッドごとに掘り進めていった。

基本土層の名称は、表土から下位にローマ数字を付すことにした。土層観察にあたっては『新標標準土色帖』(小山・竹原1967(17版1996.1))を用いて注記した。

出土した遺物の取上げは、グリッド単位(小グリッド単位)・層単位に行い、必要に応じて写真を撮影した後に平面図を作成し、標高を測定、さらに番号を付すことにした。

遺構の調査方法 遺構の調査は、原則的に四分法で行い、堆積土層観察用のセクションベルトを設け、土層を観察しながら精査を進めたが、遺構の規模や形態から四分法が困難になった場合は二分法に切り替えて行うこととした。土層の名称は、基本的に上位から下位に、左から右に算用数字を各々



付すことにした。土層観察にあたっては『新版標準土色帖』（小山・竹原1967(17版1996.1)）を用いて注記した。堆積する土壌の中に火山灰を含む場合は、火山灰の純度の高い部分を中心にサンプリングし、室内において不純物を除去した。

実測図の作成 遺構の形態及び遺構内出土遺物の出土地点や出土状態については、全て遺り方測量によって行った。縮尺は20分の1を基本としたが、種類や規模の大小により10分の1、40分の1、その他とした。なお、隠川(4)遺跡のベンチマークは、東域と西域の2箇所に51.00mを設定し、その際の東域の眼高レベルは100cm、西域は50cmに設定した。また、隠川(12)遺跡のベンチマークは、49mを数ヶ所に設定し、その際の眼高レベルは50cmに統一した。

遺構番号の命名 遺構の番号は、その遺構の種類に応じて遺跡毎の確認順に付すよう努めたが、若干の欠番が生じた。よって本報告では一部に新番号を付している（例言参照）。

写真撮影 土層の堆積状態、遺物の出土状態、遺構の完掘状況を中心に撮影し、その他必要に応じて基本土層、調査状況などについても記録した。カメラは、キャノンEOS 5、使用レンズはキャノンULTRASONICズームレンズEF28-105mm 1:3.5-4.5を使用し、フィルムはモノクロ・カラーリバーサル・カラーネガの3種を使用した。

(木村 高)

第2節 調査の経過

平成7年度 7月下旬から(4)の3,500㎡の粗掘及び遺構確認を行う（青埋報 第210集 1997）。

平成8年度 4月 17日に五所川原市中央公民館において発掘作業員の雇用説明会を実施。18日に隠川(4)遺跡（以下、(4)と言う）・隠川(12)遺跡（以下、(12)と言う）において原因者とともに遺跡の現状把握と、中杭などの日印等について確認を行う。

5月 調査開始日に発掘調査機材を搬入。プレハブ内清掃、調査区内に散在する危険物の除去等の環境整備を行う。その後、(4)の前年度までに粗掘りが終了している3,500㎡の遺構確認および精査を行う。調査と道路工事が同時進行するため、(4)・(12)の層序及び土量、遺構・遺物の埋藏量の把握を行いつつも、(4)の工事範囲内を優先的に遺構精査する。5月末日段階で確認した遺構は、住居跡、土坑、溝跡（住居跡外周溝含む）、柱穴、多数の風倒木痕、溝状遺構等であり、それらのほとんどはB-Tm降下以前の構築であることが把握される。(4)の調査区域内での工事は7月頃から行われることになり、(12)の試掘は中断し、(4)の調査に専念する。工事用道路の予定箇所には、並列溝状遺構、第1号住居跡、第2号住居跡、第3号堅居跡に付随する溝跡があることから、急ピッチで精査を進める。しかし、第1号住居跡にはミニチュア土器や土製品を含むおびただしい数量の遺物が廃棄されており、拡張を行っている住居跡でもあったことから、精査には予想以上に時間を要す。また、この住居跡に付随する掘立柱建物跡の中からは、炭化したトチが5月末の時点で50点以上も出土したことより、一般的な住居跡ではないと認識する。

6月 (4)：調査区内の東域にある前年度に粗掘した際の排土をバックホーで移動。そこから新たに井戸跡1基が確認され、B-Tm降下以前の構築であることを把握。6日：浪岡町中央公民館において原因者と調査打ち合わせ会議を行い、浪岡五所川原道路の事業概要や遺跡の概要などについて報

告を交わす。工事用道路の着工が迫ってきたため、(4)の遺構精査を急いだが、第1号住居跡の精査完了は、無理であった。工事用道路の計画変更について原因者と協議。協議の結果、工事用道路は、遺構の無い地帯を蛇行させ、その工事は2期に分けることに決定。1期目の工事用道路の完成直後、(4)の中央に在る農道を掘り下げ、遺構確認・精査を行う。農道の下には予測通り並列溝状遺構が確認され、直ぐに調査を開始。プラントオパール分析を中止することで、調査は早急に完了。しかし、並列溝状遺構の下層には縄文時代の土坑が2基確認され、加えて雨天日も続いたことから、調査は予想以上に難航。7月からは2期目の工事用道路が着工されるため、急いで調査を進める。農道の下に検出された並列溝状遺構は、その形状で見ると、畝跡に類似するが、断定できないため、便宜的に「連続溝状遺構」と呼称。

7月 (4)：住居跡と並列溝状遺構の精査を中心に作業。並列溝状遺構、縄文時代の土坑の精査完了後、2期目の工事用道路が着工される。第3号住居跡と第4号住居跡の間の道路は深さ4m以上のものとなったため、安全確保のために作業形態を変える。「土坑」としたものの、3基ほど土器焼成遺構と思われるものが認識され、また、住居跡内に特殊施設が多いことに注意し始める。特に第4号住居跡の中央に検出された2基のピットがロクロ軸受けのためのピットではないかという認識を持つようになり、また、同住居跡の南コーナーに出土した3個の直方体を呈す粘土塊は、土器製作用の粘土ではないかと考える。井戸跡からは木枠や一括廃棄された土師器、須恵器などが出土し始め、火山灰が2枚あることも判明し、良好な井戸跡であることがつかめたが、湧水が著しく調査は難航。(12)：2期目の工事用道路完成後、少人数で遺構確認を行う。(12)にも並列溝状遺構が確認され始める。

8月 (4)：第1号住居跡にもロクロピット2基を確認し、さらに同住居跡の下層には第6号住居跡が確認されたが、第6号住居跡にもロクロピットが2基確認された。井戸跡の下位火山灰の下層からはミニチュア土器2点が出土し、さらに埋土には多量の種子が含まれていたため、土壌サンプルの採取を行う。8月末日に(4)の調査を完了。(12)：遺構精査及び確認を中心に作業。遺物の出土率は周辺の平安期集落よりも明らかに多い。第2号住居跡内からは土玉が出土し始める。

9月 (12)の遺構精査を中心に作業。須恵器窯壁片が第2号住居跡、第4号住居跡、(12)の調査区東端の斜面から出土したため、調査区東端の斜面に須恵器窯跡の有無を確認するために、移植ベラで入念に掘り下げた。また、並列溝状遺構の火山灰の希薄な部分では、平面プランの確認が困難であったため、トレンチを多数設け、断面を繋ぐようにして全形、全長の把握に努めた。結果として、並列溝状遺構は非常に長いことが判明し、畝跡としては考え難いと思われてくる。また、その際のトレンチにより並列溝状遺構の下層に住居跡や土坑の存在が判明する。

10月 (12)：航空撮影及び、並列溝状遺構のプラントオパールのサンプリングを行った。その後、並列溝状遺構の下層にある遺構を調査するため、並列溝状遺構の検出面を一斉に掘り下げ、住居跡1軒と、土坑数基を検出。中旬は雨天日が続き、並列溝状遺構下層の遺構精査は遅々として進まず、一時は期間内での調査完了は難しいと思われたが、調査は続行。井戸跡からは、(4)の井戸と同様に火山灰が2枚確認される。井戸跡内には須恵器片が多数廃棄されており、窯壁片も1点出土する。下旬からは好天に恵まれ、予測以上に作業が進行したことから、(12)の次年度調査区(B区)の試掘も行いながら、10,000㎡の調査の全日程を無事終了する。

(木村 高)

野内を北流する十川と合流する。なお前田野目台地内には、原子溜め池、高野溜め池、鈍溜め池、三太溜め池、吉野田新溜め池、熊沢溜め池などがみられるが、これらの溜め池は梵珠山地を流れる浸食谷内であって、平野部への出口付近を堰き止めて灌漑用水用として利用されている。

本遺跡は標高45～52mの、前田野目川北岸の低位段丘上に立地している。段丘面は概ね100分の2程度の勾配で平野部側に緩傾斜している。前田野目川は低位段丘東端付近で西流し、平野東端部を北流する十川に合流する。平野への出口付近にあたる五所川原市高野には高野大溜め池がある。本遺跡の調査区域には前田野目川の枝谷が認められ、谷底と比高2～3mの急崖で臨んでいる。この谷を境に西側を隠川(12)遺跡、東側を隠川(4)遺跡と呼んでいる。

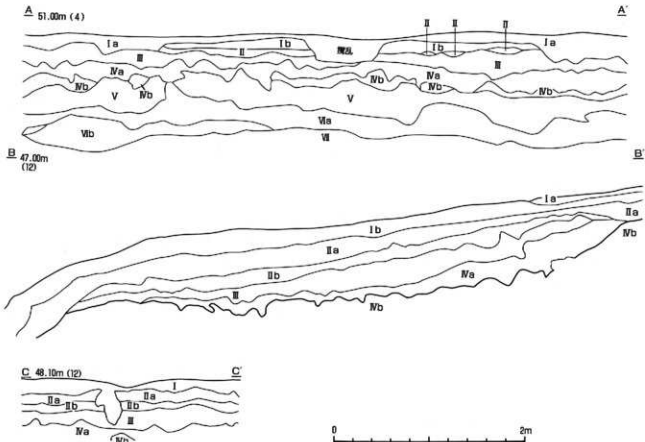
次に、隠川(4)・(12)遺跡調査区域内の基本層序を第3図に示した。これに基づいて各層の概略を述べることにする。なお、隠川(4)遺跡の東域、隠川(12)遺跡の西域は耕作による攪乱および削平を受け、基本層序第I層の下位には第IV層あるいは第V層が堆積することが多い。

I a層 黒色土 (10YR2/1) 耕作による攪乱層である。粘性・湿性に欠け、耕作によるかたさはあるが締まりに欠け脆く崩れやすい。乾くと黒灰色に変色し、格子状の割れが目立ちボソボソとした感じである。

I b層 黒色土 (10YR1.7/1) 耕作区域外における表土である。粘性・湿性に乏しく、I a層よりかたさはあるが締まりに欠ける。乾くとクラックが発達しブロック状に割れやすい。

II層 黒色土 (10YR1.7/1) 粘性・湿性がややあり、またかたさや締まりも認められる。層全体がシルト質～細粒砂質で、軽石粒および粘土粒の混入が目立つ。なお、隠川(12)遺跡調査区域では、本層下部に白頭山起源の苫小牧火山灰 (B-Tm) がブロック状に堆積する黒褐色土 (II b層) が認められる。このII b層は谷地形での傾斜地および凹地などの低地のみ堆積している。軽石粒および粘土粒が多量に混入している (土層断面図B・B'・C-C')。並列溝状遺構はB-Tmの紡状の堆積でもって確認されている。

III層 黒色腐植質土 (10YR1.7/1) 腐植質で粘性・湿性が十分である。かたさおよび締まりもみられる。軽石粒および粘土粒が多少混入している。



第3図 調査区域内の基本層序

IV 層 黒褐色土 (10YR2/2-3/2) 漸移層である。粘性・混性がややあり、またかさおよび締まりも認められる。下位層の軽石や軽石質粘土粒の混入が目立ち、層全体としてソフトな感じがする。なお、本層は軽石粒や粘土粒の混入状況により2層に細分される。上部のIV a層は粒子状の混入物が目立ち、全体的にやや腐植質で暗い色調を呈する。下部のIV b層はブロック状の混入物が目立ち、全体的に色調が明るく粘土質でソフトな感じがする。ただ、隠川(12)遺跡調査区域での谷地形の傾斜地では、下部のIV b層は下部が淘汰の悪い砂礫層、中部が中粒砂層、そして上部が砂質粘土層と層相変異している(土層断面図B-B)。

V 層 黄褐色軽石層 (10YR5/6) 縦帯堅固なラブリ質細粒軽石層である。本遺跡調査区域では局部的に降水の影響を受けて黄灰色軽石質粘土に層相変化する。千曳浮石(東北地方第四紀研究グループ1969)、碓ヶ石浮石(山LL1993)に対比される。

VI 層 明黄褐色凝灰質粘土層 (10YR6/6-7/6) 背後の丘陵地および高位段丘を構成する鶴ヶ坂層の再堆積相と思われ、本遺跡の立地する低位段丘面を被覆する湿地的な環境下で堆積したものと考えられる。調査区域内での工事用道路のカッティングの面で確認したところ、層相により2層に細分される。上部のVI a層は塊状で細粒軽石質砂層であり、V層との境界面には時間間隙を示す暗色帯が認められ、乾くとクラックが発達している。下部のVI b層は細粒軽石質砂層と黄灰色軽石質粘土との互層からなっている。砂層中には多少未淘汰の砂礫層のレンズあるいは薄層が認められ、本層底部にも厚さ50cm程度の砂礫層が下位の粘土層を大きく挟む形で堆積している。

VII 層 におい黄褐色粘土層 (10YR7/4) N値が15を示す固結した粘土層で、本遺跡・隈無遺跡 および浪岡町推定でのボーリング試料でも確認しているが、湿軽平野周縁に発達する低位段丘の構成層をなすものと考えられる。固結粘土の下位には、N値が3-7の軟らかいシルト層-粘土層の堆積(厚さ約5-6m)が確認されている。

ところで、隠川(12)遺跡の第2号住居跡および第4号住居跡などからは粘土塊が出土している。おそらく、高位段丘を構成する前田野目層中の粘土層か、あるいは基本層序第VII層の粘土層から採取したものと思われる。前田野目層中の粘土層はシルト質-細粒軽石質な粘土層であり軽石粒などの混入物が認められる。一方、基本層序第VII層は均一に粘性のある固結した粘土層であるが、地表下約2-3m付近の堆積物(厚さ約2-3m)である。

引用・参考文献

- 藤井敏三 1966 5万分の1地質図幅及び同説明書「金木」(青森-第14号) 地質調査所
 東北地方第四紀研究グループ 1969 東北地方における第四紀海水準変化 地学団体研究会 専報 V15
 中川久夫 1972 青森県の第四系 青森県の地質第二部 青森県
 藤井敏三 1981 油川地域の地質 地域地質研究報告(5万分の1地質図幅) 地質調査所
 村岡洋文・長谷谷和 1989 黒石地域の地質 地域地質研究報告(5万分の1地質図幅) 地質調査所
 中里町・中里町教育委員会 1993 中里城跡環境整備基本構想 中里町文化財調査報告書第8集
 山口義伸 1993 平川流域での十和田火山起源の浮石流凝灰岩について 年報 市史ひろさき V2 弘前市
 青森県教育委員会 1996 野尻(4)遺跡 青森県埋蔵文化財調査報告書第186集

第2節 周辺の遺跡

-特に窯業関連遺跡について-

隠川(4)・(12)遺跡(以下、本遺跡と言う)から検出された平安時代の住居跡には、ロクロピットが付随し、同時代の住居跡、土坑、井戸跡からは、須恵器窯壁片が出土している。このような窯業に関連する要素が多数確認された集落は青森県域において本遺跡が初例であることから、本節では周辺に点在する平安時代の須恵器窯跡と、窯業に関連する可能性のある遺跡について簡単に触れておく。

1 五所川原窯跡群

1968-73年の6年間に坂詰秀一、村越深、新谷武の三氏によって7基の窯跡が調査されている。74年以降、調査は行われていなかったが、1997年に窯跡が新規発見され、発掘調査が行われた。この窯

跡は「犬走窯跡」と命名され、調査された窯跡としては8基目となる。1991年の五所川原市史編纂事業による現地調査により、新たに確認された窯跡を含めると現在のところ須恵器窯跡は調査済が8基、未調査が13基の計21基を数える(図V)。

窯跡の構造 調査済の8基の窯跡のうち、7基の図面が公表されている。4基については道路工事等による破壊のため、遺存状態が悪く、窯体構造の細部に関しては明瞭でないが、残存した諸属性の中から、確実性の高い事実のみを抽出すれば、(1)全て半地下式無階無段穹窯 (2)全長6.6~9.4m (3)焼成部の幅は1.3~2.4m (4)焚口部の幅は1.9~2.4m (5)窯底の平均勾配は20~30度であることがわかる(図V下表)。

製品 坏、壺、鉢、甕が出土している(⑧、⑩文献に実測図が集成されている)。ヘラ描き記号の施されるものが多い。また、胎土の色調を断面を見ると、赤色と青色(灰色)が互層になっているものが多い。海面骨針を含むものも目立ち、海成層からも粘土を採掘していることが分かる。

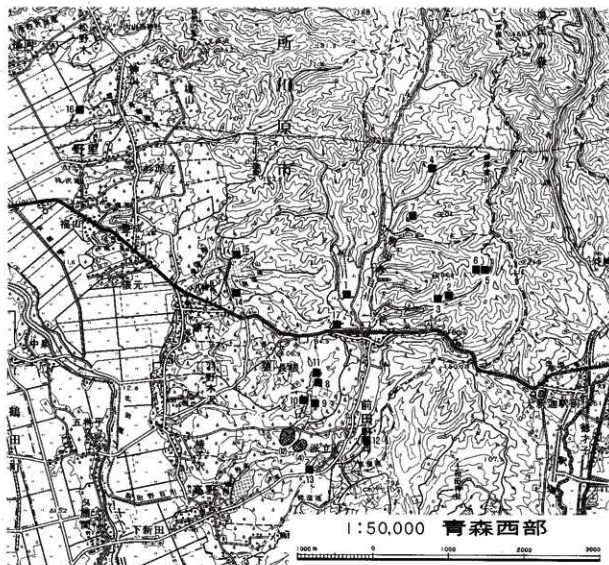
窯跡・製品の系譜 三浦圭介氏は、持子沢窯跡の製品が秋田県能代市十二林窯跡のものと同じ脈絡を持つとし、十二林窯跡→持子沢系窯跡(持子沢B、C)→前田野目系窯跡(砂田B1号窯、鞠ノ沢、砂田D1号窯、2号窯)の変遷を考えている(三浦1995)。

窯跡の操業期間 操業期間については諸説ある。近年発表されたものを紹介すると、操業開始を9世紀末~10世紀初頭、終末を11世紀中葉に考える意見(三浦1995)や、10世紀中頃~11世紀前半の操業期間とする意見(福田1993)などがある。年代に関する考古学的決着は未だみておらず、また、築窯と廃絶の要因についても今のところ不明である。

製品の供給範囲 三辻利一氏による胎土分析の結果から、五所川原産須恵器の供給範囲(出土地)を追うと、青森県の全域、北海道豊富町や常呂町、秋田県大館市周辺、岩手県久慈市から馬淵川流域まで及んでいることが判明している。

研究上の問題点 報告が20年以上も前であるものがほとんどであることに加え、概報というスタイルで報告されてきた関係上、公表されたデータには不足がある。例えば、(1)窯跡のセクション図がない。(2)窯跡出土遺物の図示が非常に少ない。さらに、(3)砂田の出土遺物以外は実見が困難という悪条件が加わり、詳細な検討は不可能な状況にある。昨年調査された犬走窯跡が今後の五所川原窯跡群の実体をより明らかにするものと考えられる。

犬走窯跡 (犬走須恵器窯跡発掘調査団・五所川原市教育委員会1997) 窯の構造は半地下式無段穹窯であり、1973年までに調査された須恵器窯跡と比較しても、最も窯幅が広く、2.4mを測る。焼成は二回行われており、上下で新旧関係を有す。古い窯には還元された製品が多く、新しい窯には小豆色の須恵器が多く認められている。焼成部の窯底勾配角度は新旧の窯跡ともに23度である。出土した須恵器の器種を見ると、甕・壺(長頭・短頭・異形)・坏・鉢・小坏等があり、特徴としては、大甕が特に多いことと、これまでの出土遺物と同様に甕・壺・鉢・坏にはヘラ描き記号が認められていることがあげられる。犬走窯跡の調査により得られた特に重要な成果としては、白頭山苦小牧火山灰(B-Tm)の降下以前の構築であることと、窯の頂部において土坑が4基確認されたことの2点があげられる。



No.	遺跡/築跡名	跡並有無	立地	標高m	全長m	幅幅m	平均幅m	備考	文献
1	堀ノ沢	○	前田野目川右岸 丘陵斜面	100	9.2		2.4	23	
2	砂田B 1号築	○	前田野目川東方 丘陵斜面	120	(5.0)		(1.7)	30	築造部と竃口部は破壊されていた
3	砂田B 2号築	○	前田野目川東方 丘陵斜面	110				22	築造部・竃口(遺出し)のみ残存
4	砂田C	○	前田野目川東方 丘陵斜面	140	(3.6)	1.7		22	築造部と竃口部は破壊されていた
5	砂田D 1号築	○	前田野目川東方 丘陵斜面	170	(7.5)	1.65		23	竃口は破壊されていた
6	砂田D 2号築	○	前田野目川東方 丘陵斜面	170				22	1号築より30m西方 灰層のみ調査
7	砂田E	○	前田野目川左岸 丘陵斜面	170				23	未調査 竃口部は破壊
8	持子沢A		奥瀬池東岸 丘陵斜面	60					水役のため未調査
9	持子沢B	○	中瀬池東岸 丘陵斜面	55	6.6	1.3		20~23	2, 3, 3'
10	持子沢C	○	中瀬池西岸 丘陵斜面	60	9.4	1.5	1.9		坂詰氏のD地点 あと2~3基確認済
11	持子沢D	○	奥瀬池北岸 丘陵斜面	60					やや大型の築跡
12	坂ヶ崎(1)	○	前田野目川左岸 荒瀬池北東部 丘陵	65~70	(6.67)	1.7		20	竃口部、灰層部は破壊されていた
13	川崎	○	前田野目川左岸 丘陵	50					築跡2基が確認されている
14	山道瀬池	○	山道瀬池東岸 丘陵	30~40					築跡2基が確認されている
15	原子瀬池(4)	○	山道瀬池北岸 丘陵	50					築造片が確認されている
16	鍋野	○	長瀬瀬池西方 丘陵南部	20					築跡らしきものが確認
17	犬走 A築	○	前田野目川右岸 丘陵斜面		不明	2.4		23	未完部
18	犬走 B築	○	前田野目川右岸 丘陵斜面		7.0	2.3		23	未完部

() 内の数値は検出長。

・現在、報告時の遺跡名は改正されており、本案における遺跡名は『青森県遺跡地図』(青森県教育委員会 1982)および『五所川原市史』(福田 1993)に掲載されている現在の登録遺跡名に拠るものである。

図V 五所川原築跡群と隠川(4)・12遺跡の位置関係

2 周辺の遺跡 (窯跡以外)

隠川(3)遺跡 (青森県教育委員会 1997) 隠川(4)遺跡の東方に隣接し、標高は約53-54mである。平安時代の遺構として、竪穴住居跡6軒と溝跡2条が検出されている。住居跡のうち2棟には掘立柱建物跡が付随し、5棟には外周溝が付随している。出土遺物には、土師器、須恵器、土製品等がある。報告された須恵器の胎土分析は実施されていないものの、現物の観察では五所川原産のものが大半を占めている。土師器と須恵器の構成比は不明であるが、大雑把に見て土師器に対する須恵器の構成比は非常に高いように感じられる。

実古遺跡 (青森県教育委員会 1997) 本遺跡の北西約2.2kmのところに位置し、十川から東に約1km離れた標高14mの水田地帯に所在する。平安時代の遺構としては、住居跡3軒、溝跡21条、土坑21基、井戸跡1基が検出されている。第22号土坑からは、使用には不適な歪んだ須恵器長頸壺が出土しており、胎土分析の結果、五所川原産と報告されている。このような歪んだ須恵器は通常、一般的な消費地集落から出土することはないことから、須恵器工人との関連を想起させる。

羽黒平(1)遺跡 (青森県教育委員会 1995) 本遺跡から南東約6.8kmのところに位置し、浪岡川から北西に約500m離れた標高50-60mの台地に所在する。平安時代の遺構としては、住居跡47軒、溝跡33条、土坑59基、井戸跡1基、掘立柱建物跡17棟、焼土遺構1ヶ所が検出されている。第18号住居跡として報告された遺構は、1.5m×1.6mのほぼ方形の竪穴状を呈すが、カマドが付設されていない点より見て、住居跡ではないと考えられる。出土遺物は、土師器の坏、甕等であるが、それらは全て細片であり、割れ方を見ると、破裂裂片であると判断できるものである。底面は焼土化していなかったが、覆土1層には、焼土粒が多量に混入している点より見て、この遺構は土師器焼成坑もしくは失敗品の廃棄土坑であった可能性が高い。なお、A区で検出された第5号住居跡は、廃絶後に粘土探掘坑として利用され、また、北壁には外延溝が付随していることから、この廃絶された第5号住居跡は、工房と関連していた可能性がある。

(木村 高)

参考文献 (○付の文献は、五所川原窯跡群についてまとめたものである)

- 1 坂詰秀一 1968 『津軽・前田野日窟跡』『津軽・前田野日窟跡』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第1集 五所川原市教育委員会
- 2 坂詰秀一 1972 『津軽持子沢窟跡の調査』『月刊考古学ジャーナル』第75号 ニュー・サイエンス社
- 3 坂詰秀一 1973 『津軽持子沢窟跡調査概報』『北奥古代文化』第5号 北奥古代文化研究会
- 3' 坂詰秀一 1973 『津軽・持子沢窟跡の第2次調査』『月刊考古学ジャーナル』第89号 ニュー・サイエンス社
- 4 新谷武 1973 『桜ヶ峰窯跡調査調査概要』単行本 自費出版
- 5 村越潔・新谷武 1974 『青森県前田野日砂田遺跡発掘調査概報』『北奥古代文化』第6号 北奥古代文化研究会
- 6 坂詰秀一 1974 『津軽持子沢窟跡第二次調査概報』『北奥古代文化』第6号 北奥古代文化研究会
- 7 新谷武 1981 『五所川原市周辺の須恵器窯跡出土の長頸壺について』『弘前大学考古学研究』第1号 弘前大学考古学研究會
- ⑧ 福田友之 1993 『第四節 須恵器窯跡』『五所川原市史』史料編1 五所川原市
- ⑨ 三浦圭介 1995 『第3章 古代』『新編 弘前市史』資料編1(考古編) 弘前市市長公室企画課
- 10 青森県教育委員会 1992 『青森県遺跡地図』
- ⑩ 三浦圭介・岡田康博 1992 『津軽五所川原古窯跡群について』『東日本における古代・中世の諸問題』
- ⑪ 池田明朗・伊藤博幸 1995 『(3) 東北』『須恵器集成図録』第4巻東日本編(3) 雄山閣
- 12 大志須恵器窯跡発掘調査団・五所川原市教育委員会 1997 『大志窯跡現地説明会資料』
- 13 青森県教育委員会 1997 『隠川(3)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第210集
- 15 青森県教育委員会 1997 『隈無(4)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第209集
- 16 青森県教育委員会 1997 『実古遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第207集
- 17 青森県教育委員会 1995 『松山・羽黒平(1)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第170集
- 18 木立理朗 1997 『第1節 土師器焼成坑を定義するために』『古代の土師器生産と焼成遺構』窯跡研究会編 真陽社
- 19 望月精司 1997 『第2節 土師器焼成坑の分類』『古代の土師器生産と焼成遺構』窯跡研究会編 真陽社

第Ⅳ章 遺跡の概要

隠川(4)・(12)遺跡(平安時代)について 隠川(4)遺跡・隠川(12)遺跡は、五所川原市の南東、前田野目川右岸の標高45～52mの台地に立地する(図Ⅰ)。調査区は一面の果樹園(リング園)に囲まれた平坦地にある。(4)遺跡と(12)遺跡は水田を挟んで東西に約90m離れて対峙し、(4)遺跡と水田面の比高差は約5.5m、(12)遺跡と水田面の比高差は約7mを測る(図Ⅲ)。

両遺跡から検出された平安時代の遺構は、住居跡、土坑(土器焼成遺構含む)、井戸跡、溝跡、並列溝状遺構等であり、遺物は土師器・須恵器を中心として、各種土製品や土師質特殊遺物、焼成粘土塊、窯壁片等で構成される。遺構・遺物の機能した時期は、降下火山灰(白頭山火山灰・町田ほか1981.1996)を基軸にすると、概ね9世紀中葉～10世紀前半と考えられる。特記事項としては、①ロクロビットが複数の住居跡に付随していること、②須恵器窯壁片の出土、③土器焼成遺構の存在、④土器の素材と考えられる粘土の出土、⑤焼成粘土塊の出土、⑥土師質特殊遺物の出土、⑦歪んだ須恵器の出土…等が挙げられる。青森県域における平安時代の集落からこのような事例はこれまで確認されておらず、本書が初の報告となる。

隠川(4)・(12)遺跡は、持子沢B遺跡=9、持子沢C遺跡=10、桜ヶ峰(1)遺跡=12、川崎遺跡=13等の窯跡から極めて近距離に位置している(図Ⅴ)。この事実と、上述の遺構・遺物の内容から、隠川(4)・(12)遺跡は土器製作工人の集落であると判断される。

以下、平安時代の工人集落に関連する内容を中心に記載し、遺跡の概要にかえる。

隠川(4)遺跡の概要 隠川(4)遺跡において検出された平安時代の遺構は、住居跡7軒(拡張している住居を2軒として)、土坑7基(土器焼成遺構等含む)、溝跡1条、並列溝状遺構1面、井戸跡1基である。7軒検出された住居跡を外部付属施設の有無¹⁰⁾で概分類すると、A～Cの3タイプに分かれる。Aタイプは、掘立柱建物跡と外周溝の2種の遺構が付随するもの(1・2・6H)で、Bタイプは、掘立柱建物跡のみが付随するもの(3・4H)、Cタイプは、外部施設の付随しないもの(5・7H)である。

住居跡の遺存状態は概して良好であるが、1H・6H(1Hの拡張以前の住居跡)・2H・7H(2Hの拡張以前の住居跡)の4軒には、壁が検出されなかった。1Hの床面は黒色土(第Ⅲ層)中に構築されていることから、これらの住居跡は平地式である可能性が高い。また、3・4・5Hは壁高を十分に有すことから竪穴式である。1・6・2Hの3軒には外周溝が付随しているが、これら平地式の可能性のある住居跡に、外周溝が高率で付随している点は注意される。1Hの拡張前の住居跡が6H、2Hの拡張前の住居跡が7Hであるが、1Hには2基のロクロビットが付随し、6Hにもロクロビットが2基付随する。住居拡張に伴い、ロクロビットも作り替えていることが分かる。なお、6Hのロクロビットの1基(6HRP01)からは土玉やミニチュア土器、絵画的なヘラ描きを施した坏などが出土している。ロクロビットを有す3HのCコーナーからは、底面にほとんど勾配のみられない外延溝が北方向に伸びている。また、4Hの南東隅(Dコーナー)には、ほぼ直方体を呈す粘土塊3個が安置されたような状態で出土している。これらの粘土は胎土分析の結果、五所川原領域内に納まっ

ている。さらに、4Hのほぼ中央に検出された2基のロクロピットの中にも粘土が検出され、胎土分析の結果、1基のロクロピットの粘土は五所川原領域に属し、もう一方のロクロピットの粘土は土師器の素材となった粘土である可能性が指摘されている(第IX章第2節参照)。なお、ロクロピットを伴う住居跡は、1、3、4、6Hの4軒で、住居跡毎のロクロピット数は、1Hに2基、3Hに1基、4Hに2基、6Hに2基である。

各住居跡のカマドは、南東カマドが多いが、4Hのみは、北東カマドであり、住居の主軸は、第4号住居跡を除いて大略一致する。一方、住居跡に付随する掘立柱建物跡の主軸はほぼすべて一致する。1Hから24m離れたところにある木枠の残存する井戸跡からは、土師器坏、須恵器坏が一括廃棄された状態で出土し、また、完形の土師器小型壺と土師器のミニチュア土器が埋土の下位層から出土しており、井戸に対する精神構造を考える上で注目される。

(註)A、Bのタイプの住居跡の周囲に検出される溝(外周溝)と掘立柱建物跡は、あくまでも竪穴住居跡とはやや距離をもって検出されたものであるため、本来的には別別に記載すべきであるが、本報告では、各々の遺構の一定した検出位置より判断して、それら遺構群を一体のものとしてとらえる。

隠川(12)遺跡の概要 隠川(12)遺跡において検出された平安時代の遺構は、住居跡6軒(拡張している住居を2軒として)、土坑18基、溝跡1条、並列溝状遺構4面、井戸跡1基である。6軒検出された住居跡を、(4)の住居跡と同様に概分類すると、2タイプに分かれる。大半の住居跡はCタイプであるが、5Hの1軒のみは外周溝が左側に1条付随するものである。

住居跡の遺存状態は概して良好であり、全ての住居跡に壁が検出されており、竪穴式である。4Hは6Hを拡張した住居跡である。4Hには1基のロクロピットが付随しているが、6Hにはロクロピットが確認されていない。このロクロピットは、6H機能段階から存在していた可能性もあるが、住居拡張に伴うロクロピットの作り替えが行われていないのは確実であり、(4)の6H→1Hの例と比較すると非常に興味深い。また、4Hのロクロピットからは(4)の6Hロクロピット(6HRP01)から出土した坏と胎土・焼成の類似する坏が1点出土しており、さらに、4Hの前壁からは、調査区東部の斜面に向かって外延溝が伸びており、(4)の3Hと類似する。5Hの1区の床下には、楕円形の土坑があり、その中には饅頭形を呈す粘土塊が複数出土している。この粘土は胎土分析の結果、土師器の素材である可能性が指摘されている。

ロクロピットを伴う住居跡は、2、4、5Hの3軒で、各住居跡に検出されたロクロピットの数、全て1基ずつであり、(4)のように1軒の住居跡内にロクロピットが複数伴う例は無い。各住居跡のカマドは(4)と同様、南東カマドが多く、住居の主軸は大略一致する。

(12)の住居跡や土坑、井戸跡からは須恵器窯壁片が多数出土している。(4)の4Hからも2点のみ出土しているが、(12)出土の窯壁片の点数は非常に多い。窯壁片が住居跡や井戸跡から出土する理由は判然としなが、数点の窯壁片には焼土が付着しており、また、その出土位置を見ると、カマドの付近に出土しているものもある。この出土状態が窯壁片の持ち込まれた要因を明らかにする鍵を握っていると見えよう。

2Hから5m離れたところに位置する井戸跡の埋土の下位層からは多量の須恵器大甕の破片とほぼ完形の小型須恵器壺が出土しており、隠川(4)遺跡の第1号井戸跡とともに注目される。

(木村 高)

第V章 遺物の分類

隠川(4)・(12)遺跡の主体となる時期は平安時代であり、ロクロビットや並列溝状遺構等の遺構は、両遺跡において検出されている。また、両遺跡の出土遺物には極めて強い類似性が認められる。これらのことから、隠川(4)遺跡と隠川(12)遺跡から出土した遺物の分類は、両遺跡の類似性を考慮し、同一基準のもとに行った。

両遺跡の出土遺物を時代毎に大分類すると、縄文時代・弥生時代・平安時代・近世以降の4期に分かれる。これら4期の遺物をさらに種別で分類すると、縄文時代の遺物は土器・土製品・石器・石製品の4種に、弥生時代の遺物は土器の1種のみ、平安時代の遺物は土器(土師器・須恵器・ミニチュア)・土製品・土師質特殊遺物・焼成粘土塊・粘土塊・須恵器窯燬片・石製品・鉄製品・鉄滓・木製品の12種に、近世以降の遺物は陶磁器(陶器・磁器)・瓦質土器・石製品・銅製品・土製品の6種に分かれる。本章ではこれらの遺物をさらに分類し、その基準を以下に述べる。

(木村 高)

1 縄文時代

(1)土 器 縄文時代早期・前期・中期・後期・晩期に属すと考えられるものが出土した。出土遺物では全体の器形を判別できる資料が少ないので、口縁部破片と底部破片、胴部破片の中でも沈線・刺突などの文様を観察できるもの、及び縄文のみ観察される破片を中心に報告することにした。以下に分類基準を記す。

第I群土器：縄文早期の土器

第II群土器：縄文前期の土器

第III群土器：縄文中期の土器

第IV群土器：縄文後期の土器

第V群土器：縄文晩期の土器

第VI群土器：時期不明の土器

1類 沈線主体の土器

2類 地文の縄文のみ観察される土器

3類 無文の土器

(三林 健一)

(2)土 製品 1点のみの出土である。

(3)石 器 出土した各種の石器は、土器との共存関係が極めて希薄であるため、帰属する土器型式毎の分類は不可能である。ただし、他遺跡で出土している資料との大まかな比較では、その大半が縄文時代のもので占められ、仮に弥生時代のもが含まれているとしてもごく少数であると思われる。大別による器種は、石鏃、スクレイパー類、使用痕の認められない刮片、敲打痕のある礫、磨石、磨製石斧、石皿の計7種^(註)に分類され、各々の資料が持つ特徴に応じてさらに細分した。

(註)本報告では参考までに自然礫も若干掲載した。

第1群石器：石鏃 基部平面形で大別した。 A：平基 B：凹基 C：尖基 D：円基 E：有茎

第2群石器：スクレイパー類 調整剝離による刃部を持つものと、使用によって生じた微細剝離の認められるものを一括した。

A：調整剥離が全周するもの

a：つまみを有し、石匙と呼称されるもの 1：横型 2：縦型 3：尖頭器型

b：上記a 2からつまみ部を除いたようなもの

c：石筥と呼称されるもの

B：調整剥離が一部に見られるもの

C：使用のために生じたと思われる剥離が認められるもの

D：BとCの属性を兼有するもの

第3群石器：使用痕の認められない剥片・碎片

A：黒曜石を素材にしたもの B：珪質頁岩を素材にしたもの

第4群石器：磨製石斧 2点の出土であるが、1点は刃部のみの残存であるため、細分しない。

第5群石器：石皿 1点のみの出土である。

第6群石器：磨石 3種に分類される。

A：平面形が楕円形を呈し、平坦面を磨っているもの

B：平面形がほぼ長楕円あるいは不整長楕円を呈し、側縁を磨っているもの

C：Bの属性を満たし、敲打痕を有するもの（＝第7群石器B）

第7群石器：敲打痕のある礫 2種に分類される。

A：長台形あるいは長楕円形を呈し、平坦面の中央付近を敲いているもの。

B：Aの属性を満たし、一側縁を磨っているもの（＝第6群石器C）

(4)石製品 1点のみの出土である。

(木村 高)

2 弥生時代

(1)土器 全て破片資料であるため、型式の特定は困難である。したがって、ここでは便宜的に、須藤隆による時期区分(須藤1990、須藤・工藤1991)を基準に大別した。ほとんどが破片の状態であることから、部分的な特徴による大まかな時期分類を行うにとどめた。

第1群弥生土器：前期前半の土器(ほぼ1期弥生土器に相当するもの)

第2群弥生土器：前期後半の土器(ほぼ2期弥生土器に相当するもの)

第3群弥生土器：中期後葉の土器(ほぼ5期弥生土器に相当するもの)

第4群弥生土器：後期の土器(ほぼ6期弥生土器に相当するもの) (木村 高)

3 平安時代

(1)土器 器種としては、須恵器には皿、坏、鉢、壺、大甕、土師器には皿、坏、甕、壺、羽釜、塀がみられる。ここでは、須恵器の皿・坏、土師器の皿・坏、甕についての分類を示す。他の器種についてはその特徴を後述することにし、ここでは触れない。

一坏一 本遺跡出土の土師器の坏については、非ロクロのものは皆無に等しい。よって、ロクロ調整の坏という前提のもとに分類基準を設定することにする。

また、ここでは須恵器の皿・坏、土師器の皿・坏は同一の分類基準を用いることにし、以下に示す。

口縁・口唇部の形態により、

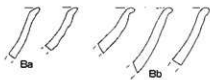
A. 直線的なもので、

- a. 口唇部が先細りを呈するもの
- b. 口唇部が丸みをもつもの
(口唇部が肥厚するものも含む)

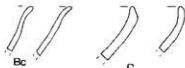


B. 外反・外傾するもので、

- a. 口縁端部が外に屈曲するように折れ、
口唇部が先細りを呈するもの
- b. 口縁端部が外に屈曲するように折れ、
口唇部が丸みをもつもの
- c. 口縁下部からゆるやかに外反するもの



C. 内湾するもの



体部下半の形態により

- x. ほぼ直線的なもの
- y. やや膨らみをもつもの
- z. 外反する形で屈曲しているもの



観察表に示した色調分類の基準は以下の通りである(『新版標準土色帖』小山・竹原 1990を使用)。

須臾器 青灰色系のもの …1	土師器 赤褐色系のもの…6
灰色系のもの …2	褐色系のもの …7
灰褐色系のもの …3	灰白色系のもの…8
明褐色系のもの…4	その他 …9
その他 …5	

観察表に示した断面形態の分類基準は以下に示す。

ア…内外面と断面がほぼ同色系

イ…内外面と断面の色は明確に異なるが、内外面の色がほとんど断面に出ている

ウ…断面に内外面とはほぼ同色系の色が明確に確認でき、異なる色を挟むようになっている

エ…ウが極端に内面によっているもの

オ…ウの内外面と明確に異なる色が2本あるもの



器面調整にロクロを使用するもの(Ⅰ群)とロクロを使用しないもの(Ⅱ群非ロクロ)とに分けられる。また、法量の違いにより長胴甕と小型甕に分けた。以下の分類はⅠ・Ⅱ群、また長胴甕・小型甕に同一の基準のものとする。

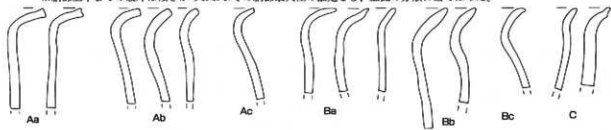
口唇部の形態により

- A. 口唇部にはほぼ平坦な面をもつもの
- B. 口唇部に丸みをもつもの(先細り、肥厚しているものも含む)

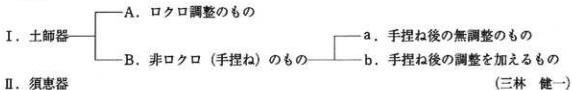
C. その他 (内面に段を有する、口縁部が極端に短いなど)

- さらに、A. B. C. はそれぞれ
- a. 口径が胴部最大径を上回るもの (口径>胴部最大径)
 - b. 口径と胴部最大径がほぼ同じもの (口径≒胴部最大径)
 - c. 胴部最大径が口径を上回るもの (口径<胴部最大径)

※胴部上半までの破片は傾きからおおよそ胴部最大径の推定をし、上記の分類に当てはめた。



ミニチュア土器 土師器がほとんどであるが、須恵器が1点ある。成形・調整技法により、以下のよう分類する。



(2)土製品 形状に規格性の認められるものを一括した。

第1群土製品：玉類 穿孔のあるものを一括した。 A：丸玉、B：勾玉



実測面における断面は、その玉の1ヶ所を測ったものであるため、上記の断面分類模式図とは異なった印象となっているものもあるが、ここでの断面分類はあくまでも360°回転させた観察結果をもとにしている。至りの大きい玉に関しては、製作者の形状に対する志向性を筆者なりに解釈して、上記の断面分類の中におさめた。

第2群土製品：球状 1点のみの出土である。

第3群土製品：土鈴 紐部の有無で分類した。 A：紐部を有するもの B：紐部を有しないもの

第4群土製品：当具状 円形部分の形状で分類した。 A：ほぼ平坦なもの B：膨らんでいるもの

第5群土製品：棒状 1点のみの出土である。

第6群土製品：碁石状 大きさと色調で分類した。 A：径23mm以上 B：径16mm以下

a：黒色系 b：灰色系

(3)土師質特殊遺物 粘土をこねたり、丸めたり、潰したり、棒状にのぼしたり、ちぎったりした状況が観察されるものを一括した^(註1)。成形痕がほとんど認められず、形状に規格性も認められないものである。分類は、主として平面形^(註2)をもとに行なった。

(註1)土製品に含めるべきと考えられるものも数点含んでいるが、「土製品」とすると、「製品」とか「品」という表現から、製作者がある程度の規格性をもって製作したものであるというニュアンスが付加されるように思える。ここでは、形状の規格性に対する製作者の意識が低いと推定されるものを一括した。また、焼成粘土境に属させるべきと思われるものも数点含まれているが、胎土中に植物性の繊維が混入していても側縁に成形痕がみとめられるものに関しては、土師質特殊遺物に含めた。

(註2)図示されている基本実測面を平面形として述べている。見た目の形状は、実測時の置き方によって様々に変化することから、本文における「平面形」の表現はあくまでも便宜的なものである。

第1群土師質特殊遺物：粘土紐状のもの

第2群土師質特殊遺物：粒状のもの

第3群土師質特殊遺物：板状のもの

第4群土師質特殊遺物：不整形のもの

(4) 焼成粘土塊 色調は、断面・外面ともに、いぶい橙～橙～明赤褐色を呈し、指や手で一面を撫でた結果、平坦面が形成され、また、裏面と割口(断面)には植物性の繊維の混入・圧痕が認められるものを一括した^(註)。分類は、大半が破片の状態であることから、断面の厚さをもとに行った。

第1群焼成粘土塊：断面厚さ8～20mm

第2群焼成粘土塊：断面厚さ26mm以上

(註)主に平坦面を有するものを実測対象とした。図示していないものの中には、全面に凹凸が激しく、指、手による成形痕の全く観察されないものもかなり見られる。また、焼成粘土塊の大半は破片の状態であるが、数点ほど割口が認められないものも見られる。これらは土師質特殊遺物に含めることも可能であるものの、外面全体に著しく植物性の繊維が観察され、一般的土師質特殊遺物とは異なった印象のものであるため、焼成粘土塊に含めた。

(5) 粘土塊 焼成されていない粘土を一括した。分類は、平面形の大きさで行った。

第1群粘土塊：長さ×幅5cm前後

第2群粘土塊：長さ×幅7cm前後以上

(6) 須恵器窯壁片 焼土の付着の有無で分類し、心材痕の有無で細分した。

第1群須恵器窯壁片：焼土が付着するもの A：心材痕のみられるもの B：心材痕のみられないもの

第2群須恵器窯壁片：焼土が付着しないもの A：心材痕のみられるもの B：心材痕のみられないもの

(7) 石製品 玉類、砥石、箱形に成形した礫の3種に分類した。

第1群石製品：玉類 A：人為的に穿孔し、外面調整あり B：自然孔を直接利用し、外面無調整

第2群石製品：砥石 A：手に持って使用するような小型のもの(130g未満) B：地に置いて使用するような大型のもの(200g以上)

第3群石製品：礫を直方体に成形しているものである。石質で分類した。 A：シルト B：凝灰岩

(8) 鉄製品 刀子と用途不明の2種に分類した。

第1群鉄製品：刀子

第2群鉄製品：用途不明 A：棒状 B：板状 C：環状

(9) 鉄滓 細分は行わない。

(10) 木製品 井戸枠部材・製品・加工痕のある木の3種に分けられる。

第1群木製品：井戸枠部材 A：板状 B：棒状

第2群木製品：製品 A：板状 B：曲物底板 C：鉋屑状 D：樹皮を加工しているもの

第3群木製品：加工痕のある木 A：一部に削りを施すもの B：縦割り後、面取りを施すもの

(木村 高)

4 近世以降

(1) 陶磁器 種別、産地、器種の順に分類した。

第1群：陶器 A：肥前 B：産地不明 a：鉢 b：蓋物 c：播鉢

第2群：磁器 A：肥前系 a：碗 b：皿

(2) 瓦質土器 焜炉の一種のみの出土である。

(3) 石製品 砥石1点のみの出土である。

(4) 銅製品 銭貨と煙管の2種に分類される。

第1群銅製品：銭貨 寛永通宝3点のみの出土である。細分は行わない。

第2群銅製品：煙管 吸口1点のみの出土である。

(5) 土製品 形状で分類した。

第1群土製品：碁石状

第2群土製品：人形

(木村 高)

第Ⅵ章 隱川(4)遺跡

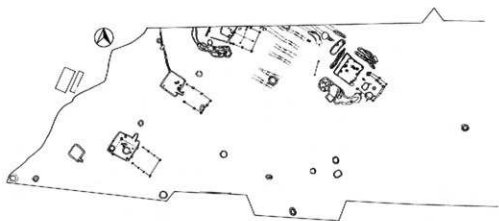


表 隠川(4)遺跡 遺構内出土遺物等一覧 (平安時代)

遺構種別	遺構名	出土遺物等	遺構種別	遺構名	出土遺物等	
住居跡 (内外施設合)	1 H	焼成粘土塊	3 H	H	鉄 滓	
		石 玉			砥 石	
		直方体礫	3 H	カマド	鉄 製品	
		鉄 滓			砥 石	
		砥 石	4 H	H	使用痕のある礫	
	土師質特殊遺物	焼成粘土塊				
	1 H カマド	焼成粘土塊			土師質特殊遺物	
		土 玉			刀 子	
	土師質特殊遺物	粘土塊(CL01)	窯 壁 片			
	1 H R P 02	土 玉	4 H R P 01	P	粘 土	
	1 H S B 01	鉄 滓			礫	
	1 H S D 01	焼成粘土塊	4 H R P 02	P	粘 土	
	1 H S D 01 S K 01	使用痕のある礫	4 H S K 01	K	土師質特殊遺物	
		焼成粘土塊	5 H	H	鉄 滓	
		直方体礫			6 H R P 01	P
		鉄 滓	鉄 滓			
		土師質特殊遺物	土師質特殊遺物			
		土 鈴	6 H R P 02	P	焼成粘土塊	
		1 H S D 01 S K 02			樹皮製品	直方体礫
					焼成粘土塊	土師質特殊遺物
		直方体礫	粘土塊			
		鉄 滓	6 H S D 02	D	焼成粘土塊	
	土師質特殊遺物	直方体礫				
	1 H S D 01 S K 04	焼成粘土塊	7 H	H	焼成粘土塊	
	1 H S D 02	焼成粘土塊			礫	
	1 H S D 03	直方体礫	並列溝状 遺構	S D X 01	焼成粘土塊	
焼成粘土塊		直方体礫				
鉄 滓		井戸跡	S E 01	井戸枠部材		
土師質特殊遺物	加工痕のある木					
粘土塊	自然木					
2 H	焼成粘土塊			直方体礫		
	石 玉	木 製品				
土 玉	礫					
2 H カマド	焼成粘土塊	土 坑	S K 05	土師質特殊遺物		
	土 玉			S K 11	使用痕のある礫	
2 H S D 01	使用痕のある礫	S K 16	K	砥 石		
	焼成粘土塊			焼成粘土塊		
粘土塊	土 玉					
2 H S D 01 S K 01	窯 壁 片	S K 17	K	土師質特殊遺物		
2 H S D 01 S K 02	土師質特殊遺物			焼成粘土塊		
3 H	H	焼成粘土塊	土 玉			
		土師質特殊遺物	土師質特殊遺物			

※縄文時代と弥生時代の遺物、及び平安時代の土師器・須器器、炭化種子、炭化材等を除く。

第Ⅵ章 隠川(4)遺跡の検出遺構と出土遺物

第1節 平安時代の検出遺構

1 住居跡

第1号住居跡(1H) (図1～図5)

概要 本住居跡は、グリッドF-109他の平坦地に位置し、後述する第6号住居跡(6H)の後壁側を拡張しているものである⁹⁸⁾。内部施設としてロクロピットが2基(1HRP01・02)と、外部施設として外周溝3条(1HSD01・02・03)と掘立柱建物跡1棟(1HSB01)が付随している(図1)。

(註) 外周溝と掘立柱建物跡は6Hにも付属しており、それらも6Hを拡張する際に拡張・作り替えが行われている。すなわち、6HSD01を掘り、1HSD03を外側に構築し、また、6HSD02を掘って外側に1HSD02を構築している。6HSD02と1HSD02とは平面的な重複の関係に無いため、厳密には新旧関係を説明できないのであるが、6HSD01と1HSD03とは重複関係にあり、1HSD03が6HSD01の一部を壊して作られていることから、6HSD02と1HSD02の関係も自然に考え、6HSD02→1HSD02という時間的経過が想定される。6H機能段階における、右壁外側に存在する外周溝は確認できなかったが、1HSD01は他の外周溝に比べ、非常に幅広い形状を呈すものであることから、6H機能時においては確実の構造であって、1Hに作り替える段階で、外側に広げられたり、掘り直されたりした可能性が考えられる。詳細は後述。

重複 (1)付近には、並列溝状遺構(SDX01)が存在し、両者の位置関係から判断し、本住居跡とSDX01は新旧の関係にあった可能性があるが、1H付近は7年度の粗掘によりかなり掘り下がっていたため新旧関係は不明。(2)縄文時代の剥片集中ブロックと重複し、本住居跡が新しい。

構造 規模は、455～465×465～483cmを測り、平面形はほぼ方形を呈すが、A・Cコーナーはやや張り出す。床面は7年度の調査段階で既に検出されており、四壁は残存していない。床面の掘り込みは、ロームに達しておらず、黒色土(第Ⅲ層)を床にしている点より、平地式の住居であった可能性が高い。カマドの左右を除いて壁溝はほぼ全周している。ピットは7個(P1-7)検出され、主柱穴はP1、3、6、7の4基と考えられる。床は、6Hの床面にロームを混入する黒色土を薄く貼ってつくられている。拡張した後壁側にも床構築土が貼られている。

土層 7年度の粗掘で覆土は除去されていたため、床面以下の土層しか残存していない。

カマド 南東壁に作りつけられており、壁の右側(3・4区)に位置する。煙道部は検出されず、残存状況は不良であるが、燃焼部側壁(ソデ)と火床面が検出された。ソデは、褐色の粘土を素材としており、床面上に貼り付けるように構築されている。右ソデはやや攪乱を受けていたが、平面的には「ハ」字状に検出されている。火床面(11層)はよく焼けていて、煉瓦状に硬化していることから、粘土状の土を敷いてつくられていた可能性がある。天井部崩落土と考えられる2層も煉瓦状に硬化していた。一方、燃焼部側壁内面はあまり焼けていない。本カマドの下層には6Hカマドの残骸が押しつぶされた状態で残存している(図5)。住居拡張に伴ってカマドも作り替えたとと思われる。カマドを通る軸の方位は、ほぼN-130°-Eをさす。

内部施設 ロクロピット2基が6区(1HRP01)と10区(1HRP02)に検出された。RP01は主柱穴P1-P6ライン上、RP02は主柱穴P6-P7ラインに接するあたりに位置している。ともに、1Hの床面において確認されている。両者に時間的な前後関係があるのかどうかは判然としなが、RP01の方がRP02よりも明瞭に確認できた。RP01の径は49×54cm、RP02の径は51×57cmを測り、両者とも確認面の形状は不整形を呈す。断面形は両者とも中位から下位にかけて段を1箇所有し、底面近くで窄まる。深さは、RP01が57cm、RP02が72cmを測る。RP01の土層を見ると、1層は明

らかに床構築土より粘性の少ないシルト質の土。2層は明黄褐色の粘土層であり、厚いところは15cmを測る。2層は平面、断面の両方でも、人為的に蓋をしたかのような状況を示すものである。3～5層は、黒～黒褐色の土で、ロームブロック、粒子が全体に混入する。3層と2層の間には、土師器甕の破片が、敷かれたような状態で出土している。6層はロームブロック主体の土で、ロクロピット構築時の、壁面からこぼれたロームが主体的に堆積したものと考えられる。RP02の土層は、住居跡セクションB-B'でしか観察できないが、最上層の1層は、明らかに床構築土より粘性の少ないシルト質の土で、1Hの床構築土とはほぼ同じ厚さで水平に堆積している。2層は柱状のラインを呈す

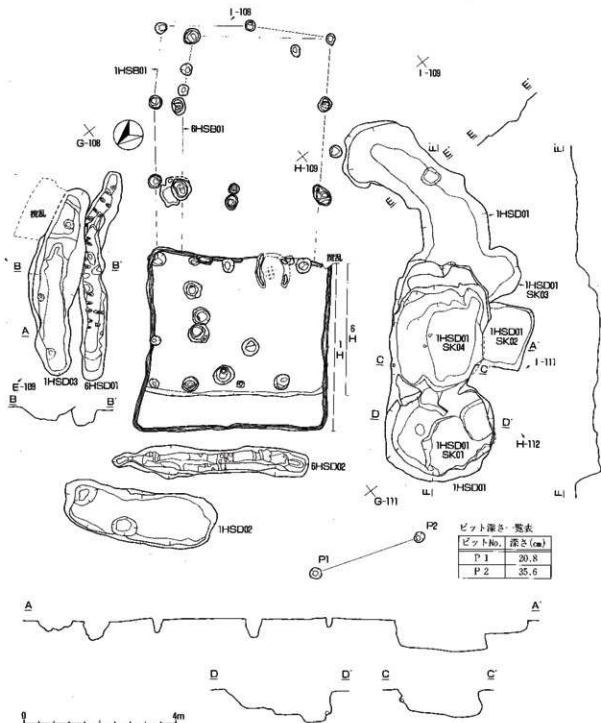


図1 第1号住居跡・第6号住居跡(全体合成)

る層で、軸木の差し込まれていた部分に相当する可能性があり、3層は、軸木固定のための充填土と考えられる。2層の左上端には粘土ブロックが1個混入する。

遺物等の出土状態 床面上に土師器・須恵器の細片が出土している。1～8区に集中する傾向がある。カマドの燃焼部には土師器細片と土玉が集中して出土している。1HRP02の付近には鉄滓が出土しており、その覆土中からは土玉も出土している。14、15区の床面壁際には焼成粘土塊が集中する。1、2、5、6、11、16区の床面には、焼土と若干の炭化材が分布する。これは本住居のAコーナーからDコーナーを結ぶ対角線に沿う。焼成粘土塊と焼土は壁済の確認面にもみられることから、これらは本住居廃絶後か廃絶時のものと考えられる。よって、床面出土の遺物も本住居跡の居住者の所有品とは即断できない。

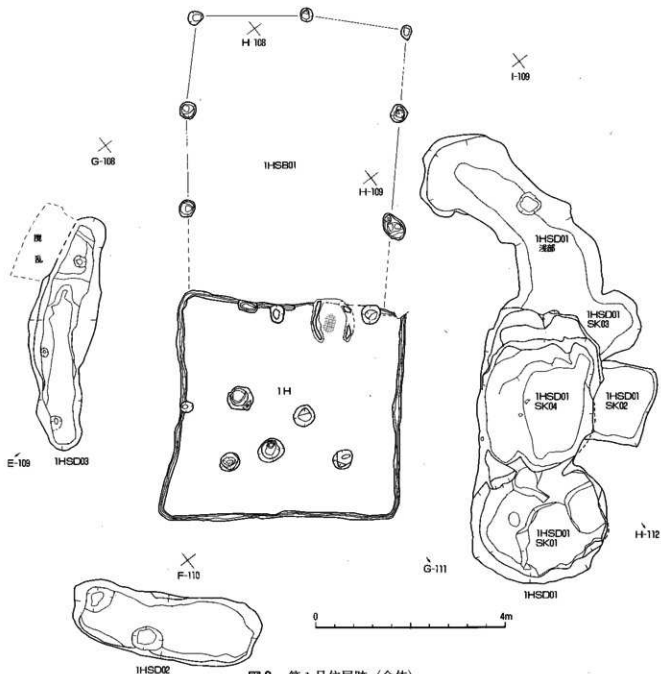
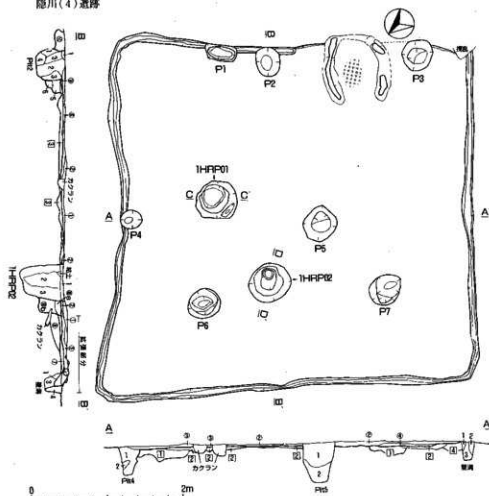


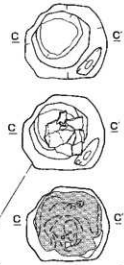
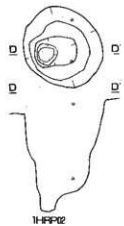
図2 第1号住居跡(全体)

陸川(4)遺跡



ピット深さ一覧表

ピットNo.	深さ (cm)
P 1	42.5
P 2	37.0
P 3	47.5
P 4	38.2
P 5	46.1
P 6	62.8
P 7	60.4



- 計測機坑土 (A-A') (B-B')
- ① 層 灰色 10YR2/1 V-O-M (#1-2m) 灰化層 (#1-2m) 腐葉、焼土 (#1-5m) 極少量、粘土層混入。
 - ② 層 灰白色 10YR2/1 V-O-M (#1-2m) 少量、灰化物粒腐葉、焼土 (#1-5m) 少量混入、L2層混入。
 - ③ 層 灰色 10YR2/1 V-O-M (#1-2m) 腐葉、灰化物粒腐葉、焼土 (#1-5m) 微量混入。
 - ④ 層 灰色 10YR2/1 V-O-M (#1-2m) 腐葉混入。
 - ⑤ 層 灰白 10YR2/1 V-O-M (#1-2m) 腐葉、灰化物粒腐葉、焼土 (#1-5m) 少量、柱上層少量混入。
 - ⑥ 層 灰褐色 10YR2/2 O-M 粒 (No.2-A.2.5.6) 灰化物粒、焼土 (#1-2m) 腐葉、焼土 (中央部の腐葉に付いて集中)、焼土 (L2層) 少量混入。
 - ⑦ 層 灰褐色 10YR2/2 V-O-M (#1-2m) 腐葉、高粘土 (#1-2m) 中量、灰化物粒、焼土 (#1-2m) 微量混入。
 - ⑧ 層 50% 10YR2/1 V-O-M (#1-2m)、灰化物粒腐葉混入。
 - ⑨ 層 10% 黄褐色 10YR5/4 Mo-O-M を主体として、V-O-M と灰色土の混合土。
 - ⑩ 層 灰色 10YR2/1 V-O-M (#1-2m) 少量混入。
 - ⑪ 層 灰色 10YR2/1 V-O-M (#1-2m) 少量、灰化物粒腐葉混入。
 - ⑫ 層 灰色 10YR2/1 V-O-M (#1-2m) 腐葉、焼土、灰化物粒腐葉混入。
 - ⑬ 層 灰白色 10YR2/1 V-O-M (#1-2m) 腐葉、焼土、灰化物粒腐葉混入。

- 計測機 (A-A') (B-B')
- 1 層 灰色 10YR2/1 V-O-M (#1-2m) 腐葉、灰化物 (#1-2m) 微量混入。
 - 2 層 灰色 10YR2/1 V-O-M (#1-2m) 腐葉混入。
 - 3 層 灰色 10YR2/1 V-O-M (#1-2m) 少量、灰化物粒腐葉混入、草類定上。
 - 4 層 灰白色 10YR2/1 O-M 粒腐葉混入。

- H-FP04 (A-A')
- 1 層 灰色 10YR2/1 V-O-M (#1-2m) 少量混入。
 - 2 層 灰色 10YR2/1 V-O-M (#1-2m) 腐葉混入。

- H-FP05 (A-A')
- 1 層 灰色 10YR2/1 V-O-M (#1-2m) 灰化物粒、焼土粒腐葉混入。
 - 2 層 灰褐色 10YR2/2 V-O-M (#1-2m) 極少量、No-O-M (#1-2m)、焼土粒腐葉、灰化物粒腐葉混入。



図3 第1号住居跡

1HxR2 (B-B')

- 1 層 褐色 10YR2/2 ローム粒状物多量、炭化物粒多量、焼土粒少量混入。
- 2 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム (#1-5cm) 少量、Mxローム (#1-3cm) 少量、炭化物 (#1-3cm)、焼土 (#1-5cm) 少量混入。
- 3 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム (#1-15cm)、Mxローム (#1-5cm) 極少量、炭化物粒多量、焼土 (#1-5cm) 極少量混入。
- 4 層 黒褐色 10YR3/1 Vローム (#1-15cm) 中量、Mxローム (#2-3cm) 極少量、焼土 (#1-3cm) 少量混入。
- 5 層 灰色 10YR2/4 Vローム (#1-2cm) 焼土粒少量混入。
- 6 層 灰色 10YR2/4 Vローム (#1-5cm) 少量混入。

1HxP2 (C-C')

- 1 層 黒褐色 10YR3/2 ローム (#2-15cm) 少量混入。
- 2 層 明褐色 10YR6/4 粘土、やや赤み色の粘土中に白色の粘土 (#2-15cm)、焼土 (#5-10cm) 少量混入。
- 3 層 褐色 10YR2/1 ローム (#2-15cm) 少量混入。
- 4 層 黒褐色 10YR2/2 ローム (#1-15cm) 少量混入。
- 5 層 黒褐色 10YR3/2 ローム (#2-15cm) 少量混入。
- 6 層 黒褐色 10YR3/2 粘土 (#3cm) 1つ混入、焼土 (#5-10cm)、黒色土粒少量混入、L、B上体の層。

1HxP3 (B-B')

- 1 層 黒褐色 10YR3/2 ローム粒状物、炭化物 (#1-5cm) 少量、焼土粒、焼土塊少量混入。
- 2 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム (#1-3cm) 少量、Mxローム (#1-15cm) 中量、炭化物 (#1-5cm) 少量、焼土粒少量、粘土粒少量混入。
- 3 層 深褐色 10YR2/3 Vローム (#1-10cm) 少量、Mxローム (#1-5cm) 極少量、ローム粒少量、炭化物 (#1-5cm) 極少量、焼土 (#2-3cm)、粘土粒少量混入。

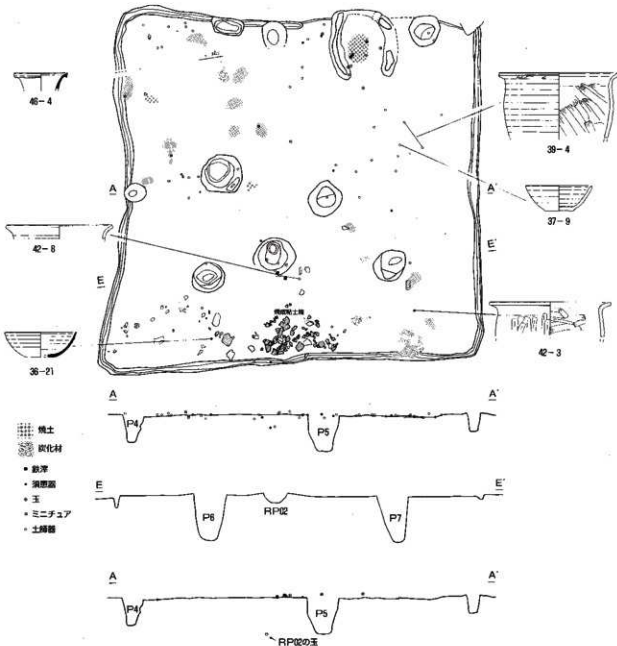


図4 第1号住居跡 (遺物出土状態)

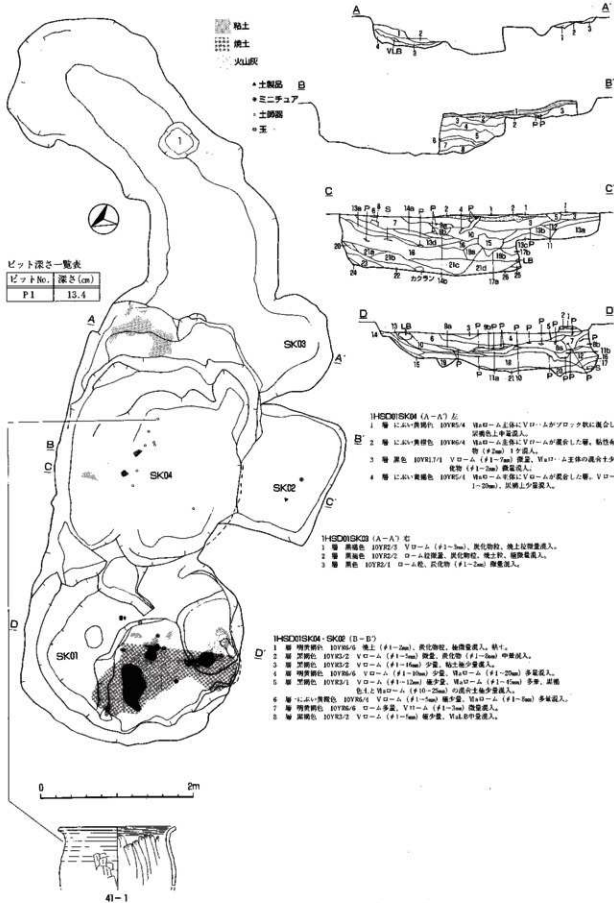


図6 第1号住居跡・外周溝 (IHSD01)

SK04の上層にかけて厚さ5cm前後の粘土が多量に廃棄されている。

[1HSD01SK03] 平面形は半楕円形状を呈し、底面にはやや凹凸が認められる。深さは10cm前後と非常に浅く、掘立柱建物跡方向へ伸びるSD01浅部よりも浅い。

[1HSD01SK04] 上端の平面形は不整の楕円形を呈す。底面は、上端と同様の形状を呈さず、平坦部の面積も少ない。1HSD01浅部に接する部分の壁面は階段状になっている。この部分は粘土探掘の跡か或

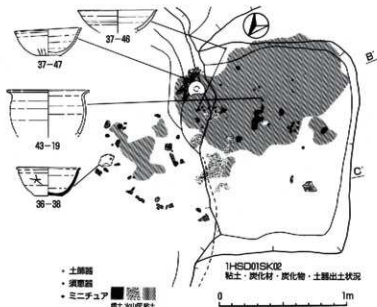


図7 第1号住居跡外周溝(1HSD01SK02・SK04)(遺物出土状態)

いは、粘土探掘のための階段である可能性が高い。なお、長軸の長さは、6H右壁の長さとはほぼ等しい。

[1HSD01浅部] 掘立柱建物跡(1HSB01)のPit7・11付近にまで伸びている。非常に浅い掘り込みで、確認面とほとんど高低差を持たない程であるが、底面には僅かに傾斜がみられ、1HSD01SK04に近づくにつれてやや低くなっている。底面にはビット状のくぼみが1個(Pit1)ある。深さは20cmを測る。

堆積土 部位によって堆積の状況に差が見られる。図6のB-B'~D-D'に示されているように、薄い層が幾層にもわたって堆積している。大きく土層を上中下の3層に分けると、下位層には掘り込み直後かあるいは機能していた段階に堆積したと考えられるロームブロックを多量に含む崩落土が目立ち、中位層には焼土などを含んだ人為的な排土が多くみられる。上位層は自然堆積土がほとんどで、1HSD01SK01の確認面の層(D-D'1層)および上位層(C-C'2層)にはB-Tmが混入している。

遺物の出土状態 1HSD01SK01、02、04からは多量の土師器、須恵器等が出土している。底面付近にはあまり出土せず、専ら覆土の中位層以上の層に多く出土する。ミニチュア土器等も少量出土している。遺物の層別的な分布状況より見て、本遺構の廃絶後に、廃棄された遺物がほとんどであると考えられる。

その他 1HSD01SK02の底面と1HSD01SK04の底面との間には大きな高低差が認められることから、SK02とSK04は掘り込まれた時期がやや異なる可能性が考えられる。堆積土より、1HSD01はB-Tm降下以前の構築と考えられる。

[1HSD02] 平面形は長い隅丸形状を呈する。底面の北東隅と北西壁のほぼ中央部にはくぼみ状のビット(P1・2)が見られる。底面は、非常に平坦で、壁面は、斜め~ほぼ直角に立ち上がっている。全体的に大変整った形状を呈しており、SD01やSD03とは対照的である。深さは、25~30cm前後を測る。

堆積土 底面近くに薄い層が数層堆積している。下位層には掘り込み直後かあるいは機能していた

段階に堆積したロームブロックを多量に含む土がみられる。上位の厚い1・2層は自然堆積土であり、土層断面図には無いが、南西側の1層にはB-Tmが混入している。

遺物の出土状態 土師器、須恵器等が出土している。底面付近にはあまりみられず、専ら覆土の中位以上の層に分布する。分布状況より見て、本遺構が廃絶され、ある程度、時間が経過した後に廃棄された遺物がほとんどと考えられる。堆積土より、本外周溝はB-Tm降下以前の構築と考えられる。

[1HSD03] 弓状に反り、中央部がややふくらむ平面形を呈す。底面には、3個のピット(P1~3)が見られる。南東側壁の一部は覆乱を受けている。底面は若干の歪みがあるもののほぼ均一な幅で弓状を呈し、凹凸も見られる。掘り込みは南側がやや浅く、中央・北側が深く掘り込まれている。中央部の壁面は緩やかに、北側と南側の壁面はやや急に立ち上がる。深さは、30~40cm前後を測る。

堆積土 部位によって堆積の状況に差が見られる。図8の土層断面図B-B'にあるように覆土の上層に粘土が堆積している。この粘土は本遺構の廃絶後の廃棄物と考えられる。下位層にはロームブロックを多量に含む崩落土がみられる。B-Tmは確認されなかった。

遺物の出土状態 確認面から覆土の中位にかけて大量の土師器、須恵器等が出土しており、底面付近にはあまり出土していない。また、粘土と同時に廃棄されたと思われるシルト礫(微細図参照)も多量に出土している。全体的な分布状況より、本遺構の廃絶後に廃棄された遺物がほとんどであると考えられる。

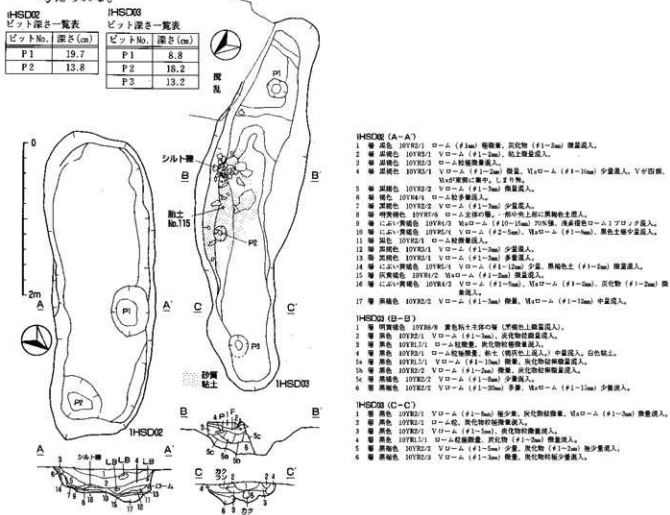


図8 第1号住居跡外周溝(1HSD02・1HSD03)

第1号住居跡付属掘立柱建物跡 (1HSB01) (図9)

概要 本掘立柱建物跡は1Hの前壁側に位置する。1Hと本建物跡の軸方向の一致と両者の近接した位置関係から、第1号住居跡に付属する一連の建物(1HSB01)と考えられる。なお、本建物跡

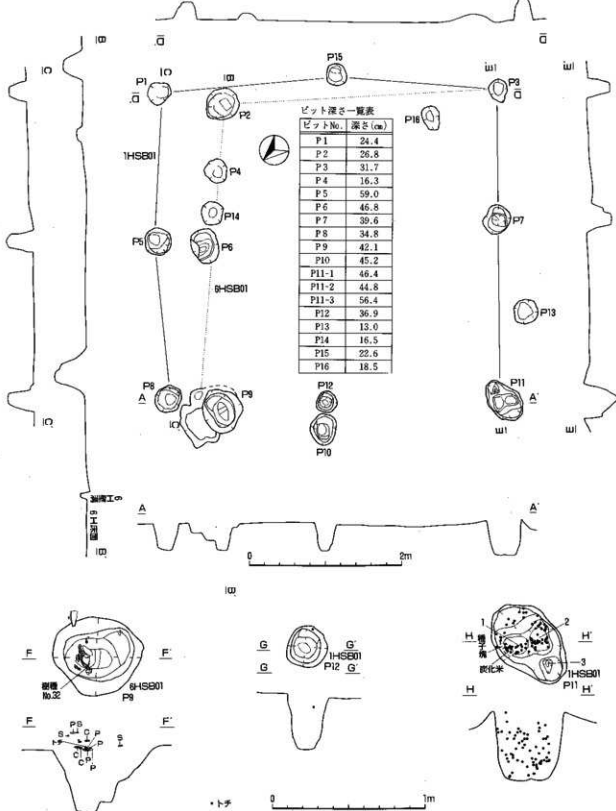


図9 第1号住居跡掘立柱建物跡(1HSB01)・第6号住居跡掘立柱建物跡(6HSB01)

は、6 HSB01を拡張した建物跡である。6 Hを拡張して1 Hを建築すると同時に6 HSB01→1 HSB01の改築(拡張)も行われたものと考えられる、6 HSB01P2・4・14・6・9を北東側に移動させ、1 HSB01P1・5・8を新たに構築して拡張している。

重複 (1)1 HSB01の内部にはSK16とSK17が位置している(図IV)。SK16は1 HSB01Pit7に切られていることから、本建物跡が新しい。SK17と本建物跡の柱穴は、直接的に重複していないものの、SK17はSK16と形態や規模などの面において類似していることから、SK17もSK16と同様に本建物跡より古い可能性が高い。(2)1 HSB01の内部にロームの円形盛土が見られる。柱穴と直接的な重複関係にないため、新旧関係は不明であるが、本建物跡に伴うものである可能性も否定できない。

構造 基本的には8基の柱穴で2間×2間に構成され、ほぼ正方形を呈す。規模は、P1-P5-P8のラインが410cm、P3-P7-P11のラインが415cm、P1-P15-P3のラインが450cm、P8-P12-P11のラインが440cmを測る。柱穴の深さは浅いもので22cm前後、深いもので59cm程度である。平面形は、円形、不整形円形、楕円形と様々みられる。

P11は3個の柱穴が重複しているようである(P11-1, 2, 3)が、新旧関係等については不明である。ほとんどの柱穴の断面形は逆台形を基本とする。覆土中に柱痕を残すものは見られない。住居跡の前壁から、P8は160cm、P10は125cm、P11は155cm離れている。P5-P8のラインの住居跡方向の延長線は1 HのAコーナーにぶつかる。主軸方位はN-131°-Eを測る。

土層 いずれの柱穴も暗褐色系の覆土がほとんどであり、ローム粒子を少量混入している。

遺物等の出土状態 土器類はほとんど出土していないが、P11からは炭化したトチの実、炭化米、アサ種子が出土している。炭化トチの実は50数点出土した。位置的にはP11-1, 2の上位から下位にかけて出土している。炭化米とアサ種子はP11-1の中位にブロック状に検出されている。また、P12の上位からも炭化トチの実が1点のみ出土している。P11-1, 2における炭化種子類の平面分布よりみて、これらの炭化種子類は柱穴の抜き取り後に埋められたものと考えられ、何らかの祭祀的な場面(地鎮など)に伴ったものである可能性が高い。

第6号住居跡(6 H)(図10-図12)

概要 本住居跡は、第1号住居跡の拡張以前のものである⁽⁴⁰⁾。内部施設としてクロロピットが2基(6 HRP01, 6 HRP02)と、外部施設として外周溝2条(6 HSD01, 6 HSD02)と掘立柱建物跡1棟(6 HSB01)が付随している(図10)。

(註)6 Hおよび6 Hカマドの土層断面図は1 Hの土層断面図(図3・5)に示してある。

重複 1 Hの記載を参照。1 Hよりは古い。

構造 規模は、355-385×465-483cmを測り、平面形は長方形を呈す。床面は1 Hの床構築土の直下に確認された。四壁は1 H同様、ほとんど残存していない。壁溝は後壁に検出されなかったことから、壁溝は全く掘り込まれていなかった可能性がある⁽⁴⁰⁾。ピットはP1-P8があり、主柱穴はP3・4・6・7の4本柱構成と考えられる。P6・7は1 Hと同じものであり、P4は、1 Hカマドの右ソデの下に、P3は1 HP1の東側に検出されている。床は、先ず第Ⅲ層を掘り込み、ロームが混入する黒色土を薄く貼ってつくられている。

(註)住居跡の平面図には、便宜的に1 Hの左壁溝、前壁溝、右壁溝をそのまま6 Hの平面図に組み込んでいる。

土層 床構築土のみの調査であり、覆土は堆積していない。

カマド 南東壁に作りつけられており、壁の右側(3区)に位置する。残存状況は不良で、火床面のみが検出されている。1Hカマドを構築する段階で、6Hカマドは破壊されているが、その残骸は1Hカマドの下層に埋め込まれている(図5)。ソデは、明褐色の粘土を素材としている。火床面は床面をそのまま利用して、あまり硬化していない。カマドを通る軸方位はN-130°-Eをさす。

内部施設 ロクロピット2基が1/5区(6HRP01)と6区(6HRP02)に検出された。R P01、R P02ともに支柱穴P3-P6ラインに接するように存在する。R P01は6Hの床面において確認したものであり、R P02は6Hの床構築土除去後に確認したものである。恐らくR P02が廃絶された後にR P01が構築されたものと思われる。R P01の上端径は45×48cm、R P02の上端径は47×48cmで、上端の平面形は両者とも不整形を示す。断面形はR P01が不整逆台形³⁾、R P02が径と深さがほぼ同一サイズの逆台形である。両者とも中位から下位にかけて段を1箇所有す。深さは、R P01が51cm、R P02が37cmを測る。R P01の確認面には、多量のミニチュア土器や土師器片が散在し、1~3層に

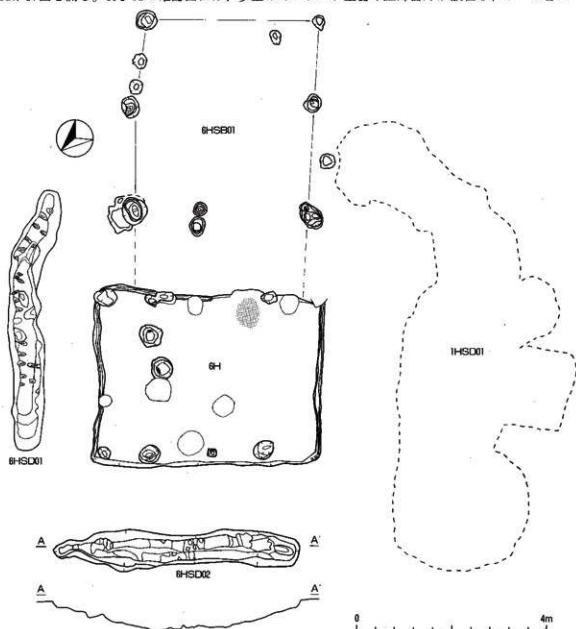
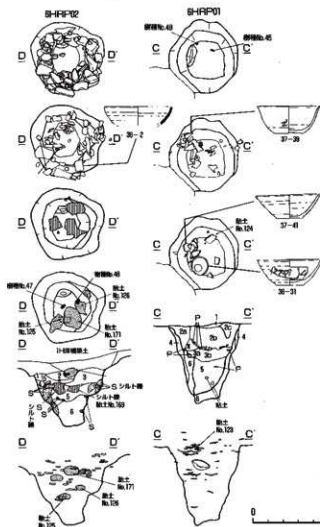
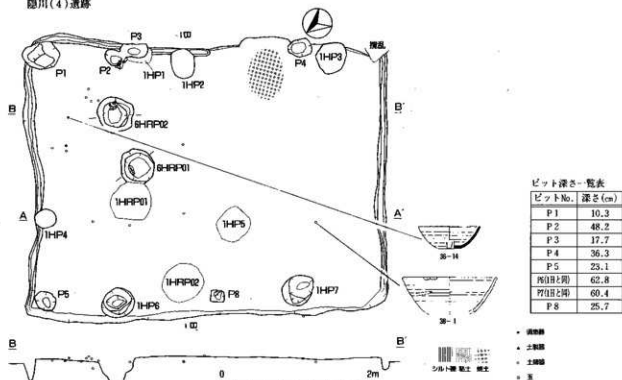


図10 第6号住居跡(全体)

隠川(4)遺跡



伊佐橋遺土 (A-A') (38-47)

① 層 黄褐色 10YR2/2 V O-A (#1-3cm) 稀少量、炭化物の微塵、地上貯蔵層、粘土 (#2-3cm) 少量混入。

② 層 黄褐色 10YR1.5/1 V O-A (#1-2cm) 微塵、焼土 (#1-2cm) 稀少量、粘土 (#2-3cm) 少量混入。

③ 層 黄褐色 10YR2/2 V O-A (#1-2cm) 微塵、M O-A (#1-2cm) 微塵、炭化物少量混入、焼土 (#1-2cm) 少量混入。

④ 層 黄褐色 10YR1.5/1 V O-A (#1-2cm) 微塵少量混入。

伊佐橋遺土 (C-C')

1 層 黄褐色 10YR2/3 焼土 (#1-1cm) 微塵、ローム (#1-2cm) 微塵、炭化物 (#1cm) 微量混入。

2a 層 黄褐色 10YR2/3 炭化物 (#1cm) 微量混入、焼土 (#1cm) 微量混入、H-A (#1-1cm) 微量混入。

2b 層 灰白色 10YR2/1 ローム (#1-2cm) 微塵、焼土 (#1cm) 微量混入、炭化物 (#5-10cm: 下位に集中) 混入。

2c 層 黄褐色 10YR2/3 焼土 (#2-5cm) 少量、ローム (#1-1cm) 微塵、炭化物 (#1cm) 微量混入。

2d 層 灰白色 10YR2/1 ローム (#1-2cm) 微塵、焼土 (#1cm) 微量混入。

3 層 黄褐色 10YR3/1 O-A (#1-10cm) 少量、地上 (#1cm) 微塵、粘土塊 (#15cm) 1枚混入。

4 層 黄褐色 10YR5/6 黄色土少量混入、少量焼土。

5 層 灰白色 10YR2/1 粘土 (#15-1-2cm) 微塵、ローム (#1-3cm) 微塵、焼土 (#1cm) 1枚混入、少量焼土。

6 層 黄褐色 10YR5/6 10YR2/1 黄色土が塊状に混入、少量焼土。

伊佐橋遺土 (D-D')

1 層 黄褐色 10YR2/2 粘土塊 (#10cm) 1ヶ、ローム (#1-10cm)、少量混入。

2 層 灰白色 10YR2/1 粘土 (#2-5cm) 微塵、ローム (#1-1cm) 少量混入。

3 層 黄褐色 10YR2/2 粘土 (#1-10cm) 少量混入。

4 層 黄褐色 10YR4/6 H-A (#5-15cm) 少量混入。

5 層 黄褐色 10YR2/2 粘土 (明黄色色: #1-85cm-灰白色: #5-30cm) 微塵、炭化物 (#5-10cm) 微量混入、H-A (#1cm) 微量混入、少量焼土。

6 層 黄褐色 10YR2/1 H-A (#1-20cm) 少量、地上 (#1-15cm) 微塵、炭化物 (#1-4cm) 微塵、粘土 (灰白色: #1-5cm) 微量混入。

図11 第6号住居跡

も多くの土器片が含まれている。2b層の最下には多量の炭化物が集中している。2b層からはほぼ完形の土師器杯が出土しており、この土師器杯の外面には、絵画的なへら描きが施されている。5層は軸木のあった部分に相当する層で、4・6層は軸木を固定するための充填土と考えられる。R P02の中心には、多量の自然礫が環状に固定されている。これは、軸木を安定させるために施されたものと考えられ、6層は、軸木の差し込まれていた部分に相当する可能性がある。

(註) R P01の土層断面図は、5層のしまりが弱かったため、土層断面の下部を垂直に出来ずに奥まってしまった。よって、図の下部は実際よりも狭く見えている。

遺物等の出土状態 土器の細片が若干出土したにすぎない。

第6号住居跡付属外周溝 (6HSD01・6HSD02) (図12)

概要 2条の溝跡で構成されており、6Hの左壁の外側にある外周溝が6HSD01、後壁の外側にある外周溝が6HSD02である(図10)。これら2条の外周溝をまとめて第6号住居跡付属外周溝と呼称する。2条の外周溝の位置関係を見ると、6Hの左壁・後壁をL字状に囲むように配されている。

※6Hの機能段階における、右壁外側の外周溝は確認できなかったものの、1HSD01は他の外周溝に比べ、非常に幅広い形状を呈し、数回にわたって掘り直されている可能性が高いことから、6Hの右壁外側には幅の狭い外周溝がかつて存在していて、1H用にそれが作り替えられた段階で、幅を広げられたり掘り直された結果、6Hに付属する右壁外側の外周溝の原形は消滅してしまったものと推測される。

重複 6HSD01は1HSD03に壁を一部壊されており、6HSD01が古い。

構造 6HSD01-02の平面形を全体的に見ると、L字形に配列され、6HのCコーナー側は空白となっている。6Hの壁から各外周溝の内側壁までの間隔は、6HSD01側が120~124cm、6HSD02側が148~152cmを測る。長さも、6HSD01が直線長で555cm、6HSD02が515cmを測る。6H

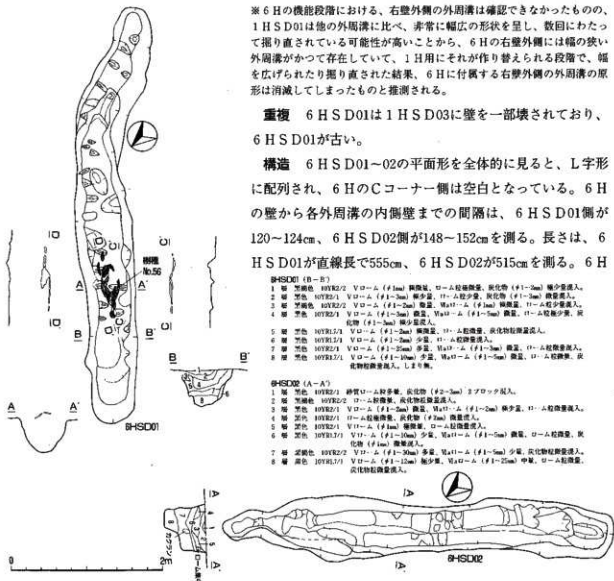


図12 第6号住居跡外周溝 (6HSD01・02)

SD02の長さは、6Hの後壁の長さとはほぼ等しい。幅は、6HSD01が50~75cm、6HSD02が35~90cmを測る。深さは、6HSD01が45~50cm、6HSD02が35~55cmを測る。

【6HSD01】 やや弓状に反る外周溝である。底面には、工具痕と考えられる多数のピットが見られる。北東側壁の一部は、1HSD03によって壊されているが、1HSD03が壊している範囲は非常に浅いことから、平面形状にはほとんど影響がない。断面形は、若干の歪みがあるもののほぼ半楕円形状を呈する。底面は、両末端がやや浅く、中央が深く掘り込まれている。

堆積土 7層に第V層ルームが多量に堆積している。このルームの堆積状況より見て、本外周溝は、人為的に埋め戻されたものと考えられる。また、その上位層は、人為堆積土が土圧により沈んだ後の自然堆積土と考えられる。B-T_mは確認されなかった。

遺物の出土状態 ごく少量の土器が出土したにすぎない。確認面には板状の炭化材が出土している。【6HSD02】 ほぼ直線的な外周溝である。底面には、6HSD01と類似する、工具痕と考えられる多数のピットが見られる。また、溝の底面には、さらにもう1条の細い溝を住居跡の側に掘り込んでおり、結果として断面形は、階段状になっている。掘り込みは、両末端がやや浅く、中央が深い。

堆積土 7層に第V層ルームが多量に堆積している。このルームの堆積状況より見て、本外周溝は、人為的に埋め戻されたものと考えられ、その上位層は、人為堆積土が土圧により沈んだ後の自然堆積土と考えられる。B-T_mは確認されなかった。

遺物の出土状態 ごく少量の土器が出土したにすぎない。

第6号住居跡付属掘立柱建物跡(6HSB01)(図9)

概要 本掘立柱建物跡は6Hの前壁側に位置する。6Hと本建物跡の軸方向の一致と両者の近接した位置関係から、第6号住居跡に付属する一連の建物であると考えられる。なお、本建物跡は、1HSB01の拡張前の建物跡であり、P3・7・11は1HSB01においても機能していたと考えられる。

重複 (1)6HSB01の内部にはSK16とSK17がある。SK16は1HSB01Pit7に切られており、1HSB01Pit7は6HSB01の一部でもあることからSK16よりも本遺構は新しい。SK17は本建物跡と直接的な重複の関係にないため新旧関係は不明であるが、SK16とSK17は形態、規模等の特徴が類似していることから、SK17も本遺構よりも古いと考えられる。(2)1HSB01の内部にルームの円形盛土が見られる。柱穴と直接的な重複関係にないため、新旧関係については不明といわざるを得ないが、本建物跡に伴うものである可能性も否定できない。

構造 基本的には8基の柱穴で1間×2間に構成され、ほぼ長方形を呈すものと考えられる。規模は、P2-4-14-6-9のラインが418cm、P3-7-11のライン(1HSB01と同)が415cm、P2-3のラインが365cmを測る。柱穴の深さは浅いもので16cm前後、深いもので56cm程度である。平面形は、円形、不整形、楕円形と様々みられる。ほとんどの柱穴の断面形は逆台形を基本とする。覆土中に柱痕を残すものは見られない。住居跡の前壁からは、P9が132cm、P11(1HSB01と同)が155cm離れている。雨落ち溝の痕跡等は検出されなかった。主軸方位はN-131°-Eを測る。

土層 いずれの柱穴も暗褐色系の覆土がほとんどであり、ルーム粒子を少量混入しており、1HSB01の柱穴の覆土と類似している。

遺物等の出土状態 全体的に土器類はほとんど出土していないが、P9からは炭化したトチの実1

点と炭化材破片、土師器破片が出土している。位置的には柱痕と考えられる部分の上位に集中して出土している。平面位置よりみて、これら炭化種子や土器等は柱穴の抜き取り後に埋められていると推定され、何らかの祭祀的な場面（地鎮など）に伴ったものである可能性が高い。なお、住居跡前壁側に並ぶ6HSB01P9、1HSB01P11・12の3基の柱穴のみにトナが出土している点は注意される。

第2号住居跡（2H）（図13～17）

概要 本住居跡は、グリッドD-116他の、平坦地に位置する。約2分の1が、調査区域外にあるため、全体の調査はできなかった。外部施設として外周溝1条（2HSD01）と掘立柱建物跡1棟（2HSD01）が付随している（図13）。外周溝の内部には、土坑（粘土採掘坑？：2HSD01SK01～04

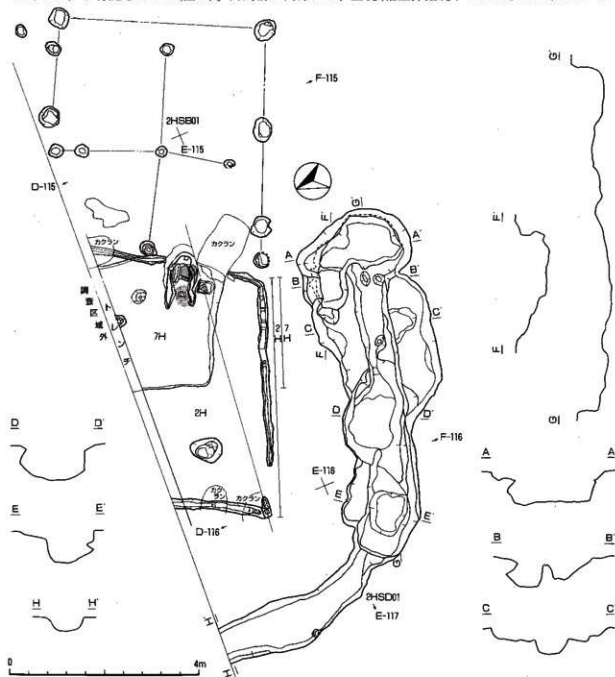


図13 第2号住居跡・第7号住居跡（全体合成）

が掘り込まれている。また本住居跡は、後述する第7号住居跡の左壁、右壁、後壁を拡張したものである^(註1)(図13)。7Hに付設される外周溝は不明である。

(註1) 7Hの土層断面図も2Hの土層断面図に示してある。

重複 (1) 近くには並列溝状遺構(SDX01)があり、両者の位置関係より、本住居跡とSDX01とは新旧関係にあったと考えられるが、SDX01は7年度の粗掘りにより既に掘り下がっていたため、新旧関係は不明である。(2) カマドの南側と前壁の調査区際が攪乱を受けている。

構造 規模は、右壁で496cmを測り、平面形はやや変形がかかる方形を呈す^(註2)。壁は、A-A'のセクションで見ると、ほとんど残存していないことから、平地式の住居である可能性が高い。壁溝はほぼ全周しているものと思われるが、Dコーナーの右壁寄りの一部は途切れていることから、出入口の存在を想起させる。ピットは6区・11/12/15/16区・Dコーナーに3基あるが、主柱穴は不明である。床は、ロームが混入する黒色～黒褐色土を敷きならしてつくられており、下層にある7Hの床面に特に厚く盛られている。7Hカマドも2Hの床構築土の中に埋められている。

(註2) 右壁側の一部は、7年度の粗掘りにより既に掘り下がっており、床も残存していない。

土層 8層に分層された。第I層(表土)の直下には、白頭山火山灰を混入する層がみられる。

カマド 南東壁に作りつけられており、壁の右側に位置する。残存状況は不良であるが、燃焼部側壁～排煙部まで検出された。燃焼部側壁(ソデ)は、褐灰色の粘土を素材としており、床面上に貼り付けるようにして構築されている。燃焼部～排煙部を平面的に見ると、逆U字状に構築されており、ほぼ左右対称の構造である。火床面(8層)と燃焼部側壁内面はよく焼けている。火床面は、床面をそのまま利用している。火床面の中央には倒立させた小型の土師器甕が、支脚として置かれている。カマドを通る軸の方位は、N-117°-Eをさす。

内部施設 P2は、クロピットのような平面形、断面形を呈すものであるが、断定できない。

遺物等の出土状態 床面上に土師器の細片が若干出土している。玉は床面の2/6区と8区に出土している。カマドの燃焼部には土師器細片が数点、火床面からは、土玉が1点出土している。Dコーナーの壁溝内柱穴から、須恵器の坏の大型破片が出土している。

第7号住居跡(7H) (図14)

概要 本住居跡は、グリッドD-115他の、平坦地に位置し、第2号住居跡の拡張以前のものと考えられる(図13)。約4分の1が、調査区域外にあるため、全体の調査はできなかった。

重複 なし。(2Hより古い)

構造 規模は、283～245×(295)cmを測り、平面形はほぼ方形を呈すが、歪みが大きい。四壁はほとんど残存しておらず、壁溝も巡らされていない。ピットは2基(4区・6区)検出されている。床は、ロームまで掘り下げ、ある程度底面ができあがった後に、凹凸をなくすようにしてロームを混入する土を平坦に敷きならしてつくられている。

土層 覆土は無い。床面以下の土層(床構築土)のみの調査。

カマド 2Hカマドの下層に検出されている。作り替えの際に本カマドはあまり壊されることなく、床構築土でバックされている。南東壁に作りつけられており、壁の右側(3/4区)に位置する。煙道部は検出されず、残存状況は不良であるが、燃焼部側壁(左ソデのみ)と火床面が2H床構築土中

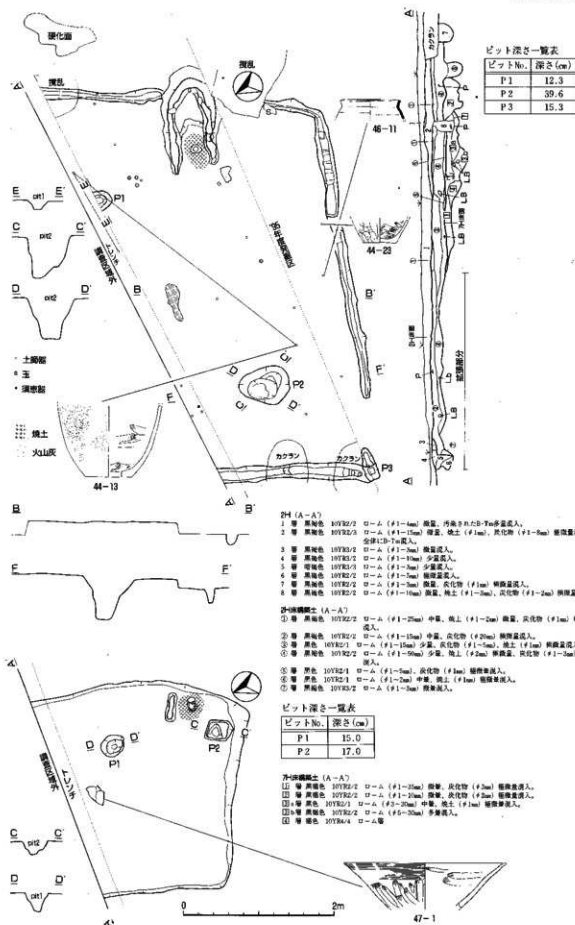
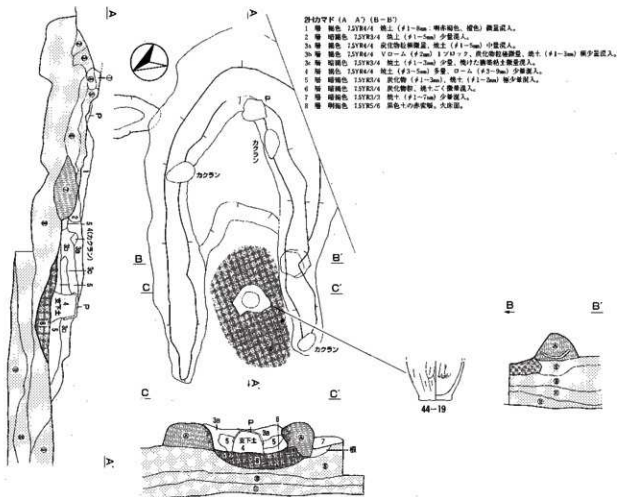


図14 第2号住居跡・第7号住居跡

隠川(4)遺跡

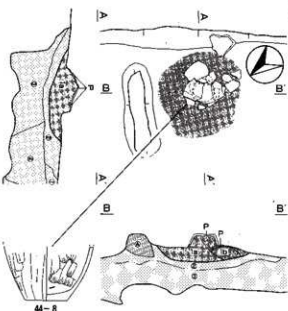


- 跡付マド (A-A') (B-B')
- 1 層 褐色 2.5YR6/4 粘土 (F1-8m) 礫多量混入、褐色 腐植層混入。
 - 2 層 暗褐色 2.5YR2/4 粘土 (F1-5m) 少量混入。
 - 3a 層 褐色 2.5YR6/4 炭化物粒層混入、粘土 (F1-5m) 少量混入。
 - 3b 層 褐色 2.5YR6/4 ヲロム (F2m) 1ブロック、炭化物粒層混入、粘土 (F1-3m) 少量混入。
 - 3c 層 暗褐色 2.5YR3/4 粘土 (F1-3m) 少量、焼けた腐植層少量混入。
 - 4 層 褐色 2.5YR6/4 粘土 (F2-5m) 少量、ローム (F2-5m) 少量混入。
 - 5 層 暗褐色 2.5YR3/4 炭化物粒 (F1-3m)、粘土 (F1-3m) 少量混入。
 - 6 層 暗褐色 2.5YR3/4 炭化物粒、焼けた腐植層混入。
 - 7 層 暗褐色 2.5YR3/4 粘土 (F1-7m) 少量混入。
 - 8 層 暗褐色 2.5YR3/4 炭色の赤土層、火灰層。

跡付マド暗褐色土 (B-B') (C-C')

- ◎ 層 暗褐色 2.5YR6/4 粘土 (F1-23m) 少量、炭化物粒層混入。

- 跡付マド暗褐色土 (A-A') (B-B') (C-C')
- 1 層 暗褐色 2.5YR2/4 粘土と少量の礫、焼けた腐植層 (褐色) 混入。
 - 2 層 暗褐色 10YR2/2 ヲロム (F1-2m) 腐植層、礫多量混入、炭化物粒層混入。
 - 3 層 炭質砂 2.5YR3/2 ヲロム粒層混入。
 - 4 層 炭質砂 2.5YR3/2 炭化物粒層混入、粘土 (F1-2m)、礫多量 (F1-2m) 腐植層混入。
 - 5 層 暗褐色 2.5YR2/4 炭化物粒層混入、粘土少量混入。
 - 6 層 暗褐色 2.5YR3/4 粘土 (2.5m) 赤褐色 (F1-7m) 少量混入、ローム (F1-5m) 腐植層混入。
 - 7 層 赤褐色 2.5YR7/4 粘土。
 - 8 層 赤褐色 10YR3/2 粘土 (F10m) 混入。
 - 9 層 赤褐色 10YR3/1 シームブロック少量混入。
 - 10 層 炭質砂 10YR4/2 白色粘土、粘土少量混入。
 - 11 層 赤褐色 10YR3/1 炭化物粒に富む。



- 跡付マド (A-A') (B-B')
- 1a 層 褐色 2.5YR6/4 粘土 (F1-10m) 腐植層混入。
 - 1b 層 暗褐色 10YR5/4 炭化物 (F1m) 腐植層混入。

跡付マド暗褐色土 (A-A')

- ◎ 層 暗褐色 2.5YR6/4 炭質土少量混入。

- 跡付マド暗褐色土 (A-A') (B-B')
- 1 層 暗褐色 2.5YR3/4 粘土 (F2-20m) 少量、ローム (F7m)、炭化物 (F1m) 腐植層混入。
 - 2 層 暗褐色 10YR2/2 粘土 (F2-7m)、ローム (F1-10m) 腐植層混入。
 - 3 層 暗褐色 10YR2/2 ローム (F10-100m) 少量、粘土 (F10m) 腐植層混入。
 - 4 層 暗褐色 10YR3/3 ローム (F3-50m) 少量、粘土 (F5m) 腐植層混入。

図15 第2号住居跡カマド・第7号住居跡カマド

に検出された。ソデは、褐灰色の粘土を素材としており、床面上に貼り付けるように構築されている。火床面（1 a層）は焼けているもののほとんど硬化していない。燃焼部側壁内面もあまり焼けていない。火床面の中央には支脚として、倒立させた土師器臺が置かれている。カマドを通る軸の方位は、N-118°-Eをさす。

内部施設 P1は、ロクロピットのような平面形、断面形を呈すものであるが、断定できない。

遺物等の出土状態 8区の床面上に土師器の埴1個体が破片で出土している。

出土遺物

第2号住居跡付属外周溝（2HSD01）（図13・16）

概要 約2分の1が調査区域外に伸びているため、全体の形状は不明であるが、1条の溝跡で構成されていると考えられる。住居跡との位置関係を検出範囲内で見ると、2Hの右壁・後壁をJ字状に囲むように位置している。

重複 直接的な重複ではないが、SK18が2HSD01と2Hの間に位置している（図VI参照）。

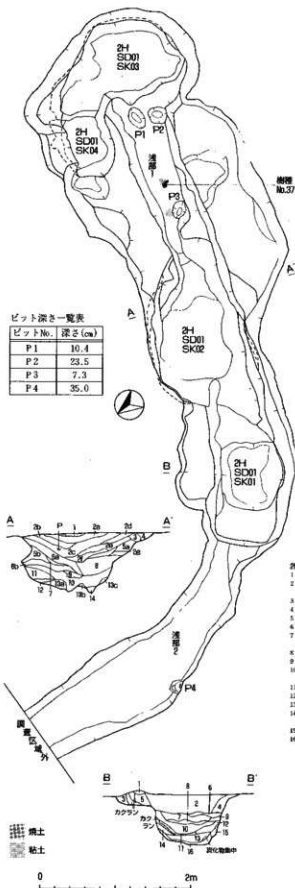
構造 Dコーナー付近から北側（後壁側）は、深さ・幅ともほぼ均一な掘り込みである（2HSD01浅部2）のに対し、右壁側は複雑な形状を呈している。東端には、不整隅丸三角形の土坑状の部分（2HSD01SK03）があり、そのすぐ北西には小型の土坑状の部分（2HSD01SK04）がある。また、ほぼ中央部には不整長方形の土坑状の部分（2HSD01SK02）が、そして西端には、同じく不整長方形を呈す2HSD01SK01がある。これら土坑状の窪みが所々に掘られているため、右壁側の幅・深さは部位によりばらつきが激しくなっている。2HSD01SK01と2HSD01SK03を結ぶラインには、2HSD01浅部2と深さ・幅とも類似する2HSD01浅部1が見られる。これは、2HSD01SK01と2HSD01SK02によって一部壊されている。2HSD01SK02と2HSD01SK03を結ぶラインにある2HSD01浅部1の南北壁の外には、浅い不整な張り出し状の掘り込みがあり、それは2HSD01SK01の北壁側にも見られる。2HSD01浅部2は北に向かって伸びているものの、調査区域外の状況は不明である。2Hの壁から外周溝の内側壁までの間隔は、右壁側が80~168cm、後壁側が252cmを測り、右壁側が後壁側に比較してやや狭い。ただし、右壁から浅部1の内側壁までの間隔は204cmを測る。2HSD01全体の長さは、直線長（検出長）で10m5cmを測る。幅は、右壁側が125~235cm、後壁側（浅部2）が55~110cmを測る。浅部1の深さは、56cm前後、浅部2の深さは24cm前後を測る。

[2HSD01SK01] 大型の長方形土坑の底面に、小型の長方形土坑を掘り込むような構造を呈している。壁はやや反しながら直線的に立ち上がっている。北側には張り出し状の浅い部分が接している。この土坑状の部分は粘土採掘の跡である可能性が高い。深さは、65cm前後を測る。

[2HSD01SK02] 上端の平面形は不整長方形を呈す。底面、壁面とも不整で、北壁の下位は横方向に掘り込まれている。この土坑状の部分も粘土採掘の跡である可能性が高い。深さは、55~80cmを測る。

[2HSD01SK03] 上端の平面形は不整隅丸三角形を呈す。底面は平坦であるものの、平面形は非常に複雑であり、歪んだひょうたん形を呈している。数回にわたって掘り込んだ結果、このような形状になったものと考えられる。図13のA-A'断面図で分かるとおり、壁の立ち上がりも複雑で、内傾しているところも目立つ。平面形、断面形の不規則な掘り込み方より見て、本遺構も粘土採掘坑

隠川(4)遺跡



ピット深さ一覧表

ピットNo.	深さ(cm)
P1	10.4
P2	23.5
P3	7.3
P4	35.0

2HSD01 (A-A')

- 1層 硬土色 10YR2/2 V-O-M (F1-2m) 少量侵入。
- 2層 黒褐色 10YR2/3 V-O-M (F1-2m) 炭化物 (F1-2m) 少量侵入。
- 3層 黒褐色 10YR2/2 V-O-M (F1-10m) 炭化物 (F1-2m) 少量侵入。
- 4層 黒褐色 10YR2/2 V-O-M (F1-2m) 炭化物 (F1-2m) 少量侵入。
- 5層 黒褐色 10YR2/1 V-O-M (F1-2m) 炭化物 (F1-2m) 少量侵入。
- 6層 黒褐色 10YR2/2 V-O-M (F1-2m) 炭化物 (F1-2m) 少量侵入。
- 7層 黒褐色 10YR2/2 V-O-M (F1-2m) 炭化物 (F1-2m) 少量侵入。
- 8層 黒褐色 10YR2/2 V-O-M (F1-2m) 炭化物 (F1-2m) 少量侵入。
- 9層 黒褐色 10YR2/3 V-O-M (F1-10m) 炭化物 (F1-2m) 少量侵入。
- 10層 黒褐色 10YR2/3 V-O-M (F1-2m) 炭化物 (F1-2m) 少量侵入。
- 11層 黒褐色 10YR2/3 V-O-M (F1-2m) 炭化物 (F1-2m) 少量侵入。
- 12層 黒褐色 10YR2/3 V-O-M (F1-2m) 炭化物 (F1-2m) 少量侵入。
- 13層 黒褐色 10YR2/3 V-O-M (F1-2m) 炭化物 (F1-2m) 少量侵入。
- 14層 黒褐色 10YR2/3 V-O-M (F1-2m) 炭化物 (F1-2m) 少量侵入。

2HSD01SK01 (B-B')

- 1層 黒褐色 10YR2/3 V-O-M (F1-2m) 炭化物 (F1-2m) 少量侵入。
- 2層 黒褐色 10YR2/2 V-O-M (F1-2m) 炭化物 (F1-2m) 少量侵入。
- 3層 黒褐色 10YR1/4 O-M 層。
- 4層 黒褐色 10YR2/1 V-O-M (F1-2m) 炭化物 (F1-2m) 少量侵入。
- 5層 黒褐色 10YR2/1 V-O-M (F1-2m) 炭化物 (F1-2m) 少量侵入。
- 6層 黒褐色 10YR2/1 V-O-M (F1-2m) 炭化物 (F1-2m) 少量侵入。
- 7層 黒褐色 10YR2/2 V-O-M (F1-2m) 炭化物 (F1-2m) 少量侵入。
- 8層 黒褐色 10YR2/2 V-O-M (F1-2m) 炭化物 (F1-2m) 少量侵入。
- 9層 黒褐色 10YR2/2 V-O-M (F1-2m) 炭化物 (F1-2m) 少量侵入。
- 10層 黒褐色 10YR2/2 V-O-M (F1-2m) 炭化物 (F1-2m) 少量侵入。
- 11層 黒褐色 10YR2/2 V-O-M (F1-2m) 炭化物 (F1-2m) 少量侵入。
- 12層 黒褐色 10YR2/2 V-O-M (F1-2m) 炭化物 (F1-2m) 少量侵入。
- 13層 黒褐色 10YR2/2 V-O-M (F1-2m) 炭化物 (F1-2m) 少量侵入。
- 14層 黒褐色 10YR2/2 V-O-M (F1-2m) 炭化物 (F1-2m) 少量侵入。
- 15層 黒褐色 10YR2/2 V-O-M (F1-2m) 炭化物 (F1-2m) 少量侵入。
- 16層 黒褐色 10YR2/2 V-O-M (F1-2m) 炭化物 (F1-2m) 少量侵入。

図16 第2号住居跡付属外周溝 (2HSD01)

として利用された可能性がある。深さは、64～72cm前後を測る。

[2HSD01SK04] 2HSD01SK03に接している。上端の平面形は長方形を呈し、底面は平坦である。壁の立ち上がりは一定せず、北側は内傾している。断面形の不規則な掘り込みより見て、本遺構も粘土採掘坑として利用された可能性がある。

[2HSD01浅部1] 浅い掘り込みで、壁の立ち上がりは非常に緩やかに外反する。底面には凹凸がみられ、くぼみ状のピットが3基(Pit1・2・3)ある。2HSD01SK01と2HSD01SK02によって一部壊されているが、全体的に平面形、断面形の両面から見ても直線的な形状を呈している。

[2HSD01浅部2] 浅い掘り込みで、壁の立ち上がりは非常に緩やかに外反する。底面には凹凸がみられ、底面壁際にはくぼみ状のピット(P4)が1基ある。全体的に平面形、断面形の両面から見ても整った形状を呈している。

堆積土 部位によって堆積の状況に差異が見られる。図16A-A'土層断面図に示されているように、上位には薄い層が幾層にもわたって堆積している。土層を大きく上下層に分けると、下位層には黄褐色系の土壌が目立ち、上位層には黒褐色系の土壌が目立つ。上位層のほとんどは自然堆積土と考えられ、2HSD01SK02の確認面の層(A-A'1層)にはB-Tmが堆積している。

遺物の出土状態 浅部1のPit1とPit3を結ぶラインの覆土からは少量の土師器、須恵器、粘土塊、炭化木が集中して出土しており、その部分以外にはあまり出土していない。底面付近にはほとんど出土せず、専ら覆土の中位以上の層に多く分布する。分布状況より見て、本遺構の廃絶後に、廃棄された遺物がほとんどのように感じられる。

その他 堆積土より、本遺構の構築時期はB-Tm降下以前と推定される。

第2号住居跡付属掘立柱建物跡(2HSB01)(図17)

概要 本掘立柱建物跡は2Hの前壁側に位置する。2Hと本建物跡の軸方向の一致と両者の近接した位置関係から、2Hに付属する一連の建物(2HSB01)であると考えられる。一部調査区域外に伸びているため、全体の状況は不明である。

重複 2HSB01の内部には100×43cm程の不整な硬化面があるが、新旧関係は不明である。

構造 一部調査区域外に伸びているため、全体の状況は不明であるが、検出範囲内では7基の柱穴で1間×2間に構成されており、長方形を呈すものと考えられる。規模は、P1-P10-P4のラインが(215)cm、P3-P5-P8-P9のラインが495cm、P1-P3のラインが440cm、P13-P9のラインが(240)cmを測る(()内は検出長)。P1-P3のライン上に柱穴は検出されなかった。柱穴の深さは、浅いもので10cm前後、深いもので40cm程度である。平面形は、円形、不整円形等がみられる。ほとんどの柱穴の断面形は逆台形を基本とする。覆土中に柱痕を残すものは見られない。本建物跡の内部にはP2、P6、P7、P11、P12、P13のやや小型の柱穴があり、ほぼ十字に配置されている。これらは本建物跡を間仕切りするかのようにも見えるが、補助的な柱穴と考えたい。住居跡の前壁からP9は24cm離れており、P13は壁溝に接している。雨降り溝の痕跡等は検出されなかった。主軸方位はN-114°-Eを測る。

土層 いずれの柱穴も褐色系の覆土がほとんどであり、ローム粒子を少量混入している。

遺物等の出土状態 遺物は出土していない。

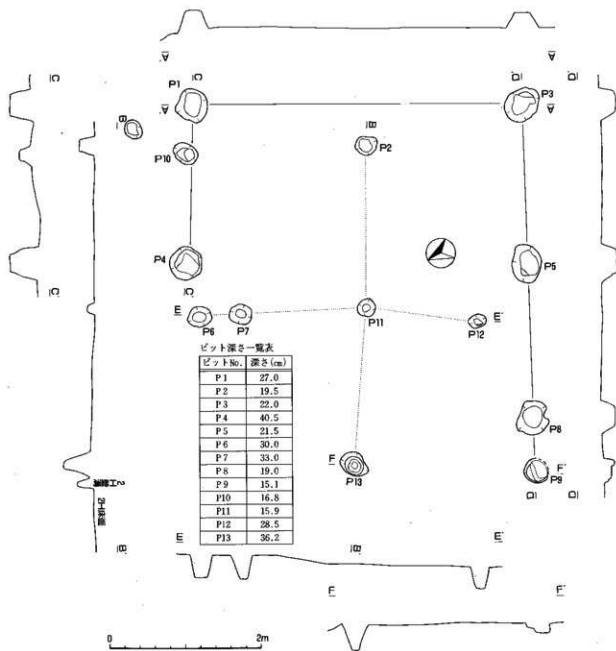


図17 第2号住居跡付属掘立柱建物跡

第3号住居跡 (3H) (図18~23)

概要 本住居跡は、グリッドF・G-118他の、平坦地に位置する。内部施設としてロクロピットが1基(3HRP01)と、3基のピット(P01・02・03)、外部施設として外延溝1条(3HSD01)と掘立柱建物跡1棟(3HSB01)が付随している(図18)。

重複 Bコーナーと13/14区壁溝付近が攪乱を受けている。

構造 規模は、中央部で400~415×410~420cmを測り、平面形はほぼ方形を呈す。四壁は良好に残存していて、30~35cmを測る。壁溝はカマド部分を除いて全周している。ピットは12基(P1~P12)あるものの、柱穴として認めうるのは壁構内にあるもののみである。床は、先ずロームを大まかに掘

り込んだ後に、底面の凹凸をなくすようにして、ロームを混入する土を平坦に敷きならすようにしてつくられている。

土層 28層に分層された。黒褐色土を基調とする。図19・B-B'の土層図を見ると、レンズ状に堆積していることが分かる。ほとんどが自然堆積であると推定される。

カマド 南東壁に作りつけられており、壁の右側(3/4区)に位置する。燃烧部から排煙部まで極めて良好に検出されている。煙道部は住居外に109cmほど伸びている。燃烧部～排煙部の形状を平面的に見ると、構築土としての浅黄色の粘土を火鉢形に固定させる構造を採っている。構築の過程は、先ず溝状に掘り込み、次に粘土をその掘り込みの内側に盛り、さらに裏込め土を入れて安定させるという3段階の工程が土層断面図よりうかがえる。排煙部の底面にはピットはみられる。燃烧部側壁(ソデ)は、浅黄色の粘土を素材としており、床に貼り付けるように構築されている。この粘土は、煙道部～排煙部までと同じものである。火床面(①層)は床をそのまま利用していて、よく焼けているが、軟質である。火床面の中央には倒立させた土師器小甕が支脚として置かれている。3・7・10・12～14・19・21～31・33～36層は構築土の崩落したものと考えられる。燃烧部側壁内面もよく焼けている。右ソデの端部には、土師器甕が倒立の状態で埋め込まれている。土層を見ると、人為的に埋められた状況は呈していない。自然崩落と流入による堆積であろうと考えられる。カマドを通る軸の方位は、N-E 118°-Eをさす。

内部施設 ロクロピット(3HRP 01)が6区に1基検出された。床面において確認したものである。径は44×52cmで、上端の平面形は不整楕円形を呈し、断面形は三角形状である。土層を見る

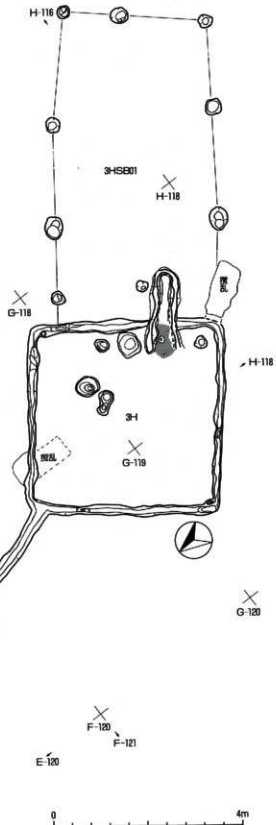
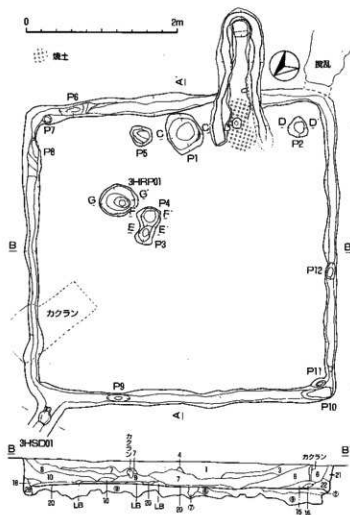


図16 第3号住居跡(全体)

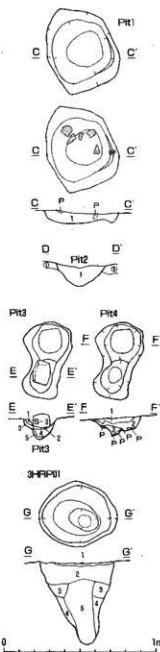
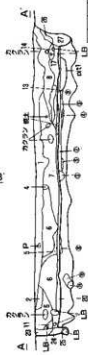
隠川(4)遺跡



- 3号 (A-A') (B-B')
- 1号 黒褐色 10YR2/3 Vローム (#1-10cm) 極少量, 灰化物 (#1-5cm), 焼土 (#1-5cm) 微量混入。
 - 2号 黒褐色 10YR2/3 Vローム (#1-12cm) 少量混入。
 - 3号 黒褐色 10YR2/3 Vローム (#1-18cm) 少量, 灰化物 (#2-3cm) 微量混入。
 - 4号 黒褐色 10YR2/2 Vローム (#1-25cm) 多量混入。
 - 5号 黒褐色 10YR2/2 Vローム (#1-5cm) 微量混入。
 - 6号 黒褐色 10YR2/3 Vローム (#1-20cm) 少量, 灰化物 (#1-5cm) 微量混入。
 - 7号 黒褐色 10YR2/2 Vローム (#1-15cm) 少量, 灰化物 (#1-5cm), 焼土 (#2-15cm) 微量混入。
 - 8号 暗褐色 10YR3/3 Vローム (#1-18cm) 中量, 灰化物, 焼土微量混入。
 - 9号 黒褐色 10YR2/2 Vローム (#1-8cm) 少量混入。
 - 10号 黒褐色 10YR2/3 Vローム (#1-18cm) 少量, 灰化物 (#1-2cm) 焼土粒微量混入。
 - 11号 黒褐色 10YR2/2 Vローム (#1-15cm) 微量混入, レリヤ。
 - 12号 黒褐色 10YR2/2 Vローム (#1-15cm) 微量混入。
 - 13号 黒褐色 10YR2/2 Vローム (#1-15cm) 微量混入。
 - 14号 10YR2/2 Vローム (#1-15cm) 微量混入, Vローム (#1-25cm) 多量混入。
 - 15号 暗褐色 10YR2/3 Vローム (#1-18cm) 少量, 灰化物 (#1-2cm) 微量混入。
 - 16号 10YR2/2 Vローム (#1-15cm) 多量混入。
 - 17号 黒褐色 10YR2/2 Vローム (#1-5cm), 灰化物 (#1-2cm) 極少量混入。
 - 18号 黒褐色 10YR2/2 Vローム (#1-5cm) 微量混入, レリヤ。
 - 19号 黒褐色 10YR2/2 Vローム (#1-5cm) 微量混入。
 - 20号 黒褐色 10YR2/3 Vローム (#1-10cm) 少量, 灰化物 (#1-3cm) 微量, 焼土 (#1-2cm) 極少量混入。
 - 21号 黒褐色 10YR2/3 Vローム (#1-18cm) 微量, 灰化物 (#2-3cm) 2ゾロコ混入。
 - 22号 黒褐色 10YR2/3 Vローム (#1-18cm) 少量, 灰化物 (#2cm) 2ゾロコ混入。
 - 23号 黒褐色 10YR2/2 Vローム (#1-2cm) 微量混入, レリヤ。
 - 24号 黒褐色 10YR2/2 Vローム (#1-5cm) 微量混入, レリヤ。
 - 25号 黒褐色 10YR2/6 中硬ローム (#15cm) 混入, 黒褐色土質硬ロームが混入。
 - 26号 黒褐色 10YR2/2 Vローム (#1-5cm) 微量混入。
 - 27号 黒褐色 10YR2/3 Vローム (#1-15cm) 少量混入, 焼土 (#1-3cm) 混入。
 - 28号 黒褐色 10YR2/2 Vローム (#1-15cm) 少量混入。

ピット深さ一覧表

ピットNo.	深さ (cm)	ピットNo.	深さ (cm)
P1	9.5	P7	24.4
P2	17.7	P8	8.8
P3	14.0	P9	10.3
P4	13.0	P10	13.5
P5	17.8	P11	20.0
P6	7.9	P12	9.2



- 3号住居跡土 (A-A') (D-D')
- ① 結核内 10YR3/3 Vローム (#1-5cm) 少量混入。
 - ② 暗褐色 10YR1/6 Vローム (#1-5cm) 中量混入。
 - ③ 暗褐色 10YR2/2 Vローム (#1-5cm) 微量混入。
 - ④ 暗褐色 10YR5/6 Vローム (#1-5cm) 少量混入。
 - ⑤ 暗褐色 10YR5/4 Vローム (#1-10cm) 中量混入。
 - ⑥ 暗褐色 10YR2/2 Vローム (#1-5cm) 少量混入。
 - ⑦ 暗褐色 10YR2/3 Vローム (#1-5cm) 微量混入。
 - ⑧ 暗褐色 10YR2/3 Vローム (#1-15cm) 多量混入。
 - ⑨ 暗褐色 10YR2/3 Vローム (#1-15cm) 中量混入, レリヤ。
 - ⑩ 暗褐色 10YR2/2 Vローム (#1-15cm) 少量混入, レリヤ。

図19 第3号住居跡

と、5層は、3層と4層にはさまれるようにして柱状を呈している。3層と4層が軸木固定用の充填土、5層が軸木痕に相当すると考えた場合、断面形は、逆凸形を呈すものと考えられる。深さは、54cmを測る。

遺物等の出土状態 全体的に土師器・須恵器の細片が出土している。ほとんどが覆土中のものであり、自然流入したものが多く考えられる。カマドの竈口には土師器片が弧状に出土している。

34F01 (C-C')

- 1 層 黒褐色 10YR2/3 Vローム (#1-2cm) 稀少草、炭化物 (#1-2cm) 微量、焼土 (明赤褐色) 明褐色 (#1-1.5cm) 稀少草、粘土層混入。

34F02 (D-D')

- 1 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム (#1-5cm) 少量、焼土 (#1-2cm)、炭化物 (#1-2cm) 微量混入。
① 層 黒褐色 10YR3/4 Vローム (#1-6cm) 中量、炭化物粒 (#1-2cm) 微量混入、空腐草等。

34F03 (E-E')

- 1 層 黒褐色 10YR2/3 Vローム粒微量、焼土粒稀少、炭化物粒微量混入。
2 層 黒褐色 10YR2/3 Vローム粒微量、焼土 (#1-2cm) 微量混入。
3 層 褐色 10YR2/4 Vローム粒微量、焼土定量的混入。
4 層 暗褐色 10YR3/3 Vローム粒、炭化物 (#1-2cm) 微量、焼土 (#1-2cm) 中量、粘土層混入。
5 層 暗褐色 10YR3/2 Mローム (#1-2cm) 微量、炭化物粒微量混入。

34F04 (F-F')

- 1 層 褐色 10YR3/5 Vローム粒、炭化物 (#1-2cm) 微量、焼土 (#1-2cm) 少量混入。
2 層 黒褐色 10YR2/2 Mローム (#1-30cm) 微量、焼土粒、炭化物粒微量混入。
3 層 におい・黒褐色 10YR3/4 炭化物粒微量、炭化物 (#7cm) 1ブロック、焼土 (#7cm) 微量混入、粘土層混入。

34F05 (G-G')

- 1 層 明褐色 10YR4/2 Vローム粒、炭化物粒、粘土層混入。
2 層 褐色 10YR3/4 粘土層の厚、におい・黒褐色土、黒褐色土、L&B微量、炭化物粒微量、黒褐色土 (#20cm) 1ブロック混入、粘性土。
3 層 明褐色 10YR3/2 Vローム上層、Mローム、粘土層少量、炭化物粒微量混入、しまり層。
4 層 黒褐色 10YR3/6 Vローム上層、Mローム (#1-2cm)、黒褐色土、におい・黒褐色土の3層の構成土少量混入。
5 層 明褐色 10YR4/6 Mローム上層、Vロームと黒褐色土の混合土、稀少草の結核がブロック状に混入、黒褐色土のブロック (#1-2cm) 微量混入、しまり層。

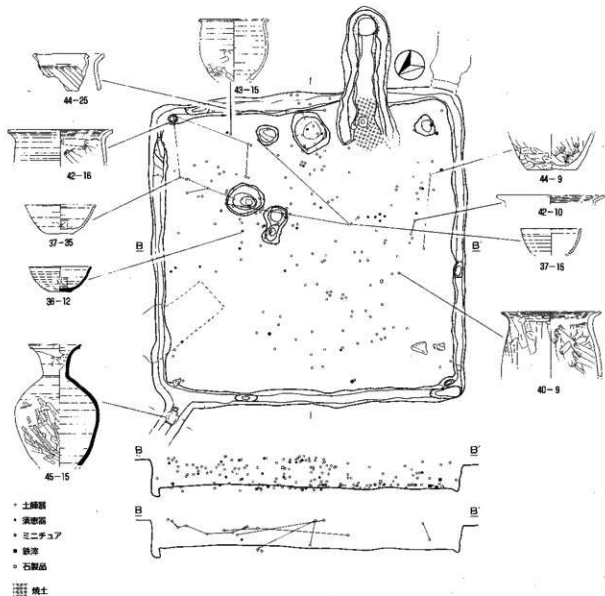


図20 第3号住居跡遺物出土状態

第2号F(A-A'-E-E')

- 1層 黄褐色 10YR5/3 硬粘土。焼土(#2-5mm) 細少量混入。
- 2層 に近い黄褐色 10YR4/3 硬粘土。焼土(#1-10mm) 少量。焼土粒少量混入。
- 3層 に近い黄褐色 10YR4/3 硬粘土。焼土(#2-3mm) 少量。焼土粒少量混入。
- 4層 暗褐色 10YR2/1 硬粘土。ローム粒(#1-5mm) 少量。炭化物、焼土粒少量混入。
- 5層 暗褐色 10YR4/4 硬粘土。Vローム(#1-3mm) 少量。焼土(#5mm) 1mm混入。
- 6層 暗褐色 10YR2/2 硬粘土。焼土(#1-10mm) 少量。焼土(#1-2mm) 少量混入。
- 7層 暗褐色 10YR4/3 硬粘土。ローム粒(#1-5mm) 少量。炭化物、焼土(#1-2mm) 少量混入。
- 8層 暗褐色 10YR4/6 硬粘土。焼土(#1-15mm) 少量混入。
- 9層 に近い黄褐色 10YR4/3 Vローム(#1-3mm) 少量。炭化物、焼土粒、硬少量混入。
- 10層 暗褐色 10YR4/3 硬粘土。中央から奥にかけて、高所に黒褐色土が粒状に混入。焼土(#1-2mm) 少量混入。
- 11層 暗褐色 10YR3/4 ローム粒。炭化物、焼土粒少量混入。
- 12層 暗褐色 10YR4/6 硬粘土。焼土(#1-5mm) 少量。焼土粒少量混入。
- 13層 暗褐色 10YR4/6 硬粘土。Vローム(#1-5mm) 少量。炭化物、焼土粒少量混入。
- 14層 暗褐色 10YR4/6 硬粘土。焼土(#1-5mm) 少量。ローム粒少量混入。
- 15層 暗褐色 10YR2/1 Vローム(#1-2mm) 少量。炭化物粒少量。焼土粒少量混入(#1mm) 混入。
- 16層 暗褐色 10YR2/1 硬粘土。焼土(#1-2mm) 少量。炭化物粒少量。焼土(#1-2mm) 少量混入。
- 17層 に近い黄褐色 10YR5/4 硬粘土。
- 18層 暗褐色 10YR4/3 硬粘土。ローム粒。Vローム(#1-7mm) 細少量混入。
- 19層 暗褐色 10YR4/6 硬粘土。焼土(#1-5mm) 少量混入。
- 20層 暗褐色 10YR4/6 硬粘土。焼土(#1-5mm) 少量混入。
- 21層 暗褐色 10YR4/6 硬粘土。Vローム(#1-2mm) 少量。焼土(#1-2mm) 少量混入。
- 22層 暗褐色 10YR4/6 硬粘土(中央から奥まで奥にかけている)。
- 23層 暗褐色 10YR4/6 硬粘土。
- 24層 黄褐色 10YR5/6 硬粘土。
- 25層 黄褐色 10YR5/6 硬粘土。
- 26層 灰褐色 10YR2/2 硬粘土。
- 27層 暗褐色 10YR4/6 硬粘土。
- 28層 暗褐色 10YR4/6 硬粘土。
- 29層 暗褐色 10YR4/6 硬粘土。ローム(#1-2mm) 硬少量混入。
- 30層 黄褐色 10YR5/6 硬粘土。焼土(#1-5mm) 少量。高所に土層混入。
- 31層 暗褐色 10YR4/6 硬粘土。ローム粒。炭化物粒少量混入。
- 32層 暗褐色 10YR4/6 硬粘土。焼土(#1-2mm) 少量。炭化物(#1-15mm) 細少量混入。
- 33層 暗褐色 10YR2/2 硬粘土。ローム(#1mm) 少量混入。
- 34層 暗褐色 10YR4/6 硬粘土(下部硬質)。
- 35層 暗褐色 10YR4/6 硬粘土(硬質)。
- 36層 暗褐色 10YR4/6 硬粘土。
- 37層 黄褐色 10YR5/3 ローム粒。焼土(#1-5mm) 少量。炭化物(#1-3mm) 細少量混入。

- 38層 暗褐色 10YR2/4 Vローム(#1-2mm) 少量。炭化物粒少量。焼土(#1-15mm) 中量混入。
- 39層 暗褐色 10YR4/6 硬粘土。炭化物粒(中央から) 少量混入。しまり層。
- 40層 暗褐色 10YR4/4 炭化物粒少量。焼土(#1-2mm) 少量混入。しまり層。
- 41層 暗褐色 10YR4/6 焼土少量。炭化物粒少量混入。
- 42層 暗褐色 10YR4/6 焼土少量。炭化物粒少量混入。
- 43層 暗褐色 10YR4/4 Vローム(#1-3mm) 少量。炭化物粒少量混入。
- 44層 暗褐色 10YR2/2 ローム粒。炭化物粒少量。焼土粒少量混入。しまり層。
- 45層 暗褐色 10YR2/2 Vローム(#1-2mm) 少量。炭化物粒(#1-3mm) 少量混入。
- 46層 暗褐色 10YR2/2 Vローム(#1-2mm) 中量混入。しまり層。
- 47層 暗褐色 10YR2/2 ローム粒少量混入。しまり層。

第2号F副遺跡(A-A'-E-E')

- ①層 暗褐色 10YR5/6 炭化物粒少量混入。小豆原
- ②層 黄褐色 10YR2/2 Vローム(#1-5mm) 中量混入。
- ③層 黄褐色 10YR2/2 Vローム(#1-5mm) 少量。炭化物粒。焼土粒少量混入。しまり層。
- ④層 オリーブ褐色 10YR4/4 Vローム(#1-2mm) 少量混入。しまり層。
- ⑤層 黄褐色 10YR2/2 炭化物粒(#1-2mm) 少量。Vローム(#1-3mm) 硬少量混入。
- ⑥層 黄褐色 10YR2/2 炭化物粒(#1-2mm) 少量。焼土(#1-3mm) 少量。Vローム(#1-3mm) 少量混入。
- ⑦層 暗褐色 10YR2/2 Vローム(#1-2mm) 少量混入。
- ⑧層 黄褐色 10YR2/2 Vローム(#1-5mm) 少量。炭化物粒(#1-4mm) 少量混入。焼土(#1-6mm) 少量混入。
- ⑨層 暗褐色 10YR4/3 焼土(#1-15mm) 少量混入。
- ⑩層 暗褐色 10YR2/2 Vローム(#1-15mm) 中量混入。しまり層。
- ⑪層 暗褐色 10YR2/2 Vローム(#1-15mm) 中量混入。しまり層。
- ⑫層 暗褐色 10YR2/2 Vローム(#1-5mm) 少量混入。しまり層。
- ⑬層 暗褐色 10YR2/2 Vローム(#1-5mm) 少量混入。しまり層。
- ⑭層 暗褐色 10YR2/2 Vローム(#1-5mm) 少量混入。しまり層。
- ⑮層 暗褐色 10YR2/2 Vローム(#1-5mm) 少量混入。しまり層。
- ⑯層 暗褐色 10YR2/2 Vローム(#1-5mm) 少量混入。しまり層。
- ⑰層 暗褐色 10YR2/2 Vローム(#1-5mm) 少量混入。しまり層。
- ⑱層 暗褐色 10YR2/2 Vローム(#1-5mm) 少量混入。しまり層。
- ⑲層 暗褐色 10YR2/2 Vローム(#1-5mm) 少量混入。しまり層。
- ⑳層 暗褐色 10YR2/2 Vローム(#1-5mm) 少量混入。しまり層。
- ㉑層 暗褐色 10YR2/2 Vローム(#1-5mm) 少量混入。しまり層。
- ㉒層 暗褐色 10YR2/2 Vローム(#1-5mm) 少量混入。しまり層。
- ㉓層 暗褐色 10YR2/2 Vローム(#1-5mm) 少量混入。しまり層。
- ㉔層 暗褐色 10YR2/2 Vローム(#1-5mm) 少量混入。しまり層。
- ㉕層 暗褐色 10YR2/2 Vローム(#1-5mm) 少量混入。しまり層。
- ㉖層 暗褐色 10YR2/2 Vローム(#1-5mm) 少量混入。しまり層。
- ㉗層 暗褐色 10YR2/2 Vローム(#1-5mm) 少量混入。しまり層。
- ㉘層 暗褐色 10YR2/2 Vローム(#1-5mm) 少量混入。しまり層。
- ㉙層 暗褐色 10YR2/2 Vローム(#1-5mm) 少量混入。しまり層。
- ㉚層 暗褐色 10YR2/2 Vローム(#1-5mm) 少量混入。しまり層。
- ㉛層 暗褐色 10YR2/2 Vローム(#1-5mm) 少量混入。しまり層。
- ㉜層 暗褐色 10YR2/2 Vローム(#1-5mm) 少量混入。しまり層。
- ㉝層 暗褐色 10YR2/2 Vローム(#1-5mm) 少量混入。しまり層。
- ㉞層 暗褐色 10YR2/2 Vローム(#1-5mm) 少量混入。しまり層。
- ㉟層 暗褐色 10YR2/2 Vローム(#1-5mm) 少量混入。しまり層。
- ㊱層 暗褐色 10YR2/2 Vローム(#1-5mm) 少量混入。しまり層。
- ㊲層 暗褐色 10YR2/2 Vローム(#1-5mm) 少量混入。しまり層。
- ㊳層 暗褐色 10YR2/2 Vローム(#1-5mm) 少量混入。しまり層。
- ㊴層 暗褐色 10YR2/2 Vローム(#1-5mm) 少量混入。しまり層。
- ㊵層 暗褐色 10YR2/2 Vローム(#1-5mm) 少量混入。しまり層。
- ㊶層 暗褐色 10YR2/2 Vローム(#1-5mm) 少量混入。しまり層。
- ㊷層 暗褐色 10YR2/2 Vローム(#1-5mm) 少量混入。しまり層。
- ㊸層 暗褐色 10YR2/2 Vローム(#1-5mm) 少量混入。しまり層。
- ㊹層 暗褐色 10YR2/2 Vローム(#1-5mm) 少量混入。しまり層。
- ㊺層 暗褐色 10YR2/2 Vローム(#1-5mm) 少量混入。しまり層。
- ㊻層 暗褐色 10YR2/2 Vローム(#1-5mm) 少量混入。しまり層。
- ㊼層 暗褐色 10YR2/2 Vローム(#1-5mm) 少量混入。しまり層。
- ㊽層 暗褐色 10YR2/2 Vローム(#1-5mm) 少量混入。しまり層。
- ㊾層 暗褐色 10YR2/2 Vローム(#1-5mm) 少量混入。しまり層。
- ㊿層 暗褐色 10YR2/2 Vローム(#1-5mm) 少量混入。しまり層。

第2号F副遺跡(A-A'-E-E')

- ①層 黄褐色 10YR2/2 焼土
- ②層 暗褐色 10YR4/4 焼土(#1-5mm) 少量。炭化物粒少量混入。

第3号住居跡付属掘立柱建物跡(3HSB01)(図22)

概要 本掘立柱建物跡は3Hの前壁側に位置する。3Hと本建物跡の軸方向の一致と両者の近接した位置関係から、第3号住居跡に付属する一連の建物(3HSB01) であると考えられる。

重複 住居跡付近の部分が攪乱を受けている。

構造 9基の柱穴で2間×3間に構成されており、長方形を呈す。規模は、P1-P4-P6-P8のラインが610cm、P3-P5-P7のラインが(425) cm、P1-P2-P3のラインが305cm、を測る(()内は検出長)。柱穴の深さは浅いもので12.7cm、深いもので40cm程度である。平面形は、円形、不整形円形、楕円形、隅丸方形等がみられる。ほとんどの柱穴の断面形は箱形～逆台形を基本とする。覆土中に柱痕を残すものは見られない。住居跡のカマドの付近にあるP9は、補助的な柱穴と考えられる。住居跡の前壁からは、P8が44cm、P9が64cm離れている。雨降ち溝の痕跡等は検出されなかった。主軸方向はN-125°-130°-Eを測る。

土層 いずれの柱穴も黒褐色系の覆土がほとんどであり、ローム粒子を少量混入している。
遺物等の出土状態 遺物は出土していない。

第3号住居跡付属外延溝(3HSD01)(図18・23)

概要 調査区域外に伸びているため、全体の形状は不明であるが、3HのCコーナーから伸びるものである。

重複 SK13と重複し、本溝跡が古い。攪乱も受けている。

構造 3HのCコーナーから伸びているが、厳密には、3Hの後壁の東端から伸びているものであり、コーナーの屈曲部に接続しているものではない。深さは3Hに接続するあたり(C-C')で38cm、ほぼ中間(B-B')で18cm、調査区際(A-A')で20cmを測り、深浅がみられるが、底面の

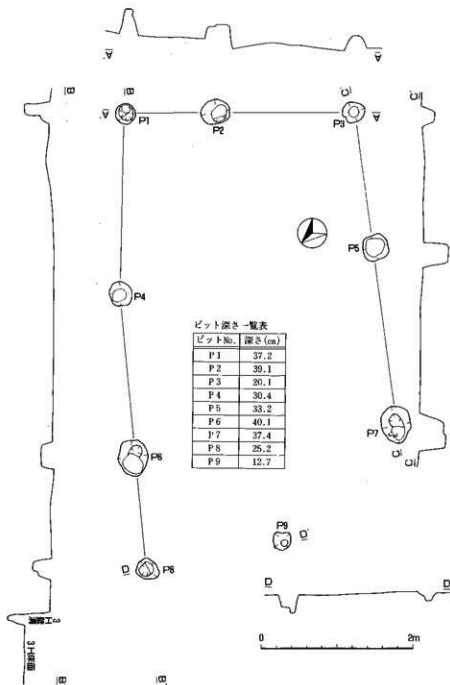


図22 第3号住居跡付属掘立柱建物跡

絶対高にはあまり高低差がみられない。また、壁溝と接続する部分の、両溝跡の底面高低差もみられない(図22・D-D')。平面図には高低を矢印で簡単に表現しておいたが、いずれにしても水などが流れるような溝跡でないことは確かである。雨の日に溝跡内に入った水を観察したところ、基底は第IV層であるために水はけが良く、後に泥が若干残る程度のものであった。幅には広狭がみられ、15~35cmを測り、長さは検出長で8.6mを測る。

堆積土 ロームを混入する黒褐色土を基本とするが、部位によって差がみられる。調査区際に近いところでは、第II層が自然堆積している⁹⁰⁾。C-C'の2層はロームを多量に含んでいるが、このロー

ムは壁面からこぼれ落ちたものと思われるが、後述する須恵器長頸壺を安定させるための人為的な堆積土である可能性も否定できない。

(註)第Ⅱ層はB-Tmを混入する層である。

遺物等の出土状態 接続部の、溝跡の始まりのあたりからは、底部と口縁部の一部が欠損する須恵器の長頸壺が横になって出土している。溝跡の底面から7cmほど浮いているが、ほとんど水平に出土していることと、口縁部が住居跡側を向いていること等から、人為的に安置されたものと考えられる。なお、壺内の土壌はロームの微粒子を含む暗褐色土であり、その土壤中からはイネの炭化胚乳1点と炭化種子? 4点が検出されている。

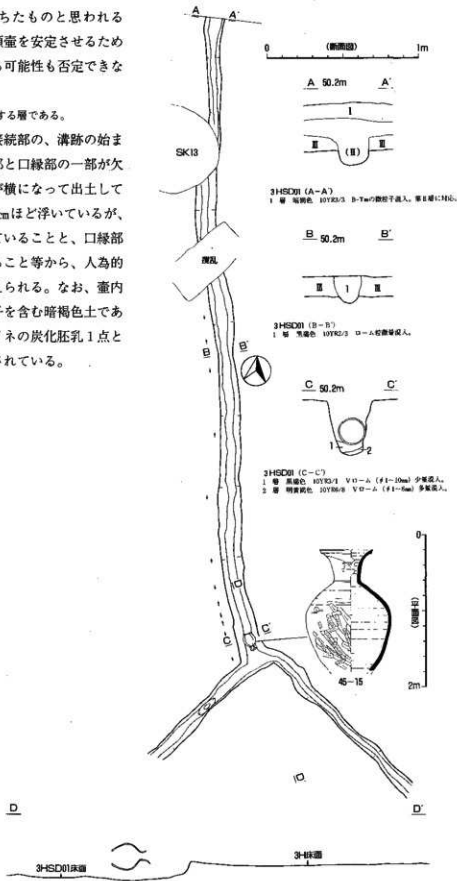


図23 第3号住居跡付属外延溝 (3HSD01)

第4号住居跡(4H) (図24~28)

概要 本住居跡は、グリッドJ-121他、平坦地に位置する。内部施設としてロクロビットが2基(4HRP01、4HRP02)と、土坑2基(4HSK01、4HSK02)、外部施設として掘立柱建物跡1棟(4HSB01)が付随している(図24)。Dコーナー(16区)には不整直方を呈す粘土塊が3点まとまって床面上に出土している。

重複 前壁の1、2区、右壁の4区、後壁の13区、3区の床面が、擾乱を受けている。

構造 規模は、中央部で490×505×510cmを測り、平面形は若干、菱形がかかる方形を呈している。四壁は良好に残存していて、深さ40cm前後を測る。壁溝はカマド部分を除いて全周している。ビットは18基あり、主柱穴はP3・5・6・7の4本柱構成と考えられるが、台形状の平面形を構築することから断定はできない。壁溝の中には大型の柱穴(P5・6・7)と小型の柱穴(P8・9・10・11)が見られる。大型の柱穴は右壁に2個、後壁の左側に1個配置される。小型の柱穴は、四壁の中央に1個ずつ配置され、それぞれ向かい合う。床は、第1次の掘り込みの段階でローム面を平坦に掘り、その後に、ロームを混入する黒褐色の床構築土を薄く貼ってつくられている。床構築土で床面を平坦にしようとしたのではなく、ロームをそのまま床にしようとした意図がうかがえる。

土層 大きく見て、壁際に多様な土壌が集中し、中央になるにしたがって同一の土壌が集まる。1層は自然堆積土で、それ以外は排土等が流入している可能性がある。

カマド 北壁に作りつけられており、壁の右側(3・4区)に位置する。隠川(4)遺跡の中で、このカマドのみ方向が異なる。全体的に古い時代の木根の影響を受けているようで、残存状況は不良であるが、燃焼部~排煙部まで検出された。排煙部の底面にはビットが見られる。燃焼部側壁(ソデ)は、にぶい橙色の粘土を素材としており、黒褐色土を敷いた後に床面上に貼り付けられている。左ソデは擾乱を受けていたため、残存は良くないが、平面的には「ハ」字状に構築されており、ほぼ左右対称の構造であったと考えられる。火床面(15~20層)は、床をそのまま利用していて、あまり焼けておらず、軟質であるが、燃焼部側壁の内面はよく焼けている。火床面の前方には土師器壺の底部が

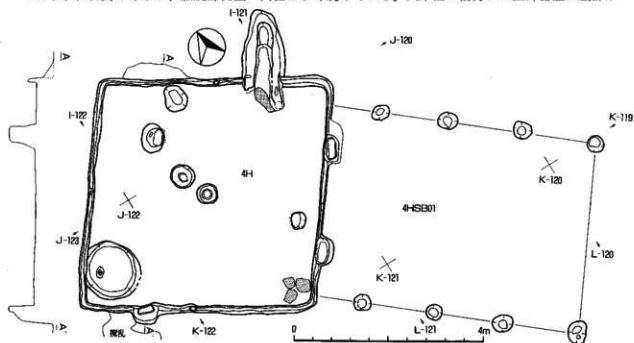
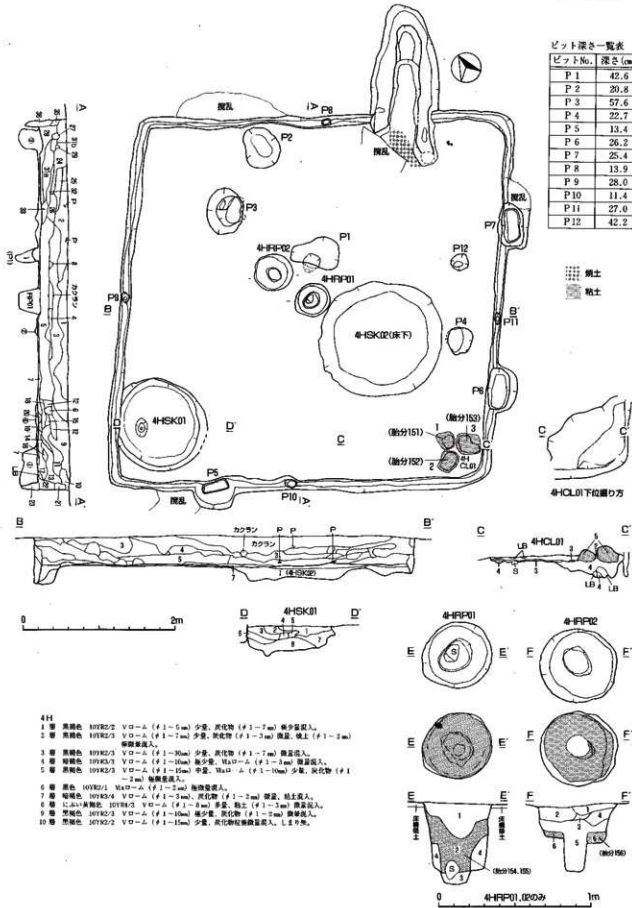


図24 第4号住居跡(全体)

ピット深さ一覧表

ピットNo.	深さ(m)
P 1	42.6
P 2	20.8
P 3	57.6
P 4	22.7
P 5	13.4
P 6	26.2
P 7	25.4
P 8	13.9
P 9	28.0
P10	11.4
P11	27.0
P12	42.2



4H

- 1 層 黒褐色 10YR2/2 Vロ-Δ (φ1-2m) 少量、灰化物 (φ1-7m) 極少量混入。
- 2 層 黒褐色 10YR2/3 Vロ-Δ (φ1-7m) 少量、灰化物 (φ1-3m) 微量、煉土 (φ1-2m) 極微量混入。
- 3 層 黒褐色 10YR2/3 Vロ-Δ (φ1-10m) 少量、灰化物 (φ1-7m) 微量混入。
- 4 層 黒褐色 10YR2/3 Vロ-Δ (φ1-10m) 極少量、M10-Δ (φ1-3m) 微量混入。
- 5 層 黒褐色 10YR2/3 Vロ-Δ (φ1-15m) 中量、M10-Δ (φ1-10m) 少量、灰化物 (φ1-2m) 極微量混入。
- 6 層 褐色 10YR2/1 M10-Δ (φ1-2m) 極微量混入。
- 7 層 暗褐色 10YR2/4 Vロ-Δ (φ1-3m)、灰化物 (φ1-2m) 微量、煉土混入。
- 8 層 土間・基層部、10YR4/2 Vロ-Δ (φ1-8m) 少量、煉土 (φ1-3m) 微量混入。
- 9 層 茶褐色 10YR2/3 Vロ-Δ (φ1-10m) 極少量、灰化物 (φ1-2m) 極微量混入。
- 10 層 茶褐色 10YR2/2 Vロ-Δ (φ1-15m) 少量、灰化物・煉土混入、L2等。

図25 第4号住居跡

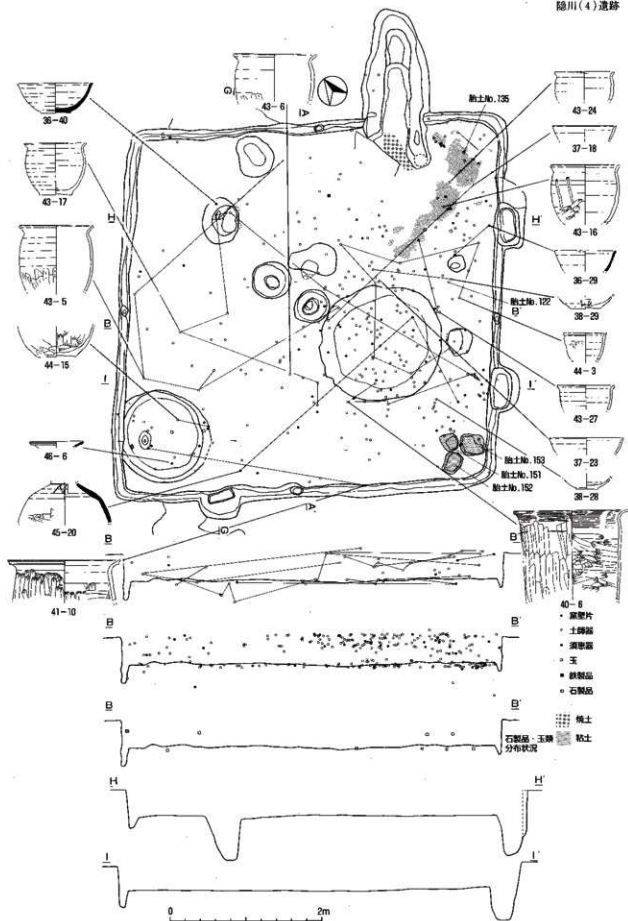


図26 第4号住居跡遺物出土状態

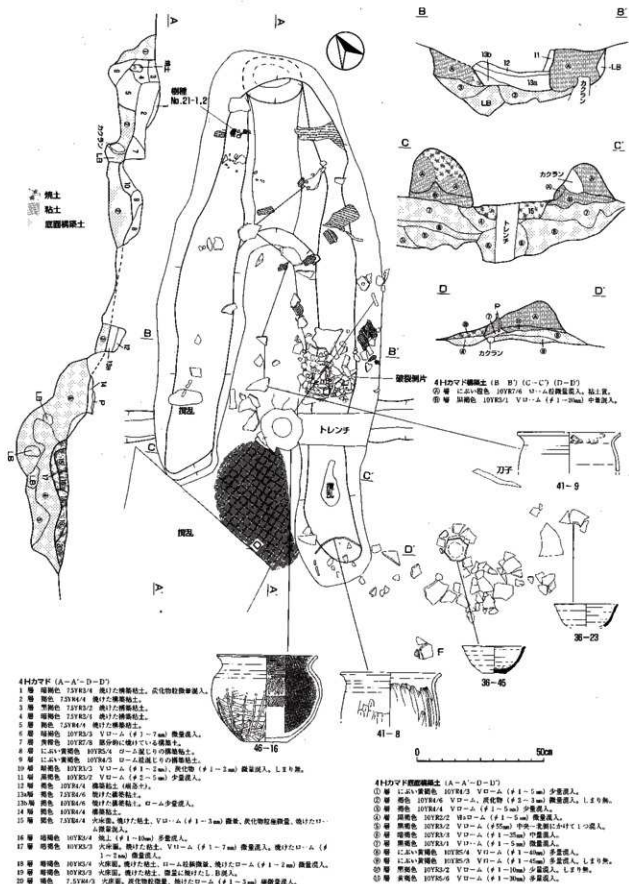


図27 第4号住居跡カマド

第4号住居跡付属掘立柱建物跡(4HSB01)(図28)

概要 本掘立柱建物跡は4Hの右壁側に位置する。4Hと本建物跡の近接した位置関係から、第4号住居跡に付属する一連の建物(4HSB01)であると考えられる。重複はない。

構造 8基の柱穴で1間×3間に構成されており、長方形を呈す。規模は、P1-P3-P5-P7のラインが465cm、P2-P4-P6-P8のラインが460cm、P1-P2のラインが410cmを測る。P1-P2のライン上に柱穴は見られない^(脚)。柱穴の深さは浅いもので19.4cm、深いもので44.6cmである。平面形は、円形のものと同楕円形のものが見られる。ほとんどの柱穴の断面形は逆台形を基本とする。覆土中に柱痕を残すものは見られない。住居跡の右壁からは、P7が84cm、P8が80cm離れている。主軸方位はN-131°-Eを測る。(柱)何度でも薄く面下げて検出を試みたが確認されなかった。

土層 いずれの柱穴も褐色系の覆土がほとんどであり、ローム粒子を少量混入している。

遺物等の出土状態 遺物は出土していない。

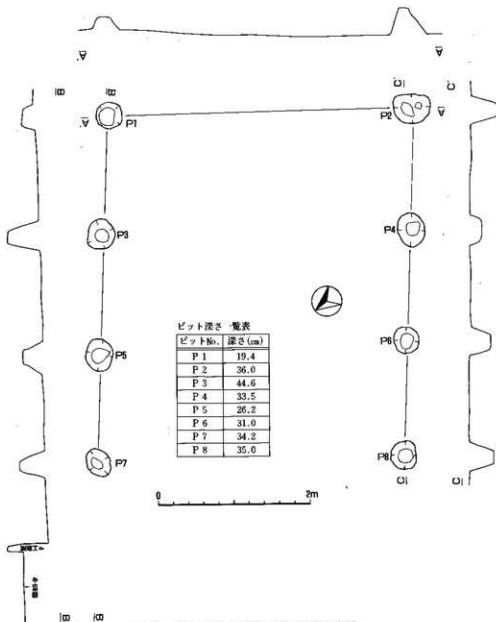


図28 第4号住居跡付属掘立柱建物跡

第5号住居跡 (5H) (図29~30)

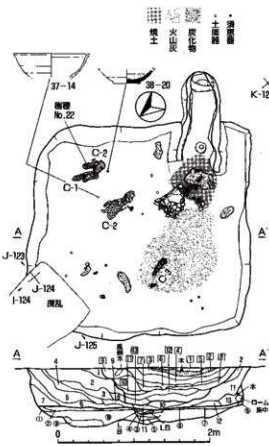
概要 本住居跡は、グリッドJ-124他の、平坦地に位置する。後壁の西方は、急な斜面になっている。内部施設や外部施設は認められない。

重複 (1) 風倒木に切られているが、住居の構造そのものに影響はない。(2) Cコーナー部分が壁~床まで大きく攪乱を受けている。

構造 規模は、275×260~300cmを測り、平面形はほぼ方形を呈す。四壁は良好に残存していて50cm~58cmを測る。壁溝は巡らされず、ピットも全く検出されていない。床は、第1次工程として、ロームまで掘り下げ、ある程度底面ができあがった後に、第2次の工程として、黄褐色土を厚く敷き、平坦にならしかためてつくられている。

土層 多くの層が、弓状に堆積しており、徐々に自然堆積したことが分かる。かなり埋まり切った後で、風倒木に切られている。さらにその風倒木の堆積土の中には、B-Tm層が含まれる。

カマド 南東壁に作りつけられており、壁の右側(3・4区)に位置する。燃烧部から排煙部まで非常に良好に検出されている。煙道部は住居外に65cmほど伸びている。燃烧部側壁(ソデ)は、明褐色の粘土を素材としており、床面上に貼り付けるようにして構築されている。ソデの内壁側には焼土や炭化物を含む土がもぐり込んでいる。燃烧部~排煙部の形状を平面的に見ると、構築土としての白色の粘土を火鉢形に固定させる構造を採っている。構築の過程は、先ず溝状に掘り込み、次に粘土を溝状の掘り込みのやや内側に盛り、さらに裏込め土を入れ、安定させるという3段階の工程がうかがえる。排煙部の底面にはピットが見られる。火床面(14層)は焼けてはいるがほとんど硬化していない

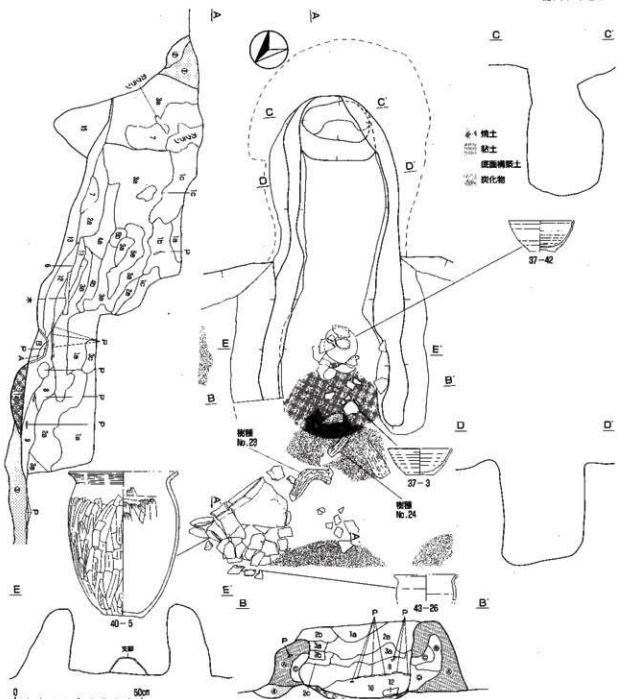


- 5H (A-A)
- 1層 褐色 10YR4/4 V0-M (#1-10cm) 少量混入。LとR層。
 - 2層 じいみ黄褐色 10YR3/2 V10-M (#1-10cm) 多量。Wa0-M (#1-5cm) 微量。炭化物 堆積層混入。
 - 3層 暗褐色 10YR3/3 V0-M (#1-12cm) 中量。Wa0-M (#1-7cm) 微量。炭化物 (#1-2cm) 堆積層混入。
 - 4層 暗褐色 10YR3/2 V0-M (#1-15cm) 少量。炭化物堆積層混入。
 - 5層 暗褐色 10YR3/2 V0-M (#1-15cm) 中量。Wa0-M (#1-10cm) 微量。炭化物 (#1-3cm) 微量混入。
 - 6層 暗褐色 10YR3/2 V0-M (#1-8cm) 微量。Wa0-M (#1-10cm) 微量。炭化物 (#1-3cm) 少量混入。
 - 7層 暗褐色 10YR4/6 V0-M。LとR層。
 - 8層 暗褐色 10YR3/2 V0-M (#1-2cm) 少量。炭化物堆積層混入。
 - 9層 暗褐色 10YR3/2 V0-M (#1-8cm) 少量。Wa0-M (#1-5cm)。炭化物 (#1-7cm) 微量混入。
 - 10層 暗褐色 10YR3/2 V0-M (#1-10cm) 少量。炭化物 (#1-2cm) 微量混入。
 - 11層 暗褐色 10YR3/2 V0-M (#1-10cm) 少量。Wa0-M (#1-5cm) 微量。炭化物堆積層混入。
 - 12層 暗褐色 10YR3/2 V0-M (#1-10cm) 少量混入。
 - 13層 暗褐色 10YR3/2 V0-M (#1-5cm) 微量混入。

- 5H (B-B)
- 1層 暗褐色 10YR3/3 V0-M (#1-15cm) 多量混入。
 - 2層 暗褐色 10YR4/6 V0-M (#1-40cm) 中量混入。
 - 3層 暗褐色 10YR4/6 V0-M (#1-15cm) 中量。Wa0-M (#1-10cm) 多量混入。
 - 4層 暗褐色 10YR3/2 V0-M (#1-8cm) 中量。Wa0-M (#1-3cm)。炭化物 (#1-2cm) 微量混入。LとR層。
 - 5層 褐色 10YR4/2 V0-M (#1-10cm) 多量。Wa0-M (#1-3cm) 微量混入。
 - 6層 暗褐色 10YR3/3 V0-M (#1-2cm) 微量混入。
 - 7層 暗褐色 10YR4/4 V0-M (#1-8cm) 少量混入。
 - 8層 じいみ黄褐色 10YR4/3 V10-M (#1-3cm) 微量。Wa0-M (#1-2cm) 微量混入。
 - 9層 暗褐色 10YR3/2 V0-M (#1-9cm) 微量。炭化物堆積層混入。
 - 10層 暗褐色 10YR4/6 灰土 (#1-9cm) 少量。Wa0-M (#1-10cm) 少量混入。
 - 11層 暗褐色 10YR4/6 灰土 (#1-6cm) 少量。Wa0-M (#1-6cm) 少量混入。

- 焼土層 (A-A)
- 1層 褐色 10YR3/2 V0-M 少量混入。LとR層。
 - 2層 暗褐色 10YR2/3 V0-M (#1-3cm)。炭化物 (#1-2cm) 微量。B-Tm (中央~西側) 多量混入。
 - 3層 暗褐色 10YR2/3 V0-M (#1-2cm)。炭化物堆積層混入。
 - 4層 暗褐色 10YR2/3 V0-M (#1-5cm) 少量。炭化物 (#1-3cm) 微量混入。
 - 5層 暗褐色 10YR2/3 V0-M (#1-3cm) 微量。炭化物堆積層混入。
 - 6層 暗褐色 10YR2/3 V0-M (#1-12cm) 中量。Wa0-M (#1-2cm) 微量混入。
 - 7層 暗褐色 10YR2/3 V0-M (#1-5cm) 微量混入。
 - 8層 暗褐色 10YR2/3 V0-M (#1-10cm) 少量。Wa0-M (#1-3cm)。炭化物堆積層混入。
 - 9層 暗褐色 10YR2/3 V0-M (#1-10cm) 少量混入。LとR層。
 - 10層 暗褐色 10YR2/3 V0-M (#1-10cm) 中量。Wa0-M (#1-2cm) 微量。炭化物堆積層混入。
 - 11層 暗褐色 10YR2/3 V0-M (#1-6cm) 少量。炭化物 (#1cm) 堆積層混入。
 - 12層 暗褐色 10YR2/3 V0-M (#1-10cm) 少量。Wa0-M (#1-3cm) 微量混入。
 - 13層 暗褐色 10YR2/3 V0-M (#1-10cm) 少量混入。
 - 14層 暗褐色 10YR2/3 V0-M (#1-20cm) 少量。炭化物堆積層混入。

図29 第5号住居跡



5Hカマ下 (A-A') [B-B']

- ① 層 黄褐色 10YR5/6 灰化物 (≒1m) 稀散量、ロ-A (≒1-2m) 少量混入。
- ② 層 黄褐色 10YR5/6 黄褐色土少量混入。
- ③ 層 黄褐色 10YR5/6 黄褐色土少量混入。
- ④ 層 黄褐色 10YR5/6 灰化物 (≒1-3m) 稀散量混入。

5Hカマ下環 (支脚) 内 (A-A')

- A 層 赤褐色 5YR4/6 中量混入。
- B 層 明褐色 10YR5/6 粘土 (≒1m) 稀散量混入。

5Hカマ下環粘土 (D-D')

- ① 層 明褐色 10YR5/6 粘土 (≒1m) 稀散量混入。
- ② 層 暗赤褐色 5YR5/6 粘土 (≒1-2m) 少量、ロ-A (≒1m) 稀散量混入。
- ③ 層 黄褐色 10YR5/6 粘土 (≒1m) 稀散量混入。
- ④ 層 暗褐色 10YR3/4 下土に明褐色土混入、粘土 (≒1-5m) 少量、灰化物 (≒1-2m) 稀散量混入。

5Hカマ下 (A-A') [B-B']

- 1a 層 暗褐色 10YR3/4 Vロ-A (≒1-10m) 少量、灰化物粒稀散量混入。
- 1b 層 暗褐色 10YR3/4 Vロ-A (≒1-3m) 稀散量、Vロ-A (≒1-2m) 稀散量、灰化物 (≒1-2m) 少量混入。
- 1c 層 褐色 10YR4/4 Vロ-A (≒1-2m)、灰化物 (≒2m)、黄褐色土少量、Vロ-A (≒1-2m) 稀散量混入。

- 2a 層 褐色 10YR4/4 灰化物粒、粘土粒、Vロ-A (≒1-2m) 稀散量混入。
- 2b 層 暗褐色 10YR3/4 Vロ-A (≒1-2m)、赤褐色土少量混入。
- 2c 層 黄褐色 10YR4/4 灰化物粒少量、粘土 (≒1-2m)、暗褐色土少量混入、L2中量。
- 2d 層 黄褐色 10YR5/6 混入物なし、焼けた部分あり。
- 2e 層 褐色 10YR4/6 混入物なし、焼けた部分あり。
- 2f 層 褐色 10YR4/4 粘土 (≒1-2m) 少量、灰化物 (≒1-20m) 稀少量混入。
- 2g 層 褐色 10YR4/4 炭化物なし、焼けた部分あり。
- 2h 層 褐色 10YR4/6 灰化物粒少量、粘土 (≒3m) 少量混入。
- 2i 層 褐色 10YR4/6 灰化物粒少量。
- 2j 層 明褐色 10YR5/6 焼けた部分多し、灰化物粒少量混入。
- 2k 層 暗褐色 10YR3/4 Vロ-A (≒1-3m) 稀少量混入。
- 2l 層 暗褐色 10YR5/6 粘土 (≒1-20m) 少量、灰化物 (≒2-10m) 中量混入。
- 2m 層 暗褐色 10YR2/2 灰化物 (≒1-5m) 少量、粘土 (≒1-7m) 稀少量、硬質粘土 (≒2-5m) 少量混入。
- 2n 層 暗褐色 10YR3/4 灰化物 (≒1-2m) 少量、粘土 (≒1-10m) 少量混入。
- 2o 層 暗褐色 10YR3/4 灰化物 (≒1-2m) 少量、粘土 (≒1-10m) 少量混入。
- 2p 層 暗褐色 10YR3/4 灰化物 (≒1-2m) 少量、粘土 (≒1-15m) 少量混入。
- 2q 層 暗褐色 10YR3/4 粘土 (≒5-20m) 少量、灰化物 (≒1-3m) 少量混入。
- 2r 層 暗褐色 10YR5/6 黄褐色土少量混入、マゼンタの点状混入。
- 2s 層 暗褐色 10YR5/6 灰化物 (≒1-5m) 少量、粘土、粘土土少量混入。

図30 第5号住居跡カマド

い。火床面の中央には、倒立させた土師器坏が支脚として置かれている。燃焼部側壁内面はよく焼けている。カマドを通る軸の方位は、N-134°-Eをさす。土層を見ると、人為的に埋められた状況は呈していない。自然崩落と流入の結果の堆積であろうと考えられる。

内部施設 特に認められないが、住居跡中央の床構築土には、一旦掘り窪められた後に埋められた状況が観察された(土層断面図参照)。平面的に検出することはできなかった。

遺物等の出土状態 7区の床面上に土師器の甕1個体が破片で出土している。床面には炭化材が散在して出土している。全体的に遺物は少ない。

備考 本住居跡は、廃絶後、自然堆積により埋没し、その後、木が生え、ある程度まで成長し、倒れ、その後に白頭山火山灰が流入している。この一連の過程より、本住居跡の機能していた時期は、白頭山火山灰の降下よりもかなり前であったと推定される。あくまでも推定ではあるが、本住居の機能した時期をあえて想定するならば、9世紀中葉～後葉あたりではないかと考えられる⁽⁸⁾。

(註) B-Tmの降下を923-924年(町田・福沢1996)とした場合。

(木村 高)

2 土坑

平安時代の土坑は7基検出された。平安時代の住居跡の付近に点在する傾向がみられる。

第8号土坑 (SK08) (図31)

概要 F-117グリッドに位置する。西に3mのところには3Hが位置している。重複はない。

構造 確認面、底面ともやや不整な円形を呈する。規模は、確認面で124×134cm、深さは18cmを測る。壁面は斜めに立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面はほぼ平坦である。土層 10層に分層された。黒-黒褐色土を基調とし、炭化物粒子、ローム粒子を含んでいる。下位層に炭化物が多く見られる。1-4層は自然堆積と考えられる。

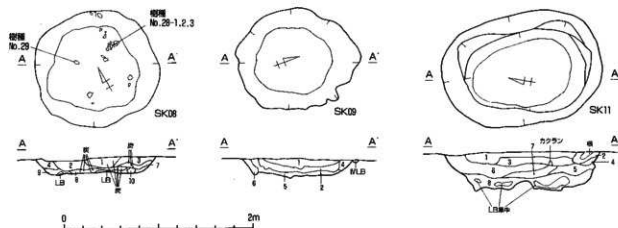
第9号土坑 (SK09) (図31)

概要 H・I-120グリッドに位置する。南に1.5mのところには4Hカマドが位置している。重複はなし。構造 平面形は開口部、底面とも不整な楕円形を呈する。規模は、開口部で108×134cm、深さは14-20cmを測る。断面形は皿状を呈し、底面には僅かな凹凸が見られる。土層 5層に分層された(3層は欠番層)。黒褐色土を基調とし、炭化物粒子、ローム粒子を含んでいる。土層は水平～皿状に堆積していることから、全層とも自然堆積と考えられる。

第11号土坑 (SK11) (図31)

概要 調査区中央の南端、N-112・113グリッドに位置する。重複はなし。

構造 確認面、底面とも楕円形を呈する。規模は、確認面で118×168cm、深さは30-40cmを測る。壁面にはやや段が見られ、底面はほぼ平坦であるものの、中央はやや凸状にふくらんでいる。土層 8層に分層された。黒色土を基調とし、炭化物粒子、ローム粒子を含んでいる。8層にはロームの集中したブロックが含まれており、他の層とは異質である。また、この8層の上面ラインはほぼ平坦であることから、人為的に埋め戻して、貼床のようにしている可能性がある。7層以上の層は全て自然



- SK08
- 1層 黒色 10YR2/1 V-O-A (#1-2m) 焼残層、VtO-A (#1-5m) 焼層、炭化物(#3-5m) 焼少量混入。
 - 2層 黒色 10YR2/1 V-O-A (#1-2m) 焼層、ローム粒焼層、炭化物(#1-2m) 焼層混入。
 - 3層 黒褐色 10YR2/3 V-O-A (#1-3m) 焼層、VtO-A (#1-3m) 焼層、炭化物(#1-3m) 焼層混入。
 - 4層 黒褐色 10YR2/3 V-O-A (#1-2m) 焼層混入。
 - 7層 黒色 10YR2/1 ローム粒焼層、炭化物(#1-8m中央-周囲に集中) 混入。
 - 8層 黒褐色 10YR2/3 V-O-A (#1-2m) 焼少量、炭化物(#1-8m) 少量混入。
 - 9層 黒褐色 10YR2/3 V-O-A (#1-2m) 焼少量、炭化物粒焼層混入。
 - 10層 黒褐色 10YR2/3 V-O-A (#1-3m) 焼少量、ローム粒(#20m)、VL&Iブロック、炭化物粒焼層混入。

- SK09
- 1層 黒褐色 10YR2/2 V-O-A (#1-2m) 焼残層、ローム粒焼層、炭化物粒焼層混入。
 - 2層 黒褐色 10YR2/2 V-O-A (#1-3m) 焼層、ローム粒焼層、炭化物(#1m) 焼層混入、L2層無。
 - 4層 黒褐色 10YR2/3 V-O-A (#1-2m) 焼層、ローム粒少量混入、L2層無。
 - 5層 黒色 10YR2/1 V-O-A (#1-2m) 焼層、ローム粒焼層混入。
 - 6層 黒褐色 10YR2/3 V-O-A (#1-5m) 少量、VtO-A (#1-5m) 焼層、炭化物粒焼層混入、L2層無。

- SK11
- 1層 黒褐色 10YR2/2 V-O-A (#1-2m) 焼残層、VtO-A (#1-2m) 焼残層、炭化物(#1-2m) 焼層混入。
 - 2層 黒色 10YR2/1 ローム粒焼層、炭化物粒焼層混入。
 - 3層 黒色 10YR2/1 V-O-A (#1-3m) 焼層、ローム粒焼層、炭化物粒焼層混入。
 - 4層 黒色 10YR2/1 ローム粒焼層混入。
 - 5層 黒色 10YR2/1 V-O-A (#1-5m) 焼少量、VtO-A (#1-3m) 焼層、炭化物粒焼層混入。
 - 6層 黒褐色 10YR2/2 V-O-A (#1-2m) 焼層少量混入。
 - 7層 黒色 10YR2/1 V-O-A (#1-5m) 焼層、炭化物粒焼層混入。
 - 8層 黒色 10YR2/1 V-O-A (#1-20m) 少量、VtO-A (#1-3m) 焼層、炭化物(#1m) 焼少量混入。

図31 第8・9・11号土坑(平安)

堆積と考えられる。

第5号土坑(SK05) (図32)

概要 L-119グリッド他に位置する。北西に4mのところには4HSB01が位置している。重複はない。北緯約2分の1は、95年度の粗掘りの段階で大分掘り下がつており、壁面はほとんど残存していない。**構造** 平面形は確認面、底面ともほぼ円形を呈する。規模は、確認面で143×153cm、底面135×128cm、深さは18-28cmを測る。壁面はゆるやかに立ち上り、断面形は皿状を呈している。ロームを底面にしており、凹凸はほとんどなく、平坦である。底面の北半は焼けている。(108×78cm)。

土層 10層に分層された。黒褐色土を基調とし、10層に焼土粒子が混入している。土層は水平-皿状に堆積していることから、全層とも自然堆積である可能性が高い。**遺物等の出土状態** 多量の土師器の破裂裂片と少量の土師質特殊遺物、炭化物ブロックが出土している。いずれも確認面から覆土の中位以上の層に多く見られる。**その他** 底面が焼土化していることと、破裂裂片の多量の出土により、本土坑は土器焼成遺構である可能性が高い。破裂裂片の割れ口は器表面と同様に焼成されており、また、器面の調整痕が明瞭に残存していて、使用後の廃棄というような状況は窺えない。

第13号土坑(SK13) (図32)

概要 D-119グリッドに位置する。3HSD01と重複し、本土坑が新しい。

構造 平面形は確認面が円形、底面は不整形を呈す。規模は、確認面で115×118cm、深さは21-26cmを測る。壁面はゆるやかに立ち上がったたり、垂直に立ち上がったたりしており、一定していない。ロー

SK16

- 1層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ1-2cm) 少量、炭化物(φ1-2cm) 極少量混入。
- 2層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ1-2cm) 少量、炭化物(φ1-5cm) 少量混入。
- 3層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ1-10cm) 極少量、炭化物(極少量)、焼土(φ1-2cm) 少量混入。
- 4層 黒褐色 10YR2/3 ローム(φ1-2cm) 少量、炭化物(φ1-2cm) 少量混入。
- 5層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ1-2cm) 少量、炭化物(φ1cm) 少量混入。
- 6層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ1-2cm) 少量、炭化物(少量)、焼土(φ1cm) 1ブロック混入。
- 7層 黒褐色 10YR2/3 ローム(φ1-2cm) 少量、炭化物(φ1-2cm) 少量混入。
- 8層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ1-5cm) 少量、炭化物(φ1-5cm) 極少量混入。
- 9層 黒褐色 10YR2/3 ローム(φ1-2cm) 少量、炭化物(少量) 少量混入。
- 10層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ1-5cm) 極少量、炭化物(少量)、ローム粒の焼土(φ1-3cm)と灰色シト土の焼土とが数箇所にて少量混入。

SK13

- 1層 灰色 10YR2/1 すき面の細かい堆積、少量混入。
- 2層 灰色 10YR2/3 炭化物、少量混入。
- 3層 黒褐色 10YR2/3 ローム(φ1-2cm) 少量混入。
- 4層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ1-2cm) 極少量混入。
- 5層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ1-5cm) 少量混入。
- 6層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ1-3cm) 少量混入。

SK17

- 1層 灰色 10YR2/1 ローム(φ1-2cm) 少量混入。
- 2層 灰色 10YR2/1 焼土(φ1-2cm) 少量混入。
- 3層 灰色 10YR2/1 焼土(少量)、粘土(少量)。
- 4層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1-2cm) 少量、炭化物(少量)、焼土(φ1cm) 少量混入。
- 5層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1-2cm) 少量、炭化物(φ1-2cm) 少量混入。
- 6層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ1-2cm) 少量、炭化物(φ1-10cm) 1ブロック、焼土(φ1-3cm) 少量混入。
- 7層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1-2cm) 少量、炭化物(φ1-2cm) 少量混入。
- 8層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1-2cm) 少量、炭化物(φ1-2cm) 少量混入。
- 9層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1-2cm) 少量、炭化物(φ1-2cm) 少量混入。
- 10層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1-5cm) 少量、炭化物(φ1-5cm) 少量混入。
- 11層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1-2cm) 少量、炭化物(φ1-2cm) 少量混入。
- 12層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1-2cm) 少量、炭化物(φ1-2cm) 少量混入。
- 13層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1-2cm) 少量、炭化物(φ1-2cm) 少量混入。
- 14層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1-2cm) 少量、炭化物(φ1-2cm) 少量混入。
- 15層 黒褐色 10YR2/2 炭化物(少量) 少量混入。
- 16層 黒褐色 10YR2/2 炭化物(少量)、焼土(φ1-3cm) 少量、焼土(少量)、炭化物(少量) 少量混入。

ムを底面にしており、凹凸が激しく見られる。土層 6層に分層された。色調は、黒褐色、黒色、暗褐色がみられる。1層はしまりが無く、混入物もほとんど含まない層で、自然堆積層と考えられる。2層のほとんどは炭化物で占められている。この炭化物には、図示したような材の形状をとどめているものもあるが、大半は1-2cm角のブロック状になっているものである。その他 厚い炭化物層(2層)と焼土のあり方よりみて、製炭土坑である可能性がある。

第16号土坑 (SK16) (図32)

概要 1HSB01の内部、H-108グリッドに位置し、1HSB01Pit7と重複し、本土坑が古い。
構造 平面形は開口部、底面とも不整形を呈する。規模は、開口部で138-168×167cm、深さは7.5cm前後を測り非常に浅い。壁面は部位によってばらつきがあり、ゆるやかに立ち上がったり、急に立ち上がったりしている。底面はほぼ平坦である。土層 3層に分層された。黒褐色土を基調とし、1-3層には炭化物、2-3層には焼土粒子を含んでいる。全層とも人為堆積と思われるが、断定できない。遺物等の出土状態 焼成粘土塊・土玉が覆土中から出土している。

その他 炭化材の破片と焼土が覆土中に散在している。

第17号土坑 (SK17) (図32)

概要 1HSB01の内部、G-108グリッドに位置する。1HSB01との新旧関係は不明であるが、至近距離にあるSK16が、1HSB01Pit7に切られていることから、本土坑も1HSB01より古い可能性が高い。しかし、1HSB01に伴う可能性も否定できない。
構造 確認面、底面とも不整の隅丸長方形を呈する。規模は、確認面で133×155cm、深さ10-35cmを測る。壁面はゆるやかに立ち上がったり、急に立ち上がったり一定していない。底面には激しく凹凸が見られる。底面や壁面が焼けているところは認められない。土層 16層に分層された。黒褐色土を基調とし、大半の層に焼土粒子が含まれている。8層は粘土の塊である。自然堆積か人為堆積か断定できないが、様々な混入物を含む点より、人為堆積と考えられる。遺物等の出土状態 多量の土師器の破裂破片と土師質特殊遺物、土玉、炭化米等が出土している。いずれも覆土の中位以上の層に多く、下位層には少ない。その他 炭化材片と焼土、粘土が覆土中に散在している。底面が焼土化していないため、断定できないが、多量の破裂破片と焼土等の存在により、土器焼成遺構であったか、それに関連していた遺構である可能性が高い。破裂破片は非常に細かいもので、1×1cm以下のものも多い。(木村 高)

3 井戸跡

1 基のみ検出された。

第1号井戸跡 (SE01) (図33)

概要 J-103に検出された。1Hから南東に24m離れた微低地に位置しており、周辺に平安の遺構は見られず、重複もない。

構造 確認面における平面形は、やや不整な円形を呈し、底面はほぼ円形を呈する。確認面は141×153cm、底面は60×60cm、深さは255cmを測る。壁はやや屈曲しながら斜めに立ち上がり、開口部は大きく広がる。壁面の上位は一部抉れているが、これは崩落した部分と考えられ、意図的な掘り込みではなさそうである。底面は極めて平坦につくられているが、開口部の中央には位置しておらず、やや東方にずれている。覆土のほぼ中位層には、井戸枠が崩れた状態で出土している。これらの井戸枠は、平面的な出土位置の状況より判断すると、板と棒を組み合わせて方形に組まれていたものと推測される。

土層 土層断面図は、湧水と安全確保のために上半しか作成できなかったが、上半部は30層に分層された。下半部は平面的に掘り下げながら大まかに土層を観察した。黒褐色土を主体とし、ローム、炭化物、粘土、浮石、焼土等を混入する。3・10・18・19・21・23・24・30層にはB-Tmが含まれる。B-Tmを多量に含んでいるのは、10(火山灰1)層と23(火山灰2)層のみであり、3・18・19・21・24・30は少量の混入である。ただし、10層は、23層よりも混黒褐色土が多く混入し、汚染されていることから二次的な堆積層の可能性が高いと思われる。1~30層の大半が自然堆積層と考えられる。

遺物等の出土状態 土師器の坏、甕、須恵器坏、自然木、井戸枠、木製品、カラス具、シルト礫、ミニチュアの土師器2点が出土した。23層(火山灰2)の下位層からは、内黒の土師器坏1点と須恵器坏2点の計3点の坏がまわって出土している。いずれも略完形に復元された。これら3点の坏は、一括廃棄されたものであると考えられる。なお、火山灰2の下層の覆土中には、多量の種子が含まれている。

井戸枠の大半は、23層の下位に出土しているが、いずれも直立気味に出土していることと、図63-2の板材の出土時の下端は、23層中にあったことから、井戸枠は本来、出土時の位置よりも上位にあり、23層の堆積以前に大半が崩れ、沈下し、図63-2の材のみは23層の堆積過程あるいは堆積後に落ち込んだ可能性が考えられる。

(木村 高)

SE01

- 1層 黒色 10YR2/2 V0-A (#1-2mm) 微量混入。
- 2層 黒褐色 10YR2/2 V0-A (#1-2mm) 微量、軽石 (#2-3mm) 微量混入。
- 3層 黒褐色 10YR2/2 V0-A (#1-2mm) 微量、軽石 (#2-3mm)、炭化物(微量)混入。
- 4層 黒色 10YR1/2 V0-A (#1-2mm) 軽石、炭化物(微量)混入。しりしり。
- 5層 黒色 10YR2/1 V0-A (#1-5mm) 微量、炭化物(微量)混入。しりしり。
- 6層 黒褐色 10YR2/2 V0-A (#1-7mm) 軽石、炭化物(微量)混入。しりしり。
- 7層 黄褐色 10YR6/9 V0-A(土)微量、黒褐色土(微量)混入。
- 8層 黄褐色 10YR5/8 ローム(黒褐色)。
- 9層 黄褐色 10YR2/2 V0-A (#1-3mm) 少量混入。
- 10層 黄褐色 2.5Y7/2 B-Tm少量、黒褐色土(少量)混入。
- 11層 黄褐色 10YR3/2 V0-A (#1-2mm) 軽石、粘土 (#1-3mm) 軽少量、炭化物 (#1mm) 微量混入。
- 12層 黒褐色 10YR2/2 V0-A (#1-10mm) 中量、ローム(微量)、炭化物 (#2-3mm) 微量混入。しりしり。
- 13層 黒褐色 10YR2/2 V0-A (#1-5mm) 軽少量、炭化物(微量)混入。
- 14層 黒褐色 10YR2/2 V0-A (#1-20mm) 軽少量、瓦0-A (#1-10mm) 軽少量、粘土 (#2-5mm) 3YR1/2、炭、焼土(微量)混入。
- 15層 黒褐色 10YR2/2 V0-A (#1-3mm) 少量混入。

- 16層 黒褐色 10YR2/2 V0-A (#1-3mm) 軽少量、ローム(微量)、炭化物 (#1-3mm) 微量混入。
- 17層 黒色 10YR1/2 V0-A(粒)微量、炭化物(微量)混入。しりしり。
- 18層 黒褐色 10YR1/2 V0-A (#1-7mm) 軽少量、B-Tm (わず) 微量、炭化物(微量)混入。
- 19層 黒色 10YR1/2 V0-A (#1-2mm) 微量、炭化物 (#1-2mm) 微量、B-Tm少量混入。しりしり。
- 20層 黒褐色 10YR1/2 M0-A (#1-5mm) 軽少量、炭化物 (#1-2mm) 軽少量、粘土(中量)、赤(少量)混入。
- 21層 黒褐色 10YR1/2 V0-A(粒)微量、炭化物 (#2-5mm)、軽石 (#2-5mm) 微量、B-Tm少量混入。
- 22層 黒色 10YR1/2 V0-A (#1-5mm)、炭化物(微量)混入。しりしり。
- 23層 黄褐色 2.5Y7/2 B-Tm(土)微量、黒褐色土(少量)混入。
- 24層 黒褐色 10YR1/2 V0-A(粒)微量、炭化物 (#1-3mm) 軽少量、粘土(微量)、B-Tm微量混入。
- 25層 黒褐色 10YR2/2 V0-A (#1-5mm) 微量、ローム(微量)、炭化物 (#1-3mm) 軽少量、粘土(少量)混入。
- 26層 灰色 10YR7/2 V0-A(粒)微量、軽石 (#1-3mm) 微量、炭化物 (#1-3mm) 微量混入。
- 27層 黄褐色 10YR2/2 V0-A(粒)微量、軽石 (#1-3mm) 微量、炭化物 (#1-3mm) 微量混入。
- 28層 黒褐色 10YR2/2 V0-A (#1-3mm) 少量、粘土 (#1-3mm) 軽少量混入。
- 29層 黄褐色 10YR2/2 炭化物(微量)、粘土 (#1-5mm) 微量混入。
- 30層 黒褐色 10YR2/2 V0-A (#1-2mm) 微量、瓦0-A (#1-5mm) 微量、炭化物(微量)、B-Tm微量混入。

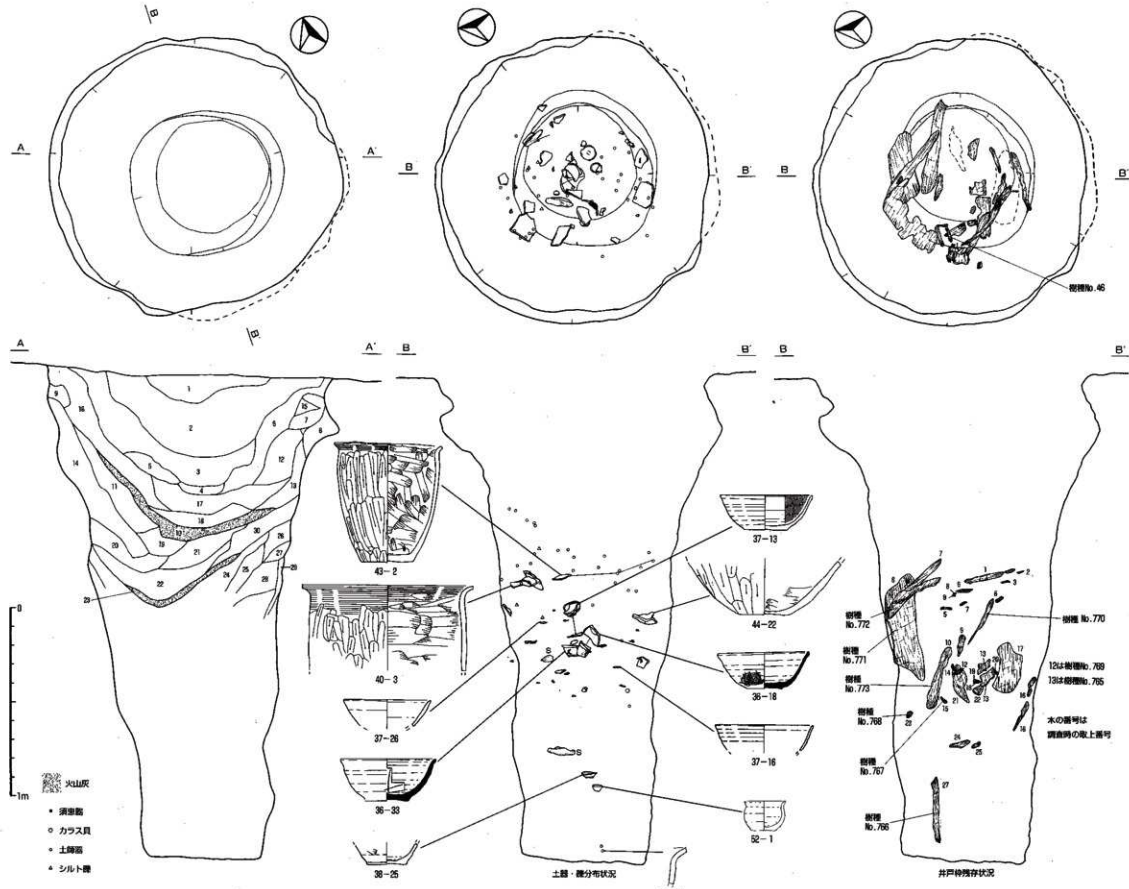


図33 第1号井戸跡

4 並列溝状遺構

第1号並列溝状遺構 (SDX01) (図34)

概要 調査区の中央域で一面検出された。検出範囲は現代の農道の下と調査区際限定されているため、全体の状況については不明であるが、9条(A-I)の溝跡が竊状に並んでいるものである。随川(12)遺跡においても酷似する遺構が検出されている。確認面は第Ⅲ層の上面である。

重複 付近に1H、2Hが位置していることから、重複していた可能性は十分あるが、7年度の粗掘の段階で、現代道路の幅の範囲と調査区際の幅の範囲以外は除去されていたため、重複関係については不明である。*溝跡AとBの間にはSK10が位置しているが、SK10の掘り込み面は第Ⅳ層上面であることから、重複の関係にはない。

確認状況 調査区内を斜走する農道の断面を薄く削ったところ、B-Tmを混入する土層が、ほぼ等間隔に分布していることに気づき、検出に至った。確認範囲の大半が道路の下であることから、遺存状況は不良で、特に農道の轍が第Ⅲ層の中位にまで食い込んでいたために、プランの確定には非常に困難を窮めた。第Ⅲ層の上面を露呈させたところ、竊状に並ぶ9条の溝跡の存在は認識できたものの、確認面における溝跡の覆土の色調は、黒色を呈する第Ⅲ層の土壌が基調であり、その土壌中にB-Tmが多量に混入している場合に限って溝跡の輪郭は容易に把握できても、B-Tmが微量にしか混入していない溝跡の輪郭の把握は困難であった。また、溝跡の覆土は、B-Tmを混入しているために、快晴日には、火山ガラスが非常によく光り、また、手触りも非常にさらさらするものであったことから、快晴日を狙って調査をすすめた。なお、多くB-Tmを含む溝跡はA・Gである。

構造 9条(A-I)の溝跡が竊状に並んでいるものである。各々の溝跡には広狭の差が顕著であり、また、1条の溝跡をとってみても広狭がみられる。この要因は、本遺構が農道の下に検出されたものであるために、かなりの長期間にわたって填圧が加わり、全体的に潰れていることにある。ただし、溝跡Iは、農道下には位置していないため、遺存状況は良好である。よって、溝跡Iは9条の溝跡の本来の幅、深さを代表しているものと推定される。両端部の検出された溝跡は1条も無いことから、全長は全く不明である。方向は、N-55°-Wを示す。確認面における幅は24-88cm、深さは6-12cmを測る。隣接する溝と溝との中心距離は160-236cmで、全体の平均値は210cmである。断面形は基本的に皿形を呈すものの、底面にはやや凹凸がみられるため、地点による形状差がみられ、歪んだ皿状を呈すところもある。底面には窪みが少々みられるが、工具痕として認定できるものは無い。

土層 A-Iの全ての溝跡の覆土は、第Ⅲ層起源の黒色シルトをベースにB-Tmがパウダー状、層状に混入しているものである。B-Tmは底面に近づくにつれて厚く堆積する傾向がみられるものの、火山灰の平面的な混入状況を見ると、厚く堆積している部分や薄い部分、或いは微量にしか混入していない部分等があり、全面を均一に覆うものではない。

出土遺物 数点の土師器、須恵器の小破片と板状の礫1点が出土したのみである。これらのほとんどは、付近にある住居跡や土坑の覆土から浮上したものや、散在していたものが混入したものと見なされる。

その他 本遺構が、畝跡に関連するか否かを判断するため、プラントオパール分析を実施する予定であったが、時間的制約から実施しなかった。

(木村 高)

5 溝跡

第1号溝跡 (SD01) (図35)

概要 D・E-111グリッドに位置する。付近にはSDX01と1Hがある。

重複 SDX01と重複し、本溝跡が古い。ただし、直接的な重複関係にはない。

構造 調査区外に伸びており、加えて7年度の粗掘により南側が消失しているため、全形は不明。幅72~116cm、深さ10~15cmを測る。壁は斜めに立ち上がる。

土層 1層のみで分層されない。10YR1.7/1の黒色土にローム粒を混入する。

出土遺物 土師器片が少量出土している。

(木村 高)

6 その他の遺構

第1号特殊遺構 (SX01) (図35)

概要 第Ⅲ層上面にマウンド状の円形ロームが検出されたことから、一般的な遺構ではないと判断したものである。1HSB01の内部、H-108グリッドに位置しているが、1HSB01と直接的に重複していないため、新旧関係は不明である。1HSB01に伴うものである可能性も否定できない。

構造 浅い不整形円形を呈す掘り込みの中に、第Ⅵa層相当の円形でよい黄褐色(10YR 4/3)を呈すローム(2層)が盛られているものである。浅い掘り込みがあることから、土坑として捉えることもできなくはないが、ロームはその浅い掘り込みよりも厚く盛られている。ロームの平面規模は、60×62cm、厚さは8cmを測る。土坑状の掘り込み部分の平面規模は、ロームとほぼ同じであり、深さは8cmを測る。

土層 2層に分層された。1層は明黄褐色(10YR 6/6)のローム粒を多量に混入する土である。

出土遺物 なし。

(木村 高)

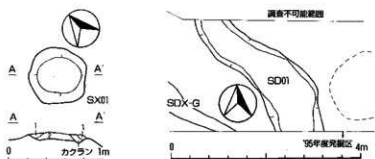


図35 第1号盛土状遺構・第1号溝跡

第2節 平安時代の出土遺物

土師器・須恵器の概要

この時期の遺物出土総量は遺構内・外合わせてダンボールで約40箱である。このうち、堅穴住居跡及びそれに伴う外周溝からの出土は、全体の約2/3である。口縁部から底部までのほぼ全体像を把握できる接合個体は出土破片数のわりに非常に少なく、ほとんどの掲載遺物は復元実測である。ここでは、土師器・須恵器の器種毎の特徴、また重要だと思われる遺物の特徴を述べる。また、出土破片数が多く、ここで実測・掲載した遺物以外にも多くの未掲載遺物があり、一部の遺物に対する記載であることをお断りしておく。

1 土師器

Ⅲ・坏 (図37、図38-1~5、11~14、23~31、図47-8~10)

すべてロクロ調整である。内面黒色のもの(37-13、38-6・7・13)、内面にミガキ調整を施すもの(38-4・5・6)、ヘラ書きを施すもの(37-12・19・34・35・39、38-31など)がある。口径は130~140mmに取まるものが多いが、38-1~7のように160~170mmのやや大きいもの出土もある。38-13は口縁部が明瞭に内側に屈曲した立ち上がりを見せるもので、内外面ともミガキにより平滑に仕上げられている。このような口縁部形態はこの1点のみである。38-31は6HRP01出土であり、絵画と思われるヘラ書きが胴部に大きく刻まれている。また、おおよそ絵画刻書の反対側と底部にも何か記号的なヘラ書きを施しており、坏1つにこれだけのヘラ書きを施すものは稀有と思われる。

甕 (図39~図45-9・11)

長胴甕 (I群)

外面のケズリは胴部中央又はそのやや上位より底部にかけて施すものが主流のようである(39-1・2・3など)。39-6は外面の口縁部まで粘土が付着しており、口縁部の歪みが激しい。おおよそ粘土の付着の薄い所から外面は胴部中央まではケズリによる調整を施していないと思われる。44-14は内面の調整が特徴的であり、櫛状の工具によるものと思われる。底部は砂底である。41-5は口縁部の屈曲が小さく、長さも短いものであり、本遺跡出土の長胴甕では稀有な口縁部形態である。42-18・19は外面にタタキ痕を有する。内外面とも磨減が著しく、浅黄橙色を呈す。

長胴甕 (II群) (39-5、40-2~9)

器面調整を見ると、口縁部外面はヨコナデを例外なく施し、内面はヨコナデを施すものと胴部のナデ調整とはほぼ同じ調整を施すものがある。また、外面の口縁部直下を指又は何らかの工具によると思われるナデつけによる調整を施すものがあり(40-4・5・8)、その部位には接合痕が明瞭に確認できる。7は胴部内外面とも縦にナデ調整(やや水気が多い、乾燥が進んでいない段階での調整である)を施している。色調は褐色、胎土は非常に密であり、焼成は硬質で、本遺跡出土の土師器甕の中では特異なものである。胴部外面には炭化物が付着している。口縁部外面にはヘラ書きを有していることも特徴的である。8は1HRP01からの出土であり、胎土には砂粒を非常に多く含み、器厚は6~8mmと薄い。外面胴部には炭化物の付着はみられないが、黒色からぶい赤褐色を呈し、二次焼成

を受けていると思われる。9は器厚が10~14mmとⅡ群の中では厚手の方である。やや胴部が張る器形を呈している。39-5は器形的には39-2などのロクロ調整のものと似ているが、外面胴部上半は弱いナデ調整であり、接合痕が明瞭に確認できる。

小型甕 (Ⅰ群)

長胴甕に比べ、口縁部内面に炭化物が付着しているものが多い。調整を見ると、外面胴部上半にケズリ調整が確認できるのは43-23のみである。底部まで残存しているものは底部付近にケズリ調整を施しているが、胴部から口縁部にかけてはロクロ調整痕を主体としていると言える。内面もロクロ調整主体である。底部は回転糸切りがほとんどである。

小型甕 (Ⅱ群)

1H及び1H外周溝からの出土が多い。器面調整から口縁部内外面にヨコナデ調整を施すもの(43-7~9・12)と口唇部近くまでケズリ・ナデ調整を施すもの(43-10・13、45-6・7)におおよそ分けられる。43-7~9は口縁部形態、器厚などが異なるが、口縁部内外面のヨコナデ調整が顕著であり、胎土も似ている。10・13は器形・調整・法量が非常に酷似しているが、別個体である。

壺 (図46-16、17、19)

16は4Hカマドの本来支脚が存在したであろうと思われる箇所からはほぼ胴部中央から底部にかけて底部を上にして出土した。外面調整は胴部上半まで横のケズリを施し、その後縦に胴部中央で約20mmの間隔をあけて放射状にミガキ調整を施している。このような調整は本遺跡出土破片において他に見当たらない。内面は口縁部から頸部にかけて横のミガキ、胴部は縦のミガキ調整であり、内面黒色処理を施す。底部は砂底であるが、付着している砂は疎である。胎土、器表面はSK05出土の破片と非常に酷似している。17はSK05出土であり、内面のミガキ調整はロクロ調整痕の凸部に顕著に見られ、凹部にはやや調整が行き届いていない感じである。器表面は他のSK05出土破片と同様やや光沢があり、焼成も堅緻である。19は外面口縁部直下からみて双耳であると思われる。口縁部内外面はヨコナデを施す。口唇部は面取りをしたというより、調整不良という感じである。胎土に砂粒を多量に含んでおり、焼成はやや軟質である。成形的に非常に雑な作りである。

壺 (図47-1~7)

全て非ロクロである。胎土に砂粒を含むものが多い。出土個体数は少ないがあえて分類するなら、口縁部はほぼ直線的なものと外反するもの、また胴部は直線的なものややや膨らみをもつものに区別することが出来る。炭化物の付着は1・2・7にみられ、全て外面胴部上半である。1・2は胴部の形状がやや異なるが、内外面の調整、口縁部外反、胎土・焼成などからみて非常に酷似している。2の底部はケズリ調整を施していると思われるが、磨滅が著しい。3は内外面ともケズリ調整による砂粒の動きが顕著であり、色調は黒褐色を呈する。5は口縁部外面のヨコナデが他の破片に比べ顕著であり、また器形も器高がやや深いものと思われる。胎土・焼成・色調の面では3と似ている。

羽釜 (図47-20・21)

共に1HSD01からの出土である。20は手捏ねによる成形と思われる、内外面の調整が非常に顕著に観察できる。胎土には砂粒を多量に含み、焼成は堅緻である。色調は黒褐色、赤褐色を呈す。口縁部直下の張り出しは成形後に粘土紐を貼り付けている。底部はケズリによる調整を施し、表面積の約1/2は成形時の凹みが顕著である。21は器面の磨滅が著しく、口縁部直下の張り出しも成形後の貼り

付けかは不明である。

図化はしていないがSK17・18、4Hカマド、SK05から土器焼成時に割れたと思われる破片(破裂剥片)が出土している。出土数量は35cm×25cm×5cmのデスクトレードで2箱である。全て土師器であり、破片の大きさは5cm四方以下のものが多い。坏、甕、壺の類の破片が見受けられる。断面形態は外器面と内器面が裂けたようになっており、器表面と断面はほぼ同じ色調(明黄褐色)を呈している。器表面はミガキは施されていないが、やや光沢がある感じである。(三林 健一)

2 須恵器

皿・坏 (図36、図38-8~10、15~22)

36-44は口縁部に焼成時のものと思われる歪みがある。36-32は底部が他のものに比べるとやや厚く、その形状も特異なものである。胴部下半に故意のものとは思われないが、十分に乾燥が進んでいないうちに付いたと思われる指痕が確認できる。胎土、色調は特異な点は見られない。ヘラ書きに關しては、その比率が高いように思われる。そのうち「大」の文字が多く36-4・13・38などである。また「田」と思われるもの(36-11)、ヘラ書きの部分にミガキを施すもの(36-18)、その他何かの記号と思われるもの(36-36)など様々である。

鉢 (図45-10-13)

10-12は非常に器厚が薄く、口縁部から胴部にかけては4~6mm程である。11・12は6HSD01からの出土であり、口縁部形態に違いが見られる他は、色調(青灰色)・断面観察(坏の分類というウ)・底部(ケズリによる調整)などの点で非常に酷似している。また12のヘラ書き「大」は口縁部から胴部下半にまで及ぶものである。13は内外面にふい赤褐色を呈し、断面観察は坏の分類というイである。外面底部付近に若干のナデ調整を施す他は、ロクロ調整痕のみであり、胎土には砂粒を他の須恵器に比べ若干多く含む。底部はケズリによる調整を施している。色調・胎土などの面で本遺跡出土の須恵器の中では稀有である。

壺 (図45-15-図46-15・18)

長頸壺と短頸壺に分けることが出来る(観察表に記載)。外面調整は胴部最大径より下半にケズリ、内面調整は底部付近にナデをおおむね施すと言える。長頸壺は頸部から肩部の境に1・2条の段を有する。45-15は頸部のほぼ中央にヘラ書きを有す。底部の欠損は口縁部から胴部下半にかけてほぼ完全に残存していることと断面観察から故意のものと思われる。色調は青灰色を呈し、胎土には若干砂粒を含む。45-15と色調・胎土の面でおおむね似ていると思われるものは他に、45-16・17・19・21、46-2~6などである。断面は坏分類というウのものが多い。45-17は法量が他のものに比べ大きく、底部はケズリ調整を施している。灰白色系のもは45-18、46-1・7・14・18であるが、菊花状の底部調整痕を有する45-18と46-18が共に灰白色系であるというのが特徴的である。

大甕 (図47-8-10)

8は内外面とも調整が丁寧に施され、タタキ・当て具の痕跡は確認できない。9の内面もナデ調整が丁寧に施され当て具痕は不明である。10はSK05の底面と4Hの床面から出土、接合したものである。やややすい青灰色を呈し、外面のタタキは条数7~9本の格子目風と思われ、内面は布を押し当てた

ような跡(不明)が確認できる。

(三林 健一)

3 ミニチュア土器

1 Hに伴う外周溝(11点)、SK17(12点)からの出土が多い。また6 HRP01、SE01からも出土している。出土数52点すべて土師器である。

I-A類(図52-1・2・3)

1はSE01からの出土である。全体的に歪みがなく、丁寧な作りである。胎土はやや脆い感じを受ける。3は内面のロクロ調整痕が非常に明瞭である。1~3は全て底部回転糸切り痕だが、3は棒状工具による調整を施している。

I-B-a類(図52-6~10、21~24、28、43、51)

6~8、10は口縁部を指でつまみ出しており、指痕が明瞭である。特に6、8は器形・法量・胎土等が酷似している。7は非常に雑な成形で、ひび割れも激しい。21~24は坏・埴を模したものと思われる。22は1と同じSE01からの出土であり、1に比べ硬質で、胎土に砂粒などの混入物もあまりない。断面は灰色を呈している。28は粘土塊に指を差し入れ、広げるようにして体部、口縁部を作り出した感がある。外面は非常に雑な調整で、底部は歪みが激しく不安定である。51は内外面には出ていないが、断面観察は赤褐色を呈している。

I-B-b類(図52-4、5、11~20、25~27、29~42、44~50、52)

4は口縁部を指でつまみ出した後、粘土紐を口縁下部に貼り付けている。羽釜を模倣したと思われる。5は外面を平滑に調整し、内面は非常に雑な調整である。胎土には砂粒をほとんど含まない。11の外面調整は5に酷似しており、平滑なものである。底部は細い粘土紐を貼り付け底上げをしている。外面口縁部近くにはほぼ並行な4本のヘラ書き(?)を有する。12は口縁部を摘みだし風に形作っている。15の内外面・底部を丁寧に撫でつけた感である。16は外面は底部から口縁部に向けてのケズリを施し、底部もケズリである。口縁部にタール状の黒色物質が付着している。17は傾きが不明であるが、碗状を呈するかもしれない。18は肩部の上に調整の際に出た余剰粘土を波状に貼り付けていると思われる。19は外面の調整が非常に明瞭であり、一つ一つのケズリが面を成している。胎土には砂粒の混入が目立つ。25は口唇部をケズリにより面取りをしており、外面にはタール状の黒色物質が付着している。26は底部を撫でつけており、内面は雑な調整である。29は口縁端部を外に折り曲げている。31、32等断面のみのものは、あまりにも細片であるため、全体の器形・傾き等不明な点が多いが、内(外)面に調整を施しているのと、破片全体の微かな湾曲からミニチュア土器と判断した。(三林 健一)

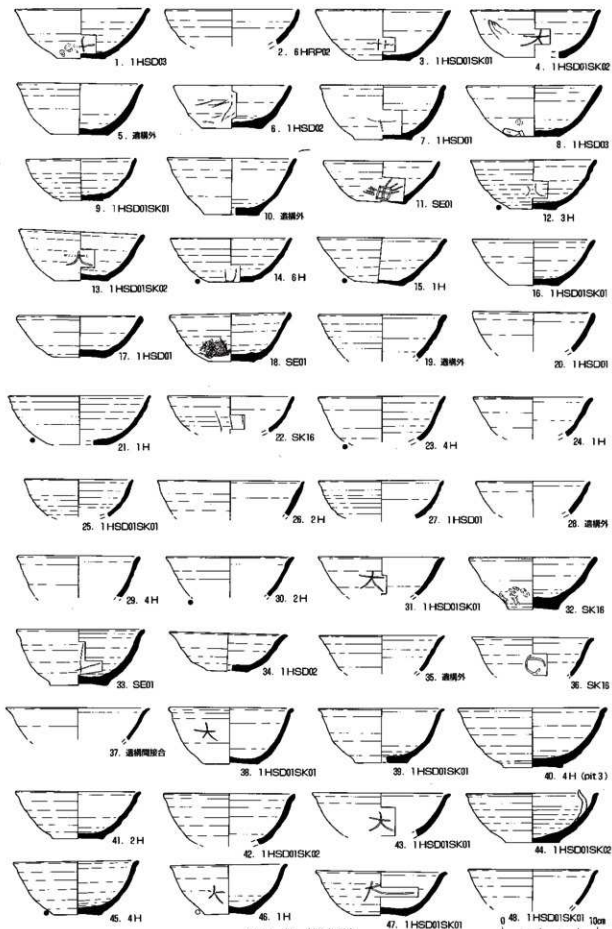


図36 坏 (須恵器)

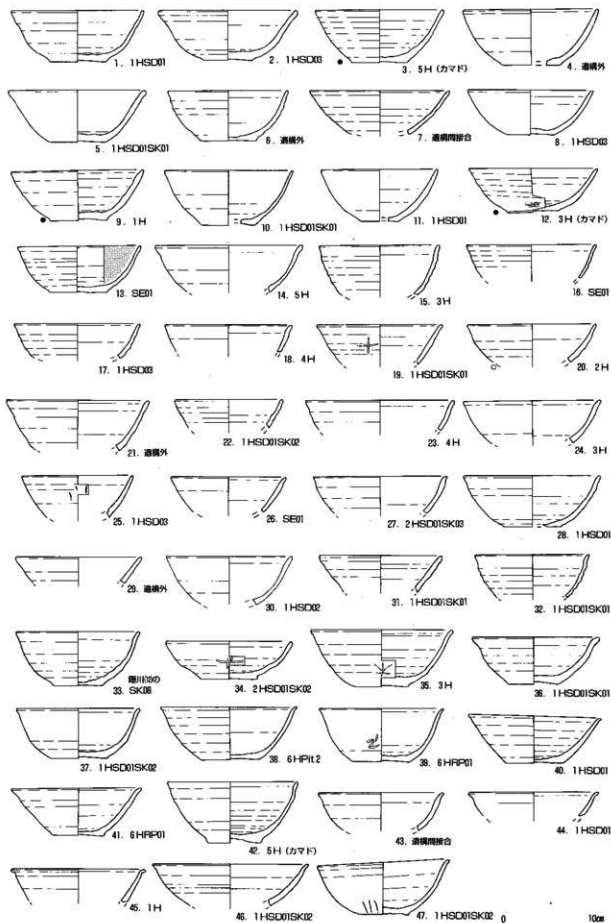


図37 皿・杯 (土師器)

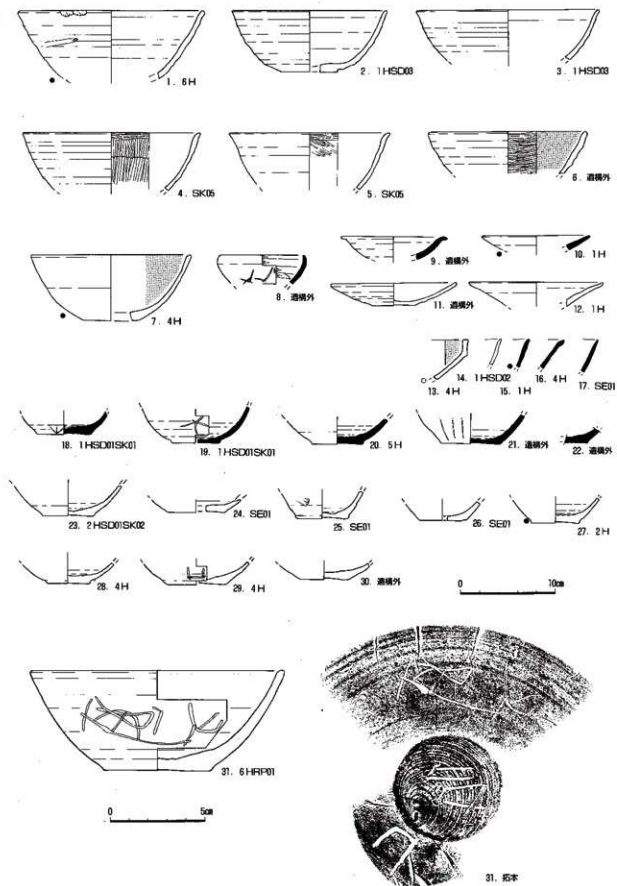


図38 皿・杯(須恵器・土師器)

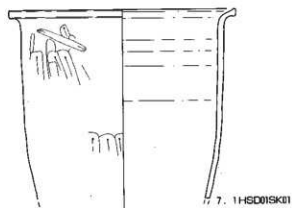
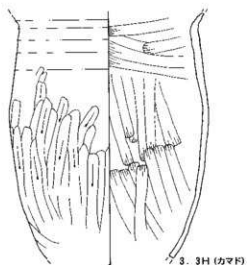
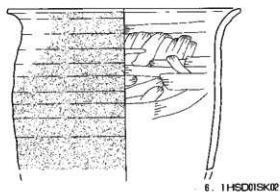
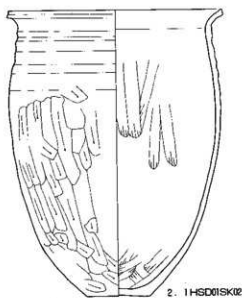
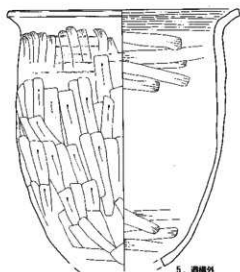
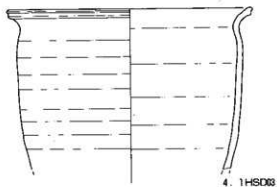
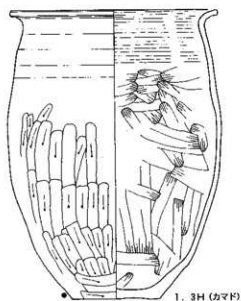


図39 甕 (土師器)

0 10cm

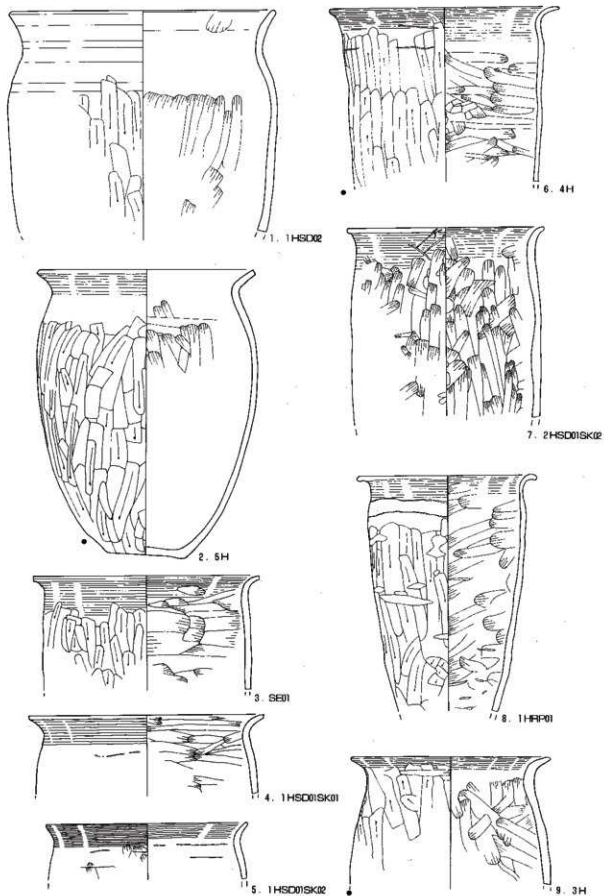
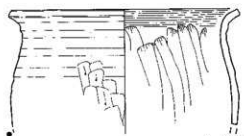
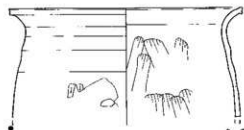


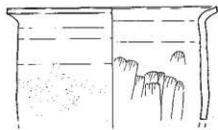
図40 甕 (土師器)



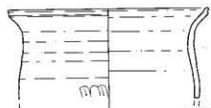
1. 1HSD01



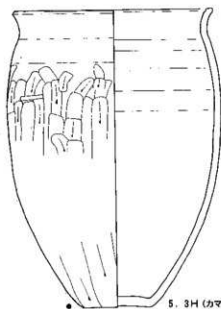
2. SK05



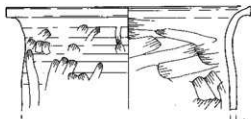
3. 3H (カマド)



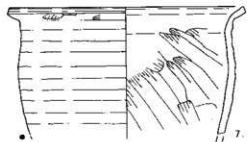
4. 2HSD01SK03



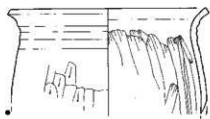
5. 3H (カマド)



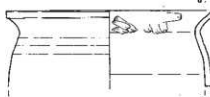
6. SK16



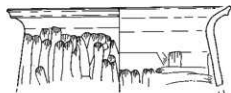
7. 1H



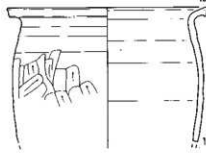
8. 4H (カマド)



9. 4H (カマド)



10. 4H



11. 1HSD01SK02



12. 1HSD01SK02

図41 甕 (土師器)

0 10cm

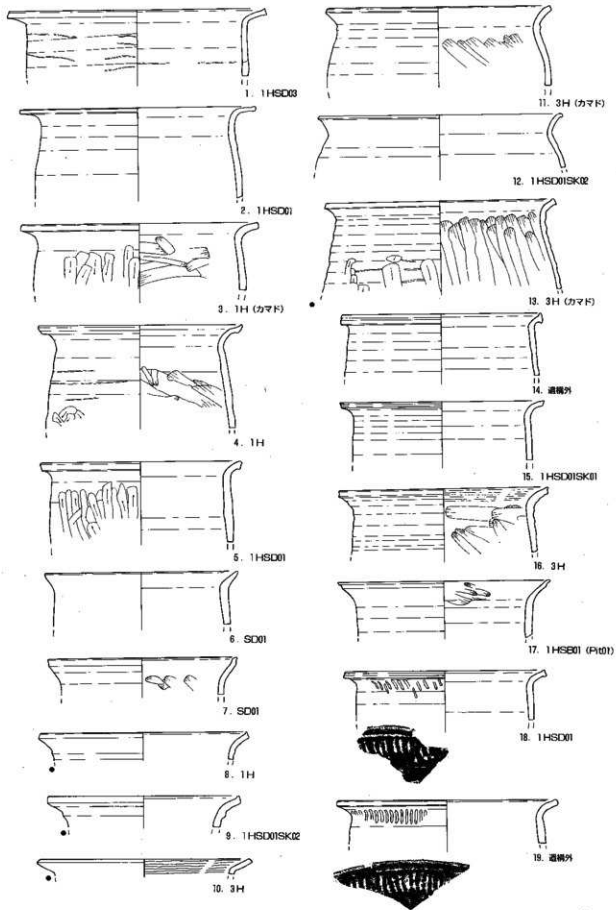


図42 甕 (土師器)

0 10cm

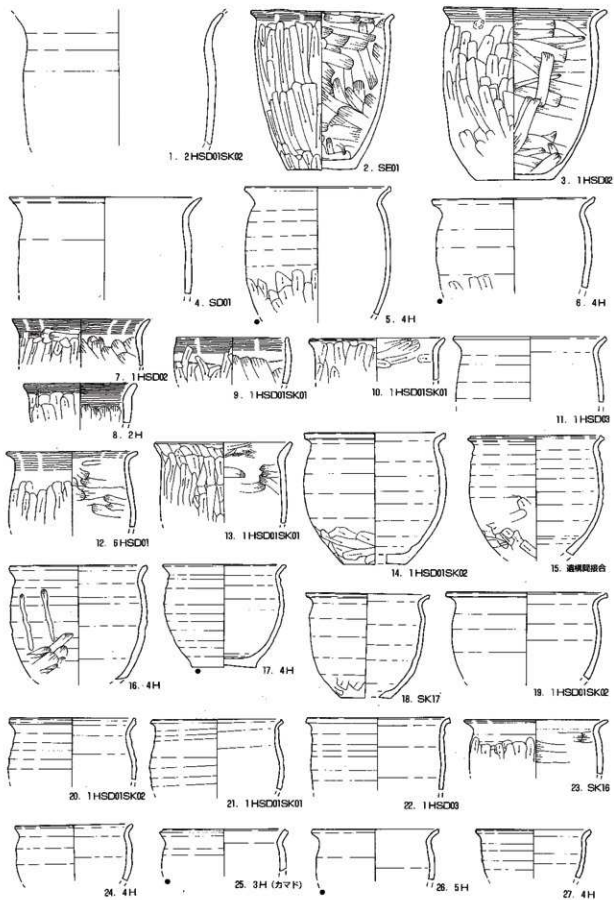


図43 甕 (土師器)

0 10cm

稲川(4)遺跡

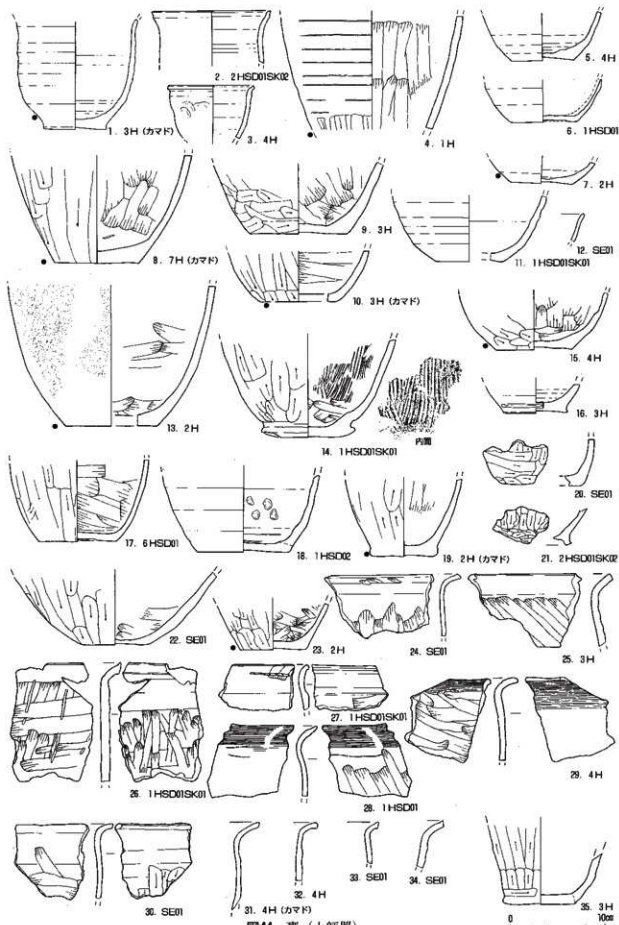


図44 甕 (土師器)

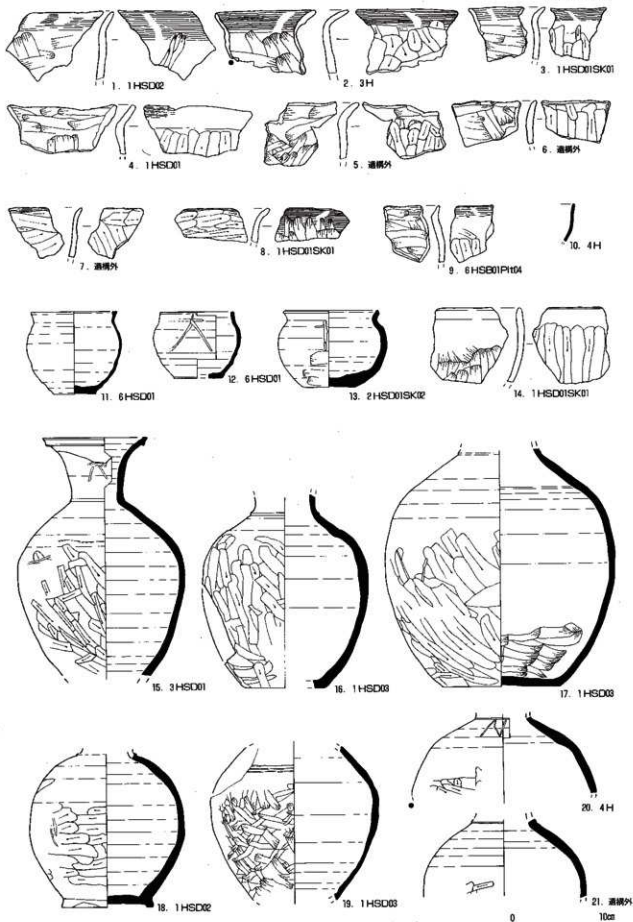


圖45 甕・鉢・壺(須惠器・土師器)

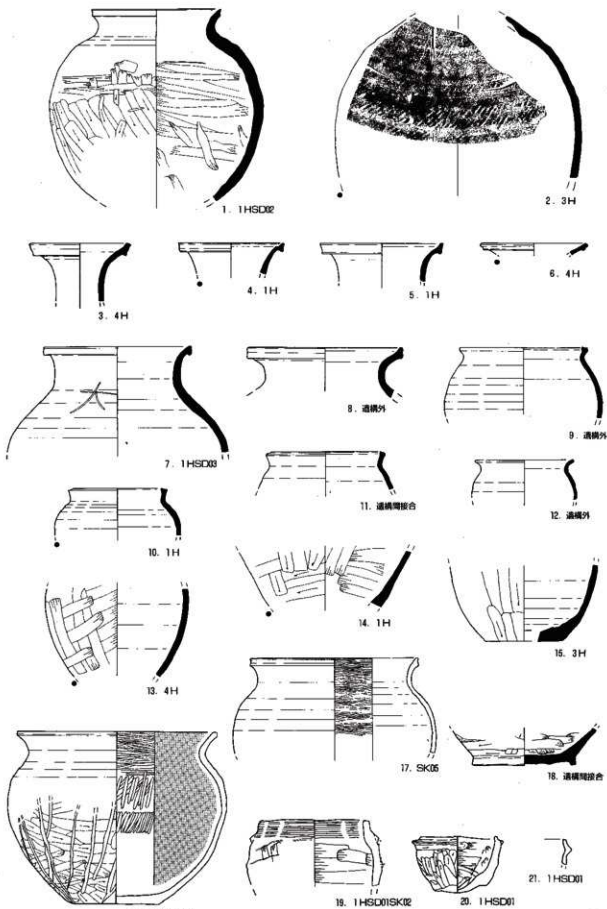


図46 壺・羽釜 (須恵器・土師器)

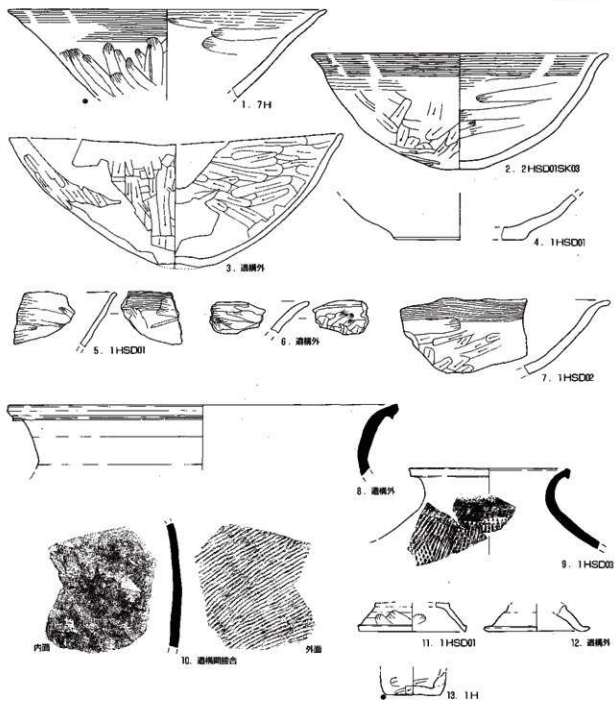


图47 塙·大瓮(須惠器·土師器)

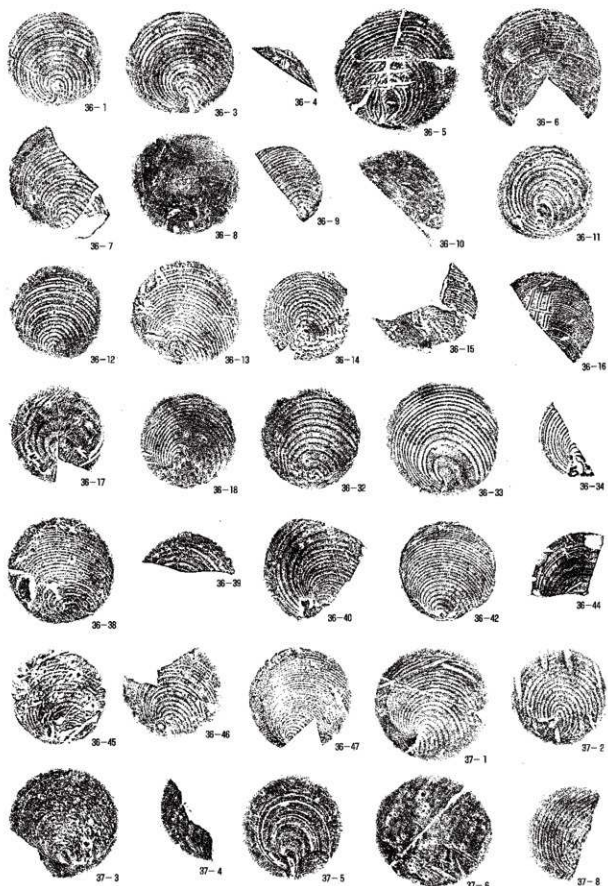


圖48 底部拓本 (S=1/2)

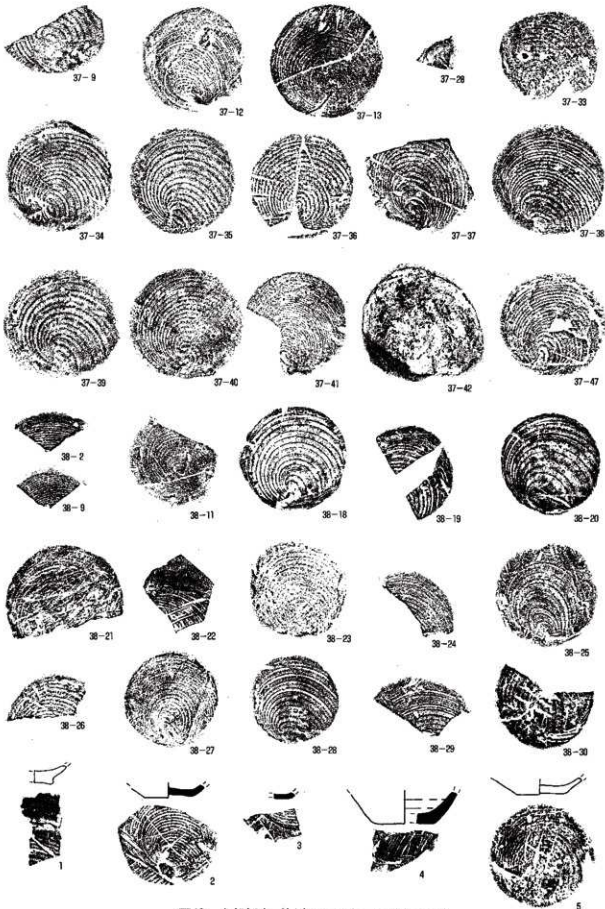


图49 底部拓本 (拓本 $S=1/2$ 、断面 $S=1/4$)

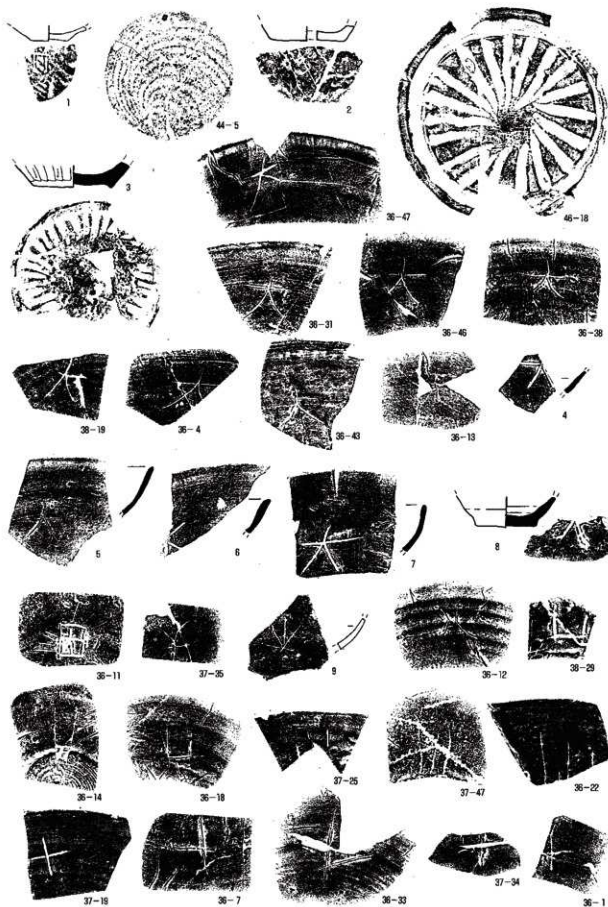


図50 底部・ハラ書拓本 (拓本S=1/2、断面S=1/4)

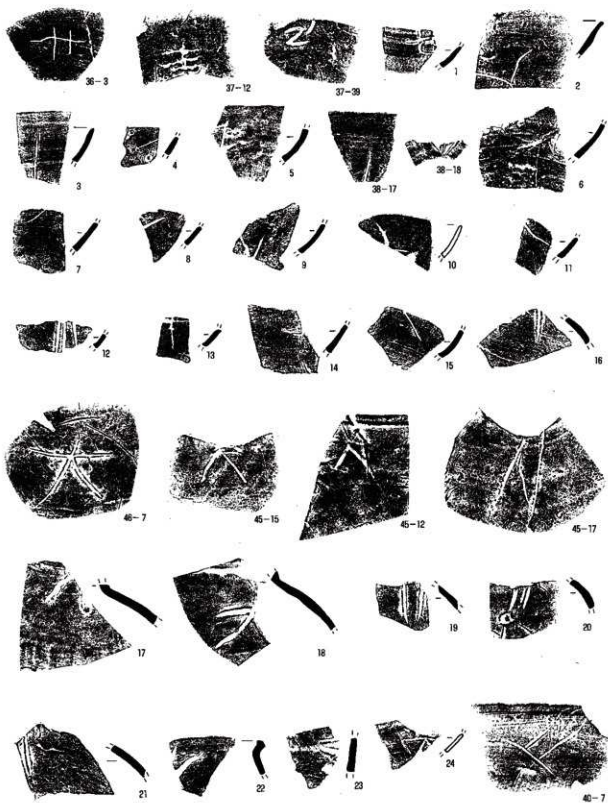


図51 ヘラ書拓本 (拓本S=1/2、断面S=1/4)

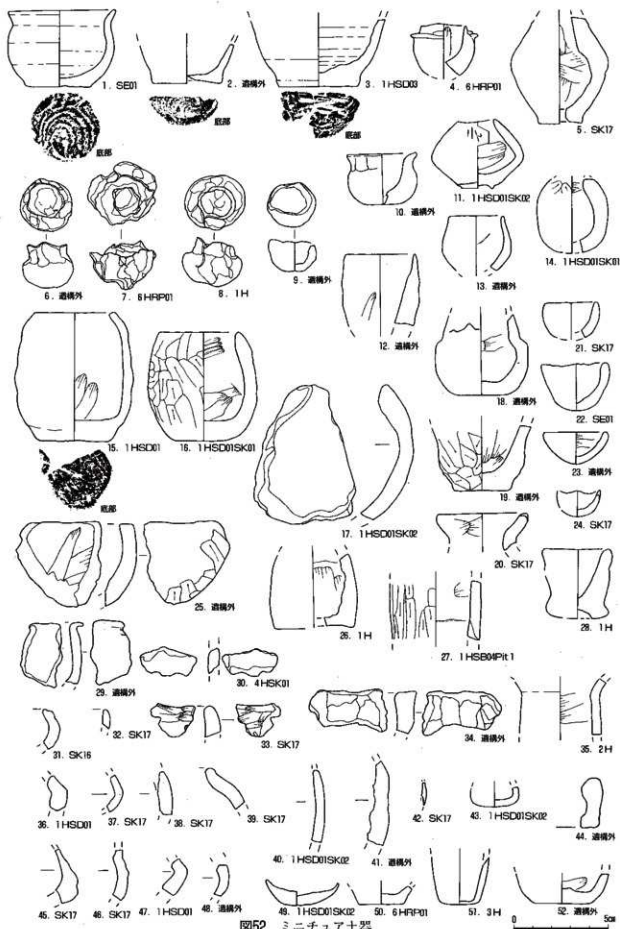


図52 ミニチュア土器

4 土製品 (図53)

第1群、第3群、第5群の土製品が総数で18点出土した。

第1群土製品：玉類 (1~15)

遺構内から14点、遺構外から1点(3)出土している。1と9の2点は2Hから、2、4、14の3点はSK17から、12の1点はSK16から、他は全て1H及び1HSB、1HSDからの出土である。特に1Hカマドからは5点も出土している。これら15点の玉の断面形は、横楕円形のものや幅に対して厚くつくられるもの等様々みられる。外面の色調には黒色系(2・6・8~10・14)、灰色系(4・12)、橙色系(1・3・5・7・11・13・15)の3種がみられ、1Hから出土している5点の内、焚口から出土した6を除いて他の4点は全て橙色系の色調を呈す。15点全て焼成前の穿孔である。

第3群土製品：土鈴 (16~17)

2点出土している。16は1HSD01SK01から、23は、遺構外からの出土である。16aの外面は非常に歪曲しているが、中に鈴子(16b:図は実大)が入っており、音を出せるものである。紐部はみられない。猪口状の容器に16bを入れた後に口を摘み締めて鈴口としている。鈴子は、長楕円形の薄い粘土を折って仕上げている。17は紐通しの孔を有すもので、外面全体に非常に丁寧なミガキが加えられている。上部は沈線でくびれさせており、さらに上面には縦の沈線が1条施されている。縄文晩期の土製品と見なすことも不可能ではないが、胎土と焼成の状況より平安時代のものと同判断した。

第5群土製品：棒状 (18)

大きく欠損しており、状態は不良である。棒状を呈し、端部は指で押さえられ、やや薄くなっている。茶褐色の焼成であり、煤状炭化物?が微量に付着している。(木村 高)

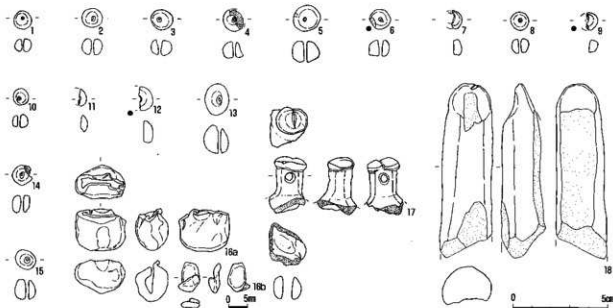


図53 土製品

5 土師質特殊遺物 (図54～図55)

1H・6Hおよび1H・6H付近、4H付近の遺構からの出土が目立つ。特にSK17からの出土は多い。色調は、大半がにぶい橙～橙～明赤褐色で、まれに褐色～黒褐色のものがみられる。ここでは特徴的なものについてのみ記載する。

第1群土師質特殊遺物：粘土紐状のもの (図54-1～7)

7以外は全て欠損しているため、全体の形状については不明な部分が多いが、両掌で転がして棒状に仕上げた後に端部がちぎられたり(2)、摘んで平たくされたり(6、7)している。4、5は弓状、6は鈎針状、7は数字の「6」のように曲げられている。5は、粘土時の水分が少なかったためかひび割れが多く認められる。

第2群土師質特殊遺物：粒状のもの (図54-12～14)

12、13は非常に小粒で、指先で丸めたものと思われる。13には刺突?がみられる。14は、球状に丸められた後に指で潰され、さらに側面が丸められているようなものである。

第3群土師質特殊遺物：板状のもの (図54-16～21)

16は、大きく欠損しているもので、裏面は粘土時の水分が少なかったためかひび割れが多く認められる。17は、表面に指頭による押圧が加えられている。19は表面がかなり平坦であることから、何か硬くて平らなもの(板?)の上でプレスされたようなものである。16、19とも原形は円形～楕円形であったと推定される。21は、表裏面ともほぼ平坦であり、側縁も不整ながら成形されている。19～21の表裏面には、植物性の繊維の圧痕がみられる。

第4群土師質特殊遺物：不整のもの (図54-8-11・22-33・図55-1～17)

図54-11は、勾玉状の形状を呈すが、中央の抉れた部分は、棒状のもの?による貫通によってつくられているようで、欠損しているものではない。図54-28の表面には指頭による押圧が、32の表裏面には指による押圧がランダムに加えられている。図54-33は棒状の粘土に、指による押圧が加えられ、端部はやや薄くなっている。図54-31-33は、いずれもSK17からの出土で、胎土が類似している。

図55-6の表面には指の先?を刺したような痕がある。図55-7はやや平たい棒状の粘土をねじっているものである。4は、粘土時の水分が少なかったためかひび割れが多く認められる。これらは粘土をぐしゃぐしゃまるめたり、潰したりした結果を示していると思われる。

図55-11と12は、植物性の繊維の圧痕が片面に幅広く、均一についている。図55-13の両面には、指或いは掌による、押しつけるようなナデがほどこされ、粘土が鉋屑状にくびれている。

図55-14は、表面が丸みを帯び、球状になっている。図55-16は両掌による押圧によってつくられていると思われる。図55-17は、不整形を呈す板状で、胎土は焼成粘土塊に類似しているが、側縁は指によってしっかりと押さえられている。図55-15は、2箇所にロクロ痕のような、均一な横ナデが観察される。土器のロクロ成形時に生じたものであろうか。(木村高)

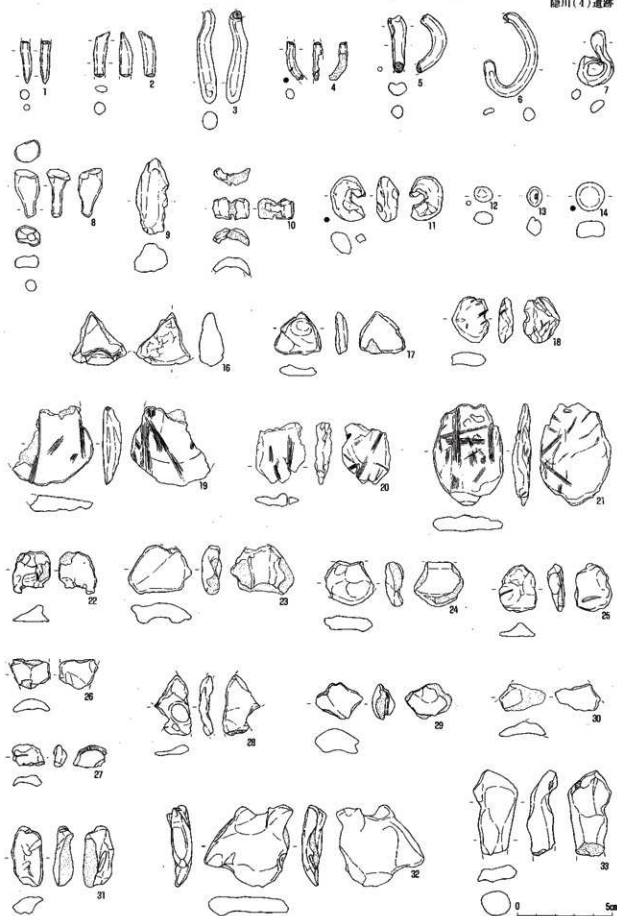


图54 土師質特殊遺物-1



図55 土師質特殊遺物-2

6 焼成粘土塊 (図56-57)

色調は、断面、外面ともに明赤褐色～黒褐色を呈し、指や手で一面を撫でた結果、平坦面が形成され、また、裏面（まれに割口）には植物性の繊維の混入・圧痕が認められる。胎土中には砂粒等の混入物を多量に含んでいる。分類は、大半が破片の状態であることから平面形やナデの痕跡等は基準にせず、断面の厚さをもとに行った。実測対象資料は、主に平坦面を有するものに限定した。図示していないものの中には、全面に凹凸が激しく、指、手による成形痕の全く観察されないものもかなりみら



图56 烧成粘土塊-1

れる。また、本遺物の大半は破片の状態であるが、数点ほど割口が認められないものも見られる。これらは土師質特殊遺物に含めることも可能であるものの、外面全体に著しく植物性の繊維が観察され、一般的な土師質特殊遺物とは異なった印象のものであるため、焼成粘土塊に含めておいた。出土地点をみると、1 H・6 Hおよび1 H・6 H付近の遺構からの出土が目立つ。ここでは特徴的なものについてのみ記載する。

第1群焼成粘土塊：断面厚さ8～20mm (図56-1～4、6～13、15～21)

1、2、5、6、11、12、17には、指によると思われるナデが外面にみられる。1は、表表面と側縁の一部が残存するものであり、土師質特殊遺物に含めることも可能であるが、胎土、焼成より焼成粘土塊に含めた。2には、ユビナデが明瞭に観察される。水分をよく含んだべっとりした状態でナデたものと思われる。6は、裏面に直線的な段が形成されており、細い角材状のものにでも付着していたかのような状態をうかがわせる。18～21は、植物性の繊維の圧痕やナデが観察されないもので、表面も磨滅しているのかどうか不明なものであるが、磨滅したものと想定して、本群に含めたが、後に詳細に調べたい資料である。

第2群焼成粘土塊：断面厚さ26mm以上 (図56-5、14、22、図57-1、2)

14は、表面が球状に丸みを帯びているもので、図55-14の土師質特殊遺物に類似しているが、本資料は、胎土、焼成が一般的な焼成粘土塊に近いので、土師質特殊遺物には含めなかったものである。図57-1は、カマドから出土したものであるが、明らかに他の一般的な焼成粘土塊と異なり、どこか粉っぽく、堅緻な焼成ではない。カマド構築土の焼土化したものと思われる。参考までにあえて本群に含め、焼成粘土塊として図示した。

(木村 高)

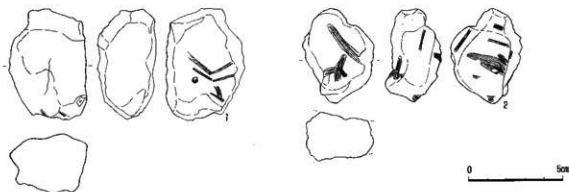


図57 焼成粘土塊-2

7 粘土塊 (図58)

1～4の全てを胎土分析している。詳細については観察表と第IX章第2節を参照。

第1群粘土塊：長さ×幅5cm前後 (図58-1・2)

1、2は、白色を呈し、1には植物の根による小孔が、2には指頭?による圧痕が2箇所みられる。2はやや歪むが立方体状で、極めて人為的な形状を示している。いずれも6 HR P02から出土したものである。

第2群粘土塊：長さ×幅7cm前後以上 (図58-3・4)

3、4は、黄褐色を呈す。3は、6HRP02の確認面中央に出土したもの(巻頭図版参照)で、人為的に安置されたものである。重量感が非常にあるものの、掌にちょうどる大きさである。4は粒子が少しざらつく砂質のもので、他のものとは明らかに異なった質の粘土である。また、植物性の繊維が微量混入している。(木村高)

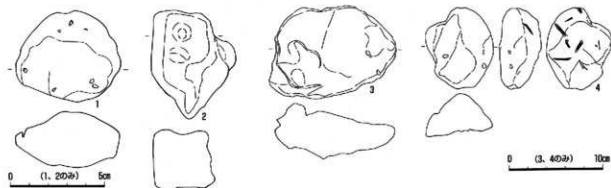


図58 粘土塊

8 須恵器窯壁片 (図59)

隠川(4)遺跡からは、第2群須恵器窯壁片が1点のみ出土した。

第2群須恵器窯壁片：焼土の付着がみられないもの (図59-1)

1は、4Hの4区床面に出土したもので、全面に還元を受けており、心材痕はみられない。一般的な窯壁片は、一面にしか還元面がみられないのに対し、本資料は、全面に還元を受けていることから、窯内において焼成中に崩落したものであろうと推定される。平坦面には須恵器片が溶着していることから上記のことが裏付けられる。全面還元を受けているため、よく焼き締まっており、法量の割には重量感がある。(木村高)

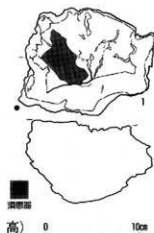


図59 窯壁片

9 石製品 (図60-61)

総数で8点の石製品が出土した^{III}。1、2、3Hから2点ずつ、遺構外からは1点である。

(註)3HP1からは土器を磨くための工具と考えられる石製品(写真5参照)が出土しているが、調査期間中に紛失した。

第1群石製品：玉類 (図60-1~3)

1、2は、孔を人為的に穿ち、外面調整を施しているものである。1は外面の腐蝕(溶解?)が著しく、状態は不良であるが、2は外面に成形痕が明瞭に観察される。3は、自然孔をそのまま利用し、外面調整を一切施さないものであるが、2Hの床構築土から出土していることから、自然遺物ではなく2H(7H)に伴うものと判断した。

第2群石製品：砥石 (図60-4~7・図61-3)

5、6は手に持って使うような小型のもので、2点とも砥面は4面で、1面のみ砥面の中央が溝状に窪んでいる。4、7は地面に置いて使うような大型のもので、砥面は4が4面、7が3面である。ただし7の主體的な砥面(広い砥面)は実測図に示された面の1面のみである。7の広い砥面の中央

は微妙に溝状に窪んでいる。4は、表表面とも傷状の擦痕が顕著に認められる。図61-3は、砥石とは言えないものであるが、本群において記載しておく。平坦な楕円形を呈す小礫の平坦部を一面かすかに磨っている。一時的な使用品と考えられる。

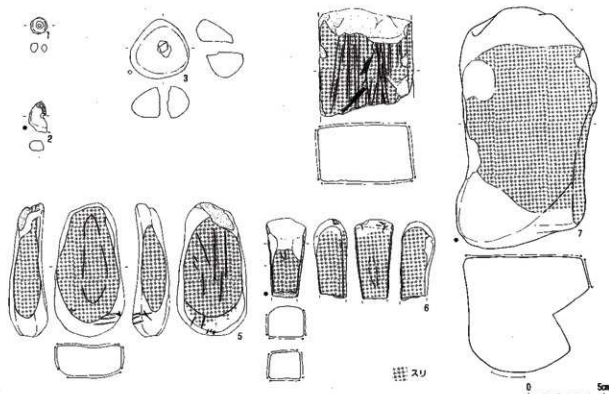


図60 石製品

第3群石製品：礫を直方体に成形しているもの（図61-1）

シルトを直方体に成形しているもので、「シルト礫」と呼称しておく。隠川(4)遺跡からは、1HS D03、1HS D01SK02、SE01などから出土している。隠川(12)遺跡の2Hカマドに状態の良いものが多数出土しているが、隠川(4)遺跡から出土したシルト礫は、いずれも破片ばかりであり、状態の良いものはほとんどない。ここでは状態の良い1点のみ図示した。1は、直方体の角部分の破片で、3面残存している。色調のベースは淡橙色で、赤い筋が縞状に入っている。非常に軟質で脆く、全面粉っぽい。図示資料以外のものの中には被熱痕の認められる資料も少なくないことから、隠川(12)遺跡の2Hの例も考え合わせると、カマドの構築部材として使用されていたものと推定される。

第4群石製品：自然礫であるが、使用された可能性の高いもの（図61-2・4-13）

2は、被熱して外面が大きく剥落しており、6には煤状炭化物が若干附着している。4、10の外面は極めて滑沢で、光沢を有す。5は、4HRP01の覆土中央下位に出土したもので、図示した面の中央は、僅かに円形に窪み、その外郭は自然のものと思われるが、やや赤味がかっている。12は、4Hの床面に出土したものである。長い三角形形状を呈しており、側面はやや風化している。図の上部を持って振ってみると、非常にバランスが良いものである。これら5と12は土器製作の作業に伴っていた可能性があるように思える。11は、SDX01-Aの底面から出土したほぼ方形を呈す礫で、平坦などころに置いてみてもぐらつきが少ないものである。作業用の台石であろうか。（木村 高）

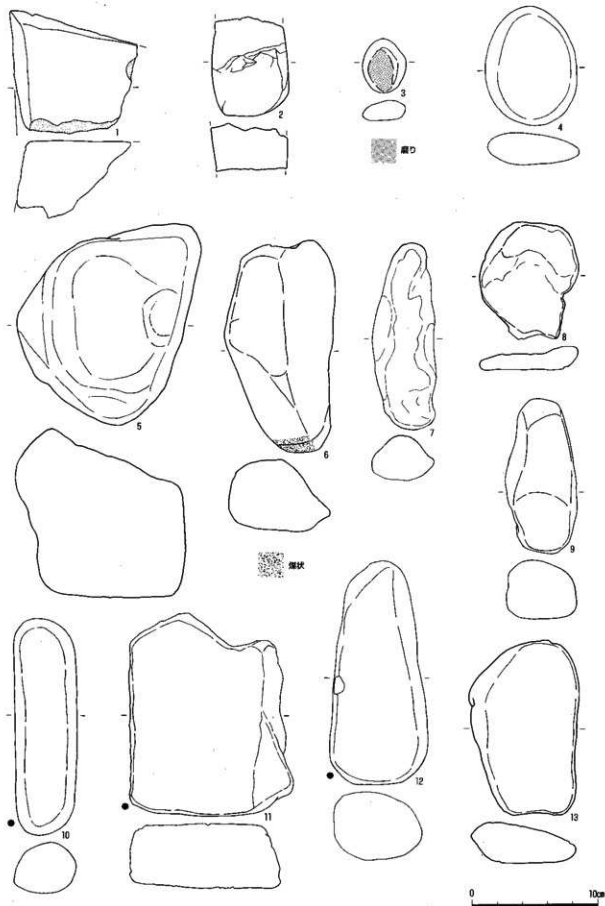


図61 殻

10 鉄製品 (図62-4、5)

鉄製品は総数でわずか2点のみの出土である。

第1群鉄製品：刀子 (図62-5)

5の刀子は4日カマドの付近、4区の床面に出土したものである。比較的状态は良いが、間は不明瞭である。木質部がわずかに残存している。

第2群鉄製品：用途不明 (図62-4)

4は、釘状のものがねじれたような形状を呈する。本来の形状であるものか、後に曲がったものか不明であるが、ほぼ直角に屈曲している点に注意される。

(木村 高)

11 鉄滓 (図62-1、2、3)

ここでは3点のみ図示した。椀形の鉄滓は出土していない。

1は、本遺跡から出土した鉄滓の中でも大型の部類に属すもので、表面にはやや錆がみられる。一部に流動した状態が観察される。2は、割れているもので、平坦面が形成されている。多くの気泡が認められ、錆の付着はあまりみられない。3は両端部が欠損する流動滓である。黒光りしていて、錆は一切みられない。

(木村 高)

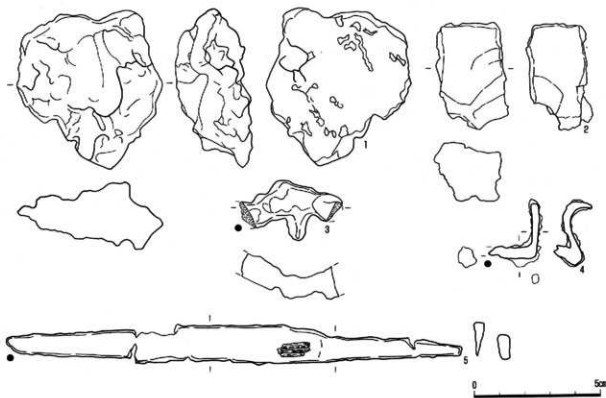


図62 鉄滓・鉄製品

12 木製品

井戸枠部材・製品・加工痕のある木の3種に分けられる。図64-4を除く全てがSE01から出土している。図示したもの以外にも資料はあるが、ここでは状態の良好なものに限って報告する。

第1群木製品：井戸枠部材 (図63)

これらは、SE01における平面的な出土位置の状況より判断して、井戸枠と認定したものである。板と棒を組み合わせて方形に組まれていたようである。本来的には遺構の一部であるが、木製品として記載する。1、2、3は板状、4は棒状を呈す。1、2は腐蝕が著しく、かなり変形しているが、3と4は非常に状態の良好なものである。図で言うところの1の上側縁、3の上側縁の方形の抉れは臍穴である可能性があるが、断定できない。3は長方形に成形されているもので、右側は欠損している。正面左側には釘穴状の小穴が2個みられるが、これも人為的なものかどうかは判断できない。4は断面形が不整であるものの、かなり直線的なものである。端部は欠損していないと思われる。

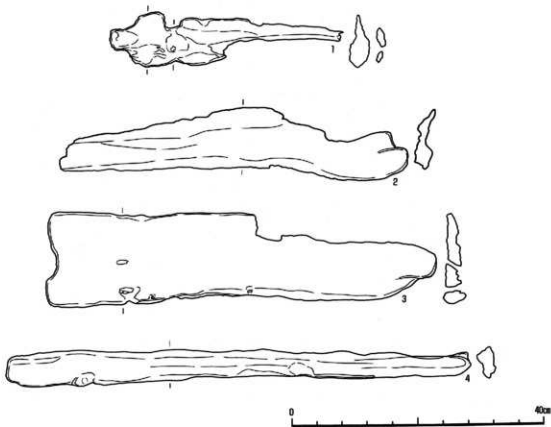


図63 井戸枠部材

第2群木製品：製品 (図64-2~5)

2は、曲物の底板であると思われる。側縁が弧状を呈す部分の断面形は四角張っているが、直線状

を呈す部分の側線の断面形はやや斜めである。3は、2と組み合わせられる薄板の一部かと想像されるものであるが、鉤屑状で非常に薄いことから、断定できない。5は、筋形を呈す板あるいは筒である。図は2つの破片を図上で合成しているため、本来の形状とはやや異なっている可能性もある。4は1HSD01SK02の覆土から出土した樹皮製品である。2枚のテープ状の樹皮で構成されており、「し」の字状に曲がっている部分に、コイル状の樹皮が入っている。なお、本資料が出土した1HSD01SK02の覆土には炭化した樹皮片が数点散在している。

第3群木製品：

加工痕のある木 (図64-1、6)

1は二股に分かれた自然木の表面に、刃物による削りが施されているものである。上端2箇所は欠損しているが、下端は削って丸められている。6は、縦割りした後に面取りを施しているもので、図の正面は面取りした部分。左右の側縁は樹皮に近い部分で、皮を剥がしただけの面であると思われる。(木村 高)

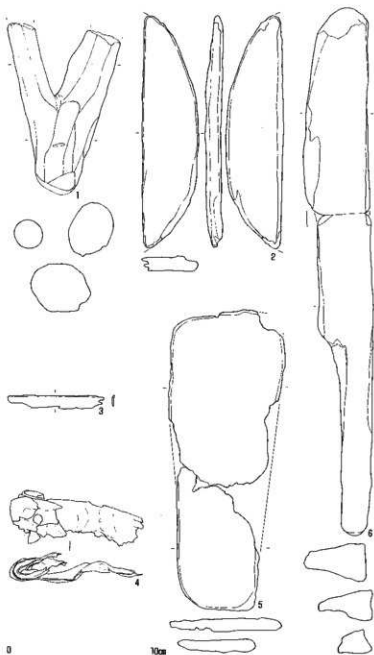


図64 木製品

第3節 縄文時代の検出遺構

1 土坑

検出した縄文時代の土坑は総数で10基である。これらの土坑は、調査区の南側に集中する傾向がある。確認面は全て第IV層の上面で、SK18の1層が人為的に形成された焼土層である他は、すべて自然堆積と推定されるものばかりである。平面形は円形、楕円形、不整楕円形、卵形、不整方形等がみられ、断面形は箱形、皿形、フラスコ形、逆台形の4種がみられる。(木村 高)

※本節においては、紙数の都合上、検出位置(グリッド)、規模、出土遺物等を一覧表にまとめて記載した。

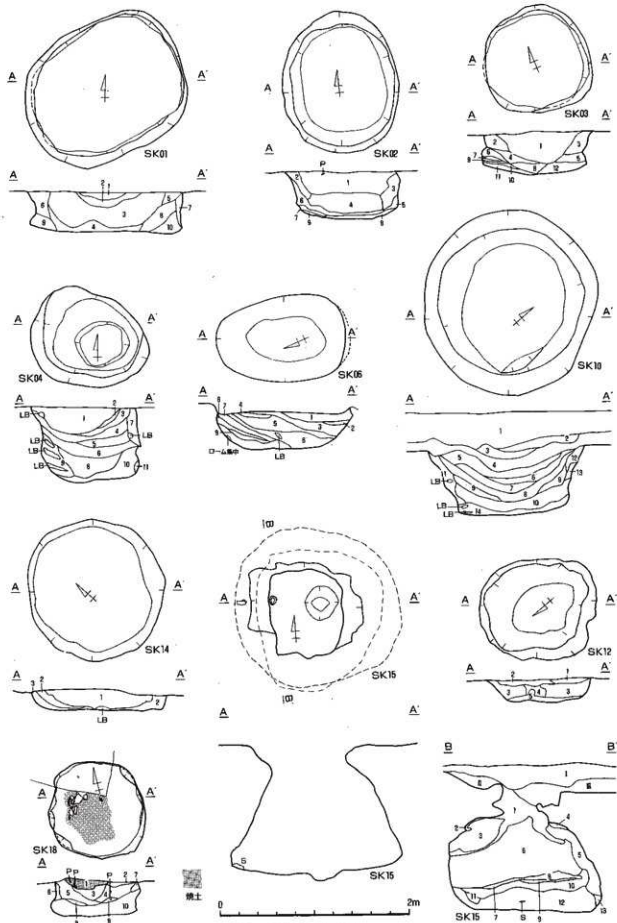


図65 土坑 (縄文時代)

表 土坑(縄文時代)観察表

土坑番号	検出位置	形	態	規模 (cm)	出土遺物・備考	
		平面形	断面形	長軸	短軸	深さ
SK01	L-110	楕円方形	箱形	176	144	26-46
SK02	K-110	楕円形	箱形	152	124	40-52
SK03	L-111	不整形	箱形	155	120	32-46
SK04	L-114	卵形	箱形	128	104	68-80
SK06	H-117	長卵形	皿形	144	92	30-40
SK10	G-113	円形	逆舟形	190	176	72-74
SK12	K-126	不整形円形	皿形	128	106	22-24
SK14	J/K-116	円形	箱形	148	148	14-22
SK15-溝口	K-127	不整形方形	フラスコ形	184	174	118-148
SK15-底面		円形		—	—	—
SK18	D/E-116	不整形円形	箱形	116	110	30-40

SK01

- 1層 黒褐色 10YR2/2 ローム状微砂質土。
- 2層 黒色 10YR2/2 V-MsO-A (F1-10a) 少量混入。
- 3層 黒褐色 10YR2/2 V-MsO-A (F1-10a) 少量、炭化物(F1-10a)少量混入。
- 4層 黒褐色 10YR2/2 V-MsO-A (F1-10a) 少量、炭化物(F1-10a)少量混入。
- 5層 褐色 10YR2/1 O-A(粘砂質土、炭化物(F1-10a)少量混入)。
- 6層 黒色 10YR2/1 O-A (F1-10a) 微砂質土。
- 7層 黒色 10YR2/1 O-A(粘砂質土)。
- 8層 褐色 10YR2/1 O-A (F1-10a) 微砂、炭化物(F1-10a)少量混入。
- 9層 黒色 10YR2/1 O-A (F1-10a) 微砂、ローム状中層混入。
- 10層 黒褐色 10YR2/3 O-A (F1-10a) 少量、ローム状少量混入。

SK02

- 1層 褐色 10YR2/1 V-O-A (F1-10a) 微砂混入。
- 2層 黒褐色 10YR2/1 V-O-A (F1-10a) 微砂混入。
- 3層 黒褐色 10YR2/1 V-O-A (F1-10a) 微砂混入。
- 4層 黒褐色 10YR2/1 V-O-A (F1-10a) 微砂混入。
- 5層 黒褐色 10YR2/2 V-O-A (F1-10a) 微砂混入。
- 6層 褐色 10YR2/2 V-O-A (F1-10a) 微砂混入。
- 7層 黒褐色 10YR2/3 V-O-A (F1-10a) 中量混入。
- 8層 黒色 10YR2/1 V-O-A (F1-10a) 微砂、W.M.R.微砂混入。
- 9層 褐色 10YR2/2 V-O-A (F1-10a) 微砂混入。
- 10層 黒褐色 10YR2/1 V-O-A (F1-10a) 微砂、ローム(F10a)1ブロック混入。
- 11層 褐色 10YR2/2 V-O-A (F1-10a) 微砂、ローム(F1-10a) 微砂混入。
- 12層 褐色 10YR2/1 V-O-A (F1-10a) 微砂混入。

SK06

- 1層 黒褐色 10YR2/2 V-O-A (F1-10a) 微砂混入。
- 2層 黒褐色 10YR2/2 V-O-A (F1-10a) 中量混入。
- 3層 黒褐色 10YR2/1 V-O-A (F1-10a) 微砂混入。
- 4層 黒褐色 10YR2/2 V-O-A (F1-10a) 微砂混入。
- 5層 褐色 10YR2/1 V-O-A (F1-10a) 微砂混入。
- 6層 黒褐色 10YR2/1 V-O-A (F1-10a) 少量混入。
- 7層 黒褐色 10YR2/1 V-O-A (F1-10a) 少量混入。
- 8層 褐色 10YR2/1 V-O-A (F1-10a) 微砂混入。
- 9層 黒褐色 10YR2/4 V-O-A (F1-10a) 微砂、炭化物(F1-10a)少量混入。
- 10層 黒褐色 10YR2/1 V-O-A (F1-10a) 微砂混入。

SK15

- 1層 土色・黄褐色 10YR6/3 V-O-A (F1-10a) 微少量、MsO-A (F1-10a) 微少量、炭化物(F1-10a)微量混入。
- 2層 土色・黄褐色 10YR6/3 黒褐色土とV-MsO-A、ローム状の混合土、MsO-A (F1-10a) 微量混入。
- 3層 黄褐色 10YR5/5 MsO-A土塊、V.M.R.土塊、粘土少量混入。
- 4層 褐色 10YR4/6 V-O-A (F1-10a) 少量、MsO-A (F1-10a) 微量混入、L.M.R.混入。
- 5層 褐色 10YR4/6 MsO-A土塊、MsO-A少量、粘土少量混入。
- 6層 褐色 10YR4/6 MsO-A土塊、V.M.R.土塊、粘土少量混入、V.O-A土塊少量混入。
- 7層 褐色 10YR2/2 MsO-A土塊の割合が少量混入。
- 8層 褐色 10YR1/4 MsO-A土塊の割合が少量混入、V.O-A (F1-10a) 微量、炭化物土塊少量混入。
- 9層 褐色 10YR2/3 MsO-A土塊の割合が少量混入、炭化物土塊少量混入。
- 10層 褐色 10YR4/6 MsO-A土塊、V.M.R.土塊、V.O-A (F1-10a) 少量混入。
- 11層 土色・黄褐色 10YR4/6 MsO-A、粘土少量混入、炭化物。
- 12層 褐色 10YR4/6 MsO-A土塊、炭化物土塊少量混入。
- 13層 褐色 10YR4/6 MsO-A土塊、炭化物土塊。

SK18

- 1層 褐色 10YR2/1 V-O-A (F1-10a) 微砂混入。
- 2層 褐色 10YR2/1 V-O-A (F1-10a) 微砂混入。
- 3層 黒褐色 10YR2/1 MsO-A (F2-10a) 微砂混入。
- 4層 黒褐色 10YR2/2 V (1部MsO-A (F1-10a)) 少量混入。
- 5層 褐色 10YR2/1 O-A(粘砂質土)。
- 6層 褐色 10YR2/1 V-O-A (F1-10a) 微砂少量混入。
- 7層 褐色 10YR2/3 V-O-A (F1-10a) 少量、MsO-A (F1-10a) 少量混入。
- 8層 黒褐色 10YR2/2 V MsO-A (F1-10a) 少量混入。
- 9層 黒褐色 10YR2/2 V-O-A (F1-10a) 微砂混入。

SK10

- 1層 褐色 10YR2/1 O-A(粘砂質土、炭化物粘砂質土、粘土少量混入)。
- 2層 褐色 10YR1/1 O-A(粘砂質土、炭化物粘砂質土)。
- 3層 黒褐色 10YR2/1 O-A(粘砂質土、炭化物粘砂質土)。
- 4層 褐色 10YR1/1 O-A(粘砂質土、炭化物(F1-10a)微量混入)。
- 5層 褐色 10YR1/1 O-A(粘砂質土、炭化物(F1-10a)微量混入)。
- 6層 褐色 10YR1/1 V-O-A (F1-10a) 微砂、炭化物粘砂質土混入。
- 7層 褐色 10YR2/1 V-O-A (F1-10a) 微砂混入。
- 8層 褐色 10YR2/1 V-O-A (F1-10a) 微少量、MsO-A (F1-10a) 微量混入、L.M.R.混入。
- 9層 褐色 10YR2/1 V-O-A (F1-10a) 微砂、炭化物粘砂質土混入、L.M.R.混入。
- 10層 黒褐色 10YR1/1 V-O-A (F1-10a) 微砂混入、L.M.R.混入。
- 11層 褐色 10YR1/1 V-O-A (F1-10a) 少量混入。
- 12層 褐色 10YR2/1 V-O-A (F1-10a) 微砂混入。
- 13層 褐色 10YR2/2 V-O-A (F1-10a) 少量混入。
- 14層 褐色 10YR2/2 V-O-A (F1-10a) 微少量混入。

SK08

- 1層 褐色 10YR2/4 塊土。
- 2層 黒褐色 10YR2/2 O-A(粘砂質土、炭化物(F1-10a)微量混入)。
- 3層 黒褐色 10YR2/2 V-O-A (F1-10a) 微砂、炭化物(F1-10a)少量混入、炭化物少量混入。
- 4層 褐色 10YR2/1 V-O-A (F1-10a) 微砂、炭化物(F1-10a)微量混入、上部に粘土少量混入。
- 5層 褐色 10YR2/1 O-A(粘砂質土、炭化物(F1-10a)少量、粘土少量混入)。
- 6層 黒褐色 10YR2/3 V-O-A (F1-10a) 微砂混入。
- 7層 褐色 10YR2/3 O-A(粘砂質土、炭化物粘砂質土)。
- 8層 黒褐色 10YR2/2 V-O-A (F1-10a) 微砂、炭化物粘砂質土混入。
- 9層 黒褐色 10YR2/1 O-A(粘砂質土、炭化物(F1-10a)少量混入)。
- 10層 褐色 10YR2/3 V-O-A (F1-10a) 少量、炭化物(F1-10a)少量混入、炭化物粘砂質土混入。

SK12

- 1層 褐色 10YR2/3 V-O-A (F1-10a) 微砂、炭化物(F1-10a)微量混入。
- 2層 褐色 10YR2/2 V-O-A (F1-10a) 微砂混入。
- 3層 褐色 10YR2/4 V-O-A (F1-10a) 中量、O-A(粘砂質土、炭化物(F1-10a)微量混入)。
- 4層 褐色 10YR2/2 V-O-A (F1-10a) 微砂、炭化物粘砂質土混入。
- 5層 黒褐色 10YR2/2 V-O-A (F1-10a) 少量混入。

SKM

- 1層 褐色 10YR5/5 V-O-A、ところどころ粘土質V-O-A混入。
- 2層 黒褐色 10YR2/2 V-O-A (F1-10a) 少量混入。
- 3層 褐色 10YR2/1 V-O-A (F1-10a) 少量混入。

SK24

- 1層 褐色 10YR2/1 V-O-A (F1-10a) 微砂混入。
- 2層 褐色 10YR2/2 V-O-A (F1-10a) 微砂混入。
- 3層 黒褐色 10YR2/1 V-O-A (F1-10a) 微砂混入。
- 4層 黒褐色 10YR2/2 V-O-A (F1-10a) 微少量混入。
- 5層 褐色 10YR2/3 V-O-A (F1-10a) 少量混入。
- 6層 黒褐色 10YR2/1 V-O-A (F1-10a) 微少量混入。
- 7層 褐色 10YR2/1 V-O-A (F1-10a) 少量混入。
- 8層 黒褐色 10YR2/2 V-O-A (F1-10a) 中量混入、L.M.R.混入。
- 9層 褐色 10YR2/3 O-A (F1-10a) 少量混入。
- 10層 褐色 10YR2/2 V-O-A (F1-10a) 少量混入。
- 11層 土色・黄褐色 10YR5/3 MsO-A、炭化物土塊少量混入。
- 12層 土色・黄褐色 10YR4/6 MsO-A (F1-10a) 中量混入、L.M.R.混入。

第4節 縄文時代の出土遺物

1 土器

遺構内・外出土の破片はおよそダンボール1箱分で、グリッドE-100-G-104に分布する傾向が認められる。

第I群土器(図66-1~3)

1~3は同一個体と思われる。沈線は押し引き状の沈線と普通の沈線を使い分けている。すべて口縁部下の胴部屈曲部の破片である。文様は、沈線文・貝殻腹線文等の組み合わせによる幾何学的文様を構成すると思われ、沈線間に貝殻腹線文を充填している箇所も見られる。物見台式並行と思われる。

第II群土器(図66-4・6・10)

口縁部の文様帯は、4と10はLR、6はRLの側面圧痕で、4と10は口唇部にも連続的な燃糸圧痕を施している。胴部文様はいづれも燃糸文である。胎土はやや粗く、繊維の混入が顕著である。いづれも円筒下層d式と思われる。

第III群土器(図66-5・11・16)

5と11は幅約5mmの燃糸圧痕の施された隆帯上に深さ約3mmの燃糸圧痕を施している。11は弁状突起を有する波状口縁であり、突起のおおよそ中心が楕円形状に穿孔され、貼瘤も見受けられる。16は隆帯が細く、貼り付けも弱いものである。いづれも円筒上層c式と思われる。

第IV群土器(図66-7~9、12~15、17~24)

おおよそ後期初頭から十腰内II式である。磨消縄文のもの(7・8・12・14・15・17~19)、無文地に沈線を施すもの(9・22~24)などに分けられる。7・8は同一個体と思われ、波頂部から垂下する貼り付けと刺突を特徴とする。沖附(2)平行と思われる。12は胎土に砂粒をそれほど含まず、磨消部分の調整がしっかりとなされず、地文の縄文が残存している。色調は黄橙色を呈する。14は炭化物の付着が顕著である。15は沈線が細く、内面・磨消部分とも平滑に調整されている。17~19は同じ文様意匠だが、地文の縄文が17・18がLRで19がRLである。17・18は同一個体か。22・23は沈線の様子から沈線施文後にも器面の調整を行った可能性がある。24は粘土紐を貼り付けており、壺の頸・肩部である。13は折り返し状の肥厚した口縁部で、地文の縄文はやや粗いものである。後期初頭に位置づけられると思われる。

第V群土器(図66-25~31)

おおよそ大洞BC-C1式のものである。25は沈線間を磨消し、内面をミガキにより平滑に仕上げている。三叉文の一部とみられる文様も見受けられる。26は沈線施文後の器面調整により器面が波状を呈した文様意匠である。27は連続的な刻みと平行沈線を特徴とする。色調は灰黄色で、口唇部を欠損する。

第VI群土器(図66-32~43)

34・35は同一個体と思われ、多輪絡条体を施している。前期後葉のものか。43は口縁部を横に、胴部を縦に平滑に調整している。40は口縁端部を外反させ、やや波状口縁を呈する。口縁部は磨消である。41・42は沈線を施すが、41は沈線が浅く、不安定なものである。42は器厚の約半分まで沈線の深さが及ぶ。

(三林 健一)

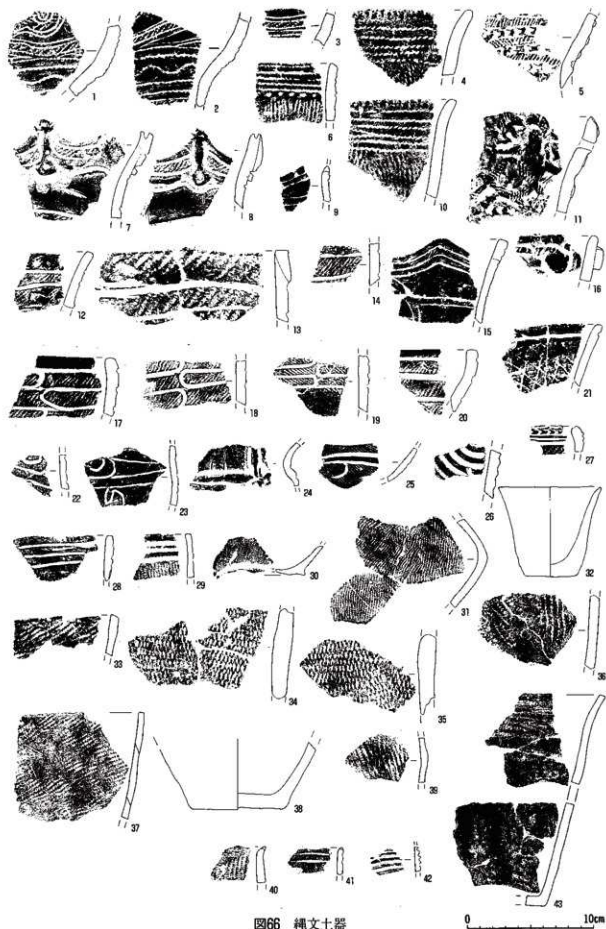


图66 绳文土器

2 石器 (図67-69)

石器は、土器との共存関係が極めて希薄であるため、土器型式毎の記載は行い得ないが、他遺跡で出土している資料との大まかな比較では、縄文時代のものが主体的であると推定される。

注目すべきものとしては、黒曜石の剥片があげられる。1 H付近の第Ⅲ層～第Ⅳa層から出土しているもので、うち32点を掲載した。

※本報告ではいわゆる定形石器は全点掲載した。また、参考までに自然礫も2点掲載した。

第1群石器：石鏃 (図67-1～4) 基部に注目すると、凹基(1)、尖基(2、3)、有茎(Y基)(4)の3種類みられる。いずれも珪質頁岩を素材とする。

第2群石器：スクレイパー類 (図67-5～8)

5は、つまみを有すいわゆる石匙で、横型である。6は、上部が欠損しているため全体の形状は不明であるが、縦型石匙である可能性がある。7も大きく欠損しているため全体の形状は不明であるが、残存部の側縁には調整刻離が全周している。8は側縁の2箇所に調整刻離が施されている。6～8は主要刻離面を大きく残す。

第3群石器：使用痕の認められない剥片・碎片 (図68-69-8)

これらは1 H付近の、GH-109グリッド第Ⅲ層～第Ⅳa層からまとまった範囲内に出土したものである。図示していないが、碎片もわずかに出土している。母岩は数種に限られることから、石器製作の際に生じた剥片であると思われる⁽⁹⁾。石質を大別すると、黒曜石を素材にしたものと珪質頁岩を素材にしたものの2種類みられる。黒曜石には、非常に透明度の高いもの～低いもの、そして赤色の筋が混入するいわゆる花十勝と呼ばれるもの等がみられるが、気泡を含むものは全くみられない。一方の珪質頁岩は、大半が灰白色を呈すもので、若干茶褐色のものも含まれている。母岩識別や接合

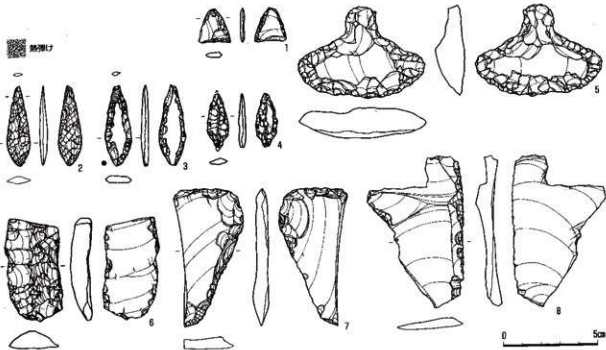


図67 石器-1

臨川(4)遺跡



圖68 石器-2

作業は行ってないため、石質に関してこれ以上述べることはできないが、図68-18の側縁には調整剥離が施されており、石鏃の未製品（失敗品）と推定されるものである。出土地点の分布図を検討して、高率で接合するようであれば、これら剥片が出土した範囲は石器製作跡として認定できよう。

(註) 出土地点の分布図は、紙数の関係上、今回は割愛した。いずれ機会を見て報告したいと考えている。

第7群石器：敲打痕のある礫（図69-9）

1点出土した。平坦面の中央付近を蔽っているものである。SK03の覆土から出土している。

(木村 高)

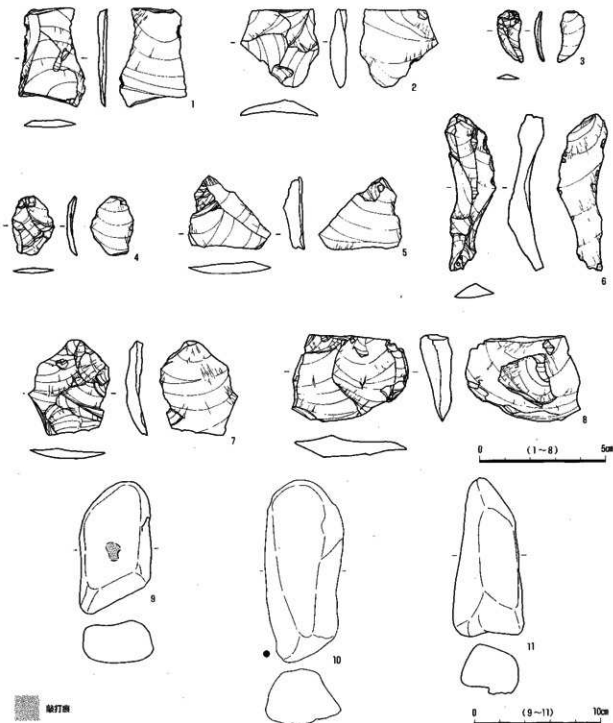


図69 石器-3

第5節 弥生時代の出土遺物

1 土器 (図70)

第2群弥生土器：前期後半の土器 (1-3)

ほぼ2期弥生土器に相当するものである。1、2は、変形工字文を施した鉢で、1は浅鉢あるいは台付浅鉢(高坏)であろうと考えられる。3は沈線とD字状の彫刻的な刺突が組み合わされるもので、台付鉢の台部と思われる。1の変形工字文は、狭い文様帯の中に圧縮されるように施され、また、付される粘土層は非常に薄く、小型である。1、2は内面口縁部直下に横走沈線が3条巡る。1の縄文は単節RLである。1の資料は、砂沢式平行とするには沈線幅が細すぎ、また粘土層も小さいことから、五所式平行あるいは、砂沢式から五所式の推移期に属するものと考えておきたい。

第3群弥生土器：中期後葉の土器 (4-14)

ほぼ5期弥生土器に相当するものである。4は沈線と斜位の刺突が組み合わされるものである。小型の鉢かと思われるが、拓影図の上下を逆にして、壺の頸~肩部に相当する可能性もある。5は、鉢と思われ、底部付近に丸みを帯びた鋸歯文(波状文)が施されている。6は無文の甕であり、口唇部には連続刻目が施され、外面に横ケズリ、内面には横ナデが観察される。7は、やや軟質の焼成である。屈曲部内面には稜線が明瞭に観察される。8の甕の口唇部には、外面に施されているRL縄文と同じ縄文が施文されている。10-14は同一個体と思われ、恐らくは小型の壺である。横走沈線、連弧文、歪んだ鋸歯文、レンズ状文を複雑に組み合わせている。縄文は磨消で、単節RLである。沈線文は、頸部から肩部にかけて集中するようで、9はそれらの体部下半の可能性もある。これら4-14の資料が同一時期のものか否かは判断できないが、6-8の甕の、明瞭に外反する形態よりみて、これら3点は同一時期に存在している可能性はあると思われる。また、9-14の壺と5の鉢には崩れた鋸歯文がみられることから、これらもほぼ同一時期のものである可能性が高い。(木村 高)

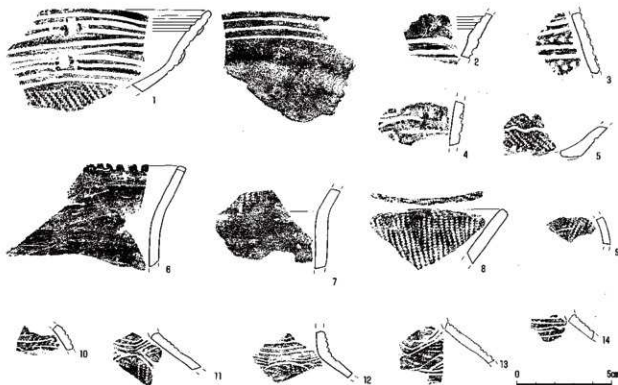


図70 弥生土器

第6節 近世以降の出土遺物 (図71)

1 陶磁器 (1,3,5,6) 3と6は陶器で、肥前の播鉢である。6は鉄釉が全面に施釉されており、3は無釉である。時期はともに肥前(5)期と考えられる。5も陶器で、卸目が密に施された産地・時期の不明な播鉢である。鉄釉は全面施釉と考えられる。1は磁器で、肥前系(6)期の染付皿である。

2 瓦質土器 (2,4) 2は焜炉の口縁～胴部下半までの大型破片である。外面は吸炭によって黒光りしているのに対し、内面には付着物が無く、がさついている。4は、2と同一個体かどうか判断できないが、同じく焜炉の底部片であると考えられる。

3 銅製品(7) 1点出土した。7の寛永通宝は破片で、古寛永か新寛永かは不明である。

4 土製品(8,9) 8,9ともに型打ち成形で、8は碁石状、9は鳩の人形あるいは笛であると思われる。

(木村 高)

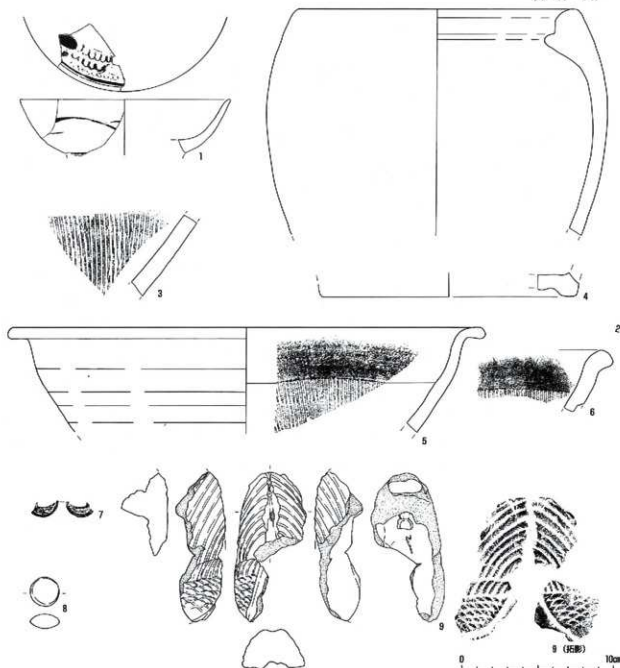


図71 近世以降の出土遺物

土器器・須臾器

図番	器名	出所	位置	形状	寸法	重量	土質	表面	内面	底面	備考	
35	須臾器	1H	S003	須臾器	105-11	52	50	32	09	09	092	ヘラ書き
36	2須臾器	6H	R002	須臾器	09-13R	42	31	09	092	09	091	ヘラ書き
37	3須臾器	1H	S001S001	須臾器	11-17	44	56	37	09	092	09	ヘラ書き
38	4須臾器	1H	S001S001	須臾器	11-17R	38	50	44	45	09	092	ヘラ書き
39	5須臾器	1H	S001	須臾器	09-12	32	40	24	09	092	09	ヘラ書き
40	6須臾器	1H	S001	須臾器	09-13	40	48	34	09	092	09	ヘラ書き
41	7須臾器	1H	S001	須臾器	09-14	40	48	34	09	092	09	ヘラ書き
42	8須臾器	1H	S003	須臾器	10-11	44	44	34	09	092	09	ヘラ書き
43	9須臾器	1H	S001S001	須臾器	10-11	44	44	34	09	092	09	ヘラ書き
44	10須臾器	1H	S001	須臾器	09-13	38	53	39	09	092	09	ヘラ書き
45	11須臾器	3H	(R17)	須臾器	09-14	32	47	50	57	09	092	ヘラ書き
46	12須臾器	1H	S001S001	須臾器	10-13R	31	55	44	09	092	09	ヘラ書き
47	13須臾器	1H	S001S001	須臾器	10-13	31	55	44	09	092	09	ヘラ書き
48	14須臾器	6H	―	須臾器	09-13R	28	47	48	19	09	092	ヘラ書き
49	15須臾器	1H	S001S001	須臾器	10-14R	36	54	50	29	09	092	ヘラ書き
50	16須臾器	1H	S001	須臾器	10-12R	28	49	52	49	09	092	ヘラ書き
51	17須臾器	1H	S001	須臾器	10-11R	30	44	50	2	09	092	ヘラ書き
52	18須臾器	1H	S001	須臾器	09-14	24	(53)	48	39	09	092	ヘラ書き
53	19須臾器	SE01	―	須臾器	09-15	36	―	11	09	092	―	ヘラ書き
54	20須臾器	1H	S001	須臾器	11	28	―	63	09	092	―	ヘラ書き
55	21須臾器	1H	―	須臾器	09-13	50	52	60	16	09	092	ヘラ書き
56	22須臾器	SK16	―	須臾器	09-3	34	―	19	09	092	―	ヘラ書き
57	23須臾器	4H	―	須臾器	10-4	24	―	30	09	092	―	ヘラ書き
58	24須臾器	1H	―	須臾器	10-4	24	―	30	09	092	―	ヘラ書き
59	25須臾器	1H	S001S001	須臾器	10-4	24	―	30	09	092	―	ヘラ書き
60	26須臾器	2H	―	須臾器	10-7	155	―	15	09	092	―	ヘラ書き
61	27須臾器	1H	S001	須臾器	10-14	143	―	16	09	092	―	ヘラ書き
62	28須臾器	1H	S001	須臾器	11	120	―	23	09	092	―	ヘラ書き
63	29須臾器	4H	―	須臾器	10-3	30	―	9	09	092	―	ヘラ書き
64	30須臾器	2H	―	須臾器	10-7	136	―	8	09	092	―	ヘラ書き
65	31須臾器	1H	S001S001	須臾器	11-13	32	―	35	09	092	―	ヘラ書き
66	32須臾器	SK16	―	須臾器	09-3	34	55	52	9	09	092	ヘラ書き
67	33須臾器	SE01	―	須臾器	09-4	37	59	61	64	09	092	ヘラ書き
68	34須臾器	1H	S002	須臾器	09-3	26	40	28	29	09	092	ヘラ書き
69	35須臾器	1H	―	須臾器	09-3	32	―	19	09	092	―	ヘラ書き
70	36須臾器	SK16	―	須臾器	10-8	128	―	13	09	092	―	ヘラ書き
71	37須臾器	1H	―	須臾器	10-8	128	―	13	09	092	―	ヘラ書き
72	38須臾器	1H	S001S001	須臾器	10-10	30	60	56	38	09	092	ヘラ書き
73	39須臾器	1H	S001S001	須臾器	10-11	33	57	54	25	09	092	ヘラ書き
74	40須臾器	4H	(P13)	須臾器	10-12R	56	63	62	24	09	092	ヘラ書き
75	41須臾器	2H	―	須臾器	10-12	32	49	51	31	09	092	ヘラ書き
76	42須臾器	1H	S001S001	須臾器	10-7	138	―	45	09	092	―	ヘラ書き
77	43須臾器	1H	S001S001	須臾器	10-11	143	52	55	28	09	092	ヘラ書き
78	44須臾器	1H	S001S001	須臾器	10-11	143	52	55	28	09	092	ヘラ書き
79	45須臾器	1H	―	須臾器	10-10	34	57	59	23	09	092	ヘラ書き
80	46須臾器	1H	―	須臾器	10-10	34	57	59	23	09	092	ヘラ書き
81	47須臾器	1H	S001S001	須臾器	10-12R	38	47	54	31	09	092	ヘラ書き
82	48須臾器	1H	S001S001	須臾器	10-12R	38	47	54	31	09	092	ヘラ書き
83	49須臾器	1H	S001	須臾器	10-3	39	54	59	25	09	092	ヘラ書き
84	50須臾器	1H	S001	須臾器	09-7R	43	50	39	09	092	ヘラ書き	
85	51須臾器	1H	S001	須臾器	09-7R	43	50	39	09	092	ヘラ書き	
86	52須臾器	5H	(R17)	須臾器	10-14	36	56	58	18	09	092	ヘラ書き
87	53須臾器	1H	―	須臾器	10-14	36	56	58	18	09	092	ヘラ書き
88	54須臾器	1H	―	須臾器	10-14	36	56	58	18	09	092	ヘラ書き

土器器・須器器

図番	器種	品類	形状	部位	ヤマト	許容値(%)	内面調整	外面調整	底面調整	調整項目	調整率	その他の特徴(備考)	調整率
51-1	土器器	須器器	環	口縁	F-102	14	-	-	D92	1	1	ヘラ磨き	3.7
51-2	土器器	須器器	環	口縁	F-102	14	-	-	D92	1	1	ヘラ磨き	3.7
51-3	土器器	須器器	環	口縁	F-102	14	-	-	D92	1	1	ヘラ磨き	3.7
51-4	土器器	須器器	環	口縁	F-102	14	-	-	D92	1	1	ヘラ磨き	3.7
51-5	土器器	須器器	環	口縁	F-102	14	-	-	D92	1	1	ヘラ磨き	3.7
51-6	土器器	須器器	環	口縁	F-102	14	-	-	D92	1	1	ヘラ磨き	3.7
51-7	土器器	須器器	環	口縁	F-102	14	-	-	D92	1	1	ヘラ磨き	3.7
51-8	土器器	須器器	環	口縁	F-102	14	-	-	D92	1	1	ヘラ磨き	3.7
51-9	土器器	須器器	環	口縁	F-102	14	-	-	D92	1	1	ヘラ磨き	3.7
51-10	土器器	須器器	環	口縁	F-102	14	-	-	D92	1	1	ヘラ磨き	3.7
51-11	土器器	須器器	環	口縁	F-102	14	-	-	D92	1	1	ヘラ磨き	3.7
51-12	土器器	須器器	環	口縁	F-102	14	-	-	D92	1	1	ヘラ磨き	3.7
51-13	土器器	須器器	環	口縁	F-102	14	-	-	D92	1	1	ヘラ磨き	3.7
51-14	土器器	須器器	環	口縁	F-102	14	-	-	D92	1	1	ヘラ磨き	3.7
51-15	土器器	須器器	環	口縁	F-102	14	-	-	D92	1	1	ヘラ磨き	3.7
51-16	土器器	須器器	環	口縁	F-102	14	-	-	D92	1	1	ヘラ磨き	3.7
51-17	土器器	須器器	環	口縁	F-102	14	-	-	D92	1	1	ヘラ磨き	3.7
51-18	土器器	須器器	環	口縁	F-102	14	-	-	D92	1	1	ヘラ磨き	3.7
51-19	土器器	須器器	環	口縁	F-102	14	-	-	D92	1	1	ヘラ磨き	3.7
51-20	土器器	須器器	環	口縁	F-102	14	-	-	D92	1	1	ヘラ磨き	3.7
51-21	土器器	須器器	環	口縁	F-102	14	-	-	D92	1	1	ヘラ磨き	3.7
51-22	土器器	須器器	環	口縁	F-102	14	-	-	D92	1	1	ヘラ磨き	3.7
51-23	土器器	須器器	環	口縁	F-102	14	-	-	D92	1	1	ヘラ磨き	3.7
51-24	土器器	須器器	環	口縁	F-102	14	-	-	D92	1	1	ヘラ磨き	3.7

ミニチュエ土器

図番	器種	品類	形状	部位	ヤマト	許容値(%)	内面調整	外面調整	底面調整	調整項目	調整率	その他の特徴(備考)	調整率
52-01	土器器	須器器	環	口縁	F-103	14	-	-	D92	1	1	ヘラ磨き	10
52-02	土器器	須器器	環	口縁	F-103	14	-	-	D92	1	1	ヘラ磨き	10
52-03	土器器	須器器	環	口縁	F-103	14	-	-	D92	1	1	ヘラ磨き	10
52-04	土器器	須器器	環	口縁	F-103	14	-	-	D92	1	1	ヘラ磨き	10
52-05	土器器	須器器	環	口縁	F-103	14	-	-	D92	1	1	ヘラ磨き	10
52-06	土器器	須器器	環	口縁	F-103	14	-	-	D92	1	1	ヘラ磨き	10
52-07	土器器	須器器	環	口縁	F-103	14	-	-	D92	1	1	ヘラ磨き	10
52-08	土器器	須器器	環	口縁	F-103	14	-	-	D92	1	1	ヘラ磨き	10
52-09	土器器	須器器	環	口縁	F-103	14	-	-	D92	1	1	ヘラ磨き	10
52-10	土器器	須器器	環	口縁	F-103	14	-	-	D92	1	1	ヘラ磨き	10
52-11	土器器	須器器	環	口縁	F-103	14	-	-	D92	1	1	ヘラ磨き	10
52-12	土器器	須器器	環	口縁	F-103	14	-	-	D92	1	1	ヘラ磨き	10
52-13	土器器	須器器	環	口縁	F-103	14	-	-	D92	1	1	ヘラ磨き	10
52-14	土器器	須器器	環	口縁	F-103	14	-	-	D92	1	1	ヘラ磨き	10
52-15	土器器	須器器	環	口縁	F-103	14	-	-	D92	1	1	ヘラ磨き	10
52-16	土器器	須器器	環	口縁	F-103	14	-	-	D92	1	1	ヘラ磨き	10
52-17	土器器	須器器	環	口縁	F-103	14	-	-	D92	1	1	ヘラ磨き	10
52-18	土器器	須器器	環	口縁	F-103	14	-	-	D92	1	1	ヘラ磨き	10
52-19	土器器	須器器	環	口縁	F-103	14	-	-	D92	1	1	ヘラ磨き	10
52-20	土器器	須器器	環	口縁	F-103	14	-	-	D92	1	1	ヘラ磨き	10
52-21	土器器	須器器	環	口縁	F-103	14	-	-	D92	1	1	ヘラ磨き	10
52-22	土器器	須器器	環	口縁	F-103	14	-	-	D92	1	1	ヘラ磨き	10
52-23	土器器	須器器	環	口縁	F-103	14	-	-	D92	1	1	ヘラ磨き	10
52-24	土器器	須器器	環	口縁	F-103	14	-	-	D92	1	1	ヘラ磨き	10

ニニチュア土器

図番	器名	形状	類別	外周線	内周線	底面	口径	底径	高さ	重量	土質	出所	層位	
52.24	SK17	6-08-1	土師器	ツツクね	ツツクね	4.3R/A	2.0	2.4	14	2.0	不詳	4	15	
52.25	遺跡外	6-02	土師器	ケスね	ケスね	10R/A/口縁	19.5	(44)	(45)			0	30	
52.26	目	6-08-4	土師器	ケスね	ケスね	5R/S/口縁	12.7	(9)	(38)	4.1	1	23		
52.27	HS001P101	6-09-6	土師器	ケスね	ケスね	10R/S/口縁	5.1	(48)	(20)			7	102	
52.28	目	6-09-8	土師器	ケスね	ケスね	10R/S/口縁	28.8	37	36	3.3	1	101	05	
52.29	遺跡外	6-12	土師器	ケスね	ケスね	10R/A/口縁	5.0	(20)	(32)			5	20	
52.30	HS001	6-12-12	土師器	ケスね	ケスね	5R/S/6-31A, 光沢有り	2.6	(30)	(14)			6	64	
52.31	SK16	6-09-1	土師器	ケスね	ケスね	5R/S/6-31A	3.4	(18)	(22)			6	195	
52.32	SK17	6-09-1	土師器	ケスね	ケスね	10R/S/口縁	0.1	(17)	(3)			4	18	
52.33	SK17	6-09-1	土師器	ケスね	ケスね	10R/S/口縁	2.8	(18)	(17)			8	72	
52.34	遺跡外	6-04	土師器	ケスね	ケスね	10R/S/口縁	5.8	(40)	(31)			11	33	
52.35	HS001	6-10-7	土師器	ケスね	ケスね	10R/S/口縁	5.0	(35)	(18)			3	104	
52.36	目	6-08-1	土師器	ケスね	ケスね	5R/S/口縁	1.4	(30)	(13)			3	21	
52.37	SK17	6-08-1	土師器	ケスね	ケスね	5R/S/口縁	3.4	(25)	(13)			3	74	
52.38	目	6-08-1	土師器	ケスね	ケスね	5R/S/口縁	4.6	(38)	(26)			2	85	
52.39	HS001SK02	6-10-3	土師器	ケスね	ケスね	10R/A/口縁	8.5	(32)	(47)			2	24	
52.40	遺跡外	6-04	土師器	不明	不明	10R/A/口縁	18.3	(32)	(44)			10	84	
52.41	SK17	6-08-1	土師器	ケスね	ケスね	10R/A/口縁	0.3	(23)	(11)			3	73	
52.43	HS001SK02	6-10-3	土師器	ケスね	ケスね	10R/A/口縁	1.0	(25)	(11)			不詳	3	80
52.44	遺跡外	6-12	土師器	ケスね	ケスね	10R/A/口縁	5.3	(22)	(26)			13	28	
52.45	SK17	6-08-1	土師器	ケスね	ケスね	5R/S/口縁	8.6	(30)	(25)			1	70	
52.46	SK17	6-08-1	土師器	ケスね	ケスね	5R/S/口縁	5.1	(16)	(47)			6	71	
52.47	HS001	6-10-7	土師器	ケスね	ケスね	10R/A/口縁	4.3	(28)	(15)			8	66	
52.48	遺跡外	6-03	土師器	ケスね	ケスね	5R/S/6	2.4	(23)	(12)			7	67	
52.49	HS001SK02	6-10-7	土師器	ケスね	ケスね	5R/S/6	7.5	33	13			不詳	6	105
52.50	HS001	6-09-5	土師器	ケスね	ケスね	5R/S/6	4.3	(24)	(10)			23	6	
52.51	目	6-13-6	土師器	ツツクね	ツツクね	10R/S/6-31A, 底面直上	5.8	(30)	(28)			24	32	
52.52	遺跡外	6-13	土師器	ツツクね	ツツクね	10R/S/6-31A, 底面	11.1	(35)	(18)			31	5	

土製品

図番	器名	形状	類別	外周線	内周線	底面	口径	底径	高さ	重量	土質	出所	層位	
53.1	SK17	6-08-1	土師器	ツツクね	ツツクね	4.3R/A	2.0	2.4	14	2.0	不詳	4	15	
53.2	目	6-02	土師器	ケスね	ケスね	10R/A/口縁	19.5	(44)	(45)			0	30	
53.3	目	6-08-4	土師器	ケスね	ケスね	5R/S/口縁	12.7	(9)	(38)	4.1	1	23		
53.4	HS001P101	6-09-6	土師器	ケスね	ケスね	10R/S/口縁	5.1	(48)	(20)			7	102	
53.5	目	6-09-8	土師器	ケスね	ケスね	10R/S/口縁	28.8	37	36	3.3	1	101	05	
53.6	遺跡外	6-12	土師器	ケスね	ケスね	10R/A/口縁	5.0	(20)	(32)			5	20	
53.7	HS001	6-12-12	土師器	ケスね	ケスね	5R/S/6-31A, 光沢有り	2.6	(30)	(14)			6	64	
53.8	SK16	6-09-1	土師器	ケスね	ケスね	5R/S/6-31A	3.4	(18)	(22)			6	195	
53.9	SK17	6-09-1	土師器	ケスね	ケスね	10R/S/口縁	0.1	(17)	(3)			4	18	
53.10	SK17	6-09-1	土師器	ケスね	ケスね	10R/S/口縁	2.8	(18)	(17)			8	72	
53.11	遺跡外	6-04	土師器	ケスね	ケスね	10R/S/口縁	5.8	(40)	(31)			11	33	
53.12	HS001	6-10-7	土師器	ケスね	ケスね	10R/S/口縁	5.0	(35)	(18)			3	104	
53.13	目	6-08-1	土師器	ケスね	ケスね	5R/S/口縁	1.4	(30)	(13)			3	21	
53.14	SK17	6-08-1	土師器	ケスね	ケスね	5R/S/口縁	3.4	(25)	(13)			3	74	
53.15	目	6-08-1	土師器	ケスね	ケスね	5R/S/口縁	4.6	(38)	(26)			2	85	
53.16	HS001SK02	6-10-3	土師器	ケスね	ケスね	10R/A/口縁	8.5	(32)	(47)			2	24	
53.17	遺跡外	6-04	土師器	不明	不明	10R/A/口縁	18.3	(32)	(44)			10	84	
53.18	SK17	6-08-1	土師器	ケスね	ケスね	10R/A/口縁	0.3	(23)	(11)			3	73	
53.20	HS001SK02	6-10-3	土師器	ケスね	ケスね	10R/A/口縁	1.0	(25)	(11)			不詳	3	80
53.21	遺跡外	6-12	土師器	ケスね	ケスね	10R/A/口縁	5.3	(22)	(26)			13	28	
53.22	SK17	6-08-1	土師器	ケスね	ケスね	5R/S/口縁	8.6	(30)	(25)			1	70	
53.23	SK17	6-08-1	土師器	ケスね	ケスね	5R/S/口縁	5.1	(16)	(47)			6	71	
53.24	HS001	6-10-7	土師器	ケスね	ケスね	10R/A/口縁	4.3	(28)	(15)			8	66	
53.25	遺跡外	6-03	土師器	ケスね	ケスね	5R/S/6	2.4	(23)	(12)			7	67	
53.26	HS001SK02	6-10-7	土師器	ケスね	ケスね	5R/S/6	7.5	33	13			不詳	6	105
53.27	HS001	6-09-5	土師器	ケスね	ケスね	5R/S/6	4.3	(24)	(10)			23	6	
53.28	目	6-13-6	土師器	ツツクね	ツツクね	10R/S/6-31A, 底面直上	5.8	(30)	(28)			24	32	
53.29	遺跡外	6-13	土師器	ツツクね	ツツクね	10R/S/6-31A, 底面	11.1	(35)	(18)			31	5	

園川(4)遺跡

土師質特殊遺物

図-1	種別	分類	出土位置	出土位置	層位	高(mm)	径(mm)	厚(mm)	重(g)	特徴	備考
54-1	粘土結核	S-K 1.1	C-109-1	縄文	127.0	5.0	5.5	0.7		表面磨光。	図分112
54-2	粘土結核	6-H R P#1	F-109-9	縄文	124.0	5.0	7.0	1.0		内面窪みによる磨み。	図分112
54-3	粘土結核	1-H S 1.1	C-112	縄文	149.0	9.3	9.3	3.1		表面磨光あり。内窪みあり。内窪みに沿って、内窪みと面ナテ。	図分112
54-4	粘土結核	4-H J-171-13	縄文	128.0	5.0	5.0	0.4			表面磨光あり。内窪みあり。	図分112
54-5	粘土結核	1-H H F-109-13	縄文	121.0	10.0	7.0	2.0			内窪みに沿って、内窪みと面ナテ。表面磨光あり。内窪みに沿って、内窪みと面ナテ。	図分112
54-6	粘土結核	S-K 1.7	C-108-1	縄文	144.7	17.9	7.3	2.3		約1/2、先周部ツマミ。周部磨光あり。	図分112
54-7	粘土結核	S-K 1.7	C-109-1	縄文	31.5	20.0	5.0	1.9		6の字状。先周部ツマミ。周部磨光あり。黒色。	図分112
54-8	粘土結核	6-H R P#1	F-109-10	縄文	26.0	17.5	5.7	2.2		約1/2、上下両面磨光あり。	図分112
54-9	不整形片	1-H S 1.1	C-109-1	縄文	40.0	16.0	13.0	6.2		6の字状。約1/2、上下両面磨光あり。	図分112
54-10	不整形片	1-H Jカマド	C-109-2	縄文	111.3	19.0	18.0	1.4		約1/2、表面磨光あり。周部磨光あり。	図分112
54-11	不整形片	4-H J-171-10	縄文	24.0	18.0	10.5	3.8			約1/2、中央部の先周部ツマミ。周部磨光あり。	図分112
54-12	粒状	1-H H F-109-13	縄文	5.8	9.3	6.7	0.5				
54-13	粒状	1-H Jカマド	C-109-1	縄文	13.0	3.0	9.0	0.7		約1/2の粒状。	
54-14	粒状	4-H J-171-10	縄文	14.4	14.8	8.2	2.3			磨した不整。周部磨光あり。内窪みあり。	
54-15	粒状	S-K 1.7	C-108-1/2	縄文	22.0	24.0	5.5	2.3		約1/2、表面磨光あり。	
54-16	粒状	S-K 1.7	C-108-5	縄文	24.0	3.0	9.0	2.8		交互状。一部植物性繊維痕。表面磨光。粘土付。	図分112
54-19	粒状	H3501S302	B-110-7	縄文	142.3	14.0	8.0	8.1		表面磨光あり。表面磨光あり。	図分112
54-20	粒状	S-K 1.7	C-108-1	縄文	32.0	28.0	7.0	4.7		交互状。表面磨光あり。	図分112
54-21	不整形片	S-K 1.7	C-108-1	縄文	53.0	37.0	9.0	11.5		交互状。表面磨光あり。表面一部ナテ。黒色。	図分112
54-22	不整形片	H3501S301	C-108	縄文	122.1	126.0	9.5	2.4		表面磨光あり。表面磨光あり。	図分112
54-23	不整形片	S-K 1.7	C-109-1	縄文	126.0	127.0	11.0	6.7		表面磨光あり。表面磨光あり。	図分112
54-24	不整形片	1-H Jカマド	C-109-1	縄文	124.0	75.0	9.0	4.4		表面磨光あり。表面磨光あり。表面磨光あり。	図分112
54-25	不整形片	H3501S302	B-110-3	縄文	35.0	19.5	9.0	1.7		表面磨光ありによる内窪み痕。表面磨光。	図分112
54-26	不整形片	1-H H F-109-13	縄文	116.0	21.0	7.1	1.9			表面磨光あり。表面磨光あり。	図分112
54-27	不整形片	6-H R P#1	F-109-9	縄文	11.5	17.0	6.0	0.9		約1/2による表面磨光。	図分112
54-28	不整形片	1-H Jカマド	C-109-1	縄文	154.1	32.0	13.5	18.4		約1/2による表面磨光。表面磨光。粘土のひび。	図分112
54-29	不整形片	H3501S301	E-106	縄文	119.0	124.0	9.5	2.5		表面磨光あり。表面磨光あり。表面磨光あり。	図分112
54-30	不整形片	1-H H F-109-13	縄文	114.0	124.0	9.5	1.7			約1/2による表面磨光。	図分112
54-31	不整形片	S-K 1.7	C-108-1/2	縄文	122.0	116.0	10.0	3.9		約1/2による表面磨光。表面磨光あり。粘土のひび。	図分112
54-32	不整形片	S-K 1.7	C-108-1/2	縄文	17.0	40.0	12.5	14.1		約1/2による表面磨光。一部粘土。粘土のひび。	図分112
54-33	不整形片	S-K 1.7	C-108-1	縄文	154.1	32.0	13.5	18.4		約1/2による表面磨光。表面磨光。粘土のひび。	図分112
54-34	不整形片	6-H R P#1	F-109-9	縄文	19.0	17.0	15.0	4.5		表面磨光あり。表面磨光あり。表面磨光あり。	図分112
54-35	不整形片	4-H S K#1	J-171-11	縄文	15.0	16.0	8.5	4.3		左右厚圧。上層り上げ	図分112
54-36	不整形片	H3501S302	B-110	縄文	16.5	71.0	11.5	1.4		表面磨光あり。粘土のひびあり。	図分112
54-37	不整形片	6-H R P#1	F-109-9	縄文	27.0	20.0	10.5	4.9		粘土のひびあり。一部爪痕。	図分112
54-38	不整形片	H3501S301	C-108	縄文	38.0	14.3	10.0	1.6		表面磨光あり。表面磨光あり。表面磨光あり。	図分112
54-39	不整形片	S-K 1.7	C-108-1	縄文	28.0	16.0	12.3	3.3		約1/2。植物性繊維痕。ちぎれあり。	図分112
54-40	不整形片	S-K 1.7	C-108-1	縄文	48.5	28.0	5.0	6.9		交互状。表面磨光あり。	図分112
54-41	不整形片	S-K 1.6	B-108-7	縄文	47.0	30.0	11.0	8.4		交互状。表面磨光あり。表面磨光あり。	図分112
54-42	不整形片	S-K 9.5	C-119-3	縄文	47.0	26.0	9.0	9.7		交互状。表面磨光あり。表面磨光あり。表面磨光あり。	図分112
54-43	不整形片	S-K 9.5	C-119-3	縄文	53.0	40.0	15.0	14.4		表面磨光あり。表面磨光あり。表面磨光あり。	図分112
54-44	不整形片	S-K 9.5	C-119-3	縄文	50.0	28.0	9.0	9.7		表面磨光あり。表面磨光あり。表面磨光あり。	図分112
54-45	不整形片	S-K 9.5	C-119-3	縄文	50.0	28.0	9.0	9.7		表面磨光あり。表面磨光あり。表面磨光あり。	図分112
54-46	不整形片	S-K 1.7	C-108-1	縄文	38.0	25.0	12.3	8.1		表面磨光あり。表面一部平直。表面磨光あり。	図分112
54-47	不整形片	H3501S302	E-115-3	縄文	44.0	19.0	18.0	8.8		表面磨光あり。表面磨光あり。表面磨光あり。	図分112
54-48	不整形片	H3501S302	B-110-7	縄文	60.0	26.5	16.0	35.9		表面磨光あり。表面磨光あり。表面磨光あり。	図分112
54-49	不整形片	H3501S301	C-111-11	縄文	47.5	25.0	12.5	12.8		表面磨光あり。表面磨光あり。表面磨光あり。	図分112

焼成粘土塊

図-1	種別	分類	出土位置	出土位置	層位	高(mm)	径(mm)	厚(mm)	重(g)	特徴	備考	
55-1	-	1	H3501S301	C-110-2	縄文	127.0	149.0	17.3	31.7		表面ナテ。表面磨光あり。表面磨光あり。	図分113
55-2	-	1	2-H S 2.0	C-110-7	縄文	153.0	107.0	18.0	25.8		表面磨光あり。表面磨光あり。	図分113
55-3	-	1	H3501S301	B-110-7	縄文	40.0	127.0	20.0	14.4		表面磨光あり。表面磨光あり。表面磨光あり。	図分113
55-4	-	1	H3501S301	C-110-2	縄文	149.0	100.0	10.5	28.1		表面磨光あり。表面磨光あり。表面磨光あり。	図分113
55-5	-	2	H3501S302	B-110-4	縄文	45.0	123.0	21.0	26.8		表面磨光あり。表面磨光あり。表面磨光あり。	図分113
55-6	-	1	H3501S302	B-110-4	縄文	127.0	125.0	13.0	5.8		表面磨光あり。表面磨光あり。表面磨光あり。	図分113
55-7	-	1	1-H S 2.0	F-109-17	粘土下層	131.3	120.0	15.5	8.9		表面磨光あり。表面磨光あり。表面磨光あり。	図分113
55-8	-	1	S-K 9.5	C-119-11	縄文	38.0	24.0	18.5	9.7		表面磨光あり。表面磨光あり。表面磨光あり。	図分113
55-9	-	2	2-H J-171-13	縄文	135.0	126.0	18.0	11.1		表面磨光あり。表面磨光あり。表面磨光あり。	図分113	
55-10	-	1	6-H R P#1	F-109-9	縄文	138.0	126.0	11.0	5.8		表面磨光あり。表面磨光あり。表面磨光あり。	図分113
55-11	-	1	S-K 1.7	C-109-1	縄文	140.1	123.0	16.0	11.0		表面磨光あり。表面磨光あり。表面磨光あり。	図分113
55-12	-	1	H3501S302	C-110-7	縄文	148.0	141.0	20.0	75.7		表面磨光あり。表面磨光あり。表面磨光あり。	図分113
55-13	-	1	H3501S302	C-110-7	縄文	36.0	132.0	14.0	15.2		表面磨光あり。表面磨光あり。表面磨光あり。	図分113
55-14	-	1	1-H S 2.0	F-109-15	縄文	160.0	148.0	21.0	47.2		表面磨光あり。表面磨光あり。表面磨光あり。	図分113
55-15	-	1	1-H S 2.0	F-109-15	縄文	132.0	124.0	20.0	6.2		表面磨光あり。表面磨光あり。表面磨光あり。	図分113
55-16	-	1	H3501S304	C-110-12	粘土上層	133.0	125.0	15.0	8.8		表面磨光あり。表面磨光あり。表面磨光あり。	図分113
55-17	-	1	S-K 1.6	B-108-3	縄文	25.0	21.0	8.0	3.6		表面磨光あり。表面磨光あり。表面磨光あり。	図分113
55-18	-	1	S-K 1.6	B-108-7	縄文	15.0	14.5	10.0	1.9		表面磨光あり。表面磨光あり。表面磨光あり。	図分113
55-19	-	1	S-K 1.6	B-108-7	縄文	31.0	27.0	16.0	9.3		表面磨光あり。表面磨光あり。表面磨光あり。	図分113
55-20	-	1	S-K 1.4	B-108-7	縄文	39.0	23.0	15.5	9.7		表面磨光あり。表面磨光あり。表面磨光あり。	図分113
55-21	-	1	6-H R P#1	F-109-9	縄文	24.0	19.0	12.5	3.7		表面磨光あり。表面磨光あり。表面磨光あり。	図分113
55-22	-	2	S-K 1.7	C-108-1	縄文	34.0	24.0	27.5	4.4		表面磨光あり。表面磨光あり。表面磨光あり。	図分113
55-23	-	2	1-H Jカマド	C-109-1	縄文	59.0	41.0	32.0	57.3		表面磨光あり。表面磨光あり。表面磨光あり。	図分113
55-24	-	2	1-H S 2.0	F-109-8	縄文	50.0	38.0	26.0	31.1		表面磨光あり。表面磨光あり。表面磨光あり。	図分113

粘土塊

図-1	種別	分類	出土位置	出土位置	層位	高(mm)	径(mm)	厚(mm)	重(g)	特徴	備考	
56-1	-	1	6-H R P#1	F-109-11	縄文	48.0	56.0	29.0	63.0		表面磨光あり。植物性繊維痕あり。	図分113
56-2	-	1	6-H R P#1	F-109-9	縄文	58.0	45.0	32.0	69.1		表面磨光あり。植物性繊維痕あり。粘土付あり。	図分113
56-3	-	2	6-H R P#1	F-109-9	縄文	37.0	33.0	47.0	370.1		表面磨光あり。植物性繊維痕あり。粘土付あり。	図分113
56-4	-	2	1-H S 2.0	F-109-8	縄文	35.0	49.0	10.0	139.4		表面磨光あり。植物性繊維痕あり。粘土付あり。	図分113

須臾器窯跡片

図-1	種別	分類	出土位置	出土位置	層位	高(mm)	径(mm)	厚(mm)	重(g)	特徴	備考
57-1	-	1	2-H J-171-4	縄文	111.8	115.8	131.0	135.0		表面磨光あり。表面磨光あり。表面磨光あり。	図分113

石製品・礫

図番	種別	分類	出土位置1	出土位置2	層位	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	特徴	備考		
60-1	手取石	A	2	II	B-114	厚	11.2	11.5	6.2	6.4	表面磨光無し。	埋込石	
60-2	手取石	A	2	II	B-114	厚	12.0	11.0	6.5	1.4	全面磨光無し。	埋込石	
60-3	手取石	B	2	H	D-115	底	40.0	37.0	20.0	37.0	表面磨光。丸は凹み。	突出石	
60-4	砥石	石	遺構	F-121	第1層	幅	57.0	50.0	37.0	272.0	砥石。全面磨光。自然磨光。	埋込石	
60-5	砥石	石	H	C-119-12	第1層	幅	58.0	47.0	20.5	172.8	砥石。全面中央磨光に凹む。自然磨光の平多し。	埋込石	
60-6	砥石	A	3	II	F-118-7	底	45.0	53.0	26.0	19.3	16.4	砥石。全面中央磨光に凹む。自然磨光。	埋込石
60-7	砥石	D	3	II	F-109	底	15.0	9.0	7.7	274.0	砥石。全面中央磨光に凹む。	埋込石	
61-1	石製道具	A	3	II	B-114	厚	9.2	10.0	6.1	274.1	凹み凹み。自然磨光。	埋込石	
61-2	石製道具	A	3	II	B-114	厚	15.0	14.0	18.0	274.1	凹み凹み。自然磨光。	埋込石	
61-3	石製道具	A	3	II	B-114	厚	13.0	14.0	15.0	18.9	全面中央磨光あり。	埋込石	
61-4	石製道具	A	3	II	B-114	厚	13.0	13.5	7.5	751.0	全面磨光の磨光。	埋込石	
61-5	石製道具	A	4	II	F-120	2/3層	159.0	115.0	31.0	2000.0	全面中央磨光に凹む。自然磨光。その外縁と砥石の一部や中色。	突出石	
61-6	石製道具	A	3	II	B-114	厚	14.0	14.0	17.0	839.0	全面磨光の磨光。	埋込石	
61-7	石製道具	A	3	II	B-114	厚	14.0	15.0	16.0	248.0	全面磨光の磨光。	埋込石	
61-8	石製道具	A	3	II	B-114	厚	32.0	28.0	19.0	137.4	砥石。自然磨光。	埋込石	
61-9	石製道具	A	4	II	F-122-12	底	123.0	57.0	46.0	323.4	砥石。自然磨光。	埋込石	
61-10	石製道具	A	3	II	B-114	厚	17.0	10.0	10.0	478.4	砥石。全面磨光の磨光。	埋込石	
61-11	石製道具	A	3	II	B-114	厚	15.0	12.0	10.0	837.0	砥石。全面磨光の磨光。	埋込石	
61-12	石製道具	A	4	II	F-122-15	層1	176.0	78.0	54.0	834.2	砥石。全面磨光の磨光。	埋込石	
61-13	石製道具	A	4	II	F-122-18	層1	113.0	89.0	37.0	438.0	砥石。全面磨光の磨光。	埋込石	

鉄

図番	種別	分類	出土位置1	出土位置2	層位	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	特徴	備考
62-1						43.0	39.0	17.0	84.4	砥石。	
62-2						44.0	39.0	13.0	45.8	全面磨光。自然磨光。	
62-3						31.0	31.0	17.5	11.9	砥石。全面磨光。	

鉄製品

図番	種別	分類	出土位置1	出土位置2	層位	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	特徴	備考	
63-4	前立小刀子	A	3	II	B-114	底	24.0	21.0	9.0	2.9	鞘がった刃状。	木製鞘
63-5	刀子	B	4	II	F-120-1	底	181.0	16.0	9.0	13.7	木製鞘。刃は不明。	木製鞘

木製品

図番	種別	分類	出土位置1	出土位置2	層位	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	特徴	備考	
64-1	手取石	A	S	E	0	23層下層	385.5	86.0	31.0	-	磨光無し。手取石の凹み凹み状の部分あり。	埋込石
64-2	手取石	A	S	E	0	23層中層	341.5	115.0	31.0	-	自然磨光。	埋込石
64-3	手取石	A	S	E	0	23層下層	614.0	314.0	33.5	-	砥石良好。上層縁の凹み凹み状の部分あり。丸3点あり。	埋込石
64-4	手取石	A	S	E	0	23層下層	721.0	384.0	29.5	-	砥石良好。上層縁の凹み凹み状の部分あり。丸3点あり。	埋込石
64-1	埋込石	A	S	E	0	23層下層	182.0	12.7	45.0	-	二面自然磨光。全面磨光。	埋込石
64-2	埋込石	A	S	E	0	23層下層	142.0	31.5	12.0	-	全面磨光の磨光。	埋込石
64-3	埋込石	A	S	E	0	23層下層	61.0	19.0	1.0	-	全面磨光。全面磨光。	埋込石
64-4	埋込石	A	S	E	0	23層下層	385.5	86.0	19.5	-	全面磨光の磨光。	埋込石
64-5	埋込石	A	S	E	0	23層下層	358.5	57.0	9.0	-	砥石。全面磨光の磨光。	埋込石
64-6	埋込石	A	S	E	0	23層下層	349.0	45.5	7.5	-	砥石。全面磨光の磨光。上層は磨光なし。左右縁は全面磨光。	埋込石

縄文土器

図番	出土場所	出土地点	分類	器種	部位	地文	検出物	その他の特徴
65-01	溝溝外	B-123	I	深鉢	胴部	-	○	押し引き状沈積。沈積面凹み凹み状の部分あり。1～3個一単位。物見付式式
65-04	溝溝外	M-105	II	深鉢	口縁	-	○	口縁に凹み凹み状沈積。編織痕。10個一単位。内凹下層d式
65-05	溝溝外	H-123	III	深鉢	胴部	-	-	底面凹み凹み状沈積。凹み凹み。凹面上層c式
65-06	溝溝外	E-110	II	深鉢	口縁	-	-	凹み凹み。凹み凹み。凹面上層c式
65-07	溝溝外	L-110	IV	深鉢	口縁	LR	-	底面凹み凹み。凹み凹み。凹面上層c式。凹み凹み(2)並行
65-09	溝溝外	D-115	IV	深鉢	口縁	不明	-	凹み凹み。凹み凹み。凹面上層c式。凹み凹み(2)並行
65-11	溝溝外	I-124	III	深鉢	口縁	-	-	底面凹み凹み状沈積。凹み凹み。凹面上層c式
65-12	2H	D-116	IV	深鉢	口縁	LR	-	凹み凹み。凹み凹み。凹面上層c式。凹み凹み(2)並行
65-13	溝溝外	L-122	IV	深鉢	口縁	LR	-	凹み凹み。凹み凹み。凹面上層c式。凹み凹み(2)並行
65-14	2H	D-113	IV	深鉢	口縁	LR	○	凹み凹み。凹み凹み。凹面上層c式。凹み凹み(2)並行
65-15	2H	D-113	IV	深鉢	口縁	L	-	凹み凹み。凹み凹み。凹面上層c式。凹み凹み(2)並行
65-16	溝溝外	L-125	III	深鉢	口縁	LR	○	凹み凹み。凹み凹み。凹面上層c式。凹み凹み(2)並行
65-17	2HS101/S301		IV	深鉢	口縁	LR	○	凹み凹み。凹み凹み。凹面上層c式。凹み凹み(2)並行
65-19	7H		IV	深鉢	胴部	RL	-	凹み凹み。凹み凹み。凹面上層c式。凹み凹み(2)並行
65-20	2HS101/S302		IV	深鉢	口縁	LR	-	凹み凹み。凹み凹み。凹面上層c式。凹み凹み(2)並行
65-21	溝溝外	B-116	IV	深鉢	口縁	-	-	凹み凹み。凹み凹み。凹面上層c式。凹み凹み(2)並行
65-22	SK02		IV	不明	胴部	-	○	凹み凹み。凹み凹み。凹面上層c式。凹み凹み(2)並行
65-23	SK03		IV	不明	胴部	-	○	凹み凹み。凹み凹み。凹面上層c式。凹み凹み(2)並行
65-24	溝溝外	F-106	IV	底	底面	-	-	凹み凹み。凹み凹み。凹面上層c式。凹み凹み(2)並行
65-25	溝溝外	H-115	V	深鉢	口縁	LR	-	凹み凹み。凹み凹み。凹面上層c式。凹み凹み(2)並行
65-26	溝溝外	F-103	V	不明	不明	-	-	凹み凹み。凹み凹み。凹面上層c式。凹み凹み(2)並行
65-27	溝溝外	0-114	V	鉢	口縁	LR	-	凹み凹み。凹み凹み。凹面上層c式。凹み凹み(2)並行
65-28	溝溝外	L-101	VI-1	深鉢	口縁	-	○	凹み凹み。凹み凹み。凹面上層c式。凹み凹み(2)並行
65-29	4H	J-121	VI-1	深鉢	口縁	LR	-	凹み凹み。凹み凹み。凹面上層c式。凹み凹み(2)並行
65-30	2HS101	F-110	V	鉢	底面	LR	○	凹み凹み。凹み凹み。凹面上層c式。凹み凹み(2)並行
65-31	溝溝外	L-125	VI-2	深鉢	口縁	LR	-	凹み凹み。凹み凹み。凹面上層c式。凹み凹み(2)並行
65-32	溝溝外	G-115	VI-3	深鉢	口縁	-	-	凹み凹み。凹み凹み。凹面上層c式。凹み凹み(2)並行
65-33	溝溝外	I-124	VI-3	深鉢	口縁	LR	-	凹み凹み。凹み凹み。凹面上層c式。凹み凹み(2)並行
65-34	2HS101	H-108	VI-2	深鉢	口縁	LR	○	凹み凹み。凹み凹み。凹面上層c式。凹み凹み(2)並行
65-35	SK15	VI-2	深鉢	胴部	磨光	-	-	凹み凹み。凹み凹み。凹面上層c式。凹み凹み(2)並行
65-37	SK18	E-116	VI-2	深鉢	口縁	-	-	凹み凹み。凹み凹み。凹面上層c式。凹み凹み(2)並行
65-38	SK18	E-116	VI-3	深鉢	底面	-	-	凹み凹み。凹み凹み。凹面上層c式。凹み凹み(2)並行
65-39	SK04	VI-2	深鉢	胴部	凹み	-	-	凹み凹み。凹み凹み。凹面上層c式。凹み凹み(2)並行
65-40	SK13	D-119	VI-2	深鉢	口縁	-	-	凹み凹み。凹み凹み。凹面上層c式。凹み凹み(2)並行
65-41	SK10	VI-1	深鉢	口縁	-	-	○	凹み凹み。凹み凹み。凹面上層c式。凹み凹み(2)並行
65-42	4H	VI-1	深鉢	胴部	-	-	-	凹み凹み。凹み凹み。凹面上層c式。凹み凹み(2)並行
65-43	SK14	VI-3	深鉢	口縁	-	-	-	凹み凹み。凹み凹み。凹面上層c式。凹み凹み(2)並行

隠川(4)遺跡

石器・礫(縄文)

図-N	種別	分類	出土位置	出土位置	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	特 徴	備 考
67-1	石 槌	Ⅰ	遺構外	B-108-1	第Ⅱ層	18.0	11.0	2.3	6.8	塊状品。	
67-2	石 槌	Ⅱ	H	J-122-12	第Ⅱ層	43.0	13.0	4.0	1.7	片割痕行方向不明。	
67-3	石 槌	Ⅲ	Ⅰ	SⅡD10-111	第Ⅱ層	41.0	11.0	4.0	3.2	石割痕の方向不明(若し(鎌状か?)、表面黄褐色結晶。	
67-4	石 槌	Ⅰ	遺構外	B-102	第Ⅱ層	79.5	11.0	4.0	1.2	Ⅰ。両面の尖部縁部は褐色皮付。	
67-5	石 槌	Ⅱ	Ⅰ	I-101	第Ⅱ層	59.0	47.0	15.0	27.1	褐色の素材。つまみ部分褐色。表面黄褐色の片割痕は線形的。	
67-6	石 槌	Ⅱ	遺構外	F-121	第Ⅱ層	45.0	30.0	12.0	18.4	褐色の素材は片割痕付。	
67-7	石 槌	Ⅱ	遺構外	B-105	第Ⅱ層	73.0	37.0	6.5	18.3	片割痕付。表面黄褐色。	
67-8	石 槌	Ⅱ	遺構外	C-104-2	第Ⅱ層	39.0	31.0	4.1	12.2	片割痕付。表面黄褐色。片割痕付。	
68-1	石 槌	Ⅲ	Ⅰ	SⅡD10-111	第Ⅱ層	39.0	6.0	2.4	12.0	片割痕付。表面黄褐色。	
68-2	石 槌	Ⅲ	Ⅰ	SⅡD10-111	第Ⅱ層	17.0	9.0	2.0	6.3	片割痕付。	
68-3	石 槌	Ⅲ	Ⅰ	SⅡD10-111	第Ⅱ層	14.0	10.0	1.0	0.1	片割痕付。	
68-4	石 槌	Ⅲ	Ⅰ	SⅡD10-111	第Ⅱ層	18.5	11.0	2.0	0.3	やや半透明。	
68-5	石 槌	Ⅲ	Ⅰ	SⅡD10-111	第Ⅱ層	17.0	13.0	1.3	0.3	やや半透明。	
68-6	石 槌	Ⅲ	Ⅰ	SⅡD10-111	第Ⅱ層	14.0	15.0	1.4	0.2	半透明。	
68-7	石 槌	Ⅲ	Ⅰ	SⅡD10-111	第Ⅱ層	13.0	13.0	2.0	0.2	半透明。	
68-8	石 槌	Ⅲ	Ⅰ	SⅡD10-111	第Ⅱ層	18.0	17.0	4.0	5.0	やや半透明で褐色皮付。	
68-9	石 槌	Ⅲ	Ⅰ	SⅡD10-111	第Ⅱ層	13.0	17.0	4.0	0.3	やや半透明で褐色皮付。	
68-10	石 槌	Ⅲ	Ⅰ	SⅡD10-111	第Ⅱ層	19.0	10.0	2.0	0.4	一部半透明。褐色皮付。	
68-11	石 槌	Ⅲ	Ⅰ	SⅡD10-111	第Ⅱ層	20.0	13.0	1.5	0.4	一部半透明。褐色皮付。全周黄褐色化し。	
68-12	石 槌	Ⅲ	Ⅰ	SⅡD10-111	第Ⅱ層	18.0	14.0	2.0	0.4	一部半透明。褐色皮付。	
68-13	石 槌	Ⅲ	Ⅰ	SⅡD10-111	第Ⅱ層	20.0	9.0	2.0	0.4	やや半透明。	
68-14	石 槌	Ⅲ	Ⅰ	SⅡD10-111	第Ⅱ層	18.0	11.0	2.0	0.2	やや半透明。	
68-15	石 槌	Ⅲ	Ⅰ	SⅡD10-111	第Ⅱ層	21.0	13.0	3.0	0.5	やや半透明。	
68-16	石 槌	Ⅲ	Ⅰ	SⅡD10-111	第Ⅱ層	18.0	13.0	3.0	0.5	褐色多量層あり。一部割痕あり。	
68-17	石 槌	Ⅲ	Ⅰ	SⅡD10-111	第Ⅱ層	13.0	13.0	3.0	0.1	やや半透明。一部割痕あり。	
68-18	石 槌	Ⅲ	Ⅰ	SⅡD10-111	第Ⅱ層	17.5	14.0	3.4	0.2	やや半透明。割痕あり。	
68-19	石 槌	Ⅲ	Ⅰ	SⅡD10-111	第Ⅱ層	16.0	11.0	2.0	0.1	やや半透明。割痕あり。	
68-20	石 槌	Ⅲ	Ⅰ	SⅡD10-111	第Ⅱ層	25.0	13.0	3.0	0.4	半透明。割痕あり。縦長の割痕あり。	
68-21	石 槌	Ⅲ	Ⅰ	SⅡD10-111	第Ⅱ層	30.0	1.0	6.0	0.2	一部半透明。	
68-22	石 槌	Ⅲ	Ⅰ	SⅡD10-111	第Ⅱ層	25.0	12.0	4.0	0.3	一部半透明。	
68-23	石 槌	Ⅲ	Ⅰ	SⅡD10-111	第Ⅱ層	31.0	12.0	5.0	1.4	やや半透明。褐色皮付。	
68-24	石 槌	Ⅲ	Ⅰ	SⅡD10-111	第Ⅱ層	22.0	11.0	3.0	1.1	一部半透明。	
68-25	石 槌	Ⅲ	Ⅰ	SⅡD10-111	第Ⅱ層	22.0	12.0	3.0	1.1	一部半透明。	
68-26	石 槌	Ⅲ	Ⅰ	SⅡD10-111	第Ⅱ層	26.0	17.0	3.0	1.2	一部半透明。褐色皮付。ヴァルヴァースカあり。	
68-27	石 槌	Ⅲ	Ⅰ	SⅡD10-111	第Ⅱ層	26.0	21.0	3.0	1.4	かなり透明。	
68-28	石 槌	Ⅲ	Ⅰ	SⅡD10-111	第Ⅱ層	33.0	19.0	4.5	1.4	透明。	
68-29	石 槌	Ⅲ	Ⅰ	SⅡD10-111	第Ⅱ層	21.0	20.0	2.0	3.2	ヴァルヴァースカあり。縦に半透明。	
68-30	石 槌	Ⅲ	Ⅰ	SⅡD10-111	第Ⅱ層	22.0	22.0	2.0	1.2	やや半透明。褐色皮付。	
68-31	石 槌	Ⅲ	Ⅰ	SⅡD10-111	第Ⅱ層	30.0	27.0	3.0	1.3	かなり透明。小割痕多量層あり。	
68-32	石 槌	Ⅲ	Ⅰ	SⅡD10-111	第Ⅱ層	41.0	24.0	4.5	4.1	かなり透明。	
68-33	石 槌	Ⅲ	Ⅰ	SⅡD10-111	第Ⅱ層	39.0	28.0	8.0	5.4	褐色の素材。	
68-34	石 槌	Ⅲ	Ⅰ	SⅡD10-111	第Ⅱ層	39.0	26.0	3.0	3.0	褐色皮付。	
68-35	石 槌	Ⅲ	Ⅰ	SⅡD10-111	第Ⅱ層	31.0	31.0	6.0	3.0	片割痕。	
68-36	石 槌	Ⅲ	Ⅰ	SⅡD10-111	第Ⅱ層	20.0	18.0	3.0	0.9	褐色皮付。	
68-37	石 槌	Ⅲ	Ⅰ	SⅡD10-111	第Ⅱ層	25.0	17.0	4.0	0.9	褐色皮付。褐色皮付。	
68-38	石 槌	Ⅲ	Ⅰ	SⅡD10-111	第Ⅱ層	19.0	33.0	4.5	2.8	褐色皮付。	
68-39	石 槌	Ⅲ	Ⅰ	SⅡD10-111	第Ⅱ層	45.0	20.0	14.0	6.3	褐色皮付。	
68-40	石 槌	Ⅲ	Ⅰ	SⅡD10-111	第Ⅱ層	38.0	32.0	8.5	5.1	褐色皮付。	
68-41	石 槌	Ⅲ	Ⅰ	SⅡD10-111	第Ⅱ層	34.0	46.0	11.0	13.3	褐色皮付。上部割痕あり。	
68-42	石 槌	Ⅲ	Ⅰ	SⅡD10-111	第Ⅱ層	102.0	50.0	32.0	224.0	割痕付。透明。	
68-43	石 槌	Ⅲ	Ⅰ	SⅡD10-111	第Ⅱ層	110.0	50.0	43.0	458.0	自然割。ローム中の付着物。	
68-44	石 槌	Ⅲ	Ⅰ	SⅡD10-111	第Ⅱ層	117.0	56.0	39.0	303.8	自然割。ローム中の付着物。	

弥生土器

図-N	種別	分類	出土位置	出土位置	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	特 徴	備 考
70-1	弥生後半2	遺構外	B-114	第Ⅱ層	弥生後半2	10.0	10.0	1.0	0.1	弥生後半2。片割痕付。縦文一致。内面ヨココナ。	
70-2	弥生後半2	遺構外	B-103	第Ⅱ層	弥生後半2	10.0	10.0	1.0	0.1	弥生後半2。片割痕付。縦文一致。内面ヨココナ。	
70-3	弥生後半2	Ⅱ	H	J-122-11	第Ⅱ層	10.0	10.0	1.0	0.1	弥生後半2。片割痕付。縦文一致。内面ヨココナ。	
70-4	弥生後半2	Ⅱ	H	J-109-12	第Ⅱ層	10.0	10.0	1.0	0.1	弥生後半2。片割痕付。縦文一致。内面ヨココナ。	
70-5	弥生後半2	Ⅱ	H	J-109-11	第Ⅱ層	10.0	10.0	1.0	0.1	弥生後半2。片割痕付。縦文一致。内面ヨココナ。	
70-6	弥生後半2	遺構外	B-105	第Ⅱ層	弥生後半2	10.0	10.0	1.0	0.1	弥生後半2。片割痕付。縦文一致。内面ヨココナ。	
70-7	弥生後半2	遺構外	B-102	第Ⅱ層	弥生後半2	10.0	10.0	1.0	0.1	弥生後半2。片割痕付。縦文一致。内面ヨココナ。	
70-8	弥生後半2	遺構外	F-102	第Ⅱ層	弥生後半2	10.0	10.0	1.0	0.1	弥生後半2。片割痕付。縦文一致。内面ヨココナ。	
70-9	弥生後半2	遺構外	F-102	第Ⅱ層	弥生後半2	10.0	10.0	1.0	0.1	弥生後半2。片割痕付。縦文一致。内面ヨココナ。	
70-10	弥生後半2	335991300	C-110-3	第Ⅱ層	弥生後半2	10.0	10.0	1.0	0.1	弥生後半2。片割痕付。縦文一致。内面ヨココナ。	
70-11	弥生後半2	Ⅰ	H S D10	C-110-6	第Ⅱ層	10.0	10.0	1.0	0.1	弥生後半2。片割痕付。縦文一致。内面ヨココナ。	
70-12	弥生後半2	Ⅰ	H S D10	C-110-4	第Ⅱ層	10.0	10.0	1.0	0.1	弥生後半2。片割痕付。縦文一致。内面ヨココナ。	
70-13	弥生後半2	Ⅰ	H S D10	C-110-4	第Ⅱ層	10.0	10.0	1.0	0.1	弥生後半2。片割痕付。縦文一致。内面ヨココナ。	
70-14	弥生後半2	遺構外	不明	第Ⅱ層	弥生後半2	10.0	10.0	1.0	0.1	弥生後半2。片割痕付。縦文一致。内面ヨココナ。	

近世以降

図-N	種別	分類	出土位置	出土位置	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	特 徴	備 考
71-1	焼 罎	Ⅱ A b	遺構外	J-103	第Ⅱ層	14.0	—	—	—	灰付。軟弱な土質。罎戸か?	93 発掘
71-2	瓦 筒	Ⅱ A c	遺構外	C-124	第Ⅱ層	18.0	—	—	—	灰付。外周溝付。内面無溝。	93 発掘
71-3	瓦 筒	Ⅱ A c	遺構外	C-109	第Ⅱ層	—	—	—	—	灰付。外周溝付。内面無溝。	93 発掘
71-4	瓦 筒	Ⅱ A c	遺構外	C-127	第Ⅱ層	—	11.0	—	—	灰付。外周溝付。内面無溝。	93 発掘
71-5	瓦 筒	Ⅱ A c	遺構外	J-102	第Ⅱ層	31.0	—	—	—	灰付。外周溝付。内面無溝。	93 発掘
71-6	瓦 筒	Ⅱ A c	遺構外	B-124	第Ⅱ層	—	—	—	—	灰付。外周溝付。内面無溝。	93 発掘
71-7	瓦 筒	Ⅱ A c	遺構外	F-104-11	第Ⅱ層	—	—	—	—	灰付。外周溝付。内面無溝。	93 発掘
71-8	瓦 筒	Ⅱ A c	遺構外	F-103	第Ⅱ層	19.0	19.0	10.0	3.0	灰付。外周溝付。内面無溝。縦横溝付。片割痕付。内面ヨココナあり。	93 発掘
71-9	瓦 筒	Ⅱ A c	遺構外	F-102	第Ⅱ層	19.0	19.0	10.0	3.0	灰付。外周溝付。内面無溝。縦横溝付。片割痕付。内面ヨココナあり。	93 発掘

第Ⅶ章 隠川(12)遺跡

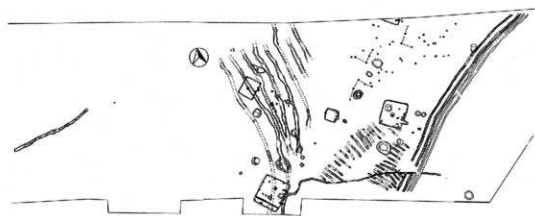


表 隠川(12)遺跡 遺構内出土遺物等一覧 (平安時代)

遺構種別	遺構名	出土遺物等	遺構種別	遺構名	出土遺物等
住居跡 (首外施設含)	2 H	球状土製品	住居跡 (首外施設含)	5 H	土玉
		碁石状土製品			刀子
		焼成粘土塊			当具状土製品
		直方体礫			窯壁片
		鉄滓			5 H S K 01
		土玉	5 H S D 01	粘土塊	
		土師質特殊遺物		焼成粘土塊	
		土製勾玉	並列溝状遺構	S D X 01	土師質特殊遺物
		粘土塊		S D X 04	土玉
		窯壁片	井戸跡	S E 01	焼成粘土塊
	2 H カマド	焼成粘土塊		焼成粘土塊	
		直方体礫		鉄滓	
		土玉		窯壁片	
		土師質特殊遺物		壁	
		土師質特殊遺物			
		土鈴	土坑	S K 06	焼成粘土塊
	2 H R P 01	焼成粘土塊			土師質特殊遺物
		鉄滓			窯壁片
		土玉		S K 07	直方体礫
		土師質特殊遺物			窯壁片
土鈴			S K 08	使用痕のある礫	
2 H S K 01	窯壁片			石玉	
	礫			直方体礫	
	鉄滓			土師質特殊遺物	
3 H	土製勾玉			粘土塊	
	窯壁片			窯壁片	
4 H	焼成粘土塊		S K 09	焼成粘土塊	
	土師質特殊遺物			土師質特殊遺物	
	使用痕のある礫		S K 10	焼成粘土塊	
	焼成粘土塊			窯壁片	
	鉄製品			礫	
	鉄滓		S K 11	焼成粘土塊	
	砥石		S K 13	窯壁片	
	土師質特殊遺物		S K 19	直方体礫	
	粘土			窯壁片	
	窯壁片		S K 20	焼成粘土塊	
4 H カマド	鉄製品			土玉	
4 H S D 01	使用痕のある礫			土師質特殊遺物	
	焼成粘土塊		ピット	E-152-13 P3.4	窯壁片
	直方体礫				
5 H	直方体礫				

※縄文時代と弥生時代の遺物、及び平安時代の土師器・須器器、炭化種子、炭化材等を除く。

第Ⅶ章 隠川(12)遺跡の検出遺構と出土遺物

第1節 平安時代の検出遺構

1 住居跡

第1号住居跡(1H) (図1～図2)

概要 本住居跡は、グリッドOY-152他の、平坦地に位置する。住居跡全体の約4分の3は調査区域外にある。内部施設、外部施設ともに検出されなかった。右壁側の南方には、建物跡の可能性のある柱状のビットが多数検出されているが、本住居跡との関連については不明である。重複は無し。

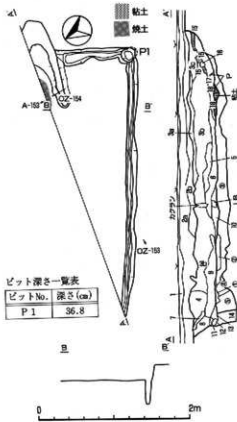
構造 規模は、右壁の検出長で355cmを測り、平面形は方形あるいは長方形を呈するものと思われる。Bコーナーの壁溝内には柱穴が1個見られるが、支柱穴については不明である。壁高は、35cm前後を測る。壁溝は、カマドの下位のみ掘り残されている。床は、ロームの混入する褐色土(床構築土)を5～27cmの厚さで敷きならしてつくられている。

土層 カマドの堆積土を含めて18層に分層された。暗褐色～黒褐色土を主体とし、ローム粒子を混入する。土壌中の混入物と、層のラインよりみて、人為的に混和された土壌が自然流入したのではないかと推定される。火山灰は確認されなかった。

カマド 南東壁に作りつけられており、壁の右側に位置する。残存状況は良好であるが、約2分の1が調査区域外にあるため、煙道部の右半分と右側燃焼部側壁(右ソデ)と火床面の一部が検出されたにすぎない。燃焼部側壁は、褐色の粘土を床面上に貼り付けるようにして構築されている。煙道部の

底面もソデと同一の粘土で構築されている。火床面(18層)と燃焼部側壁内面はあまり焼けていない。火床面は、床面(床構築土)をそのまま利用している。カマドを通る軸の方位は、推定でN-123°-Eをさす。

遺物等の出土状態 カマド火床面に土師器の甕と坏の破片が若干出土している。住居跡の覆土中



- 1層 黒褐色 10YR2/2 表土。
- 2a層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ1-3mm) 少量混入。
- 2b層 黒褐色 10YR1/3 ローム(φ1-5mm) 少量混入。
- 3a層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ1-3mm) 少量混入。
- 3b層 黒褐色 10YR4/3 ローム(φ1-50mm) 中量混入。
- 4層 黒褐色 10YR2/3 ローム(φ1-30mm) 中量混入。
- 5層 黒褐色 10YR2/3 ローム(φ1-25mm) 少量混入。
- 6層 褐色 10YR4/4 ローム粒多量、ローム(φ1-10mm) 少量、炭化物(φ1mm) 微量混入。黄色土混入。
- 7層 褐色 10YR4/4 ローム(φ1-10mm) 中量混入。
- 8層 暗褐色 10YR3/4 ローム(φ1-60mm) 多量、灰色土層混入。
- 9層 暗褐色 10YR3/4 ローム(φ1-70mm) 少量混入。
- 10層 灰色土層混入 10YR3/4 ローム(φ1-50mm) 中量、ローム(φ10mm) 微量混入。
- 11層 暗褐色 10YR2/3 ローム(φ1-10mm) 中量混入。
- 12層 黄褐色 10YR5/6 ローム。
- 13層 黄褐色 10YR5/6 ローム(φ1-10mm) 少量混入。少量中量。
- 14層 暗褐色 10YR3/4 ローム(φ1-30mm) 中量混入。黒褐色土。
- 15層 褐色 10YR4/6 焼土(φ1mm) 微量混入。V、Va、ロームの混合土。
- 16層 暗褐色 7.5YR3/4 焼土(φ1-3mm) 少量混入。
- 17層 暗褐色 7.5YR3/4 炭化物(φ2-5mm) 微量混入。ローム(φ1-10mm) 微量、焼土(φ1-25mm) 少量混入。カマド構築土。
- 18層 暗褐色 10YR2/3 ローム(φ1-10mm)、焼土(φ1-10mm) 微量混入。火床面。

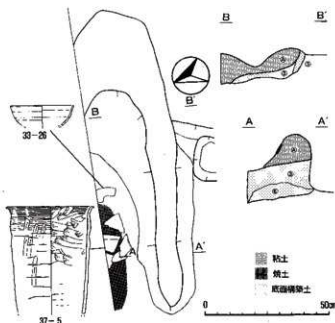
- 1Hの構築土(A-A')
- ①層 褐色 10YR4/4 ローム(φ1-10mm) 混入。
 - ②層 褐色 10YR4/4 ローム(φ1-20mm) 多量混入。
 - ③層 暗褐色 10YR2/2 ローム(φ1-10mm) 多量混入。
 - ④層 褐色 10YR4/4 ローム(φ1-25mm) 中量混入。
 - ⑤層 褐色 10YR4/4 ローム(φ1-25mm) 多量混入。

図1 第1号住居跡

にも僅かに土師器片が出土しているが、覆土の中位以上に出土しているものがほとんどであることから、本住居跡に伴うものではないと思われる。

第2号住居跡(2H) (図3～図7)

概要 本住居跡は、グリッドD-153他の、平坦地に位置し、前壁の東方には、斜面が広がっている。内部施設としてロクロピットが1基(2HRP01)と、土坑2基(2HSK01、2HSK02)が付随している(図4)。外部施設は見られないが前壁の東方には、建物跡として認定できない柱穴状のピットが6基検出されている。また、同じく前壁の東方には、土坑2基(SK18、SK19)、右壁の南方にも土坑1基(SK20)があり、本住居跡に関連していた可能性がある。



1Hカマド構築土・底部堆積土(A・A'・B・B')
 ① 赤褐色 30YR5/4 焼土、粘土(4.1-10cm) 微量混入。
 ② 黒褐色 10YR2/3 砂・土(4.1-10cm) 微量混入。
 ③ 赤褐色 10YR4/4 砂・土。

図2 第1号住居跡カマド

重複 (1)右壁の8/12区、左壁の13区、後壁の13区、14区、カマドの排煙部が攪乱を受けている。(2)並列溝状遺構(SDX04-i)と重複し、本住居跡が古いと思われるが、确实には把握できなかった。

構造 規模は、490-525×520-560cmを測り、平面形は、後壁が若干短いため、やや台形がかかる方形を呈する。四壁は良好に残存していて、深さ38-40cmを測る。壁溝はカマド部分とAコーナーを除いて全周している。燃焼部側壁(左ソデ)の下位にも僅かに壁溝が確認されているが、カマド構築に伴って埋められている。ピットはP1-P8までの8個みられる。P6とP5は、それぞれBコーナーとDコーナーにあり、対応しそうであるが、P5の深さは15cmと浅いことからP5は柱穴として認めがたい。床は、ある程度ロームを掘り込んだ後に、ロームを混入する褐色-黄褐色土を5-15cmの厚さで敷きならしてつくられている。

土層 1層は黒色土で、B-Tmを微量に含む自然堆積土。2層以下は人為堆積と自然堆積が繰り返されているものと考えられる。RP01の上位には、RP01の覆土と類似する層(25層)がみられ、RP01の廃絶に伴う土壌の可能性はある。

カマド 南東壁に作りつけられており、壁の右側(3/4区)に位置する。燃焼部から煙道部の先端近くまで検出されているが、排煙部は近年の攪乱により破壊されている。燃焼部-排煙部は、構築土としての明黄褐色の粘土が火鉢形に固定されているものである。構築の過程は、先ず溝状に掘り込み、次に粘土をその掘り込みのやや内側に盛り、粘土と掘り込みのすき間に充填土を入れて安定させるという3段階の工程が確認されている。煙道部底面は、住居外に至って急に登るものである。燃焼

部側壁(ソデ)は、明黄褐色の粘土を素材としており、床に貼り付けるように構築されている。支脚は、転用の土師器(坏、小壺、甕の下半部)を重ね合わせているもので、高さ調節を数回にわたって行った結果を示しているものかと想像される。支脚は、3箇所にみられるが、これは数回にわたる改修の結果か、あるいは2個掛けのものであると思われる。火床面の範囲と支脚の位置とを見比べると、1号支脚の下の被熱痕の範囲はあまり広くなく、一方、2号支脚と3号支脚の下の被熱痕は広く、厚く見られる。また、2号支脚の上には3号支脚が約3分の1程重なっている。これらのことから、2個掛けではなく、支脚に新旧関係があるものとして考えた場合、1号支脚→2号支脚→3号支脚という変遷を想定できる^(註)。なお、2号支脚の上位の坏と、3号支脚の上位の坏は接合する。火床面(①層)は床をそのまま利用して、よく焼けているが、軟質である。燃焼部側壁内面もよく焼けている。全体的に土層を見ると、人為的に埋められた状況は呈しておらず、自然崩落と流入の結果の堆積状況を示していると考えられる。カマドを通る軸の方位は、N-122°-Eをさす。(註)ただし、1号支脚と3号支脚は同時機能していて、偶然3号支脚の位置のみが強く被熱する回数が多かったとも考えられる。

内部施設 ロクロピット(RP01)

1基が住居跡の真中央、6/7/10/11区にまたがって検出されている。RP01の上端径は79×83cmで、平面形はほぼ円形、断面形は逆台形状を呈し、深さは80cmを測る。堆積土は、9層に分層され、全層とも軟らかいシルト質の土壌である。7、8層のほぼ中央には拳大の自然礫が含まれている。軸木痕と思われる土壌は見られなかったが、8、9層に粘土のブロックが僅かに含まれている。また、前述のように、RP01の上位(2H覆土)には、RP01の覆土と類似する25層がみられ、RP01の廃絶に伴った土壌である可能性がある。2HSK01はカマドの左ソデ付近に位置する円形の土坑である。床構築土は覆っていない。土層断面図をみると、1、2層に焼土粒が混入している。深さは23cm前後を測る。2HSK02は9/10/13/14区に跨って床構築土の下層に検出された。平面形は隅丸形状で、深さは25~40cmである。底面は平坦ではなく、南側がやや円形に窪む。内部の東側底面からは粘土塊が多量に出土

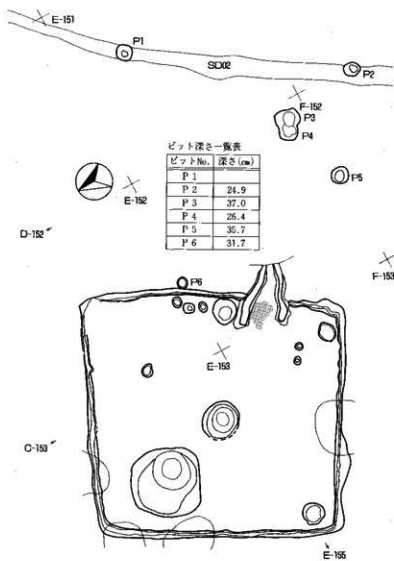
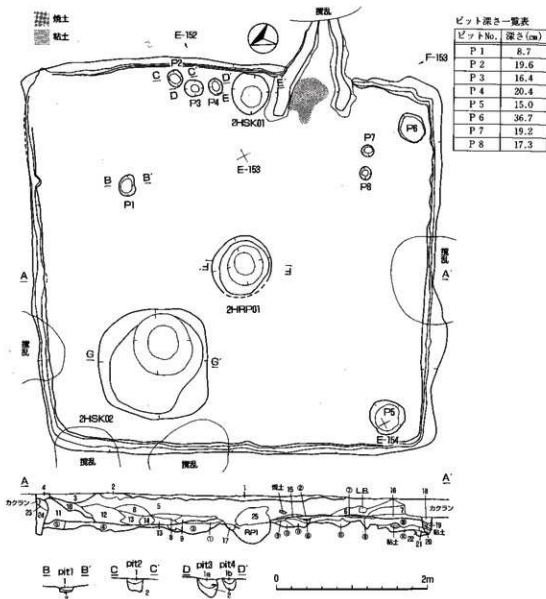


図3 第2号住居跡・ピット



2F (A-A)

- 1 層 褐色 10YR2/1 B-Ts 腐土、ローム粒層堆積層。
- 2 層 暗褐色 10YR2/2 焼土 (F1-3m) 腐土、ローム粒層堆積層。
- 3 層 黄褐色 10YR2/2 ローム粒層、ローム (F1-3m) 少量混入。
- 4 層 褐色 10YR4/4 ローム (F1-5m) 腐土混入。
- 5 層 暗褐色 10YR4/4 焼土 (F1-3m) 少量、炭化物 (F1-3m) 少量、粘土土 (F10m)、ローム (F1-10m) 少量混入。
- 6 層 褐色 10YR4/4 炭化物 (F1-5m) 少量、焼土 (F1-2m) 腐土、ローム (F1-10m) 少量混入。
- 7 層 暗褐色 10YR4/6 ローム (F1-3m) 腐土混入。
- 8 層 暗褐色 10YR4/4 ローム (F1-10m) 少量、焼土 (F1-3m) 腐土混入。
- 9 層 暗褐色 10YR4/4 ローム (F1-3m) 少量、焼土 (F1-3m) 腐土、炭化物 (F1-5m) 少量混入。
- 10 層 暗褐色 10YR2/3 ローム (F1-5m) 腐土、焼土 (F1-3m) 腐土、炭化物 (F1-2m) 腐土混入。
- 11 層 暗褐色 10YR6/0 ローム (F1-3m) 腐土混入。
- 12 層 暗褐色 10YR6/4 ローム (F1-5m) 腐土、焼土 (F1-3m) 腐土、炭化物 (F1-2m) 腐土混入。
- 13 層 暗褐色 10YR6/4 ローム (F1-5m) 腐土、焼土 (F1-3m) 腐土、炭化物 (F1-5m) 腐土混入。
- 14 層 暗褐色 10YR3/4 ローム (F1-10m) 少量、焼土 (F1-3m) 少量、炭化物 (F1-2m) 腐土混入。
- 15 層 黄褐色 10YR2/2 焼土 (F1-3m) 少量、粘土土、炭化物、ローム粒少量混入。
- 16 層 暗褐色 10YR6/1 ローム (F1-8m) 少量、炭化物 (F1-3m) 腐土混入。
- 17 層 暗褐色 7.5YR6/6 ローム (F1-3m) 腐土、ローム粒層堆積層。
- 18 層 暗褐色 10YR6/6 ローム (F1-5m) 腐土、黒色土粒層堆積層。
- 19 層 暗褐色 10YR6/6 ローム (F1-10m) 少量、炭化物 (F1-5m) 少量混入。
- 20 層 黄褐色 10YR5/6 ローム (F1-5m) 少量混入、しまり層。
- 21 層 黄褐色 10YR5/6 ローム (F1-5m) 少量混入、しまり層。
- 22 層 黄褐色 10YR6/9 ローム (F1-3m) 少量混入、しまり層。
- 23 層 暗褐色 10YR6/5 ローム (F1-10m) 少量、黒色土粒層堆積層。
- 24 層 暗褐色 10YR6/4 ローム (F1-10m) 少量、炭化物 (F1-5m) 少量混入、しまり層。
- 25 層 暗褐色 10YR4/4 ローム (F1-5m) 少量、粘土土 (F1-3m) 少量、炭化物 (F1-3m) 少量混入。

2F 埋藏土 (A-A')

- ① 層 褐色 10YR4/4 ローム (F1-5m) 多量、焼土 (F1-2m) 腐土、炭化物 (F1-2m) 腐土混入。
- ② 層 黄褐色 10YR5/6 ローム (F1-3m) 腐土混入。
- ③ 層 黄褐色 10YR5/6 ローム (F1-10m) 多量混入。
- ④ 層 黄褐色 10YR5/6 ローム (F1-2m) 腐土混入、しまり層。
- ⑤ 層 暗褐色 10YR4/6 ローム (F1-10m) 多量混入、しまり層。
- ⑥ 層 暗褐色 10YR4/4 ローム少量混入。
- ⑦ 層 暗褐色 10YR4/4 粘土土 (F1-5m) 多量混入、しまり層。
- ⑧ 層 黄褐色 10YR6/9 焼土、ローム (F1-5m) 多量混入。
- ⑨ 層 褐色 10YR4/4 粘土土 (F1-5m) 少量、焼土 (F1-2m) 腐土、炭化物 (F1-2m) 腐土混入。
- ⑩ 層 暗褐色 10YR4/4 ローム土体 (F1-20m)、黒色土粒層堆積層。
- ⑪ 層 黄褐色 10YR5/6 ローム土体 (F1-25m)。
- ⑫ 層 黄褐色 10YR6/6 ローム土体 (F1-20m)、粘土土 (F10m) 混入。
- ⑬ 層 黄褐色 10YR5/6 ローム土体 (F1-20m)、黒色土粒層堆積層。

図4 第2号住居跡

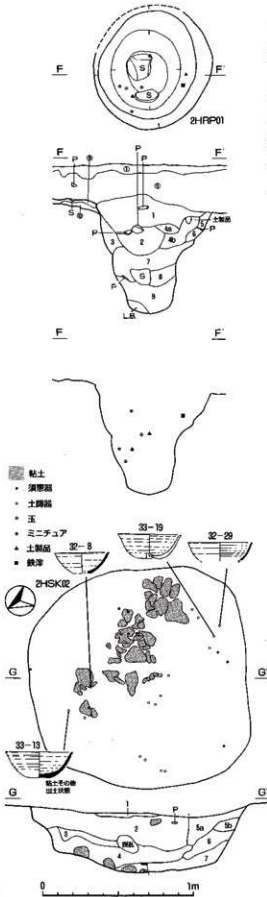
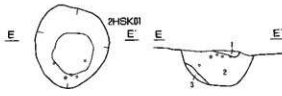


図5 第2号住居跡・ロクロピット (RP01)・土坑 (SK01、02)

しているが、これらは廃棄、あるいは貯蔵されたものと推定され、ロクロピットに伴った素材粘土の可能性もある。

遺物等の出土状態 床面上に土師器・須恵器・窯壁片・シルト礫が出土している。平面的には住居跡の壁際に分布する傾向がうかがえるが、特に1・2・4区に多い。窯壁片は主として1/5区に出土している。土玉は主としてカマド付近・RP01の覆土・8/12区の壁溝に出土している。RP01の覆土からは土鈴が1点出土している。



2Hd01 (B-B)
 1層 褐色 10YR2/1 ローム (φ1-3m) 腐葉、粘土粒 (φ1-3m) 少量、粘土層 (φ1-2m) 腐葉、炭化物 (φ1-3m) 少量混入、粘粒有。
 2層 暗褐色 10YR3/3 ローム (φ1-5m) 腐葉、炭化物 (φ1-2m) 腐葉混入、粘粒有。

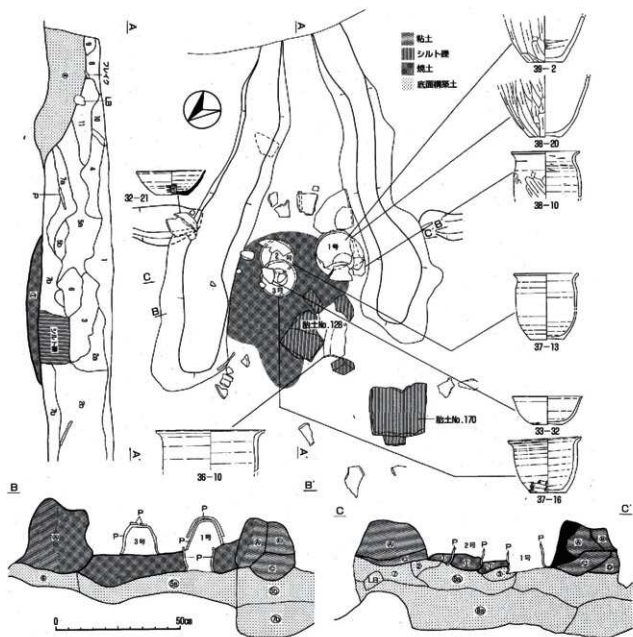
2Hd02 (C-C)
 1層 黄褐色 10YR2/3 ローム (φ2-4m) 少量、炭化物 (φ1-2m) 腐葉、粘土 (φ1-3m) 腐葉混入。
 2層 黄褐色 10YR5/6 ローム、茶褐色土層混入。

2Hd03-4 (D-D)
 1a層 黄褐色 10YR2/2 ローム (φ2-5m) 少量、粘土 (φ1-3m) 腐葉、炭化物 (φ1-2m) 腐葉混入。
 1b層 黄褐色 10YR2/2 砂・土 (φ1-3m) 腐葉、炭化物 (φ1-2m) 腐葉、粘土 (φ1-2m) 腐葉混入。
 2層 暗褐色 10YR3/4 ローム (φ2-3m) 中量、炭化物 (φ1-2m) 腐葉混入。

2HSK01 (E-E)
 1層 暗褐色 10YR3/4 Vローム (φ1-2m) 腐葉、粘土粒 (φ1-3m) 少量、炭化物粒 (φ3m) 少量混入。
 2層 暗褐色 10YR3/3 Vローム (φ1-3m) 腐葉、粘土粒 (φ1-3m) 腐葉、炭化物粒 (φ1-15m) 少量混入。
 3層 褐色 10YR4/6 H-土層腐葉、Vローム (φ1-20m) 中量混入。

2HFP01 (F-F)
 1層 褐色 10YR4/4 Vローム (φ1-7m・φ13-20m) 少量、粘土 (φ1-5m) 腐葉、ローム粒少量、炭化物 (φ1-5m) 腐葉、粘土粒腐葉混入。
 2層 暗褐色 10YR5/4 Vローム (φ1-3m・φ25m) 極少量、粘土 (φ1-3m) 腐葉、ローム粒少量、炭化物 (φ2-3m) 腐葉混入。
 3層 暗褐色 10YR3/4 Vローム (φ1-8m) 腐葉、粘土 (φ1-2m) 腐葉、粘土 (φ1-3m) 腐葉、炭化物 (φ2-3m) 腐葉混入。
 4a層 暗褐色 10YR3/3 Vローム (φ1-3m) 腐葉、ローム粒少量、炭化物、粘土粒腐葉混入。
 4b層 暗褐色 10YR3/3 Vローム (φ1-3m) 腐葉、ローム粒少量、粘土粒腐葉混入。
 4c層 暗褐色 10YR3/3 Vローム (φ1-3m) 腐葉、ローム粒少量、炭化物粒、粘土 (φ2-2m) 腐葉、粘土粒腐葉混入。
 5層 褐色 10YR4/4 Vローム (φ2-3m) 腐葉、粘土 (φ1-15m) 腐葉混入。
 7層 暗褐色 10YR3/3 Vローム (φ1-2m) 腐葉、ローム粒少量、炭化物 (φ2-3m) 極少量混入、土玉あり。
 8層 暗褐色 10YR3/4 粘土質ローム (φ2-12m) エプロック、炭化物粒、粘土粒腐葉混入。
 9層 灰褐色 10YR4/2 VロームとVロームの混合土層、炭化物 (φ2-5m) 腐葉、炭化物質腐葉、粘土 (φ1-15m) 腐葉、炭化物、粘土 (φ2-12m) 極少量混入、粘粒有。

2HSK02 (G-G)
 1層 暗褐色 10YR4/4 ローム (φ2-4m) 少量、炭化物 (φ1m) 腐葉混入。
 2層 黄褐色 10YR5/3 ローム (φ2-70m) 少量、炭化物 (φ2-5m) 中量混入。
 3層 黄褐色 10YR5/3 ローム (φ1-10m) 少量混入。
 4層 暗褐色 10YR3/3 ローム (φ2-5m) 少量、炭化物 (φ1-2m) 腐葉混入、灰層に粘土プロック (Lに灰褐色) あり、土玉あり。
 5a層 褐色 10YR4/4 ローム (φ1-3m) 腐葉、粘土 (φ1-20m) 混入。
 5b層 褐色 10YR5/6 ローム (φ1-2m) 腐葉混入。
 6層 褐色 10YR4/4 黄褐色土、ローム (φ1-3m) 腐葉混入。
 7層 黄褐色 10YR5/6 Lに灰褐色、粘土プロック混入あり。



2号カマド(A-A')

- 1 層 上: 赤い黄褐色 10YR5/3 ヴローム (#1-3m) 焼土 (#1-3m) 焼土層, 焼土堆積層 流入。
- 2a 層 上: 赤い黄褐色 10YR5/3 ヴローム (#2-3m) 焼土, 白色パリス粒状物散見, 焼土粒状物散見 流入。
- 2b 層 上: 赤い黄褐色 10YR5/3 ヴローム (#1-7m) 焼土, ローム粒散見, 白色パリス粒状 (#1-2m) 焼土層, 焼土 (#2-7m) 焼土層 流入。
- 3 層 上: 赤い黄褐色 10YR5/3 ヴローム (#1-10m) 焼土, ローム粒散見, 焼土粒状物散見 流入。
- 4 層 暗褐色 10YR3/4 ヴローム (#1-2m) 焼土層, 焼土 (#1-3m) 焼土, ローム粒状物散見 流入。
- 5a 層 褐色 10YR5/4 ヴローム (#1-15m) 1ブロック焼土, ローム粒散見, 白色パリス (#1-2m) 焼土層, 灰化物 (#1-3m) 焼土, 焼土 (#1-10m) 1ブロック流入。
- 5b 層 褐色 10YR5/4 ヴローム (#1-2m) 焼土, 焼土粒状物散見, 焼土 (#1-2m) 1ブロック流入。
- 6 層 上: 赤い黄褐色 10YR5/4 ヴローム (#1-2m) 焼土層, 白色パリス (#1-2m) 焼土層, 焼土 (#1-3m) 焼土層, 焼土少量流入。
- 7a 層 褐色 7.5YR6/4 ローム粒散見, 焼土 (#1-8m) 中量散見, 焼けた土土塊。
- 7b 層 暗褐色 7.5YR3/4 焼けた土土塊, 焼土 (#1-3m) 中量, 灰化物粒状物散見。
- 8 層 暗褐色 7.5YR3/3 ヴローム (#1-3m) 焼土層, ローム粒散見, 焼土粒状物少量流入。
- 9 層 褐色 7.5YR6/4 焼土粒多量, 灰化物 (#4m) 1ブロック流入。
- 10 層 暗褐色 10YR3/4 ローム粒散見, 焼土粒状物少量流入。
- 11 層 暗褐色 7.5YR3/4 ヴローム (#1-2m) 焼土層, ローム粒散見, 焼土 (#1-2m) 焼土層 (中央部に集中) 流入。

2号カマド焼土(A-A'-C-C')

- ① 層 黄褐色 10YR6/6 焼土, 灰化物粒, 焼土粒, 焼土層 流入, 焼土層は褐色土。
- ② 層 暗褐色 10YR2/4 ローム粒散見, 焼土粒状物散見 流入。
- ③ 層 暗褐色 10YR3/3 ローム粒散見, 灰化物粒状物散見, 焼土 (#1-2m) 焼土層 流入, 暗褐色土上 少量散見。
- ④ 層 暗褐色 10YR3/3 ヴロームと黄ロームの混合土少量, ローム (#2-3m) 焼土少量流入, 少量散見。
- ⑤ 層 暗褐色 10YR2/4 ヴロームと黄ロームの混合土少量, 焼土粒状物散見 流入。

図6 第2号住居跡カマド

24カマド跡層遺土(B-D) (C-C')

- ①等 層褐色 73YR5/4 灰土 (F1-5mm) 少量、炭化物粒極微量混入。穴底面。
 ②等 層褐色 73YR5/4 穴底面、ローム粒微量、粘土 (F2-3mm) 極少量、炭化物 (F1-3mm) 微量混入。
 ③等 層褐色 10YR2/3 Vローム (F2-8mm) 極少量、ローム粒極微量混入。
 ④等 層褐色 10YR2/2 炭化物粒、粘土粒極微量混入。(上方層にて多い)
 ⑤等 層褐色 73YR5/4 ローム粒極少量、粘土 (F1-5mm) 微量混入。
 ⑥等 層褐色 10YR2/3 Vローム (F2-8mm) 17%程度、Vローム (F1-3mm) 微量、ローム粒極微量混入。Lより厚。

- ⑦等 層褐色 10YR2/3 Vローム (F2-5mm) 極少量、ロームと層褐色土の混合土少量混入。
 ⑧等 層褐色 10YR2/2 Vローム (F2-5mm) 極少量、Vローム (F3-5mm) 微量、ローム粒微量、粘土粒極微量混入。
 ⑨等 層褐色 10YR2/2 Vローム (F1-40mm) 多量、炭化物粒極微量混入。灰褐色土とVロームの混合土厚。Lより厚。
 ⑩等 明黄褐色 10YR5/6 Vローム、灰褐色土微量混入。Lより厚。

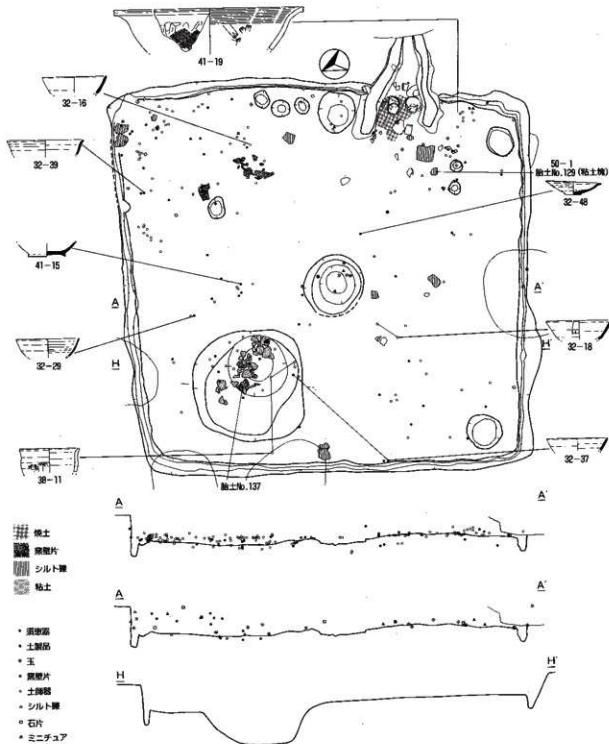


図7 第2号住居跡・遺物出土状況

第3号住居跡(3H) (図8・9)

概要 本住居跡は、グリッドD-156他の、平坦地に位置する。前壁の東方僅かのところには、S K04がある。内部施設や外部施設は認められない。

重複 13区後壁の一部が覆乱を受けているが、住居の平面形状にほとんど影響はない。

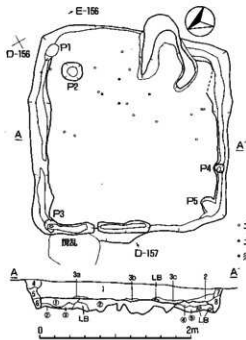
構造 規模は、250-275×253-258cmを測り、ほぼ方形の平面形を呈す。四壁は良好に残存している、20cm前後を測る。壁溝は前壁の1・2区と後壁の15・16区を除いて全周している。ただし、後壁の13区と14区の境あたりは一部途切れる。また、壁溝はロームを掘り込んでいない。ピットは5基検出され、1区と12区の壁溝内及びA・C・Dコーナーに検出されている。床は、第1次工程として、ロームまで掘り下げ、第2次工程として、ロームを多量に混和させた土を8-20cmの厚さで、平坦に敷きならしてつくられている。土層断面図より、腰板は第2次工程の時に、同時に固定されているようである。

土層 ほとんど細分されない層であり、大半が1層で占められる。1層はローム粒子を多量に含んでいることから、本住居跡は人為的に埋められた可能性が高いと考えられる。

カマド 南東壁に作りつけられており、壁の右側(3/4区)に位置する。燃烧部から排煙部まで検出されているものの、煙道部は非常に短く、住居外に僅かにしか伸びていない。燃烧部側壁(ソテ)は、褐色の粘土を素材としており、床面上に貼り付けるようにして構築されている。燃烧部~排煙部の平面形状は、褐色の粘土がU字を呈するものである。火床面として認識できる範囲は検出されていない。燃烧部側壁内面はほとんど焼けていない。火床面のほぼ中央には土師器臺の底部破片1個が出土しているが、倒立していないことから、支脚ではないと思われる。煙道部底面は住居外に至って急に立ち上がるものである。カマドを通る軸の方位は、N-123°-Eをさす。土層を見ると、人為的に破壊されているものの可能性がある。

遺物等の出土状態 1-8区の床面上に土師器片が少量出土しており、9-16区にはほとんど遺物が

出土していない。7区(カマド焚口)の床面上には炭化材が出土している。全体的に遺物は少ない。



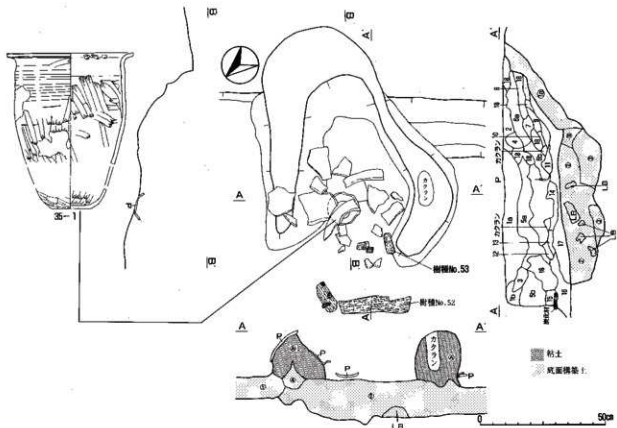
ピット深さ一覧表

ピットNo.	深さ(cm)
P 1	22.0
P 2	19.7
P 3	25.9
P 4	16.3
P 5	12.3

3H

- 1 壁 内側 10YR2-1 ローム(φ1-10mm) 多量、炭化物(φ1-3mm) 微量、焼土(φ1-2mm) 微量混入。
 - 2 壁 内側外 10YR2-2 ローム(φ2-10mm) 多量、炭化物(φ1-3mm) 微量、焼土(φ1-2mm) 微量混入。
 - 3a 壁 褐色色 10YR2-2 ローム(φ1-10mm) 中量、炭化物(φ1-2mm) 微量混入。
 - 3b 壁 褐色色 10YR2-3 ローム(φ2-10mm) 多量、炭化物(φ1-3mm) 少量混入。
 - 3c 壁 褐色色 10YR2-3 ローム(φ2-10mm) 多量、炭化物(φ1-3mm) 微量、焼土(φ1-2mm) 微量混入。
 - 4 壁 褐色色 10YR2-2 ローム(φ1-30mm) 多量、炭化物(φ1-3mm) 微量混入。
 - 5 壁 褐色色 10YR2-3 ローム(φ1-15mm) 多量、炭化物(φ1-2mm) 微量混入。
 - 6 壁 褐色色 10YR2-3 ローム(φ2-5mm) 中量、炭化物(φ1-2mm) 微量混入。
 - 7 壁 褐色色 10YR2-2 ローム(φ1-3mm) 多量混入。
 - 8 壁 褐色色 10YR2-2 ローム(φ1-3mm)、炭化物(φ1-2mm) 微量混入。
- 3-排煙部土
- ① 壁 褐色色 10YR2-3 ローム(φ2-50mm) 多量、炭化物(φ1-2mm) 微量混入。
 - ② 壁 褐色色 10YR2-3 ローム、炭化物1層混入。
 - ③ 壁 褐色色 10YR2-3 ローム(φ1-10mm) 中量混入。
 - ④ 壁 褐色色 10YR2-3 ローム、炭化物1層混入。
 - ⑤ 壁 褐色色 10YR2-3 ローム(φ2-50mm) 多量混入。

図8 第3号住居跡



3Hカマド (A-A')

- 14 層 黒褐色 10YR2/3 O-M (φ1-3cm) 少量、炭化物 (φ1-10cm) 多数混入。
- 15 層 暗褐色 10YR3/3 O-M (φ1-7cm) 多数混入。
- 16 層 暗褐色 10YR3/3 O-M (φ1-2cm) 多数、炭化物 (φ1cm) 多数混入。
- 17 層 暗褐色 10YR3/4 O-M (φ1-5cm) 少量、炭化物 (φ2cm) 多数混入。
- 18 層 暗褐色 10YR3/3 O-M (φ1-3cm) 多数混入。
- 19 層 黒褐色 10YR2/3 O-M (φ1-15cm) 少量、炭化物 (φ1-5cm) 多数混入。
- 20 層 暗褐色 10YR3/3 O-M (φ1-10cm) 多数、炭化物 (φ1cm) 多数混入。
- 21 層 暗褐色 10YR3/3 O-M (φ1-15cm) 少量混入。
- 22 層 暗褐色 10YR3/3 O-M (φ2-12cm) 少量混入。
- 23 層 暗褐色 10YR3/4 O-M (φ1-12cm) 多数混入。
- 24 層 暗褐色 10YR3/3 O-M (φ1-15cm) 多数混入。
- 25 層 暗褐色 10YR3/4 O-M (φ1-5cm) 多数混入。
- 26 層 暗褐色 7.5YR3/4 O-M (φ2-3cm) 多数混入。
- 27 層 暗褐色 10YR3/3 O-M (φ1-2cm) 多数混入。
- 28 層 暗褐色 10YR3/3 O-M (φ1-2cm) 多数混入。
- 29 層 暗褐色 10YR3/3 O-M (φ1-3cm) 多数混入。
- 30 層 暗褐色 10YR2/3 O-M (φ1-3cm) 多数、炭化物 (φ5-10cm) 多数、焼土 (φ2cm) 多数混入。
- 31 層 暗褐色 10YR2/3 O-M (φ1-10cm) 多数、炭化物 (φ13cm) 1ブロック混入。

- 15 層 暗褐色 10YR3/3 O-M (φ1-4cm) 多数、炭化物混入。
- 16 層 暗褐色 10YR2/3 炭化物 (φ20cm) 1ブロック、O-M (φ1cm) 多数混入。
- 17 層 暗褐色 10YR3/4 O-M 少量、焼土 (φ1-3cm) 少量、炭化物 (φ1-3cm) 少量混入。
- 18 層 暗褐色 10YR4/6 焼土 (φ1-5cm) 多数混入。

3Hカマド下面構造土 (A-A') (B-B')

- ① 層 暗褐色 10YR3/3 炭化物 (φ1-2cm) 多数、焼土 (φ1-2cm) 多数混入。
- ② 層 暗褐色 10YR2/3 O-M (φ1-3cm) 少量混入。
- ③ 層 暗褐色 10YR3/4 O-M (φ2-9cm) 少量、炭化物 (φ1-3cm) 多数混入。
- ④ 層 暗褐色 10YR3/4 O-M (φ1-3cm) 多数、焼土 (φ1cm) 多数混入、f. s. s. 質。
- ⑤ 層 暗褐色 10YR2/3 O-M (φ1-5cm) 多数混入。

3Hカマド下層土 (B-B')

- ① 層 暗褐色 10YR4/6 O-M (φ1-5cm) 多数混入、炭化物 (φ1-7cm) 多数、焼土 (φ2-5cm) 少量混入。

図9 第3号住居跡カマド

第4号住居跡 (4H) (図10~14)

概要 本住居跡は、グリッドG-160他の、平坦地に位置し、後述する第6号住居跡 (6H) の右壁を拡張したものである (図10参照)。内部施設としてロクロピット1基 (4HRP01) が、外部施設として、外延溝が2区の前壁から調査区東部の斜面に向かって伸びている (図10)。ロクロピットと外延溝は、6Hの機能していた段階においても付随していた可能性がある。なお、左壁の北東約2mのところにはSK08 (粘土採掘坑)、Cコーナーの北約3mのところにはSK10があり、本住居跡と関連していた可能性がある。

重複 左壁の5/9区とDコーナーが攪乱を受けており、また、並列溝状遺構 (SDX01) のa、bと重複している。SDX01より本住居跡は古いが、平面的な影響はほとんど受けていない。

構造 規模は、515~578×635~638cmを測り、平面形は、右壁と左壁がやや短い長方形を呈す。特に拡張した側の右壁が短い。四壁は良好に残存していて、深さ30~40cmを測る。壁溝は1区の左壁の

一部、Bコーナーの一部、2区の前壁の一部を除いて全周している。然焼部側壁(ソデ)の左側の下位にも僅かながら壁溝が確認されている(図13)が、カマド構築の際に埋められている。ピットはP1~P23まであり、支柱穴と判断できるものはP2・7・17・18の4基であり、平面構成は長方形を呈す。ただしこの柱穴は、6Hの平面形に対して安定する位置にあるため、6Hに伴うものである可能性も高い。壁溝内もしくは壁溝に接する部分には、補助柱穴と考えられるいわゆる壁柱穴が巡る。床は、第1次の掘り込みの段階で、平坦に掘られている部分(特に中央部)が多い。ただし、壁溝付近はやや深く掘り込まれ、床構築土を充填する際に腰板も同時に固定させていると考えられる。

土層 2層以下は人為堆積と自然堆積が繰り返されている状態と考えられる。3層を切る1層は、並列溝状遺構(SDX01-a)の堆積土で、微量にB-Tmが混入している。1・5区には焼土と粘土の混合した土が薄く敷かれている(点線部分)。これはカマドを修理、あるいは再構築時の排土である可能性がある。

カマド 南東壁に作りつけられており、壁の右側(3区)に位置する。然焼部から排煙部の付近まで検出されたが、煙道部~排煙部の左側壁は残存していない。また、排煙部は古い時代の攪乱を受けているようで、検出できなかった。然焼部~排煙部の残存形状を平面的に見た場合、左ソデがやや長い「ハ」字状を呈している。然焼部

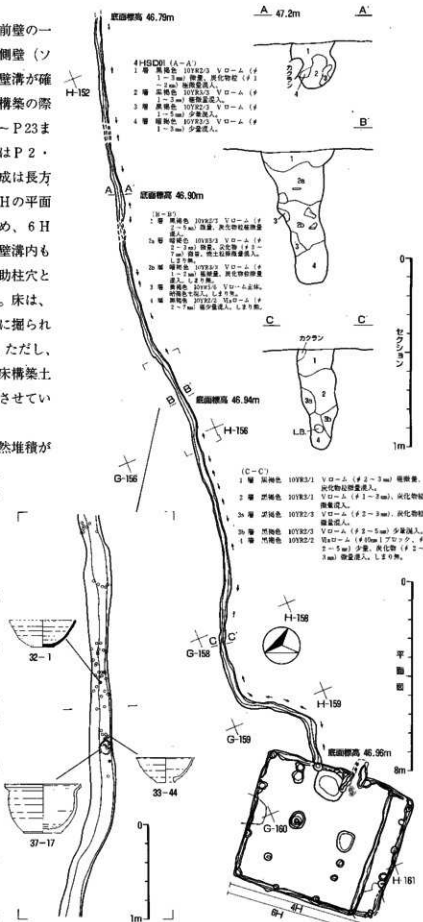
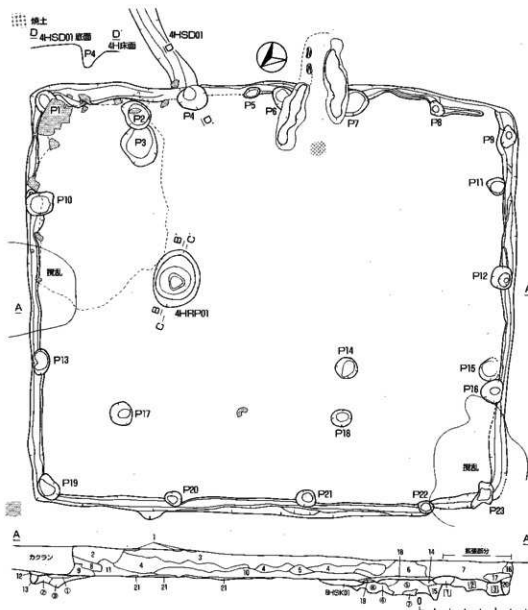


図10 第4号住居跡・第6号住居跡(全体合成)



ピットの深さ一覧表

ピットNo.	深さ(cm)
P 1	21.2
P 2	35.5
P 3	12.3
P 4	27.4
P 5	26.4
P 6	22.0
P 7	38.7
P 8	22.4
P 9	23.9
P10	36.2
P11	33.8
P12	40.0
P13	28.7
P14	27.3
P15	28.3
P16	46.2
P17	39.9
P18	22.0
P19	35.8
P20	29.4
P21	38.8
P22	41.9
P23	10.6

4M (A-A')

- 1 層 黒色 10YR2/1 ローム層、B-T層の腐敗層混入。土盛り層。
- 2 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム (F1-10m) 少量混入。
- 3 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム (F1-10m) 腐敗層混入。B-T層の腐敗層混入。
- 4 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム (F1-15m) 中量混入。
- 5 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム (F1-10m) 少量混入。
- 6 層 黒褐色 10YR2/3 Vローム (F1-15m) 少量。灰化物 (F1-2m) 腐敗層混入。
- 7 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム (F1-15m) 中量。灰化物 (F1-2m) 腐敗層混入。
- 8 層 褐色 10YR4/6 Vローム (F1-10m) 少量。灰化物 (F1-2m) 腐敗層混入。
- 9 層 黒褐色 10YR2/3 Vローム (F1-10m) 少量。灰化物 (F1-10m) 少量。粘土 (F1-3m) 少量混入。
- 10 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム (F1-10m) 少量混入。
- 11 層 黒褐色 10YR2/3 Vローム (F1-15m) 少量混入。
- 12 層 黒褐色 10YR2/3 Vローム (F1-5m) 少量混入。
- 13 層 灰褐色 10YR2/2 ローム (F1-5m) 腐敗層混入。土盛り層。
- 14 層 灰褐色 10YR2/4 Vローム (F1-10m) 中量。灰化物 (F1-2m) 少量混入。
- 15 層 灰褐色 10YR2/4 ローム (F1-3m)。灰化物 (F1-3m) 腐敗層混入。土盛り層。
- 16 層 暗褐色 10YR3/4 ローム (F1-5m) 腐敗層混入。
- 17 層 暗褐色 10YR3/4 ローム (F1-8m) 中量。灰化物 (F1-3m) 腐敗層混入。
- 18 層 暗褐色 10YR3/3 Vローム (F1-5m) 少量。粘土 (F10-100m)。粘土 (F7m) 1丁。灰化物 (F1-3m) 腐敗層混入。
- 19 層 暗褐色 10YR3/3 Vローム (F1-10m)。灰化物 (F1-3m) 少量混入。
- 20 層 暗褐色 10YR2/2 ローム (F1-5m) 少量。灰化物 (F1-3m) 腐敗層混入。
- 21 層 土盛り層。黒褐色 10YR4/3 ローム (F1-3m)。灰化物 (F1-3m) 腐敗層。粘土 (F10) 少量混入。粘土層。

4M-5M 居住層跡 (A-A')

- ① 層 土盛り層。黒褐色 10YR4/3 Vローム (F1-10m) 中量混入。
- ② 層 褐色 10YR4/4 Vローム (F1-17m) 少量混入。
- ③ 層 黒褐色 10YR2/3 Vローム (F1-15m) 少量。灰褐色少量混入。
- ④ 層 土盛り層。黒褐色 10YR4/3 Vローム (F1-10m) 中量。粘土 (F10m) 1丁。灰化物 (F1-2m) 少量混入。
- ⑤ 層 土盛り層。黒褐色 10YR4/3 Vローム (F1-10m) 中量。粘土 (F1-5m)。灰化物 (F1-5m) 少量混入。
- ⑥ 層 灰褐色。10YR2/2 ローム (F1-3m)。灰化物 (F1-3m) 少量。粘土少量混入。土盛り層。
- ⑦ 層 暗褐色。10YR2/2 Vローム (F1-15m) 少量。灰化物 (F1-5m) 腐敗層混入。土盛り層。

4M-5M 居住層跡 (断面部分) (A-A')

- ① 層 暗褐色 10YR2/3 ローム (F1-5m)。灰化物 (F1-3m)。粘土 (F1-3m) 腐敗層混入。
- ② 層 暗褐色 10YR2/3 Vローム (F1-10m) 中量。灰化物 (F1-5m) 少量。粘土 (F1-3m) 腐敗層混入。
- ③ 層 暗褐色 10YR2/3 ローム (F1-10m) 中量。灰化物 (F1-2m) 少量混入。土盛り層。

図11 第4号住居跡

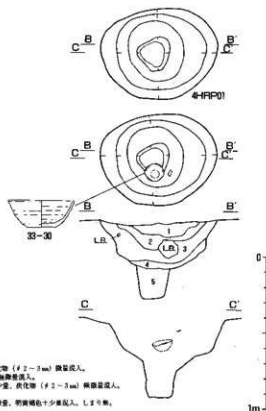
側壁(ソデ)は、にぶい黄褐色の粘土を素材としており、床に一部埋め込むように構築されている。また右ソデ端部には須恵器の坏が埋め込まれている。支脚は、土師器坏を利用しており、倒立させている。火床面(①層)は床(床構築土)をそのまま利用して、よく焼けているが軟質であり、焼土化の範囲も小さい。一方、燃焼部側壁内面はよく焼けている。左ソデの端部には、窯壁片が接する状態で出土しており、ソデの芯材として埋め込まれていた可能性がある。なお、この窯壁片には焼土が付着していることから、窯からとり出して住居内に持ち込み、二次利用されていることが確実に分かる。土層を見ると、人為的に破壊されたり、埋められたりした状況は呈していない。自然崩落と土壌流入の結果の堆積であろうと考えられる。カマドを通る軸の方位は、N-131°-Eをさす。本カマドの下層(床構築土下層)には前段階の住居である6Hカマドの火床面が残っている^(註)(A-A'土層図参照)。住居拡張に伴ってカマドも作り替えた可能性が高いが、6Hカマドの残骸と特定できる土壌は確定できなかった。なお、本カマドの左ソデの下層には、6Hに伴う土坑(6HSK01)があることから、本カマドは、6Hカマドの燃焼部を延長させる(手前に伸ばす)ようにしてつくられている可能性も考えられる。

(註) 6Hの平面図には便宜的に4Hカマドと同じ平面図を組み込んでいる。

内部施設 ロクロピット(4HRP01)1基が床面の6区に検出されている。周辺の床面上には白色の粘土が微量に分布していたが、本ロクロピットに関連していた可能性もある。ロクロピットの床面における平面形は楕円形を呈し、底面に柱状のピットを穿つような上下二重構造を呈す。上端の径は約77×60cmで、深さは49cmを測る。土坑状部分の2層からは、ほぼ完形の土師器坏が1個体出土している^(註)。この土師器坏は、(4)の6Hロクロピットから出土した坏と胎土、焼成が類似している。

土層を全体的に見ると、弓状に堆積しており、一見、自然堆積的なラインを形成しているが、5層を除く全層に、ロームが混入し、また、2層と3層の間には大型のロームブロックが含まれていることから、人為的な埋戻しがなされていると考えられる。5層は、ほろほろしてしまりの全く無い、混入物も含まないので、断面を削っている最中に、一気に崩れ、壁面がしっかり露出したほどである。この状況は、軸木を残したまま埋め戻された結果を示しているのではないと推定される。

遺物等の出土状態 床面上に土師器、須恵器、窯壁片、粘土塊が出土している。平面的には1・5・5・6区に集中する傾向がみられる。窯壁片は主として1・3区に集中している。縄文時代の石鏃や土製品も床面上に出土しており、本住居跡の居住者が持ち込んでいたものと思われる。



- 4HRP01 (B-B')
- 1層 黄褐色 5YR2/3 瓦ローム(φ2-15cm) 中量、灰化物(φ2-3mm) 微量混入。
 - 2層 黒褐色 5YR2/2 V D-A(φ30cm) 微量、灰化物と焼土混入。
 - 3層 黄褐色 5YR2/3 V 瓦混入ローム(φ2-10cm) 少量、灰化物(φ2-3mm) 微量混入。
しりや灰。
 - 4層 暗褐色 5YR3/4 V 瓦混入ローム(φ2-8cm) 微量、暗褐色土少量混入、しりや灰。
 - 5層 黒色 5YR2/1 混入物なし、しりや灰なし。

図12 第4号住居跡ロクロピット(4HRP01)

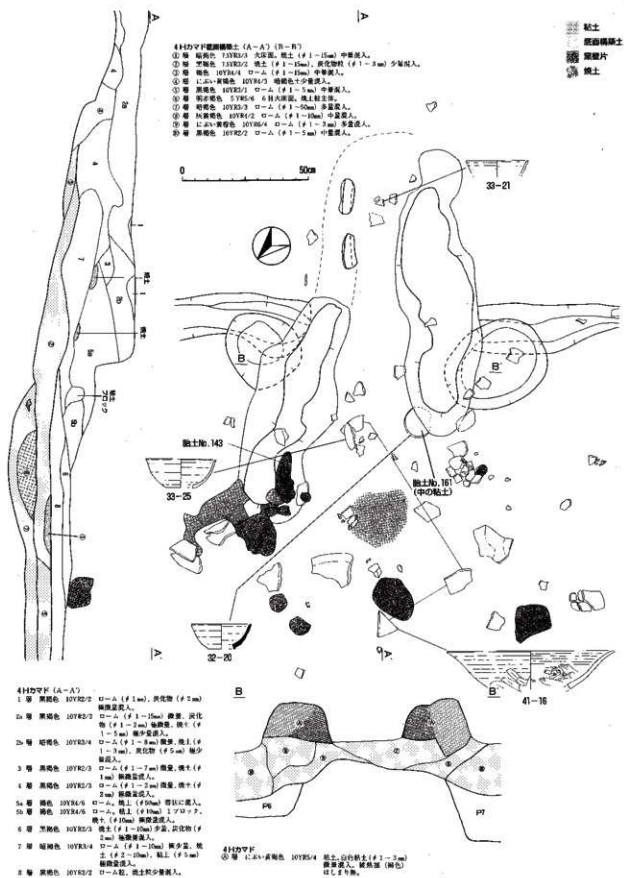


図13 第4号住居跡カマド

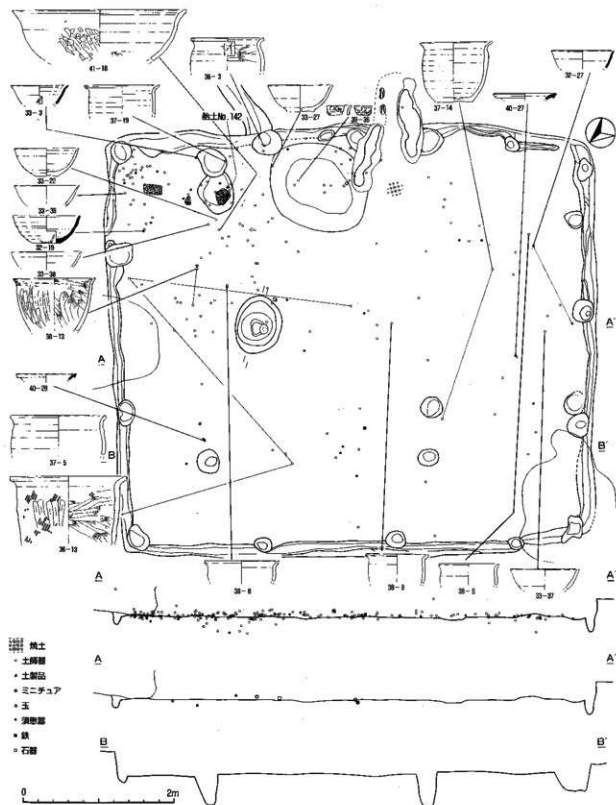


図14 第4号住居跡遺物出土状態

その他 ロクロピット(4HRP01)は、6Hの機能段階から存在していた可能性もある。

第4号住居跡付属外延溝(4HSD01) (図10)

概要 調査区東域の斜面方向に伸びている。H-151グリッドにおいて途切れているため全体の形状は不明である。4H前壁(2区)から伸びるものである。

重複 SDX02-03-04・SD02-03-04と重複し、いずれよりも本溝跡が古い。一部攪乱を受けている。

構造 前壁(2区)から伸びているが、厳密には、2区の北東よりにあるP4の上端から伸びているものである。深さはC-C'で53cm、B-B'で70cm、A-A'で24cmを測り、大幅な深淺がみられるが、底面の絶対高は46.90-46.96mを測り、ほとんど差がみられない。住居の床面と溝跡の底面の高低差は10cm程である(図11・D-D')。平面図には底面における高低を矢印で簡単に表現しておいたが、いずれにしても水などが流れるような傾斜ではない。溝跡内に入った雨水を観察したところ、水はけが非常に良く、後に泥が若干残る程度のものであった。幅は広狭がみられ、16-38cmを測り、長さは検出長(直線長)で32m.88cmを測る。

堆積土 ロームを混入する黒褐色土を基本とするが、部位によって差がみられる。G-157・158グリッド辺りにおける底面には、2-46mmの礫がわずかに堆積している。

遺物等の出土状態 G-155グリッドにおける確認面には、土師器坏や土師器小型甕がまともて出土している。小型甕(図37-17)は、口縁部が上を向いて出土しており、人為的に安置されたものと考えられる。

第6号住居跡(6H) (図15)

概要 本住居跡は、前述した第4号住居跡の拡張以前のものである(図10参照)。6H右壁溝は4Hの底面にかすかに確認された。4Hの項で述べた4HRP01と4HSD01は、6Hの機能段階においても付随していた可能性がある。

重複 (1)左壁の5、9区とDコーナーが攪乱を受けている。(2)並列溝状遺構(SDX01-a、b)と重複し、いずれよりも本住居跡が古い。平面的な影響は受けていない。

構造 規模は、550-560×525-565cmを測り、平面形は、ほぼ方形を呈す。前壁、後壁、左壁は良好に残存しているが、右壁は拡張時に取り壊されている。深さは4Hと同一と考えられる。壁溝は1区の左壁の一部と2区の前壁の一部を除いて全周している。ピットは4Hのものと6Hのものに分離できないが、17基あり、主柱穴と判断されるものは4Hと同じP2・7・17・18である。壁柱穴が壁溝内もしくは壁溝に接して12個みられ、これらは補助柱穴と考えられるが、中には4Hに伴うものも含まれている。床のつくりは、基本的に4Hと同じと考えられる。

土層 4Hを参照。基本的に覆土は無く、床構築土も4Hと同じである。

カマド^(註) 4Hカマド燃焼部の下層には6Hカマドの火床面が検出されている(図13A-A')。6Hの火床面の方が4Hの火床面よりも焼土化の範囲は広い。6Hカマドの残骸と断定できる土塊は見いだせなかったが4Hの1・5区に広がっている粘土と焼土の混合土が6Hカマドの排材である可能性がある。いずれにしても6Hカマドは住居拡張に伴って作り替えている可能性が高い。

(註)6Hの平面図には、便宜的に4Hカマドをそのまま組み込んでいる。

跡と関連するものかどうかは不明である。

重複 並列溝状遺構(SDX01-b, c)と重複する。本住居跡が古い、平面的な影響はほとんど受けていない。

構造 規模は、330~340×405~425cmを測り、平面形は、右壁と左壁がやや短い長方形を呈す。四壁は良好に残存していて、深さ20cm前後を測る。壁溝は前壁の一部(3・4区)と後壁(14・15区)の一部を除いて全周している。3・4区の前壁の一部が途切れている理由は、後述する旧カマドを設置するために意図的な掘り残されたためと考えられる。燃焼部側壁(左ソデ)の下位にも僅かながら壁溝が確認されている(図18)が、カマド構築の際に埋められている。ピットは7個あり、Aコーナーを除く3コーナーに1個ずつと、前壁際と前壁溝内に4個みられるが、支柱穴と断定できるものはみられない。床は、第1次掘り込みの段階の凹凸をなくすようにロームを混入する土を入れ、平坦に敷きならし、かためられている。

土層 大半が1層の黒色土で占められ、これは自然堆積土と考えられる。また、1層は、並列溝状遺構(SDX01-b)に切られている(スクリーントーン部分)。

カマド カマドは作り替えがなされており、2区にあるカマドが新しい段階のカマド(新カマド)で、3区と4区の間にある焼土は、古い段階のカマド(旧カマド)の火床面であると考えられる。新カマド、旧カマドともに南東壁(前壁)に作りつけられており、新カマドは壁の左側に、旧カマドは壁の右側に位置する。

[新カマド] 燃焼部-排煙部の形状を平面的に見ると、逆V字状を呈している。燃焼部から排煙部まで検出されているものの、煙道部は非常に短く、住居外に僅かしか伸びていない。火床面から煙道部底面の中間には僅かな段がみられる。構築土には褐色~暗色の粘土が使われており、燃焼部側壁(ソデ)は、床に貼り付けるように構築されている。支脚には、土師器環の底部が利用されている。火床面(①層)は床面(床構築土)が被熱しているもので、よく焼けているものの軟質である。また、燃焼部側壁内面はあまり焼けていない。煙道部や燃焼部の底面は、予めロームを深く掘り込んだ後に、ロームが混入する黒~黒褐色土をならしてつ

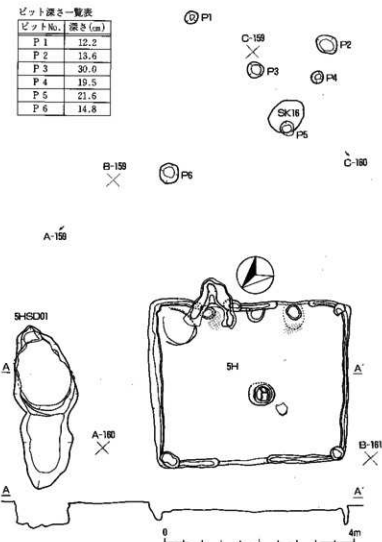
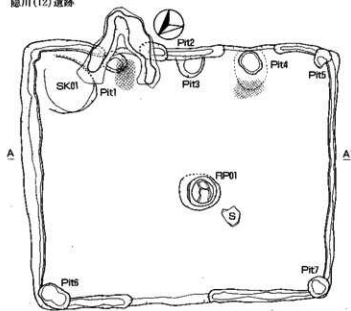


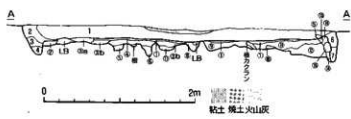
図16 第5号住居跡(全体)

藤川(12)遺跡



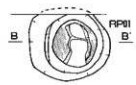
- 5H(A-A')
- 1層 黄褐色 10YR2/1 ローム (φ1-3cm) 焼燻炭屑混入。
 - 2層 黄褐色 10YR2/2 ローム (φ1-30cm) 少量混入。
 - 3層 黄褐色 10YR2/1 ローム粒状物少量混入。LとR相。
 - 4層 黄褐色 10YR2/1 ローム (φ1-10cm) 少量混入。LとR相。
 - 5層 黄褐色 10YR4/6 Vローム互層。
 - 6層 暗褐色 10YR3/4 ローム (φ1-3cm) 焼燻炭屑混入。
 - 7層 黄褐色 10YR2/1 ローム粒状物少量混入。LとR相。

- 5H横断土器断面図上 (A-A')
- ①層 黄褐色 10YR2/2 ローム (φ1-5cm) 少量。焼土粒 (φ1-3mm) 少量混入。
 - ②層 黄褐色 10YR2/2 ローム (φ1-5cm) 少量混入。
 - ③層 黄褐色 10YR2/2 ローム (φ1-5cm) 少量混入。粘性層。
 - ④層 黄褐色 10YR2/2 ローム (φ1-7cm) 少量混入。
 - ⑤層 黄褐色 10YR2/2 ローム (φ1-10cm) 焼燻炭屑混入。粘性層。
 - ⑥層 黄褐色 10YR3/4 ローム (φ1-2cm) 焼燻炭屑混入。
 - ⑦層 土にL-V黄褐色 10YR5/6 ローム粒中量混入。
 - ⑧層 黄褐色 10YR4/4 ローム粒 (φ1-3cm) 少量混入。
 - ⑨層 黄褐色 10YR2/2 ローム粒少量混入。
 - ⑩層 黄褐色 10YR2/2 ローム (φ1-2cm) 焼燻炭屑混入。土質灰色強く、内側ローム多い。
 - ⑪層 黄褐色 10YR4/4 Vロームプロング。
 - ⑫層 黄褐色 10YR2/2 ローム (φ1-5cm) 少量混入。
 - ⑬層 黄褐色 10YR2/4 ローム (φ1-10cm) 少量混入。LとR相。
 - ⑭層 黄褐色 10YR2/1 ローム (φ1-5cm) 少量混入。
 - ⑮層 黄褐色 10YR2/2 ローム (φ1-10cm) 少量混入。
 - ⑯層 黄褐色 10YR4/6 ローム (φ1-10cm) 少量混入。

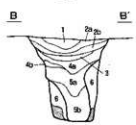


ピット深さ一覧表

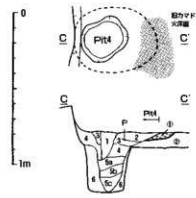
ピットNo.	深さ (cm)
P 1	35.4
P 2	45.3
P 3	17.5
P 4	43.3
P 5	33.5
P 6	37.7
P 7	51.0



- 5HFP01 (B-B')
- 1層 黄褐色 10YR2/1 ローム (φ2-30cm) 焼燻炭屑 (φ2-15mm) 少量。焼土粒少量混入。
 - 2層 黄褐色 10YR3/1 ローム (φ2-3cm) 少量。炭化物 (φ2-3mm) 少量混入。焼土粒少量混入。
 - 3層 黄褐色 10YR3/2 ローム (φ1-3cm) 少量。炭化物 (φ1-2mm) 少量混入。焼土粒少量混入。
 - 4層 黄褐色 10YR2/1 ローム (φ2-15cm) 焼燻炭屑少量混入。LとR相。
 - 5層 黄褐色 10YR2/1 ローム (φ2-15cm) 焼燻炭屑混入。LとR相。
 - 6層 黄褐色 10YR3/2 ローム (φ2-10cm) 多量。炭化物粒少量。LにL-V黄褐色粘土 (φ15-25mm) 少量混入。LとR相。
 - 7層 暗褐色 10YR3/2 ローム (φ2-30cm) 焼燻炭屑。炭化物粒少量。黄褐色土少量混入。LとR相。
 - 8層 暗褐色 10YR7/6 黄褐色土少量。LにL-V黄褐色土少量。炭化物 (φ1-2mm) 焼燻炭屑混入。LとR相。



- 5HPit4 (C-C')
- 1層 黄褐色 10YR2/2 ローム (φ2-3cm)。炭化物粒。焼土粒少量混入。
 - 2層 黄褐色 10YR2/2 ローム (φ2-5cm)。炭化物 (φ1-3mm) 少量。焼土 (φ1-3mm) 少量混入。
 - 3層 黄褐色 12YR3/2 ローム粒。炭化物粒少量。焼土 (φ1-3mm) 少量混入。
 - 4層 暗褐色 12YR3/5 ローム (φ1-3cm)。炭化物粒少量。焼土 (φ1-3mm) 少量混入。
 - 5層 暗褐色 12YR6/3 ローム (φ2-3cm) 少量。焼土少量混入。LとR相。
 - 6層 暗褐色 12YR3/2 ローム (φ2-3cm) 少量。炭化物粒少量。焼土 (φ1-3mm) 少量混入。LとR相。
 - 7層 黄褐色 12YR3/2 ローム (φ2-2cm) 少量。焼土粒少量混入。
 - 8層 黄褐色 12YR4/1 ローム (φ1-15cm) 多量混入。

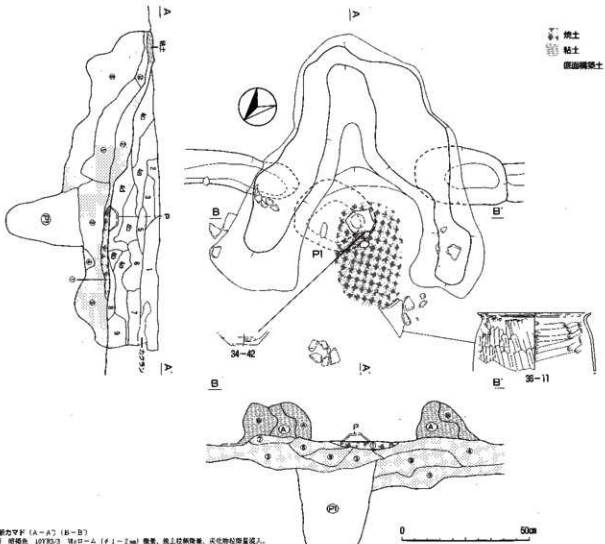


- 5Hピット4の土器断面図下 (C-C')
- ①層 黄褐色 12YR4/1 灰土層。炭化物粒多い。炭化物粒少量。焼土 (φ1-3mm) 少量混入。
 - ②層 黄褐色 10YR2/2 ローム (φ1-8cm)。炭化物粒少量混入。LとR相。

図17 第5号住居跡

くられている。燃焼部の床構築土の下位には、ピット(P1)があり、旧カマドの機能がいた段階における柱穴と考えられる。また、旧カマドの火床面は、P4と重複関係にあり、P4が新しい。旧カマドを廃してカマドを左側に新構築する際、P1を廃してP4を新しくつくるというように、カマドを左側に、ピットを右側に移動させたものと考えられる。新カマドの軸の方位は、N-131°-Eをさす。

旧カマドの構築土は、新カマドを構築する際に破壊されたようであり、その残骸は、3区周辺にみられる粘土(図19)ではないかと考えられる。火床面は新カマドと同様に床面(床構築土)がそのま



54新カマド(A-A')(B-B')

- 1 層 暗褐色 10YR5/3 灰ローム(φ1-2m) 微量、焼土粒少量混入、炭化物粒微量混入。
- 2 層 暗色 10YR4/4 灰ローム(φ1-2m) 微量、焼土粒少量混入、炭化物粒微量混入。
- 3 層 濃い黄褐色 10YR5/4 焼土(φ1-2m) 少量、炭化物粒少量混入、灰土粒少量混入。
- 4 層 暗褐色 7.5YR4/4 焼けた天井筋構築土、MaO-ム(φ1-2m) 微量、焼土(φ2-3m) 微量混入。
- 4a 層 暗褐色 7.5YR4/4 焼けた天井筋構築土、焼土(φ2-10m)、炭化物粒少量混入。
- 4b 層 暗褐色 10YR3/4 焼けた天井筋構築土、MaO-ム(φ1-2m)、焼土(φ1-3m) 微量混入。
- 4c 層 暗褐色 7.5YR4/4 焼けた天井筋構築土、焼土(φ1-5m) 少量、炭化物粒少量混入。
- 5 層 黒褐色 10YR2/2 MaO-ム(φ1-2m) 微量混入、炭化物粒少量混入、焼土(φ1-3m) 微量混入。
- 6 層 暗褐色 10YR3/4 焼けた天井筋構築土、焼土(φ1-5m)、炭化物粒少量混入。
- 7 層 暗褐色 10YR3/4 焼けた天井筋構築土、暗褐色土(φ1-3m) 微量混入、炭化物粒少量混入。
- 8 層 暗褐色 7.5YR4/4 天井筋構築土、焼土(φ1-3m) 微量混入、炭化物粒少量混入。
- 9 層 黒褐色 10YR2/3 暗褐色土(φ1-3m) 炭化物(φ2-3m) 微量混入。

54新カマド構築土(A-A')(B-B')

- ① 層 暗色 13YR4/6 焼けた土、赤褐色土(φ2-5m) 微量、炭化物粒少量混入。
- ② 層 暗褐色 10YR3/4 粘土(暗褐色土)、赤褐色土(φ2-3m) 微量、炭化物粒少量混入。
- ③ 層 黒褐色 10YR2/3 シロと灰土の混合土、Vローム(φ1-2m) 微量、炭化物粒少量混入。

54新カマド構築土(A-A')(B-B')

- ① 層 暗色 7.5YR4/6 灰土、赤褐色土(φ2-5m) 中量、炭化物粒微量混入、シロ土層。
- ② 層 黒褐色 10YR2/2 ローム粒少量混入、炭化物粒、焼土粒少量混入、シロ土層。
- ③ 層 暗褐色 10YR2/2 灰土(φ1-2m) 中量、MaO-ムと赤褐色土との混合土プロット、炭化物粒少量混入、焼土粒少量混入。
- ④ 層 暗褐色 10YR2/3 ローム粒、焼土粒少量混入。
- ⑤ 層 黒褐色 10YR2/3 ローム(φ1-2m) 微量混入、シロ土層。
- ⑥ 層 暗褐色 10YR2/2 ローム(φ1-2m) 微量、炭化物粒少量混入。
- ⑦ 層 暗褐色 10YR2/2 Vローム(φ2-5m) 少量混入、ローム粒少量混入。
- ⑧ 層 暗褐色 10YR2/3 焼土粒少量混入、炭化物粒、焼土粒少量混入。
- ⑨ 層 暗色 10YR2/1 ローム粒少量混入。
- ⑩ 層 暗褐色 10YR3/3 焼土粒少量混入、炭化物粒、焼土粒少量混入。
- ⑪ 層 暗色 10YR2/1 ローム(φ2-3m) 微量、赤褐色土とMaO-ムの混合土下に微量混入。
- ⑫ 層 暗褐色 10YR2/2 ローム粒少量混入。

54新カマド下層P1(A-A')(B-B')

- ① 層 暗褐色 10YR3/5 暗褐色土とMaO-ムの混合土、ローム(φ2-3m) 微量、炭化物粒少量混入、Vロームと赤褐色土との混合土少量混入、シロ土層。

図18 第5号住居跡カマド(新)

上端の平面形は49×54cmで、やや歪み楕円形を呈し、深さは54cmを測る。断面形は、掘り方で含めると筒形を呈すが、6層の下位には、粘土が堆積しており、この層を軸木固定のための充填土と見た場合、断面形は柱状のビットが穿たれる上下二段の構造を呈すと言える。ただし、軸木に相当すると考えられる5b層は、垂直ではなく傾いている。1～4a層は弓状に堆積しているが、焼土や粘土の混入状況よりみて、人為堆積と考えられる。SK01は、Aコーナー(1区)に位置し、新カマドの下層にあることから、旧カマド機能段階の掘り込みと考えられる。上面は床構築土(1層)でバックされており、底面を覆う6層の中からは、複数の粘土塊と土師器の破片が多量に出土している。これら粘土塊や土師器は廃棄されたものと考えられ、堆積土は人為堆積である。

遺物等の出土状態 床面上に土師器、須恵器、玉、礫等が出土しているが、あまり多くはない。平面的には住居のほぼ中央に集中する傾向がみられる。鉄製品は刀子で、覆土中の出土である。

第5号住居跡付属外周溝 (5HSD01) (図20)

概要 1条で構成され、浅い土坑と深い土坑が連結したような形状を呈する^(註)。重複はない。

(註)住居跡の周りを回っていないことから、「外周溝」という表現は適切でないが、住居跡の左壁から、本遺構の住居側の上端までの距離が、(4)遺跡の1Hの例に近いことと、5Hの左壁にはほぼ平行していること、そして長さも左壁とはほぼ等しいという3点の事実から、5Hに付属するものと判断した。無論、本遺構を単独の遺構として捉えることも可能である。なお、「外周溝」という名称は今回便宜的に使用している。

構造 南東側は、平面形が不整の卵形を呈す深い土坑状(以下、深部と呼称)、北西側は不整楕円形の浅い土坑状(以下、浅部と呼称)を呈している。浅部と深部の接する部分は、くびれていることから、両者は同時構築されたものではなく、どちらかが追加構築されている可能性が高い^(註)。浅部、深部とも底面には凹凸がみられる。深部の壁面は屈曲が激しく、部分によっては内傾しているところも認められ、南東端には3基の小土坑が切り合うような状況がみられる。浅部と深部を合わせた全体の直線長は34.5cm、幅は深部が最大135cm、浅部が最大108cm、深さは、深部が55～63cm、浅部が18cmを測る。(註)堆積土に新旧関係は確認されなかった。

土層 土層断面図は深部のみ作成した。幾層にもわたって皿状に堆積しており、特に3、7、8層には大型のロームブロックが混入している。これらの層は人為堆積と考えられ、また、それ以外の層は混入物が少ないことから自然堆積ではないかと推定される。

遺物の出土状態 深部の南東端にある3基の小土坑が切り合っているような箇所あたりにまとまって土師器、須恵器等が出土している。底面付近にはあまりみられず、専ら覆土中に分布する。略完形の坏も1点出土している。(木村 高)

- 5HSD01
- 1層 黒褐色 10YR2/2 炭化物(φ1-10mm) 燐質、硝子(φ1-2mm) 稀少量、ローム(φ1mm) 少量混入。
 - 2層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ1-10mm) 燐質、炭化物(φ1-10mm) 燐質、硝子(φ1-2mm) 稀少量混入。
 - 3層 黒褐色 10YR2/2 粘土(φ1-3mm) 燐質、ローム(φ1-30mm) 少量、炭化物(φ2-25mm) 少量混入。
 - 4層 褐色 10YR2/4 ローム(φ2-15mm) 稀少量、炭化物(φ2-5mm) 燐質、硝子(φ1-7mm) 燐質少量混入。
 - 5層 褐色 10YR2/4 ローム(φ1-3mm) 燐質少量混入。
 - 6層 褐色 10YR2/4 粘土(φ1mm) 燐質、ローム(φ1-3mm) 稀少量、炭化物(φ1-4mm) 燐質少量混入。
 - 7層 褐色 10YR2/4 ローム(φ1-50mm) 少量、焼土(φ1-25mm)、炭化物(φ2-15mm) 燐質少量混入。
 - 8層 褐色 10YR3/3 ローム(φ1-50mm) 少量、粘土(φ2-20mm) 炭化物(φ2-50mm) 燐質少量混入。
 - 9層 層内 10YR3/3 ローム(φ1-2mm) 稀少量混入。
 - 10層 層内 10YR3/3 ローム(φ1-10mm) 燐質、炭化物(φ3mm) 燐質少量混入。
 - 11層 明褐色 10YR6/6 褐色土20%混入。

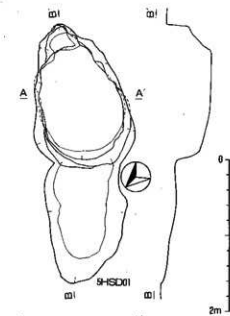


図20 第5号住居跡付属外周溝

2 土 坑

平安時代の土坑は18基検出された。平安時代の住居跡の付近に点在する傾向がみられる。

第12号土坑 (SK12) (図21)

概要 B-158グリッド他に位置する。重複はない。**構造** 確認面における平面形はほぼ円形を呈する。規模は確認面で88×88cm、深さは52cmを測る。壁面はほぼ垂直に立ち上り、断面形は箱形を呈している。ロームを基底にしており、底面に凹凸はほとんどなく、平坦である。**土層** 7層に分層された。黒色土を基調とし、炭化物粒、ローム粒が混入している。層のラインより、人為堆積である可能性が高いと思われる。**遺物等の出土状態** 底面付近に須恵器壺の胴部下半が出土している。SK10の覆土から出土した破片と接合している。

第4号土坑 (SK04) (図21)

概要 D-155グリッドに位置する。付近には3Hが位置している。重複はない。**構造** 平面形は確認面、底面ともほぼ楕円形を呈する。規模は、確認面で74×90cm、底面44×58cm、深さは56cmを測る。壁面は外反しながら立ち上がり、断面形はやや歪む逆台形を呈する。底面はほぼ平坦である。**土層** 8層に分層された。黒褐色土を基調とし、ローム(φ1~55mm)を多量に含んでいる。ロームの大きさよりみて、全層とも人為堆積と考えられる。

第16号土坑 (SK16) (図21)

概要 B-159グリッドに位置する。第1号並列溝状遺構(SDX01-c)、B-159のP5(図16)と重複している。いずれよりも本遺構は古い。北西には5Hが位置している。**構造** 平面形は確認面、底面とも不整な楕円形を呈する。規模は、確認面が62×78cm、深さは16~20cmである。断面形は浅い箱~皿状を呈し、底面には僅かに凹凸が見られる。**土層** 3層に分層された。黒~黒褐色土を基調とし、ローム粒子~ブロックを含んでいる。土層は水平~皿状に堆積していることから、全層とも自然堆積と推定される。**遺物等の出土状態** 大型の炭化材が確認面~覆土の上位に出土している(図21右上)。また、確認面には焼土も微量にみられる。**その他** 焼土と炭化物の出土から、本遺構内において燃焼行為がなされたものと推定される。

第17号土坑 (SK17) (図21)

概要 E-158グリッドに位置する。第1号並列溝状遺構(SDX01-e)と重複しており、本遺構が古い。**構造** 平面形は確認面、底面とも不整楕円形を呈する。規模は、確認面で110×136cm、底面118×158cm、深さは62~68cmを測る。壁面は内傾し、ややフラスコ状を呈す。底面はほぼ平坦である。**土層** 15層に分層された。黒褐色~暗褐色土を基調とし、ローム・炭化物・粘土等を含んでいる。1層はB-Tmを含むSDX01-eの覆土である。層のラインにやや乱れはあるものの、中央は皿状を呈していることから、大半が自然堆積土であると考えられる。**遺物等の出土状態** 須恵器が覆土より出土している。

第14号土坑 (SK14) (図21)

概要 E-158グリッド他に位置する。至近距離にSK13、SK17が位置している。重複はなし。

構造 平面形は確認面、底面ともほぼ円形を呈する。規模は、確認面で76×86cm、深さは54cmを測る。壁面はやや段がつくものの、ほぼ垂直に立ち上がり、断面形は箱形を呈している。ロームを底面にしており、かなり平坦である。土層 10層に分層された。色調は、黒褐色を基調としている。ほとんどの層にローム粒、炭化物粒が含まれている。1～3層は層のラインより、自然堆積層と考えられるが、4層以下層は自然堆積か人為堆積か推定できない。

第13号土坑 (SK13) (図21)

概要 F-158グリッドに位置し、至近距離にSK14が位置している。重複はなし。構造 平面形は確認面、底面ともほぼ円形を呈する。規模は、確認面で80×80cm、深さは32～38cmを測る。壁面は斜めに立ち上がり、断面形は半円形を呈している。ロームを底面にしており、丸みがかっている。

土層 8層に分層された。色調は、黒褐色を基調としている。ほとんどの層にローム粒が含まれている。自然堆積か人為堆積かは推定できない。

第15号土坑 (SK15) (図21)

概要 B-158～159グリッドに位置する。第1号並列溝状遺構 (SDX01) のdと重複しており、本遺構が古い。北西には5Hが位置している。構造 平面形は確認面、底面とも不整形円形を呈する。規模は、確認面で84×68cm、深さは28～32cmを測る。壁面はやや段がつくものの、ほぼ斜めに外反しながら立ち上がり、断面形は逆台形を呈している。底面は、ロームを基底にしており、かなり平坦である。土層 3層に分層された。色調は、黒褐色を基調としている。ほとんどの層にロームが含まれている。3層は多量のロームブロックの混入よりみて人為堆積層と考えられるが、1～2層は層のラインより、自然堆積かと思われる。

第2号土坑 (SK02) (図21)

概要 B-154グリッド他に位置する。至近距離にSK01、SE01が位置している。重複はなし。

構造 平面形は確認面、底面ともほぼ楕円形を呈する。規模は、確認面で94×130cm、深さは16～32cmを測る。壁面は丸みを帯びている部分や垂直に立ち上がるところが認められる。底面は、ロームを基底にしており、やや凹凸があるものの、ほぼ平坦である。土層 5層に分層された。色調は、黒褐色・明褐色・褐色・黄褐色を基調としている。ほとんどの層にローム粒が含まれている。3層以下はロームの混入が多い点より、人為堆積層と推定される。

第7号土坑 (SK07) (図21)

概要 斜面の落ち際のB-148グリッドに位置する。SD02と重複し、本遺構が古い。構造 平面形は確認面がほぼ楕円形、底面は不正楕円形を呈する。規模は、確認面で174×120cm、深さは28～36cmを測る。壁面はやや段がつくものの、ほぼ斜めに外反しながら立ち上がる。底面は、ロームを基底にしており、歪んでいる。

土層 3層に分層された。色調は、黒褐色を基調としている。ほとんどの層にローム粒、炭化物粒が含まれている。

第1号土坑 (SK01) (図21)

概要 A・B-153グリッドに位置する。至近距離にSK02が位置している。重複はなし。構造平面形は確認面、底面ともほぼ楕円形を呈する。規模は、確認面で224×192cm、深さは62~74cmを測る。壁面にはやや段がつくところも認められるがほぼ垂直に立ち上がる。底面は、ロームを基底にしており、ほぼ平坦である。**土層** 22層に分層された。大きくは3層に分かれ、7層は褐色のロームが主体の層で、その上層は暗褐色系、下層は黒褐色系の土壌が主体である。7層は、明かな人為堆積層。7層の下層は、自然堆積層、7層の上層は人為堆積層と推定される。堆積層と推定される。

遺物等の出土状態 3層の上位確認面付近から完形の耳皿が1点出土している。

第6号土坑 (SK06) (図21)

概要 C-160グリッドに位置する。北に2mのところ5Hが位置している。重複はなし。

構造 平面形は確認面、底面とも不整な円形を呈する。規模は、確認面で184×206cm、開口部で144×120cm、底面180×184cm、深さは72~90cmを測る。段面形はフラスコ形であるが、一部あまり内傾しないところも認められる。底面は、ロームを基底にしており、ほぼ平坦である。**土層** 9層に分層された。大きくは4層に分かれ、5層は暗褐色で、ローム粒を多量に混入し、6層はロームをあまり含まない黒褐色土層である。焼土が混入する層は多い。混入物よりみて、6層以外は人為堆積土であると推定される。

遺物等の出土状態 窯壁片が覆土の中位から出土している。

第11号土坑 (SK11) (図21)

概要 D-158グリッドに位置する。第1号並列溝状遺構(SDX01-e)と重複しており、本遺構が古い。**構造** 平面形は、確認面が円形、開口部はほぼ方形、底面は不整円形を呈する。規模は、確認面で146×172cm、開口部で128×127cm、底面170×170cm、深さは64~90cmを測る。段面形はフラスコ形であるが、壁面の形状は一定していない。底面は、ロームを基底にしており、やや凹凸がある。

土層 12層に分層された。黒色~黒褐色土を基調とし、層のラインは全体的に皿状を呈していることから、全層とも自然堆積層の可能性はある。なお、①、②層はSDX01-eの堆積土である。

遺物等の出土状態 焼成粘土塊が覆土の中位より出土している。

SK10

- 1 層 褐色 10YR4/4 0-1m (F1-2m) 少量、灰化物 (F1-2m) 散見混入。
- 2 層 褐色 10YR2/4 0-1m (F1-3m) 少量、灰化物 (F1-2m) 散見、粘土 (F1m) 散見混入。
- 3 層 褐色 10YR2/3 0-1m (F1-5m) 中量、粘土 (F1m) 散見、灰化物 (F1-2m) 散見混入。
- 4 層 灰褐色 10YR2/2 0-1m (F1-2m) 少量、粘土 (F1m) 散見、灰化物 (F1m) 散見混入。
- 5 層 褐色 10YR3/4 0-1m (F1-5m) 少量、灰化物 (F1-2m) 散見、粘土 (F1-3m) 中量混入。
- 6 層 褐色 10YR2/3 0-1m (F1-15m) 少量、灰化物 (F1-5m) 散見混入。
- 7 層 褐色 10YR4/0 0-1m (F1-3m) 少量、灰化物 (F1-2m) 散見、粘土上層混入。
- 8 層 褐色 10YR2/4 0-1m (F1-20m) 中量、灰化物 (F1-2m) 散見混入。
- 9 層 褐色 10YR2/1 0-1m (F1-20m) 中量、灰化物 (F1-2m) 散見混入。
- 10 層 褐色 10YR2/2 0-1m (F1-20m) 少量、粘土 (F1-2m) 散見混入。
- 11 層 褐色 10YR2/2 0-1m (F1-20m) 少量、粘土 (F1-2m) 散見混入。
- 12 層 褐色 10YR2/3 0-1m (F1-20m) 少量、灰化物 (F1-2m) 散見混入。
- 13 層 褐色 10YR2/1 0-1m (F1-20m) 少量、粘土 (F1-2m) 散見混入。
- 14 層 褐色 10YR3/3 0-1m (F1-10m) 少量混入。
- 15 層 褐色 10YR5/0 0-1m、灰化物 (F1m) 散見混入。
- 16 層 褐色 10YR6/0 0-1m、黒色土混入。
- 17 層 褐色 10YR2/2 0-1m (F1-30m) 少量混入。
- 18 層 褐色 10YR2/3 0-1m (F1-20m) 少量混入。
- 19 層 褐色 10YR2/2 0-1m (F1-20m) 少量混入。
- 20 層 暗褐色 10YR6/2 0-1m、黒色の土層混入。
- 21 層 暗褐色 10YR6/0 0-1m、黒色の土層混入。
- 22 層 褐色 10YR2/2 0-1m (F2-10m) 少量、粘土 (F2-10m) 散見混入。
- 23 層 褐色 10YR2/2 0-1m (F2-10m) 少量混入。

SK06

- 1 層 褐色 10YR2/3 0-1m (F1-5m) 中量混入。
- 2 層 暗褐色 10YR3/5 0-1m (F2-20m) 少量混入。
- 3 層 灰褐色 10YR2/3 0-1m (F1-30m) 少量、灰化物 (F1-3m) 散見混入。
- 4 層 褐色 10YR4/0 0-1m、
- 5 層 褐色 10YR5/0 0-1m (F1-10m) 少量混入。

SK04

- 1 層 褐色 10YR2/3 0-1m (F1-15m) 少量混入。
- 2 層 褐色 10YR2/3 0-1m (F2-20m) 少量混入。
- 3 層 褐色 10YR2/2 0-1m (F1-20m) 少量混入。
- 4 層 褐色 10YR2/2 0-1m (F1-20m) 少量混入。
- 5 層 褐色 10YR5/0 0-1m (F1-20m) 少量混入。
- 6 層 褐色 10YR4/0 0-1m、
- 7 層 暗褐色 10YR6/0 0-1m、
- 8 層 褐色 10YR2/3 0-1m (F1-3m) 少量混入。

SK06

- 1 層 褐色 10YR2/2 Vロム (F2-15m) 少量、ロム粒散見、灰化物粒散見混入、粘土粒少量混入。
- 2 層 褐色 10YR2/1 Vロム (F1-20m) 少量、ロム粒散見、灰化物 (F2-3m) 散見、灰化物小粒、粘土粒、粘土粒少量混入、土層混入。
- 3 層 褐色 10YR5/0 Vロム、灰褐色土層少量、小礫散見混入。
- 4 層 褐色 10YR3/1 Vロム (F1-20m) 少量、ロム粒少量、灰化物 (F2-5m) 散見、粘土 (F2-10m) 少量、粘土土層混入、灰褐色土層 (F10m) 1粒混入。
- 5 層 褐色 10YR3/4 Vロム、灰褐色土層 (F2-10m) 中量、ロム粒少量、灰化物 (F2-8m) 少量、灰化物散見、粘土 (F2-8m) 少量、灰褐色土層、少量混入。
- 6 層 褐色 10YR2/2 Vロム (F2-7m) 少量、粘土粒少量、灰化物 (F2-3m) 散見、粘土 (F20m) 1粒混入。
- 7 層 褐色 10YR2/2 Vロム (F2-5m) 少量、ロム粒少量、灰化物 (F1-3m) 散見、粘土 (F1-10m) 散見混入。
- 8 層 褐色 10YR3/3 Vロム (F2-10m) 少量、ロム粒中量、灰化物粒散見、粘土 (F1-3m) 少量混入。
- 9 層 褐色 10YR2/2 Vロム混合ロム (F5-15m) 散見、灰化物粒散見混入。

SK07

- 1a 層 褐色 10YR2/2 0-1m (F1-15m) 散見、灰化物 (F5m) 少量混入。
- 1b 層 褐色 10YR2/2 0-1m (F1-15m) 散見、灰化物 (F3-5m) 少量混入。
- 1c 層 褐色 10YR2/2 0-1m (F1-15m) 散見、灰化物 (F1-5m) 散見混入。
- 2a 層 褐色 10YR3/4 0-1m (F1-6m) 少量、灰化物 (F1m) 散見混入、動物糞、灰、(F1-5m) 少量混入。
- 2b 層 褐色 10YR3/4 0-1m (F1-6m) 少量、灰化物 (F1-5m) 散見混入。
- 3 層 褐色 10YR3/3 0-1m (F1-10m) 少量、灰化物 (F1m) 散見混入、粘土 (F1-2m) 散見混入。

SK11

- 1 層 褐色 10YR3/1 0-1m (F1m) 散見、B-Tinを伴って混入。
- 2 層 褐色 10YR2/2 0-1m (F1-20m) 少量、灰化物 (F1-10m) 散見、粘土 (F2m) 散見、ロム (F2-5m) 散見混入。
- 1 層 褐色 10YR2/2 0-1m (F1m) 散見、灰化物 (F1-5m) 散見混入。
- 2 層 褐色 10YR2/2 0-1m (F1-3m) 散見、粘土 (F2-8m) 少量、灰化物 (F1-1m) 少量混入。
- 3 層 褐色 10YR3/1 0-1m (F1-5m) 散見、粘土 (F2-3m) 散見、灰化物 (F1-10m) 少量混入。
- 4 層 褐色 10YR2/1 0-1m (F1-3m) 少量、灰化物 (F1-10m) 少量混入。
- 5 層 褐色 10YR2/2 0-1m (F1-7m) 少量、灰化物 (F1-8m) 散見混入。
- 6 層 褐色 10YR3/1 0-1m (F1-3m) 散見、灰化物 (F2m) 散見混入。
- 7 層 褐色 10YR6/0 0-1m、粘土土層混入、土層混入。
- 8 層 褐色 10YR2/3 0-1m (F1-20m) 少量混入。
- 9 層 褐色 10YR3/1 0-1m (F1-25m) 中量、灰化物 (F1-10m) 少量混入。
- 10 層 褐色 10YR3/1 0-1m (F1-3m) 散見、灰化物 (F2-5m) 散見混入。
- 11 層 褐色 10YR2/1 0-1m (F1-10m) 少量、灰化物 (F1-5m) 散見混入。
- 12 層 褐色 10YR2/1 0-1m (F1-20m) 散見混入。

SK12

- 1a 層 褐色 10YR3/1 灰化物 (F1-3m) 少量、ロム (F1-3m) 中量、粘土 (F1-2m) 散見混入。
- 1b 層 褐色 10YR3/1 Vロム (F2-15m) 少量、ロム粒中量、灰化物 (F1-2m) 少量混入。
- 2a 層 褐色 10YR3/1 Vロム (F2-3m) 少量、ロム粒散見、灰化物粒散見混入。
- 2b 層 褐色 10YR2/2 灰化物 (F1-3m) 散見、ロム (F1-3m) 少量混入。
- 3 層 褐色 10YR2/2 0-1m (F1-2m) 散見、粘土土層混入、灰化物粒散見混入、土層混入。
- 4 層 褐色 10YR2/2 Vロム (F1-10m) 少量、ロム粒少量混入、土層混入。
- 5 層 褐色 10YR2/1 Vロム (F2-5m) 散見、灰化物 (F1-2m) 散見混入。
- 6 層 褐色 10YR2/1 Vロム (F2-15m) 少量、ロム粒少量、灰化物 (F1-2m) 散見混入。
- 7 層 褐色 10YR2/2 Vロム (F2-10m) 少量、ロム粒少量、灰化物 (F1-2m) 散見混入。

SK13

- 1 層 褐色 10YR2/2 Vロム (F1-3m) 散見、灰化物 (F1-2m) 散見混入。
- 2a 層 褐色 10YR2/2 Vロム (F1-2m) 散見、灰化物粒散見混入。
- 2b 層 褐色 10YR2/2 0-1m (F1-2m) 散見、灰化物 (F2-3m) 散見、灰化物 (F5m) 1プロット混入。
- 3 層 褐色 10YR3/4 Vロム (F1-5m) 散見、灰化物 (F2-3m) 散見、灰化物 (F5m) 1プロット混入。
- 4 層 褐色 10YR2/2 Vロム (F2-3m) 散見、灰化物 (F10m) 1プロット、灰化物粒散見混入。
- 5 層 褐色 10YR3/4 Vロム (F2-5m) の混合土、Vロム (F2-3m) 散見混入。
- 6 層 褐色 10YR2/2 0-1m (F1-2m) 散見混入。
- 7 層 褐色 10YR2/3 0-1m (F2-5m) 散見、灰化物粒散見混入。
- 8 層 褐色 10YR2/5 Vロム (F2-5m) 散見、灰化物粒散見混入。

SK14

- 1 層 褐色 10YR2/2 0-1m (F1-20m) 散見混入。
- 2 層 褐色 10YR2/3 0-1m (F2-3m) 散見、灰化物粒散見混入、土層混入。
- 3 層 褐色 10YR2/2 Vロム (F2-10m) 散見、Vロム (F2-5m) 散見、灰化物粒散見混入。
- 4 層 褐色 10YR2/2 Vロム (F2-7m) 少量、Vロム (F2-3m) 散見、灰化物粒散見混入。
- 5 層 褐色 10YR2/2 Vロム (F2-5m) 少量、Vロム (F2-3m) 散見、灰化物粒散見混入。
- 6a 層 褐色 10YR2/2 Vロム (F2-5m) 散見、Vロム (F1-2m) 散見、灰化物 (F5m)、灰化物粒散見混入。
- 6b 層 褐色 10YR2/2 Vロム (F1-3m) 散見、灰化物粒散見混入。
- 7 層 褐色 10YR4/0 Vロム (F2-15m) 少量、Vロム (F2-8m) 散見、灰化物粒散見混入。
- 8 層 褐色 10YR2/2 Vロム (F2-5m) 散見、Vロム (F2-3m) 散見、灰化物粒散見混入。
- 9 層 褐色 10YR2/3 Vロム (F2-10m) 散見、Vロム (F2-3m) 散見、灰化物粒散見混入。
- 10 層 褐色 10YR3/4 Vロム (F2-5m) 散見混入、土層混入。

SK15

- 1 層 褐色 10YR2/2 Vロム (F2-3m) 散見、灰化物粒散見混入。
- 2 層 褐色 10YR2/2 Vロム (F2-7m) 散見、ロム粒散見、灰化物粒散見混入。
- 3 層 褐色 10YR2/2 0-1m (F2-3m) 散見、灰化物粒散見混入、土層混入。
- 4 層 褐色 10YR2/2 Vロム (F2m) 散見混入。
- 5 層 褐色 10YR3/4 Vロム (F2-5m) 少量、ロム (F2-25m) 少量混入。

SK16

- 1 層 褐色 10YR3/1 0-1m (F1-2m) 少量混入。
- 2 層 褐色 10YR3/1 0-1m (F1m) 散見混入。
- 3 層 褐色 10YR2/1 0-1m (F1-5m) 少量混入。
- 4 層 褐色 10YR3/1 0-1m (F1-7m) 少量混入。

SK17

- 1 層 褐色 10YR2/2 0-1m (F1-8m) 散見、灰化物 (F2-6m) 散見、B-Tin少量混入。
- 2 層 褐色 10YR2/2 0-1m (F1-15m) 散見、ロム (F30m)、灰化物 (F3-10m) 少量混入。
- 3 層 褐色 10YR2/2 0-1m (F1-20m) 散見混入、土層混入。
- 4 層 褐色 10YR2/2 0-1m (F2-10m) 散見、灰化物 (F2-5m) 散見混入。
- 5 層 褐色 10YR2/2 0-1m (F1-25m) 少量、灰化物 (F2-7m) 散見混入。
- 6 層 褐色 10YR3/1 0-1m (F1-30m) 少量、灰化物 (F5m) 散見混入。
- 6a 層 褐色 10YR3/1 0-1m (F1-5m) 少量、灰化物 (F5m) 散見混入。
- 7 層 褐色 10YR3/1 0-1m (F1-15m) 少量、粘土 (F30m) 1プロット混入。
- 8 層 褐色 10YR2/2 0-1m (F1-5m) 少量、灰化物 (F2m) 散見混入。
- 9 層 褐色 10YR2/1 0-1m (F1-10m) 少量混入。
- 9a 層 褐色 10YR5/0 黒褐色土層混入、土層混入。
- 9b 層 褐色 10YR2/1 0-1m (F1-3m) 散見混入。
- 10 層 褐色 10YR2/1 0-1m (F1-20m) 少量混入。
- 11 層 褐色 10YR2/1 0-1m (F1-3m) 少量、粘土 (F50m) 1プロット混入。
- 12 層 褐色 10YR2/3 0-1m (F1-3m) 少量混入、土層混入。
- 13 層 褐色 10YR6/0 0-1m、暗褐色土層混入、土層混入。
- 14 層 褐色 10YR6/0 0-1m、暗褐色土層混入。

第8号土坑 (SK08) (図22)

概要 F-159グリッド他に位置している。第1号並列溝状遺構 (SDX01-b) と重複しており、本遺構が古い。南西に2mほどのところには4日が位置している。

構造 平面形、断面形ともに非常に複雑な形状を呈している。平面形は不整な隅丸三角形形状で、断面形は部位によって様々な形状を呈し、全く一定していないが、フラスコの内に傾する部分が多い。

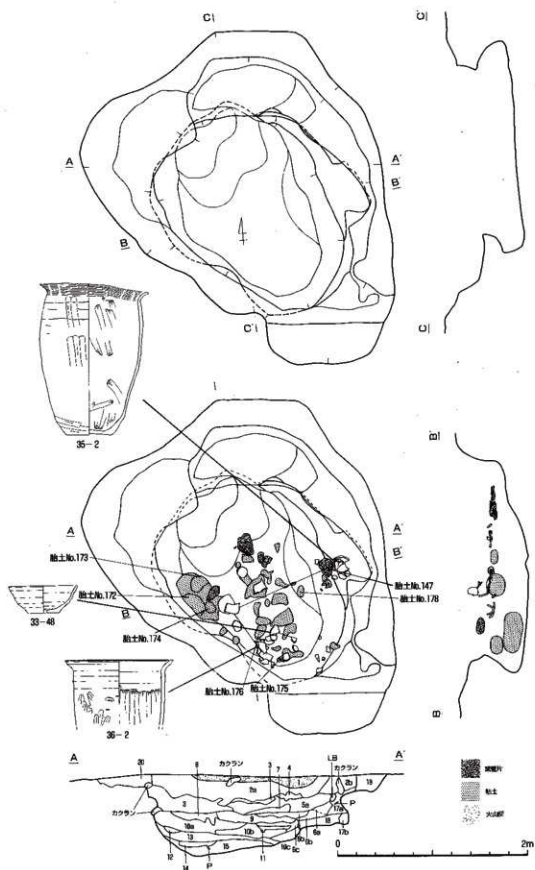


図22 第8号土坑

隠川(12)遺跡

SK06

- 1 層 黄褐色 10YR2/2 R-ローム層、焼土粒散見、炭化物(1-3cm)散見、灰白色土粒、B-Tm粒散見散入。
 2a 層 黄褐色 10YR2/2 V-Vローム(12-20cm)少量、R-ローム中量、焼土(12cm)粒少量、焼土粒散見、炭化物(12-15cm)少量、炭化物粒散見、灰白色粒散見散入。
 2b 層 黄褐色 10YR2/2 V-ローム(12-15cm)少量、R-ローム少量、炭化物粒少量散見。
 3 層 黄褐色 10YR2/2 V-Vローム(12-40cm)中量、R-ローム粒少量、焼土粒散見、炭化物粒少量散入。
 4 層 黄褐色 10YR3/3 Vローム(12-40cm)少量、V-ローム(1-2cm)中量、芝褐色土塊散見、炭化物粒散見散入。
 5a 層 黄褐色 10YR2/2 R-ローム少量、炭化物(12-3cm)散見、焼土粒散見。
 5b 層 黄褐色 10YR2/2 R-ローム少量散入。
 6a 層 黒色 10YR2/1 R-ローム少量、焼土粒、炭化物粒散見散入。
 6b 層 黒色 10YR2/4 V-ローム(12-3cm)少量、R-ローム少量散入。
 6c 層 黒色 10YR2/1 Vローム(12-15cm)少量、R-ローム少量、炭化物(12-3cm)粒散見散入。
 7 層 黄褐色 10YR3/3 Vローム(12-30cm)少量、R-ローム少量、炭化物(12-3cm)粒散見、炭化物粒少量散入。
 8 層 黄褐色 10YR3/3 Vローム(12-20cm)中量、R-ローム中量、炭化物粒少量、焼土(14cm)粒散入。
 9 層 黄褐色 10YR2/6 Vローム上位、Vローム(12-25cm)少量、灰白色土粒散見、黒褐色土少量、炭化物粒少量散入。

- 10a 層 黄褐色 10YR2/2 Vローム(12-3cm)少量、炭化物(12-5cm)粒少量散入。
 10b 層 黄褐色 10YR2/2 Vローム(12-3cm)粒少量、R-ローム粒少量、炭化物粒少量散入、焼土行。
 11a 層 黄褐色 10YR2/2 R-ローム粒少量、焼土粒少量、炭化物(12-3cm)散見、炭化物粒少量散入。
 11 層 黄褐色 10YR2/3 Vローム(12-3cm)少量、炭化物粒散見、芝褐色土、少量散入、しまり層。
 12 層 黒色 10YR2/1 Vローム(12-10cm)粒少量、R-ローム粒少量、しまり層。
 13 層 黄褐色 10YR7/6 Vローム(12-10cm)少量、炭化物粒散見、焼土(125cm)粒、黒褐色土少量散入、焼土ブロック状に堆積している、しまり層。
 14 層 黄褐色 10YR2/2 R-ローム少量、炭化物粒散見散入、しまり層。
 15 層 黄褐色 10YR2/2 V-Vローム(12-40cm)少量、R-ローム少量、焼土(12cm)粒散見、炭化物(12-3cm)粒、炭化物粒散見散入。
 16 層 黒色 10YR2/3 Vローム(12-10cm)少量、R-ローム少量散入、しまり層。
 17a 層 黒色 10YR2/4 Vローム(12-10cm)少量、R-ローム少量散入、しまり層。
 17b 層 黒色 10YR2/4 Vローム(12-10cm)少量、R-ローム少量散入、しまり層。
 18 層 黒色 10YR2/3 V-Vローム(12-15cm)中量、炭化物粒散見、R-ローム粒散入、しまり層。
 19 層 黄褐色 10YR2/2 Vローム(12-20cm)粒少量、R-ローム粒少量散入。
 20 層 黄褐色 10YR2/3 Vローム(12-15cm)少量、炭化物粒散見中量。

底面は、粘土層を基底にしており、やや傾斜、凹凸がみられる。壁面の下位は、幾重もの小土坑が重複しているような形状を呈しており、これは長楕円形の土坑の壁面の下位を数回にわたって掘り広げた結果であろうと考えられる。具体的には、楕円形状の土坑を粘土層まで垂直方向に掘り下げた後に、下位の粘土のみを採掘するように水平方向に掘り進めているものと考えられる。規模は、計測箇所によって随分異なるが、任意箇所での計測値では確認面378×324cm、深さは48-88cmを測る。

土層 20層に分層された。黒色～黒褐色土を基調とし、層のラインは全体的に水平～皿状を呈していることから、大半の層は自然堆積層の可能性が高いが、9層と13層はロームを主体にした明黄褐色土であることから、これらの層のみは人為堆積土であると考えられる。なお、1層はB-Tmを含むSDX01-bの堆積土である。

遺物等の出土状態 9層を中心に土師器片、須恵器片、窯壁片、粘土塊が多量に出土している。これらの遺物は、平面的、垂直的な分布状況より、9層の黄褐色土と同時に、1回か2回にわたって廃棄されたものである可能性がある。

その他 上記のような、不規則な掘り込みの状況より見て、本遺構は粘土採掘坑として利用されていた可能性が高いと思われる。また、多くの窯壁片の出土から、近くにある4Hとの関連が強いと思われる^(註)。

(註) 4Hの左壁から本遺構の南西壁までの距離は約2mを測る。この距離は、隠川(4)・(12)遺跡における住居跡と外周溝の間の平均的な距離に近似している。

第9号土坑 (SK09) (図23)

概要 F-154グリッド他に位置する。第2号並列溝状遺構(SDX02-9)と重複しており、本遺構が古い。至近距離にSK20が位置している。

構造 平面形は確認面が楕円形、底面が円形を呈する。規模は、確認面で328×224cm、深さは78cmを測る。壁面は、やや歪んでいるものの、丸みを帯びながら垂直に立ち上がっている。底面は、ロームを基底にしており、やや皿状を呈す。

土層 40層に分層された。色調は、暗褐色～黒褐色を基調としている。5層より下位の層はローム粒が目立つ非常に薄い層で、幾層にも皿状に堆積している。2c、3層以上の層は、自然堆積層がほとんどであると推定される。

遺物等の出土状態 窯壁片が覆土の中位より出土している。

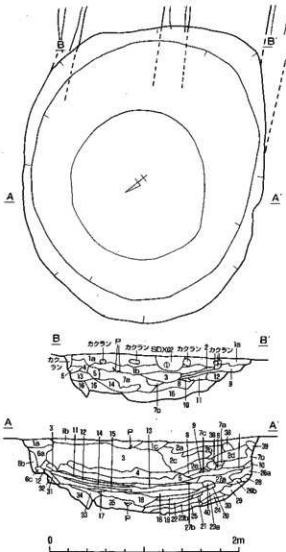


図23 第9号土坑

SK10

- 14 層 黒褐色 10YR2/3 Mott-A (#2-3mm) 微塵、ローム粒少量混入。
- 15 層 黒褐色 10YR2/3 ローム粒微塵、炭化物(#2mm) 微塵混入。
- 16 層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(#2-3mm) 微塵、ローム粒微塵、炭化物粒少量混入。
- 17 層 黒褐色 10YR2/4 Vローム(#2-5mm) 微塵、Mローム(#2-3mm) 微塵、炭化物(#2-3mm) 微塵混入。
- 18 層 暗褐色 10YR2/4 ローム粒微塵、炭化物(#2-3mm) 微塵混入。
- 19 層 暗褐色 10YR2/3 Vローム(#1-5mm) 微塵、Mローム(#2-3mm) 微塵、炭化物(#1-2mm) 微塵混入。
- 20 層 暗褐色 10YR2/3 Vローム(#1-5mm) 微塵、Mローム(#2-3mm) 微塵、炭化物(#1-2mm) 微塵混入。
- 21 層 暗褐色 10YR2/3 Vローム(#1-5mm) 微塵、Mローム(#2-3mm) 微塵、炭化物粒少量混入。
- 22 層 暗褐色 10YR2/3 Vローム(#1-5mm) 微塵、Mローム(#2-3mm) 微塵、炭化物粒少量混入。

- 3 層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(#1-10mm) 微塵、炭化物(#1-5mm) 微塵混入。
- 4 層 暗褐色 10YR2/3 Vローム(#1-5mm) 微塵、炭化物(#1-5mm) 微塵混入。
- 5 層 暗褐色 10YR2/3 Vローム(#1-5mm) 微塵、炭化物(#1-5mm) 微塵混入。
- 6 層 暗褐色 10YR2/3 Vローム(#1-5mm) 微塵、炭化物(#1-5mm) 微塵混入。
- 7 層 暗褐色 10YR2/3 Vローム(#1-5mm) 微塵、炭化物(#1-5mm) 微塵混入。
- 8 層 暗褐色 10YR2/3 Vローム(#1-5mm) 微塵、炭化物(#1-5mm) 微塵混入。
- 9 層 暗褐色 10YR2/3 Vローム(#1-5mm) 微塵、炭化物(#1-5mm) 微塵混入。
- 10 層 暗褐色 10YR2/3 Vローム(#1-5mm) 微塵、炭化物(#1-5mm) 微塵混入。
- 11 層 暗褐色 10YR2/3 Vローム(#1-5mm) 微塵、炭化物(#1-5mm) 微塵混入。
- 12 層 暗褐色 10YR2/3 Vローム(#1-5mm) 微塵、炭化物(#1-5mm) 微塵混入。
- 13 層 暗褐色 10YR2/3 Vローム(#1-5mm) 微塵、炭化物(#1-5mm) 微塵混入。
- 14 層 暗褐色 10YR2/3 Vローム(#1-5mm) 微塵、炭化物(#1-5mm) 微塵混入。
- 15 層 暗褐色 10YR2/3 Vローム(#1-5mm) 微塵、炭化物(#1-5mm) 微塵混入。
- 16 層 暗褐色 10YR2/3 Vローム(#1-5mm) 微塵、炭化物(#1-5mm) 微塵混入。
- 17 層 暗褐色 10YR2/3 Vローム(#1-5mm) 微塵、炭化物(#1-5mm) 微塵混入。
- 18 層 暗褐色 10YR2/3 Vローム(#1-5mm) 微塵、炭化物(#1-5mm) 微塵混入。
- 19 層 暗褐色 10YR2/3 Vローム(#1-5mm) 微塵、炭化物(#1-5mm) 微塵混入。
- 20 層 暗褐色 10YR2/3 Vローム(#1-5mm) 微塵、炭化物(#1-5mm) 微塵混入。
- 21 層 暗褐色 10YR2/3 Vローム(#1-5mm) 微塵、炭化物(#1-5mm) 微塵混入。
- 22 層 暗褐色 10YR2/3 Vローム(#1-5mm) 微塵、炭化物(#1-5mm) 微塵混入。
- 23 層 暗褐色 10YR2/3 Vローム(#1-5mm) 微塵、炭化物(#1-5mm) 微塵混入。
- 24 層 暗褐色 10YR2/3 Vローム(#1-5mm) 微塵、炭化物(#1-5mm) 微塵混入。
- 25 層 暗褐色 10YR2/3 Vローム(#1-5mm) 微塵、炭化物(#1-5mm) 微塵混入。
- 26 層 暗褐色 10YR2/3 Vローム(#1-5mm) 微塵、炭化物(#1-5mm) 微塵混入。
- 27 層 暗褐色 10YR2/3 Vローム(#1-5mm) 微塵、炭化物(#1-5mm) 微塵混入。
- 28 層 暗褐色 10YR2/3 Vローム(#1-5mm) 微塵、炭化物(#1-5mm) 微塵混入。
- 29 層 暗褐色 10YR2/3 Vローム(#1-5mm) 微塵、炭化物(#1-5mm) 微塵混入。
- 30 層 暗褐色 10YR2/3 Vローム(#1-5mm) 微塵、炭化物(#1-5mm) 微塵混入。
- 31 層 暗褐色 10YR2/3 Vローム(#1-5mm) 微塵、炭化物(#1-5mm) 微塵混入。
- 32 層 暗褐色 10YR2/3 Vローム(#1-5mm) 微塵、炭化物(#1-5mm) 微塵混入。
- 33 層 暗褐色 10YR2/3 Vローム(#1-5mm) 微塵、炭化物(#1-5mm) 微塵混入。
- 34 層 暗褐色 10YR2/3 Vローム(#1-5mm) 微塵、炭化物(#1-5mm) 微塵混入。
- 35 層 暗褐色 10YR2/3 Vローム(#1-5mm) 微塵、炭化物(#1-5mm) 微塵混入。
- 36 層 暗褐色 10YR2/3 Vローム(#1-5mm) 微塵、炭化物(#1-5mm) 微塵混入。
- 37 層 暗褐色 10YR2/3 Vローム(#1-5mm) 微塵、炭化物(#1-5mm) 微塵混入。
- 38 層 暗褐色 10YR2/3 Vローム(#1-5mm) 微塵、炭化物(#1-5mm) 微塵混入。
- 39 層 暗褐色 10YR2/3 Vローム(#1-5mm) 微塵、炭化物(#1-5mm) 微塵混入。
- 40 層 暗褐色 10YR2/3 Vローム(#1-5mm) 微塵、炭化物(#1-5mm) 微塵混入。

SK10 (B 中)

- 14 層 暗褐色 10YR2/2 ローム(#2-6mm) 微塵、炭化物(#1-2mm) 微塵、粘土粒少量混入。
- 15 層 暗褐色 10YR2/3 ローム(#2-6mm) 微塵、炭化物(#1-2mm) 微塵、粘土粒少量混入。
- 16 層 暗褐色 10YR2/3 ローム(#2-6mm) 微塵、炭化物(#1-2mm) 微塵、粘土粒少量混入。
- 17 層 暗褐色 10YR2/2 ローム(#2-6mm) 微塵、炭化物(#1-2mm) 微塵、粘土粒少量混入。
- 18 層 暗褐色 10YR2/2 ローム(#2-6mm) 微塵、炭化物(#1-2mm) 微塵、粘土粒少量混入。
- 19 層 暗褐色 10YR2/2 ローム(#2-6mm) 微塵、炭化物(#1-2mm) 微塵、粘土粒少量混入。
- 20 層 暗褐色 10YR2/2 ローム(#2-6mm) 微塵、炭化物(#1-2mm) 微塵、粘土粒少量混入。
- 21 層 暗褐色 10YR2/2 ローム(#2-6mm) 微塵、炭化物(#1-2mm) 微塵、粘土粒少量混入。
- 22 層 暗褐色 10YR2/2 ローム(#2-6mm) 微塵、炭化物(#1-2mm) 微塵、粘土粒少量混入。
- 23 層 暗褐色 10YR2/2 ローム(#2-6mm) 微塵、炭化物(#1-2mm) 微塵、粘土粒少量混入。
- 24 層 暗褐色 10YR2/2 ローム(#2-6mm) 微塵、炭化物(#1-2mm) 微塵、粘土粒少量混入。
- 25 層 暗褐色 10YR2/2 ローム(#2-6mm) 微塵、炭化物(#1-2mm) 微塵、粘土粒少量混入。
- 26 層 暗褐色 10YR2/2 ローム(#2-6mm) 微塵、炭化物(#1-2mm) 微塵、粘土粒少量混入。
- 27 層 暗褐色 10YR2/2 ローム(#2-6mm) 微塵、炭化物(#1-2mm) 微塵、粘土粒少量混入。
- 28 層 暗褐色 10YR2/2 ローム(#2-6mm) 微塵、炭化物(#1-2mm) 微塵、粘土粒少量混入。
- 29 層 暗褐色 10YR2/2 ローム(#2-6mm) 微塵、炭化物(#1-2mm) 微塵、粘土粒少量混入。
- 30 層 暗褐色 10YR2/2 ローム(#2-6mm) 微塵、炭化物(#1-2mm) 微塵、粘土粒少量混入。
- 31 層 暗褐色 10YR2/2 ローム(#2-6mm) 微塵、炭化物(#1-2mm) 微塵、粘土粒少量混入。
- 32 層 暗褐色 10YR2/2 ローム(#2-6mm) 微塵、炭化物(#1-2mm) 微塵、粘土粒少量混入。
- 33 層 暗褐色 10YR2/2 ローム(#2-6mm) 微塵、炭化物(#1-2mm) 微塵、粘土粒少量混入。
- 34 層 暗褐色 10YR2/2 ローム(#2-6mm) 微塵、炭化物(#1-2mm) 微塵、粘土粒少量混入。
- 35 層 暗褐色 10YR2/2 ローム(#2-6mm) 微塵、炭化物(#1-2mm) 微塵、粘土粒少量混入。
- 36 層 暗褐色 10YR2/2 ローム(#2-6mm) 微塵、炭化物(#1-2mm) 微塵、粘土粒少量混入。
- 37 層 暗褐色 10YR2/2 ローム(#2-6mm) 微塵、炭化物(#1-2mm) 微塵、粘土粒少量混入。
- 38 層 暗褐色 10YR2/2 ローム(#2-6mm) 微塵、炭化物(#1-2mm) 微塵、粘土粒少量混入。
- 39 層 暗褐色 10YR2/2 ローム(#2-6mm) 微塵、炭化物(#1-2mm) 微塵、粘土粒少量混入。
- 40 層 暗褐色 10YR2/2 ローム(#2-6mm) 微塵、炭化物(#1-2mm) 微塵、粘土粒少量混入。

第10号土坑 (SK10) (図24)

概要 E-160グリッドに位置する。南側約3mのところには4号が位置している。重複はない。

構造 平面形は、確認面が円形、底面が不整形を呈する。底面の西側はやや段状に高まった部分がある。規模は、確認面で160×177cm、深さは68cmを測る。壁面の東側は、ほぼ垂直に立ち上がっているものの、横方向に掘り進められている。底面は、ロームを基底にしており、低い部分は平坦である。

土層 13層に分層された。色調は、大半の層が黒褐色を基調としているが、8、9、11、12、13層

は褐色～黄褐色を呈すローム主体の層である。8層の上面は水平なラインを形成している。混入物や層のライン等よりみて、6、8、11層以下の層は、掘り込み直後の壁面から崩落したロームブロックや東壁を横方向に掘り進めた際にこぼれた土が堆積し、踏み固められたような状況がうかがえる。また、6、8、11層より上層は自然堆積層がほとんどであると考えられる。

遺物等の出土状態 4a・2d層から主体的に窯壁片や土師器片、須恵器片、礫等が出土している(註)。

(註)平面図と断面図に示した遺物の微細図は、北側から出土したものをのみを示している。

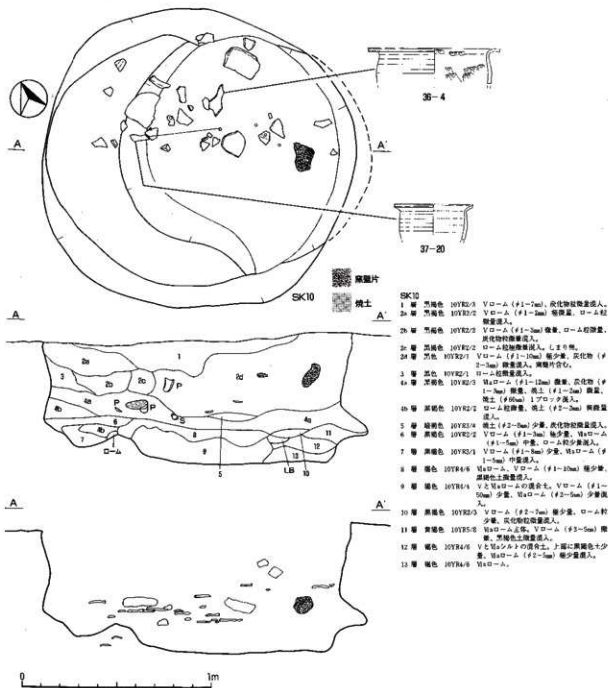


図24 第10号土坑

第18号土坑 (SK18) (図25)

概要 E-151・152グリッド他に位置する。至近距離にSK19、西側2mのところには2Hが位置している。重複はない。

構造 平面形は、確認面、底面ともやや歪む円形を呈する。規模は、確認面で123×115cm、深さは63cmを測る。壁面は、やや歪んでいるが、大体垂直に立ち上がっている。底面は、ロームを基底としており、やや中央が高まるもの、ほぼ平坦である。

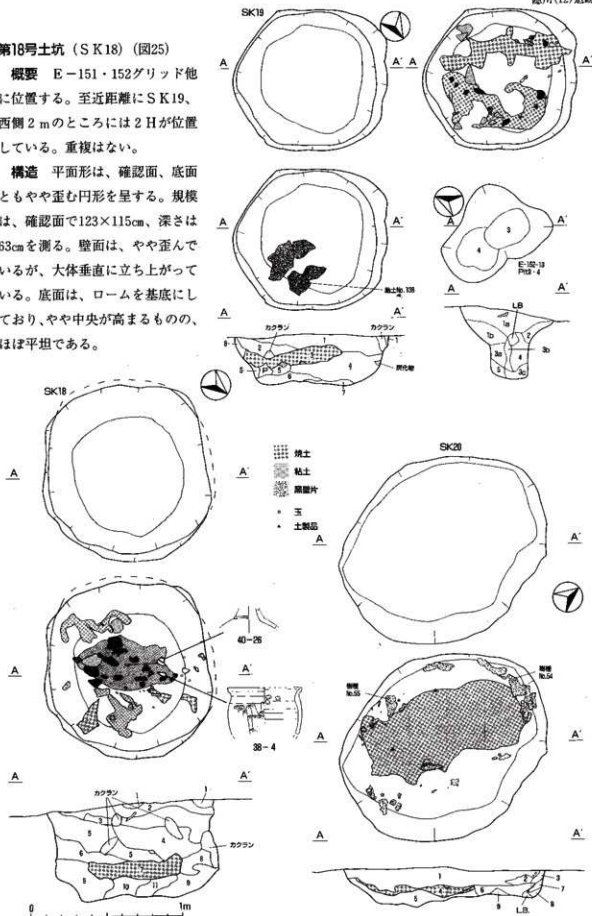


図25 第18・19・20号土坑ピット

随川(12)遺跡

SK19

- 1 層 黒褐色 10YR2/2 V-O-ム (F1-2m) 少量混入。
- 2 層 黒褐色 10YR2/0 ローム粒多量混入。焼土 (F20m) 1粒、粘土粒多量、炭化物 (F1-2m) 少量混入。
- 3 層 黒褐色 10YR2/0 V-O-ム (F2-5m) 少量、ローム粒少量、焼土 (F2-6m) 少量混入。炭化物粒少量混入。
- 4 層 黒褐色 10YR2/0 V-O-ム (F2-15m) 中量、ローム粒中量、焼土 (F2-6m) 少量、土に近い赤褐色粘土 (F20m) 1粒、炭化物粒少量混入。
- 5 層 黒褐色 10YR2/0 V-O-ム (F2-30m) 少量、ローム粒少量、焼土粒少量、炭化物粒少量、小礫 (F1m) 少量混入。
- 6 層 暗褐色 10YR3/0 MaO-ム (F1-6m) 少量、ローム粒少量、炭化物粒少量混入。土より粗。
- 7 層 赤褐色 10YR4/0 V-O-ム (F2-14m) 少量、ローム粒中量、炭化物粒少量、焼土少量混入。
- 8 層 暗褐色 10YR3/0 V-O-ム (F2-30m) 少量、ローム粒少量、炭化物粒少量混入。土より粗。
- 9 層 暗褐色 10YR3/0 V-O-ム (F2-4m) 少量、ローム粒中量、焼土少量混入。
- 10 層 暗褐色 10YR3/0 MaO-ム (F1-6m) 少量、ローム粒中量、焼土粒少量、土に近い赤褐色粘土 (F20m) 1粒混入。
- 11 層 暗褐色 10YR3/0 MaO-ム (F2-30m) 少量、ローム粒少量、焼土 (F1-3m) 少量、炭化物粒少量混入。

SK19

- 1 層 暗褐色 10YR3/0 V-O-ム (F3-15m) 少量、ローム粒少量、粘土粒少量混入。
- 2 層 暗褐色 10YR3/0 V-O-ム (F2-14m) 少量、ローム粒中量、焼土 (F10m) 1粒、粘土粒少量、炭化物 (F1-2m) 少量混入。
- 3 層 褐色 12YR4/4 V-O-ム (F2-15m) 中量、ローム粒少量、焼土 (F1-10m) 少量、粘土粒少量、土に近い赤褐色粘土 (F20m) 少量混入。炭化物 (F1-2m) 少量混入。
- 4 層 暗褐色 12YR3/4 V-O-ム (F2-20m) 少量、ローム粒少量、焼土 (F1-20m) 中量、炭化物 (F2-11m) 少量、赤褐色粘土 (F20m) 1粒混入。
- 5 層 褐色 12YR4/4 V-O-ム (F2-3m) 少量混入。赤褐色粘土 (F20m) 1粒、粘土粒少量、炭化物粒少量混入。
- 6 層 褐色 12YR4/4 O-ム粒中量、粘土粒少量、焼土 (F10m) 1粒、炭化物 (F2-15m) 少量混入。土より粗。
- 7 層 赤褐色 10YR4/0 V-O-ム (F1-20m) 少量、炭化物粒少量、炭化物粒少量混入。
- 8 層 褐色 10YR2/0 V-O-ム (F1-3m) 少量、ローム粒少量混入。

SK20

- 1 層 暗褐色 10YR3/0 黄土 (F2-15m) 少量、ローム (F1-10m) 少量、炭化物 (F1-5m) 少量混入。
- 2 層 赤褐色 10YR4/0 ローム (F1m) 少量、炭化物 (F2-10m) 少量混入。
- 3 層 褐色 10YR4/0 V-O-ム (F1-5m) 少量混入。
- 4 層 赤褐色 10YR4/0 焼土 (F1m) 少量混入。
- 5 層 赤褐色 10YR4/0 V-O-ム (F1-5m) 少量、焼土 (F2m) 少量混入。
- 6 層 褐色 10YR4/0 V-O-ム (F1-10m) 少量、炭化物土少量混入。
- 7 層 褐色 10YR4/0 V-O-ム (F1-5m) 少量混入。
- 8 層 褐色 10YR4/0 V-O-ム (F1-5m) 少量混入。
- 9 層 赤褐色 10YR3/0 V-O-ム (F1-10m) 中量混入。土上堆積している。

E-52-13a202-4

- 1a 層 暗褐色 10YR3/4 V-O-ム (F1-5m) 少量、MaO-ム (F2-3m) 少量混入。炭化物 (F1-2m) 少量混入。焼土 (F1-2m) 少量混入。
- 1b 層 暗褐色 10YR3/0 V-O-ム (F1-2m) 少量混入。MaO-ム (F1-12m) 少量、ローム粒少量、炭化物 (F1-10m) 少量混入。焼土 (F1-5m) 少量混入。
- 2 層 褐色 10YR4/0 V-O-ム (F1-3m) 少量、MaO-ム (F1-5m) 少量、V土MaO-ム少量、土上堆積している。
- 3a 層 褐色 10YR4/4 MaO-ム (F1-3m) 少量、V土MaO-ムの混合土。土より粗。
- 3b 層 褐色 10YR4/4 V土MaO-ムの混合土。MaO-ム (F2-5m) 少量混入。土より粗。
- 3c 層 土に近い褐色 10YR5/4 V土MaO-ムの混合土。土より粗。
- 4 層 褐色 10YR4/4 V土少量混入。土より粗。
- 5 層 黒褐色 10YR2/0 MaO-ム

土層 11層に分層された。色調は、全体的に黒褐色～暗褐色を基調としており、ローム粒、焼土等が混入している。7層は赤褐色を呈する焼土ブロックを多く含む層である^(註)。混入物等よりみて、ほとんどの層が人為堆積層であると考えられる。(註)焼土の網掛け範囲は、焼土層ではなく、焼土ブロックが目立って混入している層の範囲である。遺物等の出土状態 7、8、9層の上層から土師器片、生焼けの土器等が出土している。生焼けの土器は7層のほぼ上面に出土している。

第19号土坑 (SK19) (図25)

概要 E-151グリッドに位置する。至近距離にSK19が位置している。重複はない。構造 平面形は、確認面、底面とも不整な円形を呈する。規模は、確認面で103×108cm、深さは30～33cmを測る。壁面は、やや歪んでいるが、ほぼ斜めに立ち上がっている。底面は、ロームを基底にしており、ほぼ平坦である。土層 8層に分層された。色調は、黒褐色、暗褐色、褐色、黄褐色と様々みられる。1、2、8層の下層にはローム、焼土、炭化物、粘土等の多量の混入物がみられる。特に3、5層には焼土粒～ブロックが目立って混入している^(註)。混入物等よりみて、1層を除いたほとんどの層は人為堆積層である可能性が考えられる。(註)焼土の網掛け範囲は、焼土層ではなく、焼土ブロックが目立って混入している層の範囲である。遺物等の出土状態 土師器片、須恵器片が覆土の3、4層を中心に出土している。ほぼ底面には窯壁片がかたまつて3点出土している。

第20号土坑 (SK20) (図25)

概要 F-153グリッドに位置する。至近距離にSK09が位置している。重複はない。構造 平面形は、確認面、底面とも不整な楕円形を呈する。規模は、確認面で141×118、深さは20～28cmを測る。壁面の形状は部位によって様々みられるが、斜め～垂直に立ち上がっている。底面は、ロームを基底にしており、ほぼ平坦であるものの、南側がやや落ち込んでいる。土層 9層に分層された。色調は、褐色～黄褐色と様々みられる。4層は焼土粒を多量に含む層で、2層は炭化物を多量に混入する層である^(註)。混入物や層のライン等よりみて、1層は自然堆積土であると考えられる。遺物等の出土状態 炭化材が多数出土している。(註)焼土の網掛け範囲は、焼土層を多量に含む層の範囲である。

(木村 高)

3 井戸跡

1基のみ検出された。

第1号井戸跡 (SE01) (図26-27)

概要 C-154グリッド他に検出されている。平坦地に位置しており、付近には2H、3H、SK02がある。重複はなし。

構造 開口部が楕円形、底面が円形～楕円形を呈する、土坑が上部において重複するような形状を呈すもので、ロクロビットの形状にも類似している。上位の楕円形土坑状の部分（上位と呼称）と下位の筒状の部分（下位と呼称）とに分けて述べる。上位の形状は、確認面が楕円形、底面が円形～楕円形を呈すもので、底面の中央に下位が掘り込まれる。上位の規模は、確認面で180×216cm、深さ64cmを測る。壁面はやや歪みつつも外反しながら立ち上がり、底面はほぼ平坦につくられている。下位の形状は、開口部、底面とも円形を呈すが、底面は開口部の直下に位置しておらず、西方にずれている。下位の規模は、開口部で78×74cm、底面73×70cm、上位の底面からの深さ216cmを測る。確認面からの深さは280cmを測る。壁面は微妙に内傾しつつも、垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦につくられている。

土層 土層断面図は、湧水と安全確保のために上半しか作成できなかった。上半部では35層

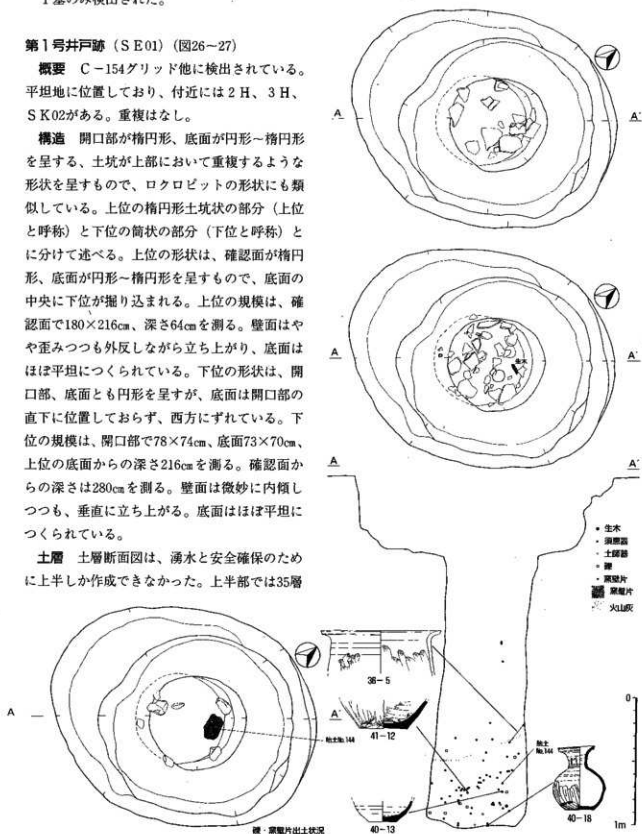


図26 第1号井戸跡遺物出土状況

ある。また、2、5a、5b、6の層は、下位の壁面から、やや歪みつつもほぼ垂直に立ち上がる層である。これらの層の状態より、本井戸跡は、(1)上位の楕円形状の土坑を掘り、(2)その底面中央を垂直に掘り下げ、(3)下位の壁面から延長するようにして上位に筒状(板状?)のものを積み上げ、(4)上位の筒状部分の外を充填土で満たす。という工法でつくられていたものではないかと推察される。なお、上位の底面には、多量の粘土が下位の開口部を避けるように堆積している^(註)。2~4・11・14~17・20~25・39層を除き、大半は自然堆積層と考えられる。

(註)土層断面図A-A'の手前にも粘土はみられたが、平面図は作成しなかった。

遺物等の出土状態 下層のB-Tmより下層に土師器の甕、須恵器坏、壺、大甕、自然木(割榿1点)が出土している。特に須恵器大甕の破片は多量に出土しており、ほぼ底面からは略完形の、小型の長頸壺が出土している。(木村 高)

4 並列溝状遺構

第1号並列溝状遺構(SDX01)(図28)

概要 調査区のほぼ中央域で検出された。検出範囲は広いものの、削平が著しいことと、両末端が確認できた溝跡は1条もなかったことから、全体の形状については不明である。9条(a~i)の溝跡が竊状に並んでいるもので、隠川(4)遺跡においても酷似した遺構((4)SDX01)が検出されている。確認面も(4)の検出例と同様に第Ⅲ層の上面である。

重複 4H、5H、5HSD01、SK08・11・15・16・17と重複し、本遺構はいずれよりも新しい。

確認状況 確認面である第Ⅲ層上面は削平が著しく、加えて多くの攪乱を受けているため、良好な検出状況ではない。第Ⅲ層の上面を露呈させたところ、竊状に並ぶ9条の溝跡の存在が認識されたが、削平が著しいことと、(4)のSDX01と同様、確認面における溝跡の覆土の色調は、黒色を呈する第Ⅲ層の土壌を基調としていることから、プランの把握は非常に困難であった。しかし、溝跡の覆土は、B-Tmを混入しているために、快晴の日に限って、火山ガラスがよく光り、手触りも非常にさらさらするものであったことから、調査は快晴日を狙ってすすめた。なお、最も多くB-Tmを含んでいる溝跡は溝跡bである。

構造 9条(確認数:a~i)の溝跡が竊状に並んでいる。著しく削平をうけていることから、本来的にはさらに数条存在していた可能性が推定される。個々の溝跡には広狭の差がみられ、1条の溝跡をとってみても広狭がみられる。両端部の確認された溝跡は1条も無いことから、全長については全く不明である。溝跡cと溝跡dはE-159グリッド杭付近において結合し、1条になっている。両者の重複関係を確認すべく確認面と断面で土壌を入念に観察したが、新旧関係は確認されなかった。溝跡iは、僅か96cmしか検出されなかった短い溝跡であるが、この溝跡は、溝跡bと溝跡cを北に延長した場合、それら2条の溝跡の中間に位置している。上述の溝跡c、dの結合例とこの溝跡iの不規則な検出位置より考えて、本遺構は一度に構築されたものではなく、2回以上の構築の結果を示している可能性が考えられる。確認面における幅は24~128cm、深さは5~15cmを測る。隣接する溝と溝との中心距離は112~312cmで、全体の平均値は224cmである。両末端が捉えられた溝跡は1条もなかったことから、長さについては不明であるが、最も長い溝跡bは検出長(直線長)で34.24mを測る。

断面形は基本的に平坦な皿状を呈す。底面には僅かに凹凸がみられるが、工具痕として認定できるものは確認されなかった。なお、底面は第Ⅲ層を基底にしているが、ほぼグリッドのDライン以南は底面に第Ⅳ層がうっすらと見えていたところが多い。これらの溝跡は、ほぼ等高線に斜交しており、方向はN-16°-W~N-6°-Eを示している。

土層 a-iの全ての溝跡の覆土は、黒色のシルトをベースにB-Tmがパウダー状、層状に混入しているものである。B-Tmは底面に近づくにつれて若干、厚く堆積する傾向がみられるものの、火山灰の平面的な混入状況を見ると、厚く堆積している部分や薄い部分、或いは微量にしか混入していない部分等があり、全面を均一に覆うものではない。なお、底面に第Ⅳ層がうっすらと見えていたところは、覆土中にローム粒が微量に混入している。

出土遺物 数点の土師器、須恵器の小破片と土玉1点が出土したのみである。これらのほとんどは、付近にある住居跡や土坑の覆土から浮上したものや、散在していたものが混入したものと見なされる。1点のみ出土した土玉は、溝跡cと溝跡dの接する部分(D-158-1グリッド)から出土しており、注意される。なお、この土玉は断面形が筒状を呈しており、住居跡等から出土している一般的なものと形状が明らかに異なっている。

その他 本遺構が、畠跡に関連した遺構であるか否かを判断するために、プラントオパール分析を実施した。結果は第Ⅸ章第4節を参照されたい。また、炭化種子を検出すべく、土壌サンプルを採取し、フローテーションを行った。結果は第Ⅸ章第5節を参照。

第2・3・4号並列溝状遺構(SDX02・03・04)(図29-30)

概要 調査区の南東部に3群(3面・SDX02・03・04)検出されている。これらはいずれも形態の面において酷似するものであるが、単に記述の便宜上、3群に分けただけのものであり、1面として捉えるほうが自然であることから、ここでは全てをまとめて述べる。

確認状況 確認面である第Ⅳ層の上層は現代の耕作土であり、削平が著しいことから、途切れているものが多く、良好な検出状況ではない。第Ⅳ層の上面を露呈させたところ、竊状に並ぶ12条(SDX02)、3条(SDX03)、18条(SDX04)の溝跡の存在が確認された。著しく上面を削平されているものの、確認面である第Ⅳ層は、にぶい黄褐色土であり、確認面における溝跡の覆土の色調は、黒褐色~暗褐色を呈するものであったため、プランの把握は極めて容易であった。ただし、2Hと重複している部分はプランが全くつかめなかった。

SDX02 4HSD01、SK09、SK20と重複する。SK09と4HSD01より新しいことは確認されたが、SK20との新旧関係は不明である。3群の中では中央部に位置し、12条で構成されている。方向はN-45°-W前後を示し、等高線に直交している。心心間隔は64~112cm(平均92cm)である。各々の幅は16~48cm、深さは確認面より4~16cmを測る。底面には凹凸がみられ、これらの凹凸は、工具痕である可能性がある。堆積土は黒褐~暗褐~褐色を呈す。

SDX03 4HSD01と重複し、本遺構が新しい。3群の中では南東部に位置し、東側は斜面になっている。3条で構成されており、方向はN-26°-Wを示し、ほぼ等高線に直交している。心心間隔は68~104cm(平均87cm)である。各々の幅は24~36cm、深さは確認面より4~12cmである。底面には凹凸がみられ、これらは、工具痕である可能性がある。堆積土は黒褐~暗褐~褐色を呈す。

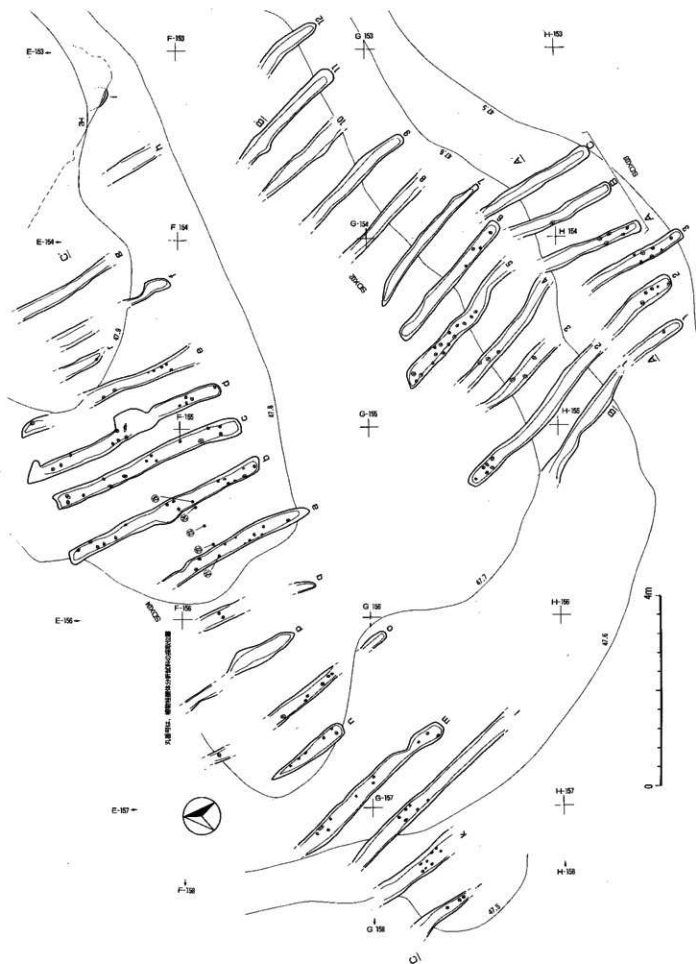


图29 第2·3·4号并列沟状遗構

SDX04 4 HSD01と重複し、本遺構が新しい。3群の中では北西部に位置し、18条で構成されている。方向はN-25°-38°-Wを示し、等高線に直交～斜交している。心の間隔は64～152cm(平均107cm)である。各々の幅は12～48cm、深さは確認面より2～18cmである。底面には凹凸があり、これらは、工具痕である可能性がある。堆積土は黒褐～暗褐～褐色を呈す。

(木村 高)

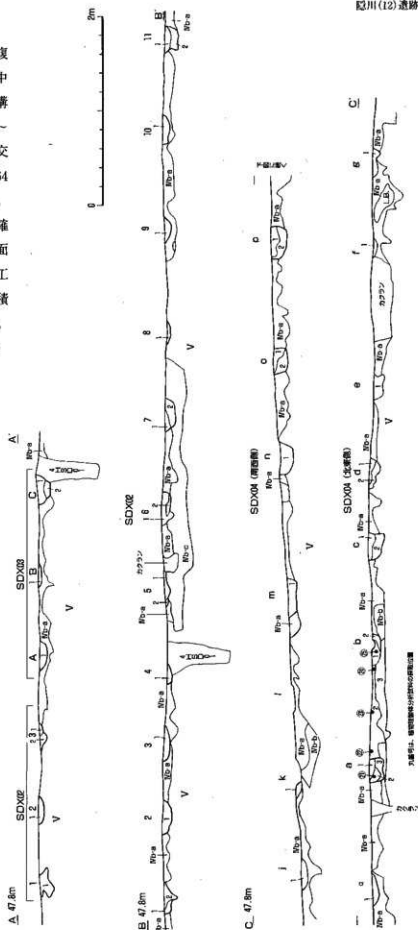


図30 第2・3・4号並列溝状遺構

陸川(12)遺跡

SDX組 (A A')

- C
1 層 黄褐色 10YR2/2 O-A 粘粉質, 粘土粘粉質, 炭化物粒極少量, 炭化物粒少量, B-Tn 混入。
2 層 黄褐色 10YR2/3 O-A 粘粉質混入。

- F
1 層 紫色 10YR3/1 O-A 粘 (F2M) 粘質土, B-Tn 或人灰混入, 少量土層上。

- 区
1 層 紫色 10YR3/1 O-A 粘粉質, 炭化物粒極少量, B-Tn 混入。

- d (B-E)
1 層 灰白 10YR7/1 O-A 粘粉質, 炭化物粒極少量, B-Tn 混入。

- B (C-C')
1 層 紫褐色 10YR2/2 O-A 粘粉質, 粘土粘粉質, 炭化物 (F1-2M) 微量, B-Tn 少量混入。

- 0 (D-D')
1 層 紫褐色 10YR2/2 O-A 粘粉質, B-Tn 混入, 粘粉質。

- C-d (E-E')
1a 層 紫褐色 10YR2/2 O-A (F1-2M) 粘質土, 粘土粘粉質, B-Tn 少量混入。
1b 層 紫褐色 10YR2/2 O-A (F1-2M) 粘質土, 粘土粘粉質, 炭化物粒極少量, B-Tn 少量混入。
2 層 紫褐色 10YR2/2 O-A (F2-2M) 粘質土, 炭化物粒少量混入, 粘粉質, 少量。

SDX2 (A A')

- 1
1 層 暗褐色 10YR3/4 O-A (F2-4M) 少量, 炭化物 (F1-2M) 微量, 黄褐色土少量混入, L 2 層。

- 2
1 層 暗褐色 10YR3/3 O-A (F2-3M) 粘質土, O-A 粘中量, 炭化物粒微量混入。

- 3
1 層 暗褐色 10YR3/3 O-A 粘粉質, 炭化物 (F2-3M) 微量混入, L 2 層。
2 層 暗褐色 10YR3/4 O-A (F2-3M) 少量, O-A 粘少量, 炭化物 (F1-2M) 極少量混入。

SDX3 (B-B')

- 1
1 層 暗褐色 10YR3/3 O-A (F1-3M) 少量, 炭化物粘粉質混入, 粘土粘粉質混入。

- 2
1 層 暗褐色 10YR3/3 O-A (F1-3M) 少量, 炭化物 (F1-2M) 少量混入。

- 3
1 層 紫褐色 10YR2/3 O-A (F1-3M) 少量, 炭化物 (F1-2M) 微量, 炭化物粒少量混入。

- 4
1 層 暗褐色 10YR3/3 O-A (F1-3M) 微量, 炭化物 (F1-2M) 極少量混入。

- 5
1 層 暗褐色 10YR3/3 O-A (F1-3M) 微量混入。

- 2 層 暗褐色 10YR3/4 O-A 粘少量, 炭化物粒極少量混入。

- 6
1 層 暗褐色 10YR3/3 O-A (F1-3M) 微量混入。

- 2 層 暗褐色 10YR3/4 O-A 粘少量, 炭化物粒少量混入。

- 7
1 層 黄褐色 10YR3/2 O-A (F1-3M) 微量, 炭化物 (F2-3M) 微量混入。

- 2 層 暗褐色 10YR3/4 O-A (F1-3M) 微量, 炭化物粒極少量混入。

- 8
1 層 黄褐色 10YR3/2 O-A (F2-3M) 中量, 炭化物 (F1-2M) 微量混入, L 2 層。

- 9
1 層 暗褐色 10YR3/3 O-A (F2-3M) 中量, 炭化物 (F1-2M) 微量混入。

- 10
1 層 黄褐色 10YR3/3 O-A 粘少量, 炭化物粒極少量混入。

- 11
1 層 黄褐色 10YR3/3 O-A 粘少量, 炭化物粒極少量混入。

- 2 層 暗褐色 10YR3/4 O-A (F2-3M) 微量, 炭化物粒極少量混入, L 2 層。

SDX4 (A A')

- A
1 層 黄褐色 10YR3/3 O-A (F2-4M) 中量, 炭化物 (F1-2M) 微量, 暗褐色土少量混入, L 2 層。

- B
1 層 黄褐色 10YR3/3 O-A (F2-4M) 中量, 炭化物 (F1-2M) 微量, 暗褐色土少量混入。

- C
1 層 暗褐色 10YR3/4 O-A (F2-3M) 微量, 炭化物 (F1-2M) 少量, 黄褐色土少量混入。

- 2 層 暗褐色 10YR3/4 O-A (F2-3M) 少量, 炭化物粒極少量混入, L 2 層。

SDX5 (C-C')

- K
1 層 暗褐色 10YR3/4 O-A (F2-3M) 少量, 炭化物 (F1-2M) 微量混入, L 2 層。

- m
1 層 暗褐色 10YR3/3 O-A (F2-3M) 少量, 炭化物 (F2-3M) 微量, 暗褐色土 (F1M), 極少量混入。

- n
1 層 紫褐色 10YR2/2 O-A (F2-3M) 極少量, 炭化物 (F1-2M) 微量, 炭化物粒極少量, 粘土 (F1-2M) 極少量混入。

- o
1 層 黄褐色 10YR2/2 O-A (F1-2M) 微量, 炭化物粒極少量混入。
2 層 暗褐色 10YR3/3 O-A (F1-3M) 少量, 炭化物粒極少量混入, L 2 層。

- p
1 層 黄褐色 10YR2/2 O-A (F1-3M) 微量, 炭化物 (F2-3M) 微量, 粘土粘粉質少量混入。

- 2 層 暗褐色 10YR2/3 O-A (F2-3M) 少量, 炭化物粒極少量混入, L 2 層。

- q
1 層 黄褐色 10YR2/2 O-A (F2-2M) 微量, 炭化物粒極少量, 粘土粘粉質混入, L 2 層。

- r
1 層 黄褐色 10YR2/2 O-A (F1-3M) 微量, 炭化物粒極少量混入。

- 2 層 黄褐色 10YR2/3 O-A (F2-3M) 微量, 炭化物粒極少量混入。

- 3 層 暗褐色 10YR3/4 O-A 粘少量, 炭化物粒極少量混入, L 2 層。

- s
1 層 黄褐色 10YR2/2 O-A (F1-3M) 微量, 炭化物 (F2-3M) 微量, 粘土粘粉質少量混入。

- 2 層 暗褐色 10YR2/2 O-A (F2-3M) 少量, 炭化物 (F2-3M) 微量, 粘土粘粉質少量混入。

- t
1 層 紫褐色 10YR2/2 O-A (F1-3M) 微量, 炭化物 (F2-3M) 微量, 炭化物粒極少量混入。

- 2 層 暗褐色 10YR2/2 O-A (F2-3M) 少量, 炭化物 (F2-3M) 微量混入。

- u
1 層 紫褐色 10YR2/2 O-A (F1-3M) 微量, 炭化物 (F2-3M) 微量, 炭化物粒極少量混入。

- 2 層 暗褐色 10YR2/2 O-A (F2-3M) 少量, 炭化物 (F2-3M) 微量混入。

- v
1 層 暗褐色 10YR3/3 O-A (F2-3M) 少量, 炭化物 (F1-2M) 極少量混入。

- w
1 層 紫褐色 10YR2/3 O-A (F2-3M) 微量, 炭化物粒極少量混入。

- x
1 層 暗褐色 10YR3/3 O-A (F2-3M) 少量, 炭化物 (F2-3M) 微量, 暗褐色土粘粉質混入。

SDX5 (B-B') 下部層土土層

B-b 層 12A1+黄褐色 10YR3/3 O-A (F1-3M) 中量, 暗褐色土少量混入。

B-b-b 層 12B1+黄褐色 10YR3/3 10YR2/2 O-A (F1-2M) 少量混入。

B-b-b 層 12B1+黄褐色 10YR3/3 10YR2/2 O-A (F1-2M) 少量混入。

B-b-b 層 12B1+黄褐色 10YR3/3 10YR2/2 O-A (F1-2M) 少量混入。

B-b-b 層 12B1+黄褐色 10YR3/3 10YR2/2 O-A (F1-2M) 少量混入。

B-b-b 層 12B1+黄褐色 10YR3/3 10YR2/2 O-A (F1-2M) 少量混入。

B-b-b 層 12B1+黄褐色 10YR3/3 10YR2/2 O-A (F1-2M) 少量混入。

B-b-b 層 12B1+黄褐色 10YR3/3 10YR2/2 O-A (F1-2M) 少量混入。

B-b-b 層 12B1+黄褐色 10YR3/3 10YR2/2 O-A (F1-2M) 少量混入。

B-b-b 層 12B1+黄褐色 10YR3/3 10YR2/2 O-A (F1-2M) 少量混入。

B-b-b 層 12B1+黄褐色 10YR3/3 10YR2/2 O-A (F1-2M) 少量混入。

B-b-b 層 12B1+黄褐色 10YR3/3 10YR2/2 O-A (F1-2M) 少量混入。

B-b-b 層 12B1+黄褐色 10YR3/3 10YR2/2 O-A (F1-2M) 少量混入。

B-b-b 層 12B1+黄褐色 10YR3/3 10YR2/2 O-A (F1-2M) 少量混入。

B-b-b 層 12B1+黄褐色 10YR3/3 10YR2/2 O-A (F1-2M) 少量混入。

B-b-b 層 12B1+黄褐色 10YR3/3 10YR2/2 O-A (F1-2M) 少量混入。

B-b-b 層 12B1+黄褐色 10YR3/3 10YR2/2 O-A (F1-2M) 少量混入。

B-b-b 層 12B1+黄褐色 10YR3/3 10YR2/2 O-A (F1-2M) 少量混入。

B-b-b 層 12B1+黄褐色 10YR3/3 10YR2/2 O-A (F1-2M) 少量混入。

B-b-b 層 12B1+黄褐色 10YR3/3 10YR2/2 O-A (F1-2M) 少量混入。

B-b-b 層 12B1+黄褐色 10YR3/3 10YR2/2 O-A (F1-2M) 少量混入。

B-b-b 層 12B1+黄褐色 10YR3/3 10YR2/2 O-A (F1-2M) 少量混入。

B-b-b 層 12B1+黄褐色 10YR3/3 10YR2/2 O-A (F1-2M) 少量混入。

B-b-b 層 12B1+黄褐色 10YR3/3 10YR2/2 O-A (F1-2M) 少量混入。

B-b-b 層 12B1+黄褐色 10YR3/3 10YR2/2 O-A (F1-2M) 少量混入。

B-b-b 層 12B1+黄褐色 10YR3/3 10YR2/2 O-A (F1-2M) 少量混入。

B-b-b 層 12B1+黄褐色 10YR3/3 10YR2/2 O-A (F1-2M) 少量混入。

B-b-b 層 12B1+黄褐色 10YR3/3 10YR2/2 O-A (F1-2M) 少量混入。

B-b-b 層 12B1+黄褐色 10YR3/3 10YR2/2 O-A (F1-2M) 少量混入。

B-b-b 層 12B1+黄褐色 10YR3/3 10YR2/2 O-A (F1-2M) 少量混入。

B-b-b 層 12B1+黄褐色 10YR3/3 10YR2/2 O-A (F1-2M) 少量混入。

B-b-b 層 12B1+黄褐色 10YR3/3 10YR2/2 O-A (F1-2M) 少量混入。

B-b-b 層 12B1+黄褐色 10YR3/3 10YR2/2 O-A (F1-2M) 少量混入。

B-b-b 層 12B1+黄褐色 10YR3/3 10YR2/2 O-A (F1-2M) 少量混入。

B-b-b 層 12B1+黄褐色 10YR3/3 10YR2/2 O-A (F1-2M) 少量混入。

B-b-b 層 12B1+黄褐色 10YR3/3 10YR2/2 O-A (F1-2M) 少量混入。

B-b-b 層 12B1+黄褐色 10YR3/3 10YR2/2 O-A (F1-2M) 少量混入。

B-b-b 層 12B1+黄褐色 10YR3/3 10YR2/2 O-A (F1-2M) 少量混入。

B-b-b 層 12B1+黄褐色 10YR3/3 10YR2/2 O-A (F1-2M) 少量混入。

B-b-b 層 12B1+黄褐色 10YR3/3 10YR2/2 O-A (F1-2M) 少量混入。

B-b-b 層 12B1+黄褐色 10YR3/3 10YR2/2 O-A (F1-2M) 少量混入。

B-b-b 層 12B1+黄褐色 10YR3/3 10YR2/2 O-A (F1-2M) 少量混入。

5 溝跡

第1号溝跡 (SD01) (図31)

概要 調査区西域で検出された。削平が著しく、東端は確認できなかったため、全体形状は不明である。確認面は、第IV b層中である。

重複 東端が攪乱を受けている。

確認状況 確認面である第IV b層は削平が著しく、加えて東端が攪乱を受けているため、良好な検出状況ではない。

構造 1条で構成されている。若干の広狭がみられるものの、ほぼ均一な幅を保っている。底面には多数の工具痕がみられる。攪乱のため、全長については不明であるが、検出長で18.44mを測る。確認面における幅は40~88cm、深さは16~32cmを測る。

土層 黒色~黒褐色のシルトをベースに断面皿状を呈すB-Tmが確認面にみられる。B-Tmは確認面の上に堆積しているが、平面的な分布状況を見ると、厚く堆積している部分や薄い部分、或いは微量にしか混入していない部分等があり、全面を均一に覆うものではない。

出土遺物 数点の土師器、須恵器の小破片が出土したのみである。これらのほとんどは、散在していたものが混入したものと考えられる。

(木村 高)



SD01 (A-A') (B-B')

- 1 層 深褐色 10YR2/2 ローム (φ1m) 極細砂、火山灰 (φ1-20μ) 中量混入。
- 2 層 深褐色 10YR2/2 火山灰 (φ1-10μ) 微量、ローム (φ1-20μ) 極微量混入。鉄分がある。
- 3a 層 深褐色 10YR2/2 火山灰 (φ1-20μ) 微量、ローム (φ1-20μ) 微量混入。
- 3b 層 灰色 10YR2/1 火山灰 (φ20μ) 極微量、ローム (φ10μ) 微量混入。
- 4 層 深褐色 10YR2/2 ローム (φ1-10μ) 微量、火山灰 (φ1μ) 微量混入。
- 5 層 深褐色 10YR2/2 ローム (φ1-10μ) 少量、火山灰 (φ15μ) 極微量混入 (φ1-10μ) 微量。鉄分がある。
- 6 層 灰色 10YR2/1 ローム (φ1-20μ) 多量、鉄分有。
- 7 層 灰色 10YR2/1 ローム (φ1-20μ) 中量混入。
- 8 層 深褐色 10YR2/2 ローム (φ1-20μ) 極少量混入。
- 9 層 深褐色 10YR2/2 ローム (φ1-10μ) 微量、鉄分有。

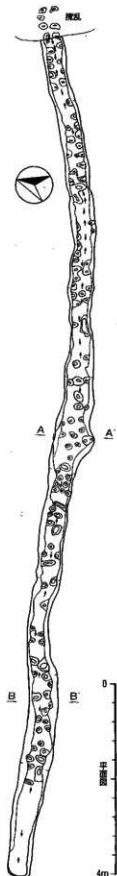


図31 第1号溝跡

第2節 平安時代の出土遺物

土師器・須恵器の概要

この時期の遺物出土総量はダンボールで約40箱である。このうち、竪穴住居跡からの出土は、全体の約1/2である。その中でも、2・4・5Hからの出土が特に多い。

1 土師器

皿・坏 (図33-17~48、図34-1~5、21、39~46)

器形ではバリエーションがあるが、口径160mm前後のものは34-1のみであり、法量は比較的まわっているように思われる。34-45はSK01出土のほぼ完形の耳皿である。胎土、焼成、色調の面では特に特異な点は見受けられない。34-46は高台部である。内外面とも平滑に調整されている。また、隠川(4)遺跡に比べヘラ書きの比率が低く、そのヘラ書きも線の細い、不明瞭なものである(33-19・33、45-4)。

甕 (図35-39)

長胴甕 (I群) 外面のケズリは口縁部近くまで施すものはほとんどなく、おおよそ胴部中央から下半にかけてである。隠川(4)遺跡のものより口縁部から胴部にかけての形態にバリエーションがあるように感じる。外面胴部上半から口縁部近くにタタキ痕を有するものがある(36-13、37-9、39-33)。38-12は胴部下半にタタキ痕を有するもので、格子状のタタキ目を確認できる。条数は不明である。38-20は2Hの支脚であるが、底径70mmと非常に小さく、砂が密な砂底である。

長胴甕 (II群) 35-7は口縁部があまり外反せず、胴部には接合痕が明瞭である。隠川(4)の40-8と似ているが、炭化物の付着、二次焼成はない。35-4は4H床面、SD05など5つの遺構から出土した破片の接合個体である。胎土が非常に密で質感があり、隠川(4)40-7、隠川(12)38-3と似ている。外面にはほぼ胴部全体に粘土が厚く付着している。36-11は口縁部が法量のわりには短く、外面のケズリが口縁部直下にまで及び、その余剰粘土が付着したままである。37-1・2は胴部上半にタタキ痕の確認できるものである。1はタタキ後のヨコナデが強くタタキ痕が不明瞭だが、2は格子状のタタキ痕が明瞭に確認でき、条数は5~7本である。1・2とも内面の調整がしっかりと施されており、当て具痕は確認できない。共に赤褐色系を呈し、内外面にタール状の黒色物質の付着を見る。

小型甕 (I群) 器形・法量など隠川(4)のものと大差ないが、37-16~21のように口縁内面に段を有するような口唇部の作りだしをしたものが多い。口縁部内面に炭化物が付着しているものが多く、また内外面にケズリ、ナデの調整を施すものは少ない。底部は回転糸切り、砂底、ケズリのものなどがある。38-3は胴部上半にヘラ書きを有している。

小型甕 (II群) 39-28~31など口径不明の細片は多いが、器形のほぼ全体を把握できるのは38-13のみである。口縁部内外面には微かにヨコナデの痕跡が見えるが、ヨコナデ後のナデツケにより不明瞭である。外面のケズリ調整1単位の中に筋状のものが何本か見えるが、工具の先の凹凸によるものと思われる。

壺 (図40-20、図41-1)

20は4H出土である。外面はロクロ調整痕が顕著である。口縁部内面はヨコナデと呼称し得る調整かもしれないが、裏などにみられる顕著なヨコナデとは趣を異にするので、図には現していない。色調は明黄褐色を呈し、胎土には砂粒を多量に含む。焼成は堅緻である。1はSK10の出土である。20に比べやや口径の大きく、残存破片の傾きから胴部最大径が下半にくるかもしれない。胎土・焼成・色調は20と似ている所もあるが、別個体である。

壺 (図41-16-26)

遺構内からの出土が多い。ロクロ調整のもの(16-21、23-25)と非ロクロ調整のもの(22・26)に分けることができる。20は胴部上半から口縁部にかけて緩やかに外反し、口唇部は先細りを呈する。器面の磨減が著しい。17・18は口縁部形態、胴部の形状が非常に似ている。胎土に砂粒を多く含む、色調は黄褐色系で、外面胴部上半には炭化物が付着している。19・20は口縁部から胴部にかけての形状は17・18に近いものがあるが、口唇部の作りだし、内外面の調整、胎土・色調などの面で他の壺とは趣を異にする点が多い。口縁部外面のほぼ直線を呈する箇所には(ヨコ)ナデを丁寧に施し、胴部には明瞭に格子目状のタタキによる調整痕が残存している。成形段階のものであると思われるタタキは口縁部にも施されていた可能性はあるが、確認できない。口縁部内面は丁寧にヨコナデを施されており、胴部はナデ調整が部分的に観察できる。胎土には他の土師器に比べやや径の大きい砂粒を含む。色調は赤褐色系であり、焼成は非常に堅緻で土師器というよりは須恵器に近い堅さである。外面胴部上半に炭化物が付着している。23は口縁部外反の胴部にやや膨らみをもつ、器高の高いものと思われる。内外面の磨減が著しいが、外面胴部上半に炭化物が付着している。26は口唇部が先細りし、口縁部がやや内湾するものである。口縁部外面のヨコナデが顕著であり、それより下半は指又は工具(不明)によるナデツケにより器面を調整している。

羽釜 (図41-27-32、図42-1-9)

出土個体数は少ないが、口縁部直下の張り出しの形状、口縁部形態などの点で、いくつかに分類可能であると思われる。42-6・7以外は黄褐色系を呈し、胎土・焼成とも似ている。おおむねロクロによる調整であるが41-27-32は細片の為不明な点が多い。42-3は胴部の膨らみが大きく、他に比べ特異な形状である。42-6・7は暗赤褐色系を呈し、焼成は堅緻である。口縁部直下の張り出しが大きく、作りも他に比べやや丁寧な感がある。

(三林 健一)

2 須恵器

皿・杯 (図32、図33-1-16、図34-6-20、22-38)

口縁部は隠川(4)遺跡に比べ外反するものが少なく、ほぼ直線的に立ち上がるものが多いように思われる。ヘラ書きは明確に文字と読みとれるものがなく、何かの記号と思われるものがほとんどである。34-7は口縁端部を内側に屈曲させているもので、このような口縁形態のものは他には見受けられない。32-18は2H出土の墨書土器である。墨書土器は隠川(4)・(12)遺跡の中でこの1点のみである。細片であり、何が書かれていたかは不明である。

鉢 (図40-1-17)

内外面にロクロ調整後ケズリ・ナデ調整を施すものが1・7・12・17と少ない。法量のわりに器厚が約6-8mmと厚いものが多い。底部は回転糸切りがほとんどである。7・12は外面に自然釉がほぼ

全面に付着している。17は口径196mmとやや大きく、外面胴部には全面にミガキ調整を施し、頸部にはヘラ書きを有する。胴部最大径が口径より小さく、器形的には鉢形に含めたが、法量では壺に近いものがある。

壺(図40-18、19、20-35、図41-2-15)

長頸壺と短頸壺がある(観察表に記載)が、ともに口縁部から底部まで把握できる個体は少ない。18はSE01出土の長頸壺であり、ほぼ完形である。色調は灰オリーブ色を呈し、頸部にはヘラ書きを有する。底部はケズリ調整である。22は器形的には19と似ているが、口唇部が非常に厚い。外面のケズリ、内面のナデとも口唇部近くまで施している。23は肩部であると思われ、他の壺には見られない文様(?)を外面に有する。色調は赤褐色である。27-35は長頸壺の口縁部であり、色調は青灰色で、口径は約90-120mmである。31は頸部内面の接合痕が顕著である。2-9は短頸壺の口縁部であり、ヘラ書きを有するものは2・5である。底部片では、ケズリ調整のもの(10・12・14)と菊花状のもの(11・13・15)がある。26は未焼成と思われる須恵器の長頸壺である。SK18からの出土であり、出土時点では、非常に水分を多く含んでいて、周りの土と一緒に取り上げなくてはならない状況であった。出土破片は頸部から肩部にかけてであり、1条の段を有する。内外面は褐灰色系で、ひび割れが著しく、そのひび割れから内外面が剥がれるように割れている部分がある。断面はにぶい黄橙色を呈している。非常に脆く、ひび割れている箇所少し加えるだけで、ひび割れが閉塞するほどである。

大甕(図42-10-20)

12・15・17・19・20は外面の拓本のみ(全て平行叩き目)だが、内面は当て具痕を確認できるものはなく、全てナデなどの調整を施している。12・14・18は頸部にタタキ痕を微かに残す。また、ここには掲載していないが、2H床面から外面格子状叩き目、内面鳥足状当て具痕を有する胴部破片が出土している。器厚は約5-7mmと薄いものであり、外面はうすい青灰色、断面は橙色を呈している。類似破片は山本遺跡第123図121である。(三林 健一)

3 ミニチュア土器

住居跡では2・3・4H、土坑ではSK10からの出土である。ロクロ調整のものはなく、内外面に調整を施すものが大部分である。須恵器がSK10から1点出土している。

I-B-a類(図46-9-11)

9の口縁部は剝離ではなく、無調整であるため、体部中央で段を有するものになっていると思われる。10、11は口径と器高から人差し指と親指で形作ることのできるものと思われる。

I-B-b類(図46-1-6、8、12-30)

1は外面を底部から口縁部にかけて調整を施しており、口縁部はつまみ出し風に外反している。体部の最下端を横に撫でている為、その粘土のみ出しによりやや上げ底になっている。内面は先の細い工具と思われるもので細かな調整が施されている。底部は平滑な調整の後、一部に外面と同じ調整を施している。胎土にしまりがあり、他のミニチュアに比べ硬質の方である。2は口縁部が内湾しており、口唇部はケズリにより面取りしている。胎土には砂粒が目立つ。3は外面に光沢をもち、口縁部は一部折り返し状になっている。5の外面にはミガキ調整が施されており光沢を有する。胎土・色調、また口縁部形態などの点で3と似ている。13は口縁部に粘土紐を貼り付けて外反口縁を形作って

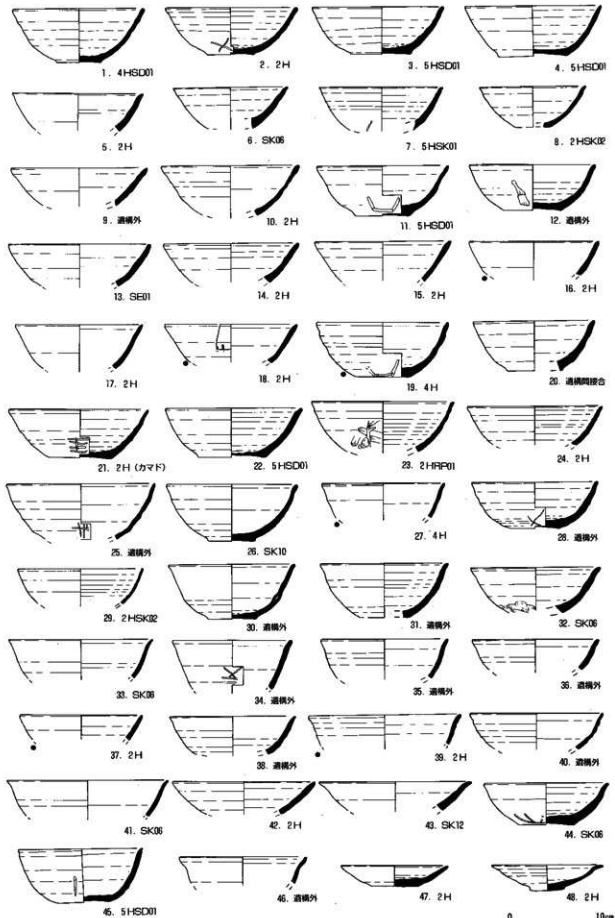


図32 皿・坏 (須恵器)

龍川(12)遺跡

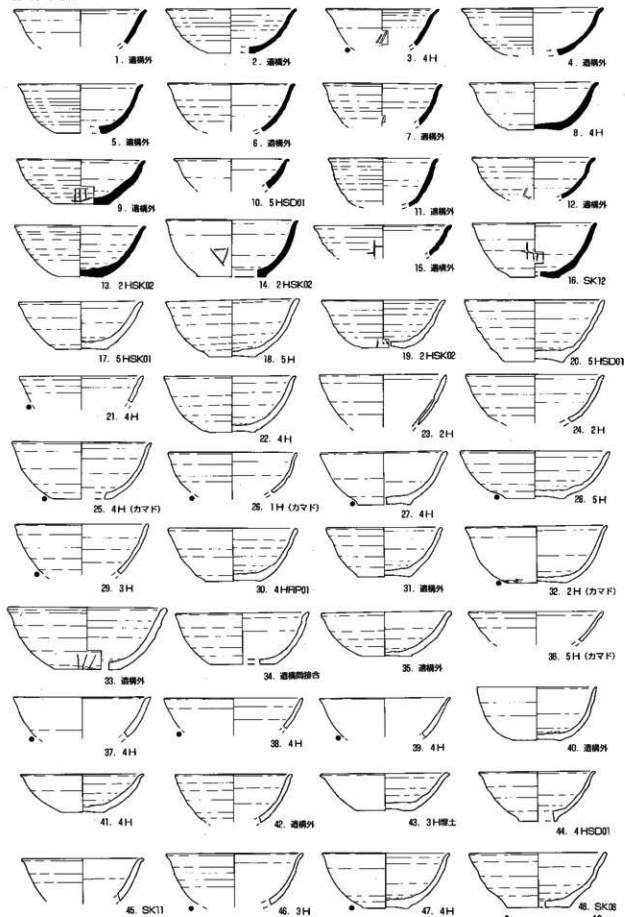


図33 坏 (須恵器・土師器)

いる可能性がある。28は外面に断面半円形の浅い沈線を有する。27は胎土に砂粒の混入があまり見られず、硬質である。器形的に不明だが、残存している口唇部はケズリにより面取りされている。

Ⅱ類 (図46-7)

外面は口縁下部から全体にタタキを施しており、条数は5~7本と思われる。内面はタタキの際に押さえたと思われる指痕が明瞭である。内・断面は赤茶褐色を呈しており、胎土に砂粒をあまり含まない。口縁部は外反している。 (三林 健一)

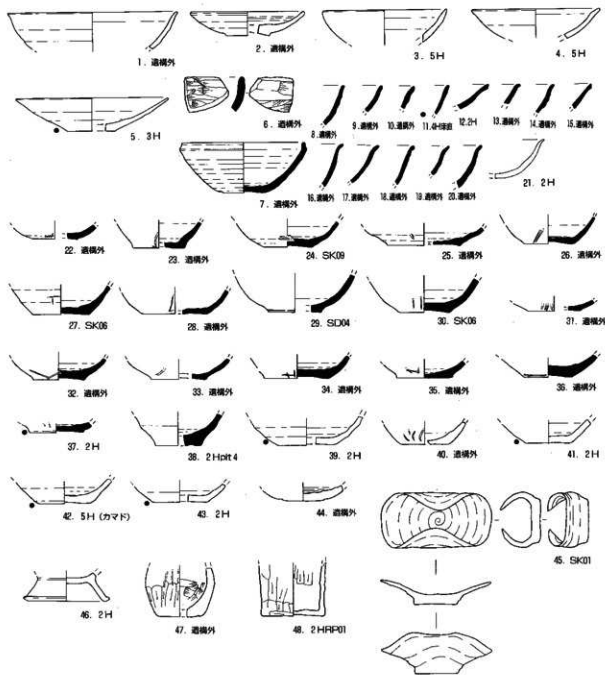
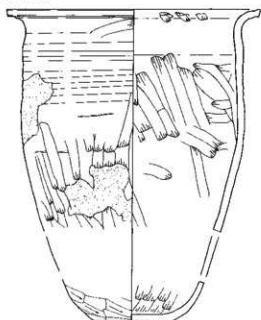
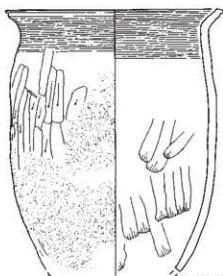


図34 皿・坏, その他 (須恵器・土師器)

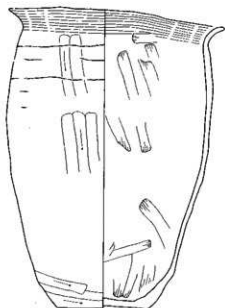
0 10cm



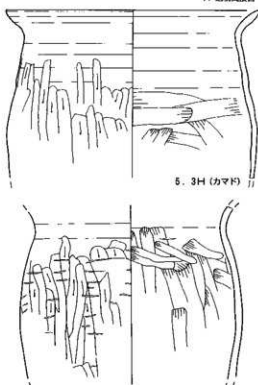
1. 3H (カマド)



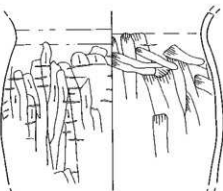
4. 酒樽用接合



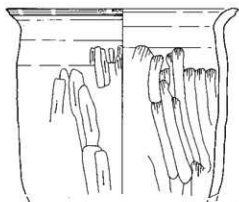
2. SK08



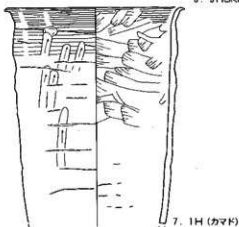
5. 3H (カマド)



6. 5HSK01



3. 酒樽用接合



7. 1H (カマド)

図35 甕 (土師器)

0 10cm

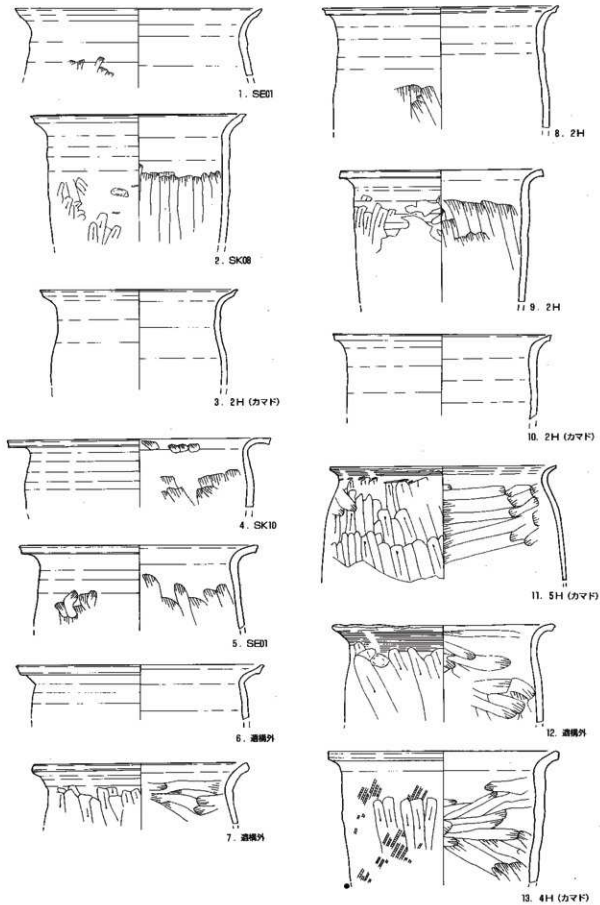


図36 埴 (土師器)

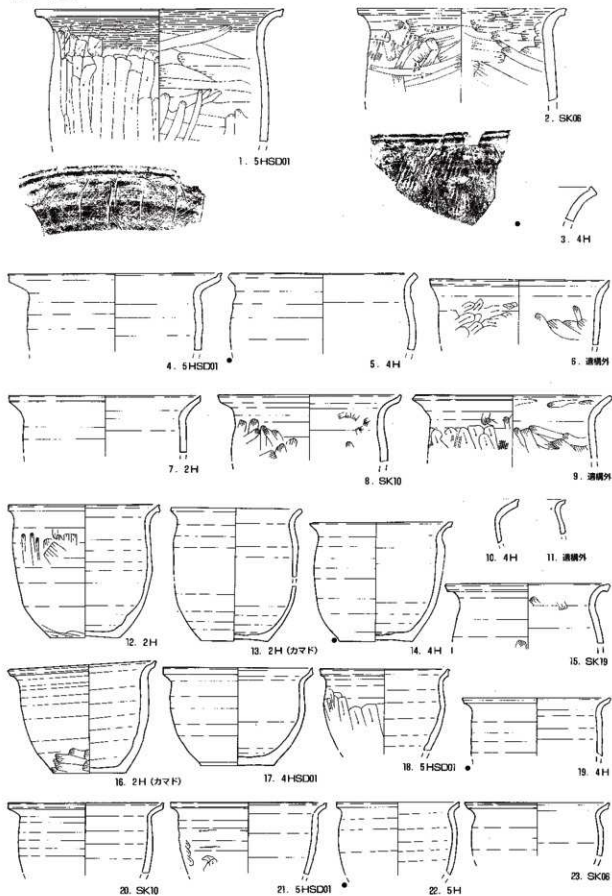


図37 甕 (土師器)

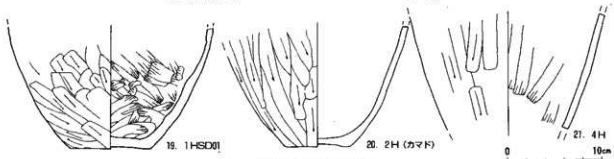
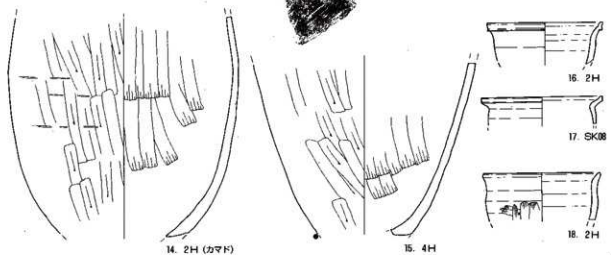
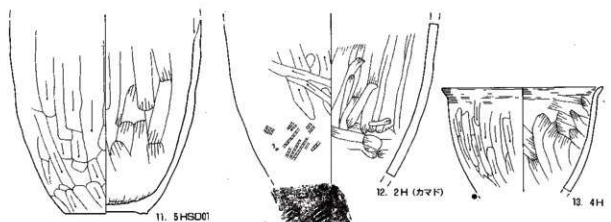
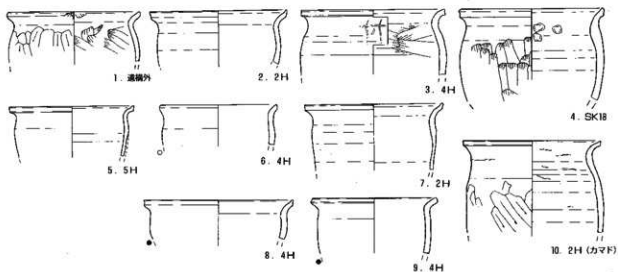


図38 甕 (土師器)

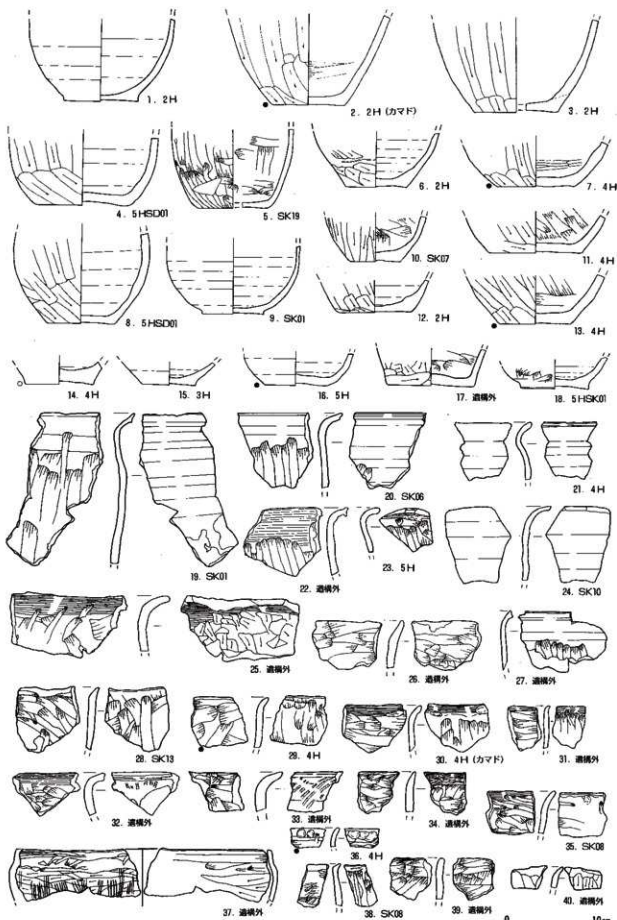


図39 甕(土師器)

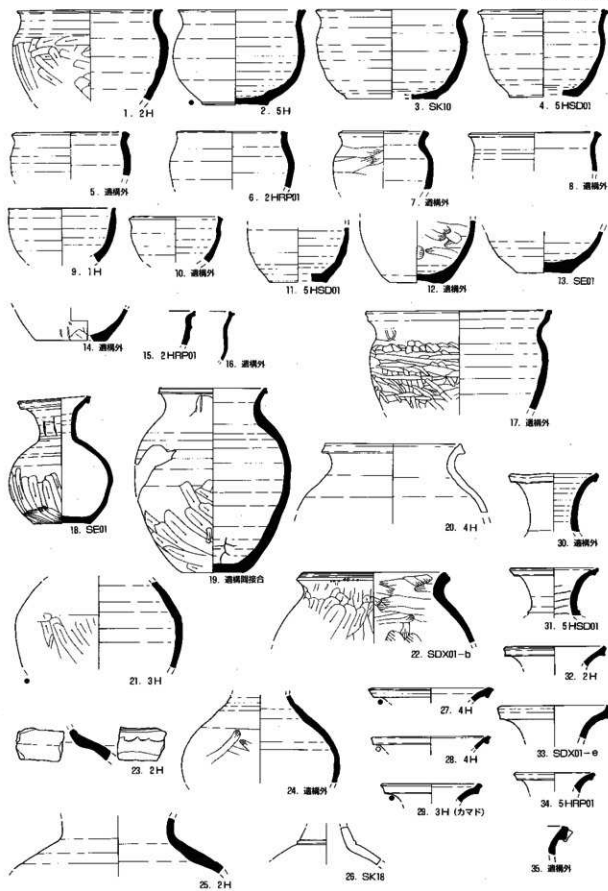


図40 鉢・壺 (須恵器・土師器)

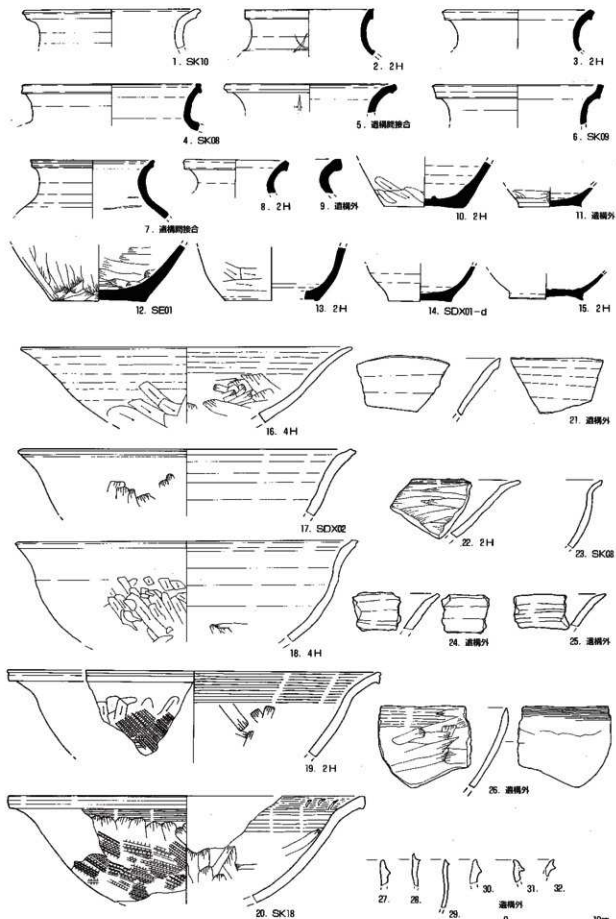


図41 壺・埴 (須恵器・土師器)

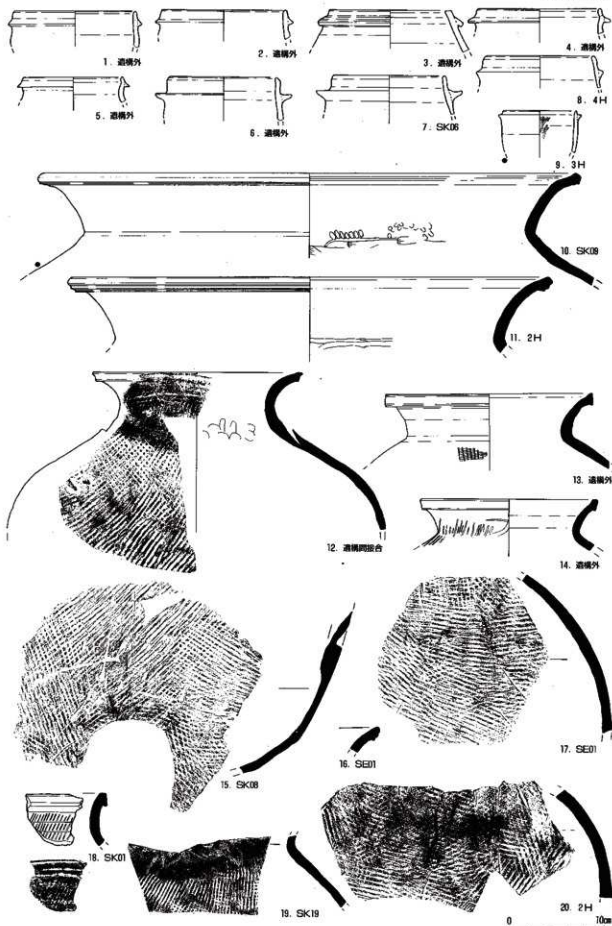


図42 羽釜・大甕(須恵器・土師器)

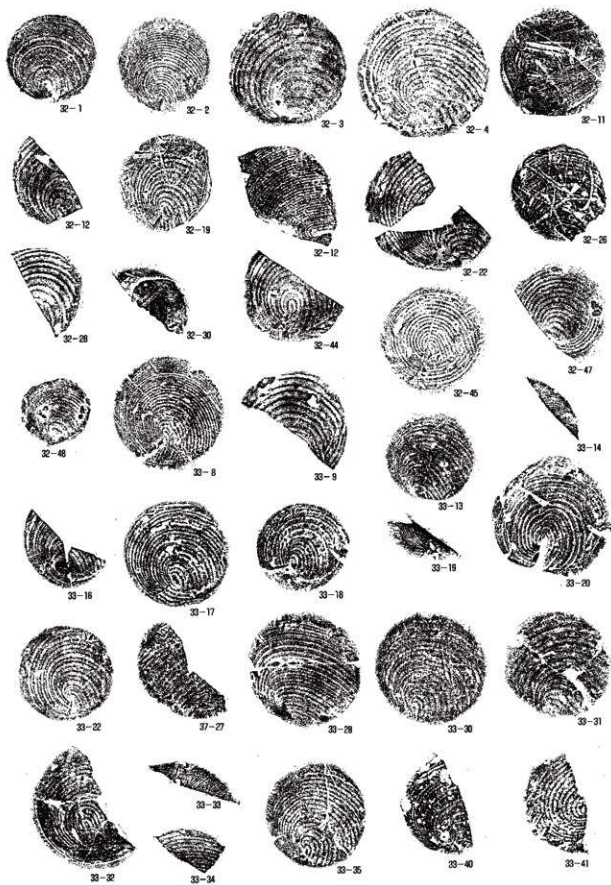


图43 底部拓本 (S = 1/2)

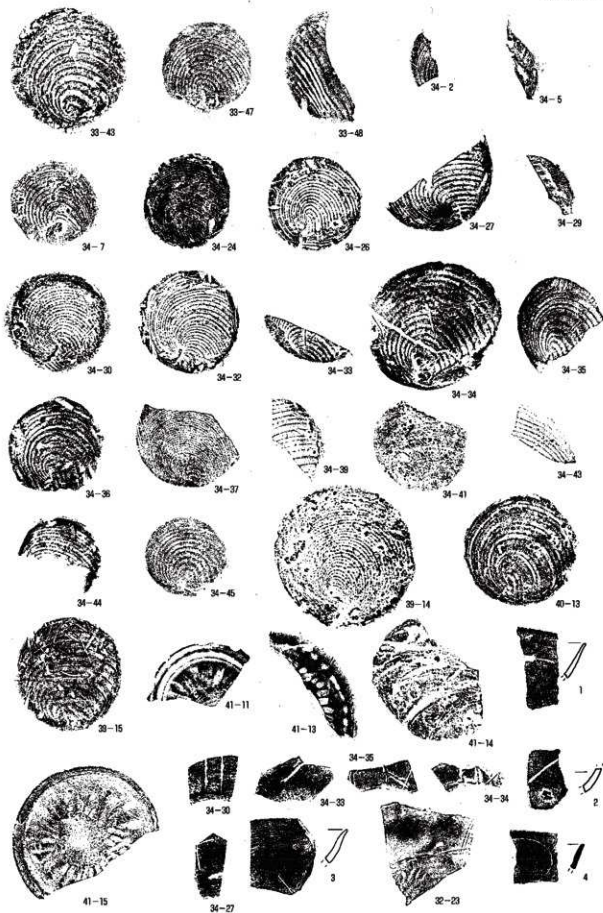


図44 底部・ヘラ書き拓本 (拓本S=1/2、断面S=1/4)

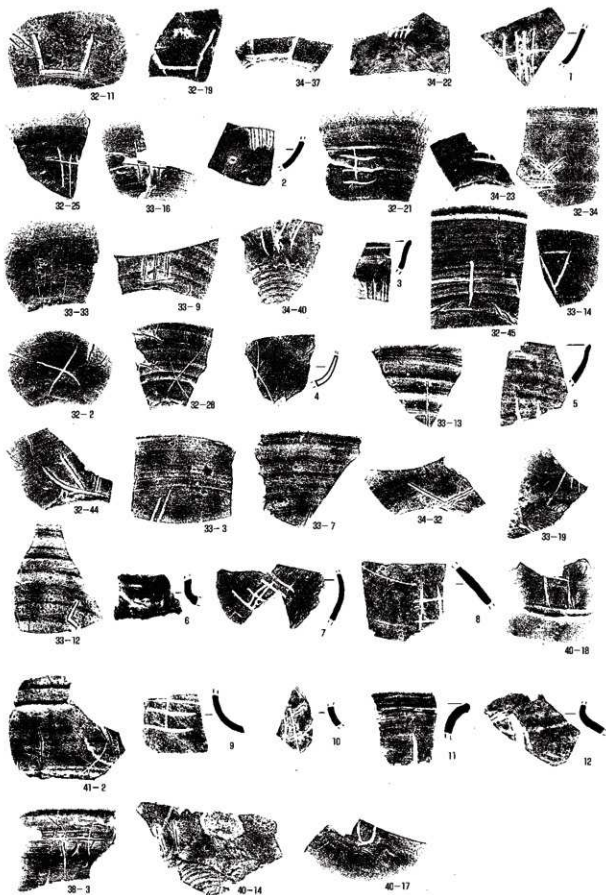


図45 ヘラ書き拓本 (拓本S=1/2、断面S=1/4)

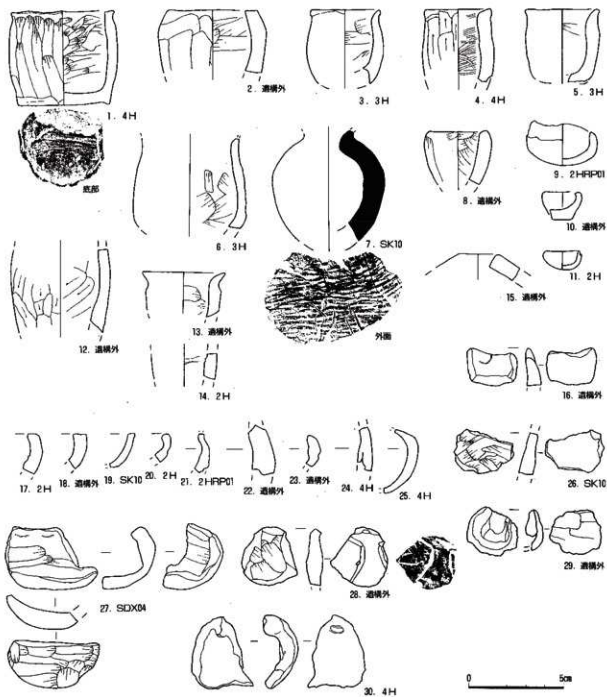


図46 ミニチュア土器

4 土製品 (図47~48)

第1群、第4群、第6群の土製品が総数で18点出土した。

第1群土製品：玉類 (図47-1~18)

遺構内から14点、遺構外から4点(1~3、16)の計18点出土している。穿孔は全て焼成前である。4~7、9~14、17~18の12点は2Hからの出土であり、出土率の高さを示している。1~16の丸玉の断面形は、横楕円形のものや幅に対して厚くつくられるもの等様々みられる。また、外面の色調には黒色系(1、2、6、7、13、14、17、18)、灰色系(5、16)、橙色系(3、4、8、9~12、15)の3種がみられる。17と18は勾玉で、外面は入念にみがかれ、黒色を呈す。

第2群土製品：球状 (図47-19)

1点のみの出土である。外面はややざらついているが、均整がとれている。

第3群土製品：土鈴 (図48-1~6)

6点出土している。5を除いていずれも紐部のみが残存であり、土鈴としての形状を留めていないが、土師質特殊遺物とは異なり、(1)ミガキが施されている(2)紐孔がみられる等の特徴から、土鈴と推定したものである。4は2HKマドから、5は2HRP01からの出土で、他は全て遺構外からの出土である。1と5は、体部が若干残存している。ただし、5は明らかに土鈴であるにもかかわらず、ミガキが施されておらず、非常に粗雑なつくりである。4には紐孔が認められる。

第4群土製品：当具状 (図48-8~10)

8~10は、キノコ状・スタンプ状の形態を呈すものであるが、従来までに報告されているキノコ形土製品やスタンプ型土製品とは明らかに異なるものである。無論、これらの用途については全く不明であるが、今回とりあえず当具状と呼称した。8の平坦部はやや膨らむものであるが、9、10はほぼ平坦なものである。8の上部は欠損しており、割口には沈線状の刺突?が観察される。この沈線状の部分の内部には入念にミガキが加えられているが、途中穿孔のような状態であったのか上面に溝状に掘り込まれていたのかは判然としなない。9は外面が歪曲する粗雑なつくりのものであるが、僅かにミガキが施されている。10の側面には入念なミガキが施されているが、平坦部には雑な指頭押圧が施されているのみでミガキは施されていない。9も平坦部は10と同様のつくりである。(木村 高)

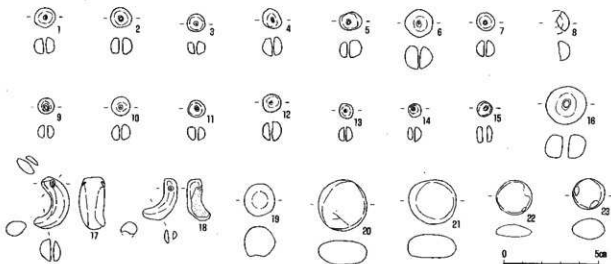


図47 土製品-1

第6群土製品：礮石状 (図47-20~23)

20と21はやや大型、22と23は小型のもので、大別すると大小2つのサイズに分かれる。色調は、基本的に黒色を呈すが、やや灰色系のもの(23)もみられる。

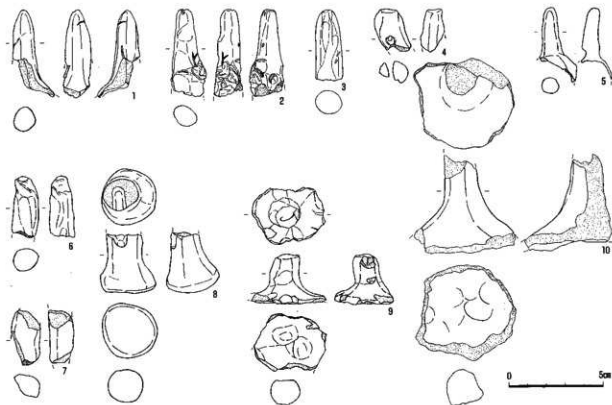


図48 土製品-2

5 土師質特殊遺物 (図49)

遺構外からの出土が圧倒的ではあるが、2 H、4 Hからの出土もやや目立つ。色調は、大半がにぶい橙色~橙~明赤褐色で、まれに褐色~黒褐色のものがみられる。

第1群土師質特殊遺物：粘土紐状のもの (図49-2~8)

2の表面には瘤のような粘土が貼り付いているが、偶発的な付着と考えられる。3はやや平坦につくられ、粘土紐を潰したものと思われる。4は弓状に曲げられ、両端部はさらにねじられている。6には指頭圧痕が目立つが、これは棒状にのびた後の指つまみによって生じた痕跡と考えられる。8は、棒状であったものが平坦に潰されているものと思われ、表面には須恵器甕に施されるタタキ目のような筋がかすかに観察される。

第2群土師質特殊遺物：粒状のもの (図49-9~12、33)

12は、筒状の粘土の半分が押圧によって潰れたような形状を呈す。9には、粒状の粘土を搦んだ時に生じたと思われるしわが明瞭にみられる。33の表面には植物性の繊維の圧痕が明瞭にみられる。

第3群土師質特殊遺物：板状のもの (図49-1、14~25)

1の胎土は焼成粘土塊に類似するが、側縁にはナデによる調整が一周している。14は整った楕円状を呈している。15は黒色の焼成で、やや黒光りしているところも認められるものである。裏面は非常に平坦で、何か平らなもの上でプレスしたものと推察される。16は、下端部を押圧によって平坦にしており、その際の粘土のはみ出



図49 土師質特殊遺物

しが顕著である。17は、裏面が極めて平坦で、平らなものの上でプレスしたことが明瞭にわかるものである。20の平坦面には編み方も推定できるほどの布圧痕が明瞭に残っている。繊維は非常に細いもので、ガーゼのような状態を呈す。21~25は、二本の指で薄く延ばされた状態のものと思われる。23の表面には稜痕が1つ観察される。

第4群土師質特殊遺物：不整のもの (図49-13・26-32・34-36)

13は、欠損した玉のような形状を呈すが、中央の抉れた部分は、棒状のもの?による貫通によってつくられているようである。35の表面は指頭によるランダムな押圧の結果、歪んでいるもので、爪先の刺突痕が顕著にみられる。34には、粘土の水分が少なかったためか粘土時のひび割れが多く認められる。36の表面には複数の粘土を合体させたようなもので、焼成前のしわが著しい。これらは粘土を無作為にまるめたり、潰したりした結果を呈しているものと思われる。(木村 高)

6 粘土塊 (図50)

1、2とも胎土分析を実施している。詳細については観察表と第IX章第2節を参照。

第1群粘土塊：長さ×幅5cm前後 (図50-2)

2は、にぶい橙色を呈し、胎土中には石英粒?を主体にした多量の小礫が混入している。焼成しているように硬質で、堅緻である。裏面は非常に平坦で、何か平らなものに押しつけていると考えられる。5HSD01の深部からの出土である。

第2群粘土塊：長さ×幅7cm前後以上 (図50-1)

1は、灰黄褐色を呈すものである。2Hの4区の床面に出土している(註)。(木村 高)

(註) 図7に出土地点が示されている。スクリーントーンはシルト礫のものが貼られているが、粘土塊が正しい。ここに訂正しておく。

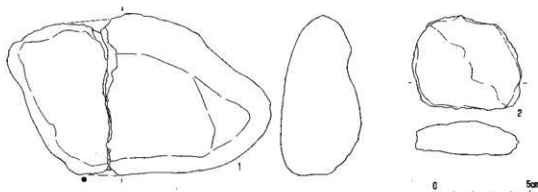


図50 粘土塊

7 焼成粘土塊 (図51)

隠川(4)遺跡と比べると出土点数は非常に少ない。

第1群焼成粘土塊：断面厚さ8~20mm (図50-1-5)

1は、表面に一部分を有しつ球状に丸みを帯びているもので、(4)図55-14の土師質特殊遺物に

類似しているが、胎土・焼成が一般的な焼成粘土塊に非常に近いものである。2、3は、周縁に割口がほとんどみられないことから、土師質特殊遺物に含めることも可能なものであるが、外面全体に著しく植物性の繊維が観察される。2点とも褐灰～黒褐色を呈し、焼成粘土塊全体のなかでみるとやや異質である。4の外面にはナデがみられるが、軟質であるためあまりはっきりしない。5の割口には植物性の繊維の混入が観察され、堅緻な焼成である。

第2群焼成粘土塊：断面厚さ26mm以上（図50-6、7）

6の表面は平坦で、表面には植物性の繊維の混入が顕著にみられる。植物性の繊維はかなり太いものであり、他の焼成粘土塊に見える植物性の繊維の痕跡と比較してもやや異質である。表面の平坦面には稜がついていて、3面形成されている。7は、カマドから出土したものであるが、堅緻な焼成ではあるもののやや粉っぽく、一般的な焼成粘土塊とは異なる。裏面には卵形の窪みがみられる。（木村 高）

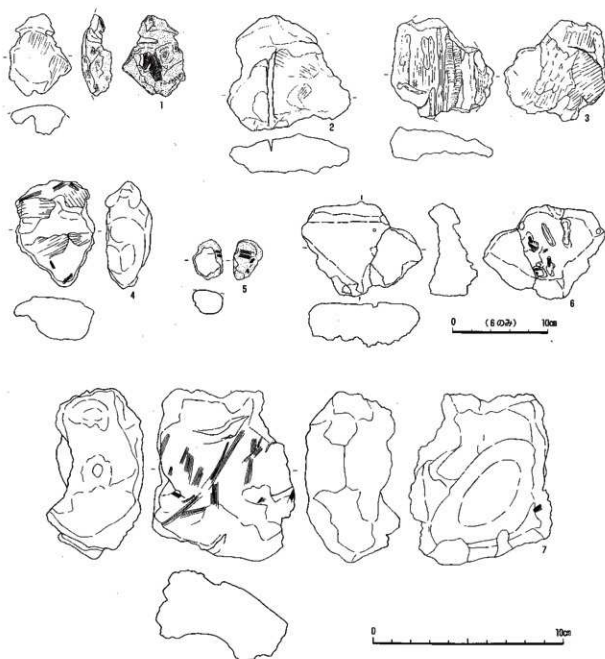


図51 焼成粘土塊

8 須恵器窯壁片 (図52-53)

隠川(12)遺跡からは、まとまった数量の須恵器窯壁片が出土している。大型のものは、2H、4H、SK08等から主に出土しているが、小破片は遺構外からの出土が多く、2Hの東方の斜面に目立っている。表面(窯内面)の色調は、暗赤褐色系のものから、完全に還元を受けて自然釉が生じている黒～褐灰色のものまで様々みられる。裏面は、窯構築時の掘り方の壁面あるいは充填土と接していた部分と考えられるが、あまり被熱していないため非常に軟質で、粉っぽい。色調は灰白～灰色を呈す。

第1群須恵器窯壁片：焼土の付着がみられるもの (図53-1～3、6～8)

焼土は、主として還元面(図の表面)に付着しているが、側面の割口や裏面にもかすかに確認できる。特に8の焼土は、還元面にある、植物性の繊維痕の窪みに、めり込むように付着していることから、二次利用時に粘土が塗られ、その後被熱しているものと考えられる。焼土の中に植物性の繊維の痕跡はみられない。3、7、8には心材痕がみられる。特に3の心材痕は良好に残存しており、心材の断面径(5.6cm)を推定できるものである。8の断面直角を呈す部分は角材の痕であろうか。他の資料の心材痕はいずれも「材」の痕跡というよりは「棒」の痕跡と言うべき細いもの(2.0～2.4cm)である。

第2群須恵器窯壁片：焼土の付着がみられないもの (図52-1～7・図53-4、5)

5の表面には心材痕がみられる。7の平坦面には須恵器片が溶着している。全面が還元されていること、須恵器片の溶着から、窯内において焼成中に崩落し、須恵器と接していたものと推定される。

(木村 高)

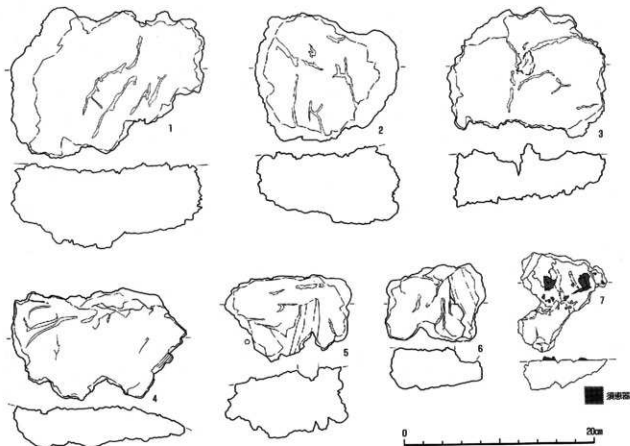


図52 窯壁片-1

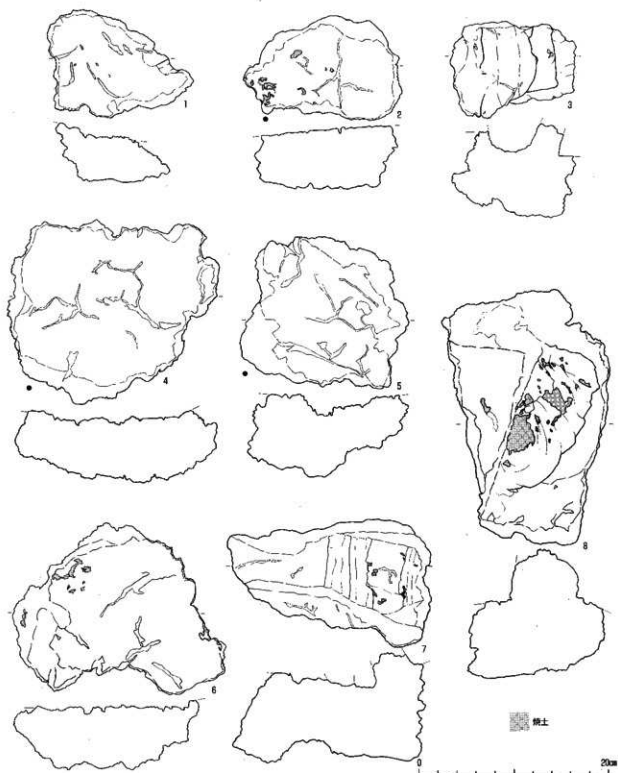


図53 窯壁片-2

9 石製品 (図54)

第1群石製品：玉類 (図54-1)

1は、自然孔をそのまま利用し、外面調整を一切施さないものである。SK08の覆土から出土していることより、自然遺物ではないと判断した。

第2群石製品：砥石 (図54-6)

平安期の一般的な砥石とはやや異なり、自然礫の平坦面を磨っているだけのものである。砥面は1面で、非常に滑沢である。この資料が確実に平安期のもかどうかの判別は困難であるが、4Hの覆土から出土していることから平安期に含めておいた。

第3群石製品：礫を直方体に成形しているもの (図54-8、図55-1-3)

図54-8は、5Hの床面、5HRP01のすぐそば(11区)に出土したものである。五角形状の断面直方体の礫であり、床面にしっかりと安置されていた。砂粒を多量に混入する凝灰岩を素材としており、表面には粘土が付着している。器面がざらついたものであるため、加工痕は見いだせないが、形状から判断して、人為的に整形されているものと思われる。

図55-1-3は、シルトを直方体に整形しているものである。被熱痕の認められるものが少なくないことと、2Hカマドの付近に出土しているものが多いことから、カマドの構築材として使用されて



図54 石製品・礫

いたと推定される。ここでは形状の良くわかる2点と、SK08から出土した1点のみ図示した。1は、被熱痕の認められるもので、1面欠損しているが、原形にかなり近いものと推定される。2は、4面残存しているもので、表面には、切り出した時の擦痕や割痕がかすかに観察され、一部に焼土が付着している。3は、2面のみ残存であるが、擦痕と被熱痕が認められる。これらの資料の色調は灰白色で、所々に明赤褐色の筋が縞状に入っている。非常に軟質で脆く、全面が粉状である。

使用された可能性の高い自然礫 (図54-2-4, 7)

2-4の外表面には被熱痕がみられ、いずれも割れている。7には人為的に付加された要素がみられないが、形状が非常に特徴的なことと、SK08から出土していることから参考までに掲載しておいた。

(木村 高)

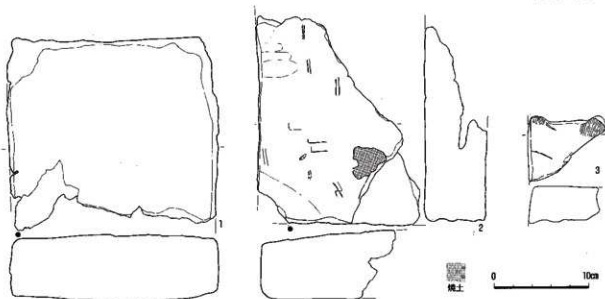


図55 シルト礫

10 鉄製品 (図56-1-5)

鉄製品は総数でわずか5点のみの出土である。

第1群鉄製品：刀子 (図56-3-5)

3-5は、刀子の破片で、5Hの覆土に出土したものである。恐らく3点とも同一個体であると思われる。5は刃部を有している。

第2群鉄製品：用途不明 (図56-1, 2)

錆が多量に付着しているため、本来の形状は不明であるが、1は楕円形のリング状のものに、棒状のものが刺さるような形状を呈すものである。2は、不整楕円形で板状を呈すものである。(木村 高)

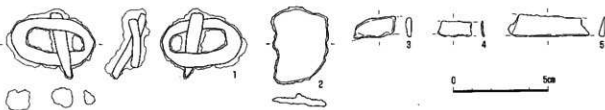


図56 鉄製品

第3節 縄文時代の検出遺構

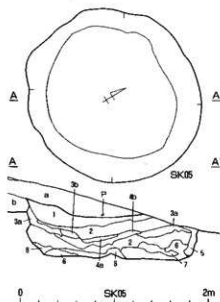
1 土坑

検出した縄文時代の土坑は総数で2基のみである。隠川(4)遺跡と比較すると極端に少ない。SK05は調査区東域の斜面の下位にある平坦地に確認され、砂層を掘り込んでおり、壁面、底面も同じく砂層である。SK22は、第IV層の上面に確認されている。SK05の堆積土は、層のラインと混入物の状態よりみて自然堆積と推定されるものであるが、SK22は自然堆積か人為堆積か推定できない。平面形はSK05が不整形円形、SK22が楕円形で、断面形はSK05、SK22ともに箱形を呈す。

本節においては、紙数の都合上、検出位置(グリッド)、規模、出土遺物等を一覧表にまとめて記載した。(木村 高)

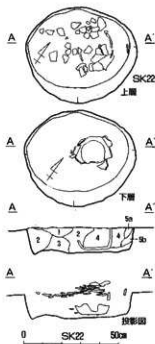
表 土坑(縄文時代)観察表

土坑番号	検出位置	形 態		規 模 (cm)			出 土 遺 物 ・ 備 考
		平面形	断面形	長軸	短軸	深さ	
SK05	I/J-150	不整形円形	箱形	184	184	44-60	
SK22	F-161	楕円形	箱形	59	51	12-14	縄文土器(図-58-36) 底部は底面付近、側部は確認面出土



SK05

- a 層 赤褐色 10YR2/2 ローム(φ1-15cm)少量、炭化物(φ3-10cm)極微量混入。
- b 層 褐色 10YR2/1 ローム(φ1-10cm)極微量混入。
- 1 層 赤褐色 10YR2/2 ローム(φ1-15cm)微量、炭化物(φ5-8cm)極微量混入。
- 2 層 赤褐色 10YR3/1 炭化物(φ1-5cm)極微量、砂ブロック(φ5-45cm)少量混入。
- 3a 層 褐色 10YR2/1 砂ブロック(φ5-10cm)極微量混入。
- 3b 層 褐色 10YR2/1 砂ブロック(φ10-20cm)極微量混入。
- 4a 層 赤褐色 10YR2/2 炭化物(φ1cm)極微量、砂ブロック(φ10cm)微量混入。
- 4b 層 褐色 10YR2/1 炭化物(φ1-4cm)極微量、砂ブロック(φ2-20cm)少量混入。
- 5 層 褐色 10YR2/1 炭化物(φ3-5cm)極微量、砂ブロック(φ5-20cm)少量混入。
- 6 層 赤褐色 10YR3/1 砂層、砂石(φ10cm)1つ混入。
- 7 層 褐色 10YR2/1 砂ブロック(φ10-45cm)少量混入。
- 8 層 赤褐色 10YR3/1 炭化物(φ1-5cm)極微量、砂ブロック(混尺)少量混入。



SK22

- 1 層 褐色 10YR3/1 ローム粒少量混入。
- 2 層 黒褐色 10YR2/1 ローム粒子(φ1-3mm)全体混入。
- 3 層 黄褐色 10YR5/6 ローム。
- 4 層 褐色 10YR2/1 2層と混入物混。
- 5a 層 褐色 10YR2/1 ローム粒(φ1-4mm)多量混入。
- 5b 層 黄褐色 10YR5/3 ローム粒(φ1-4mm)多量混入。

図57 土坑(縄文時代)

第4節 縄文時代の出土遺物

1 土器

遺構内外出土の破片はおおよそダンボール1箱分で、グリッドH-150~J-160に分布する傾向が認められる。おおよそ縄文前期中葉から晩期にかけての遺物が出土した。

第Ⅱ群土器 (図58-1~9、13、36)

1から5はいづれも連続刺突列が確認できる。1は半葎竹管によるコンパス文が施されている。表館・芦野I群から早稲田6類の範疇に収まるものと思われる。6~9、13、36は燃糸圧痕、燃糸文を主文様とする。

第Ⅲ群土器 (12・33)

12は燃糸圧痕の施された隆帯間に、馬蹄状の燃糸圧痕が施される。円筒上層b式と思われる。33は貼り付けの弱い隆帯間に地文の縄文が見受けられる。円筒上層d式と思われる。

第Ⅳ群土器 (14~19)

おおよそ後期初頭から十腰内I式である。14は横位の貼り付け部に連続的な竹管状の工具による刺突を施す。色調は橙色を呈し、器面は平滑である。17・19は同一個体と思われ、地文の縄文に細い沈線を施す。18は外反口縁部を磨消し、接合痕が明瞭である。

第Ⅴ群土器 (20~28、30~32、35)

25・27は同種の器形で大洞C1式と思われる。26はやや口縁部が波状を呈し、内面・磨消部分ともミガキにより平滑に調整されている。28は工字文施文であり、内外面とも平滑である。30・31の地文は条痕であり、31は口縁部に幅の広い3条の沈線を有するが、施文後ミガキが施されている。35は文様間の地文が顕著に残存している。沈線は幅の広い、しっかりとしたものである。底部付近にも同様の沈線を有する。内面はミガキより非常に平滑に仕上げられている。

第Ⅵ群土器 (10、11、29、34)

10は縄文原体の端部も押圧され、それが横の区画を形成しているかもしれないが不明である。前期前葉の所産か。11は多輪絡条体を施しており、前期後葉の所産か。34は黄橙色を呈し、鉤状の沈線状の凹み部分は断面と似たざらつきを呈している。(三林 健一)

2 土製品 (図58-37)

1点出土した。4Hの床面から出土したものである。欠損しているが、角棒状を呈すものと推察される。長軸の上下に貫通孔、外面の4面にU字状の沈線が施され、その外側には4辺に沿うように円形の連続刺突が巡らされる。焼成は堅緻でミガキも加えられているが、一部磨滅している。

(木村 高)

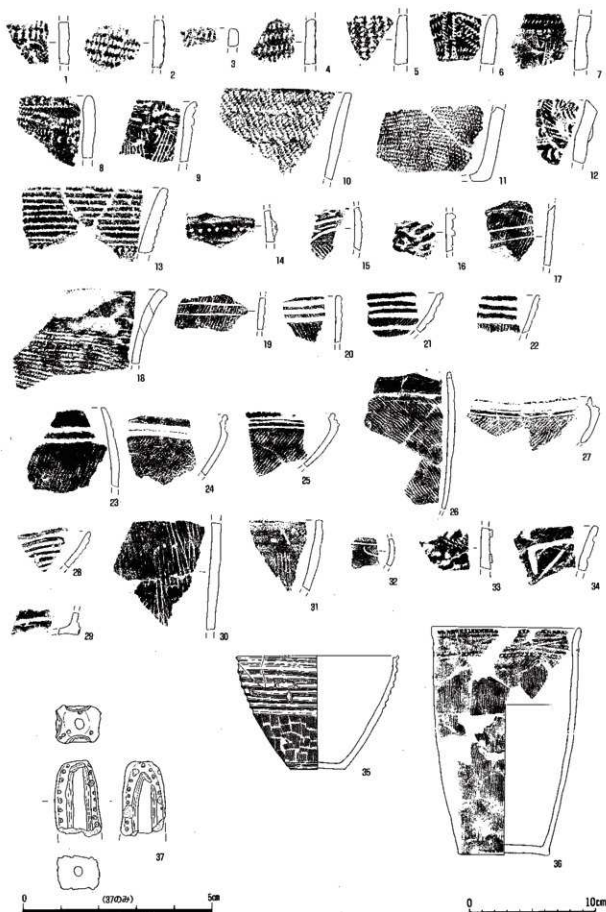


图58 縄文土器

3 石器 (図59-62)

石器は、土器との共存関係が極めて希薄であるため、土器型式毎の記載は行い得ないが、他遺跡で出土している資料との大まかな比較では、縄文時代のものが主体的であると推定される。

いわゆる定形石器は全点掲載した。*参考までに煤状炭化物の付着する自然礫(図62-10)も参考までに掲載した。縄文時代のものであるかどうかは不明である。

第1群石器：石鏃 (図59-1-22)

基部に着目すると、平基(1-4)、凹基(5-6)、尖基(7-12)、円基(13)、有茎(14-18)の5種がみられる。有茎は、Y基がほとんどである。19-22は、基部が欠損している。

第2群石器：スクレイパー類 (図60-図61-11)

図60-1-3は、つまみ部を有すいわゆる石匙で、いずれも縦型である。全ての裏面は主要剝離面を大きく残すもので、側縁の一部に調整剝離が若干施されている。図60-1はつまみをつけた尖頭器として認識することもできるが、刃部の断面角よりみて搔器的な用途に用いられたものである可能性もある。

図60-4、5は、剥片に対する加工法等が、図60-2、3の石匙と類似しているが、つまみ部を持たない。図60-6、7は、ごく一部に刃部が作出されているものである。図60-8-14、図61-1-

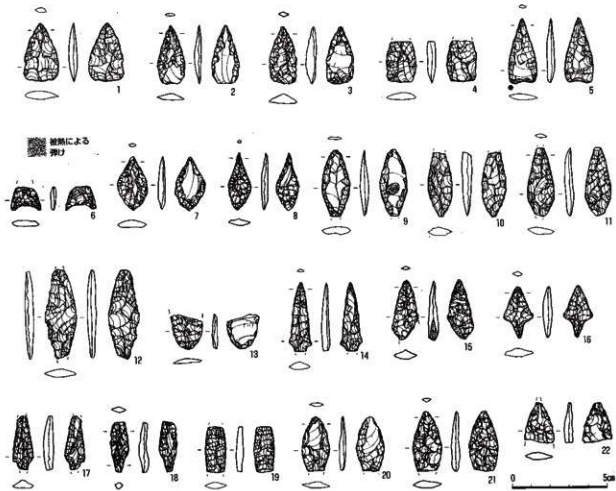


図59 石器-1

3は、形状にややばらつきがあるが、いわゆる石筥及び石筥様のものである。欠損資料(図60-13、14、図61-3)を除くと、上部が狭く、下部は広がる形状のものが主体で、楕円形のはみられない。図60-8、12の頭部は器体に対して斜めであるが、その他はほぼ水平である。ほとんどの資料は左右側縁の両面に調整剝離が施されているのに対し、下方側縁の調整剝離は片面のみのものが多い。図60-11、12、図61-2、3の下方側縁の刃部は撻器的なものである。ただし、図61-2、3は平面形と刃部作出の方法でみれば限り、図60-8-14とは全く異なった用途のものと考えられる。図61-5は、撻器的な刃部を持つ。図61-4、6、7、9は、一部に刃部作出のための調整が加えられている。図61-8の右側縁のくぼんだ部分には潰れた痕が観察される。図61-10の側縁には、使用によって生じたと思われる微細な剝離が観察される。図61-11は全面剝離しており、一部に節理面が観察される。

第4群石器：磨製石斧 (図62-1、2)

2点出土した。いずれも欠損している。1は装着部が欠損しており、2は刃部のみ残存している。1の刃部は両凸刃で、鈍はみられない。刃部はやや偏刃状を呈す。

第5群石器：石皿 (図62-9)

1点出土した。欠損しているため、全体の形状は不明であるが、恐らく楕円形を呈していたものと考えられる。外縁は微妙に高まり、底面は丸みを帯びている。

第6群石器：磨石 (図62-3～8)

3～5は、不整楕円形～隅丸長方形を呈す礫の長側縁を磨っているもので、3、4は1側縁、5は両側縁を磨っている。いずれも磨面の縁には剝離がみられるが、使用時に生じた剝離であると思われる。3の平坦面のほぼ中央には敲打痕が観察される(第7群石器)。6は礫の平坦面の1面を磨っている。7、8は楕円形の礫を素材としており、8は両平坦面に磨面が認められるが、7は被熱のために風化が著しいためあまりはっきりしない。

第7群石器：敲打痕のある礫 (図62-3)

1点出土した。3の平坦面のほぼ中央には敲打痕が観察される。1側縁には磨面もみられ、第6群石器にも該当する2つの要素を兼有するものである。(木村 高)

4 石製品 (図61-12)

石器として捉えるべきものかも知れないが、特殊なものであるため石製品として独立させた。12は、磨製石斧の破片を素材としており、剝離していない部分には、擦痕を有す磨製石斧の独特の器表面が観察される。側縁の両面に調整剝離が全周しているが、刃先部に相当する部分は潰され、白くなっている。(木村 高)

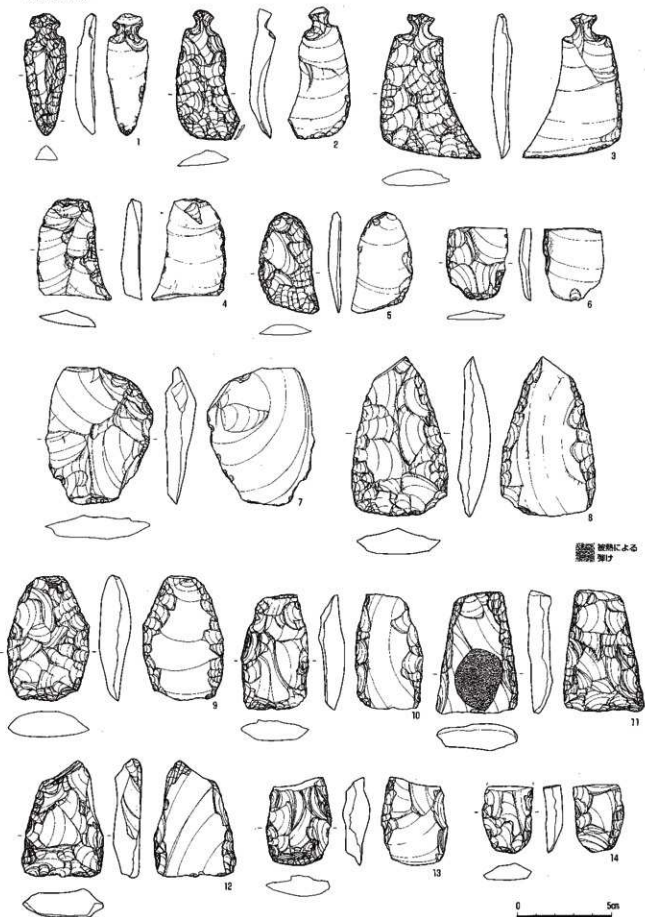


図60 石器-2

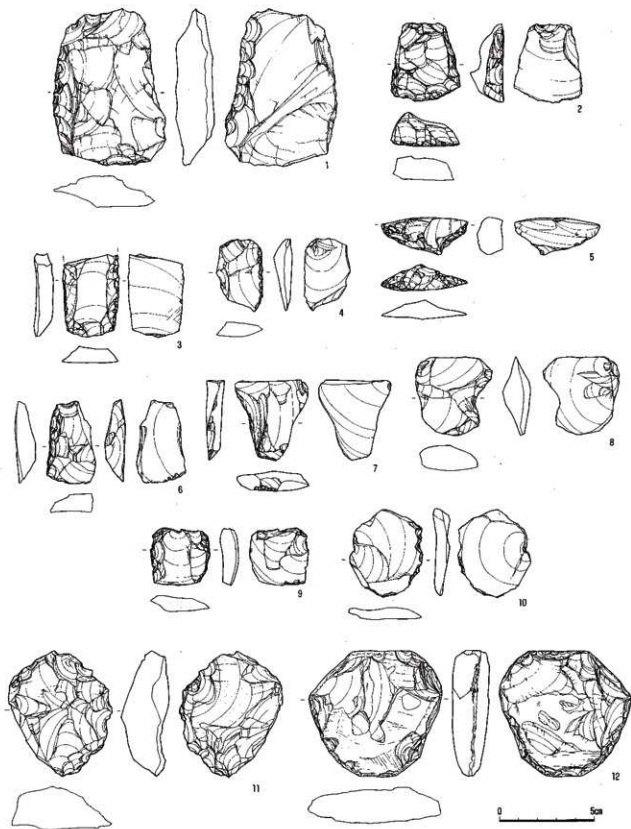


圖61 石器-3

隠川(12)遺跡

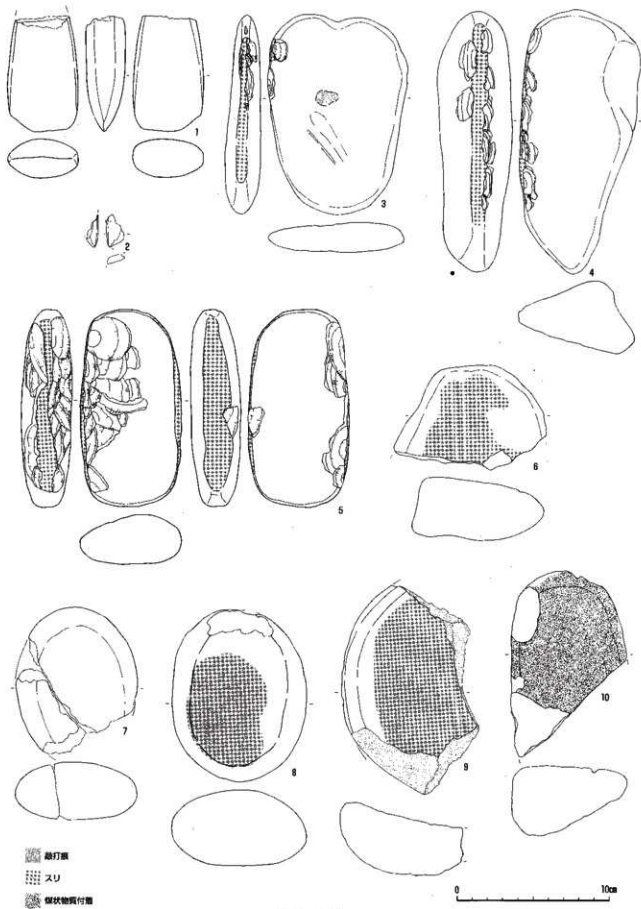


図62 石器-4

第5節 弥生時代の出土遺物

1 土器 (図63)

第1群弥生土器：前期前半の土器 (1)

ほぼ1期弥生土器に相当するものである。変形工字文を施す鉢であると思われる、上位に2条、底部付近に1条の横走沈線が巡る。胎土は極めて精選され、目立った混入物はほとんど観察されない。内外面とも滑沢で、単位は観察できないがミガキが加えられているものと推察される。沈線の幅も非常に均一(3~4mm)である。色調はにぶい黄橙色(10YR7/4)を呈す。型式的には砂沢式に併行するものと考えられる。

第4群弥生土器：後期の土器 (2~4)

胎土に混入する砂粒・調整・整形技法等の面で見ると、3点とも同一個体と思われる。他にも同一個体と考えられる小破片が出土しているが、ここでは状態の良い資料のみ掲載した。器種は特定できないが、広口壺あるいは甕であると思われる。2、3の資料は受口状を呈す口縁部~頸部までの破片であり、若干残存している頸部はやや内傾するものと推定される。口縁部は肥厚し、いわゆる複合口縁である。口唇端部は直角に面取りされ、角張っている。内外面の横位ナデ→面取り→面取りした口唇部のナデがなされているため、口唇部直下の内外面にはわずかなくびれがみられる。口縁外面には3段の刺突列が巡らされており、原体は半截竹管であると判断される。上段の刺突列は斜め上方向から、中段は斜め右方向から、そして下段はほぼ正面から影り取るように加えられている。これらは全て斜め方向から加えられているため、V字状~半長楕円形状を呈す。これらの刺突は、平均して幅3.5mm、長さ4.5~8mmを測る。複合口縁の下端には縦位の刻み目が巡らされ、それは下段の刺突列の刺突間に加えられている。結果的に下段の刺突列と下端の刻み目の列は交互刺突文的に配列されている。4は胴部破片で、沈線と縄文が施されている。恐らくほぼ胴部中央辺りのものと思われる。沈線の断面は半円形で、幅は平均して2~2.5mmを測る。沈線の文様構成は不明であるが退化的な鋸歯文あるいは波状文的なものと思われる。沈線の下位には0段多条のRL縄文が施されている。回転は横位~斜意方向である。施文の単位(幅)は指1本分ほど(1.2~1.5mm)である。成形~整形~施文の順序は、口縁部=内外面の横ナデ→口唇端部の面取り→口唇端部のナデ→刺突列→刻目列、胴部=ナデ→縄文・沈線の工程と観察される。器厚は、複合口縁部で4.5~8.5mm、頸部から胴部で4~6mmを測る。胎土には、全体的に砂粒を含み、所々に小礫も観察される。焼成は堅緻で、暗褐色~黒褐色を呈す。

(木村 高)

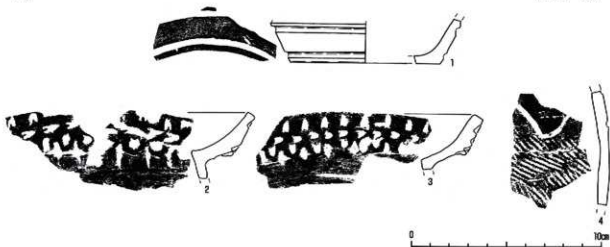


図63 弥生土器

第6節 近世以降の出土遺物 (図64)

陶磁器・砥石・銭貨・煙管が出土した。

1 陶磁器 (1、2、5)

1と5は陶器で、両者とも産地、時期不明である。1の外面には灰釉が施釉されているが、口唇部と外面の下位、そして内面は無釉である。口縁部内面は受口状を呈していることから、小型の土瓶等の蓋物であると思われる。5は内外面に灰釉が施釉されているが、外面の下位と壺付は無釉である。底径の大きさより、鉢であると思われる。2は、外面に染付の施される小型の碗で、時期は肥前系V期と考えられる。壺付は無釉である。 (木村 高)

2 石製品 (6)

6は、一部欠損している砥石で、平面形、断面形ともに長方形を呈す。橙色に白色が混じった硬質の凝灰岩を素材としていて、切り出した際の擦痕が2面にみられる。砥面は3面である。 (木村 高)

3 銅製品 (3、4、7)

3、4は銭貨(寛永通宝)で、7は煙管の吸口である。3、4とも新寛永であり、状態は良い。7の吸口には縦じまがみられる。 (木村 高)

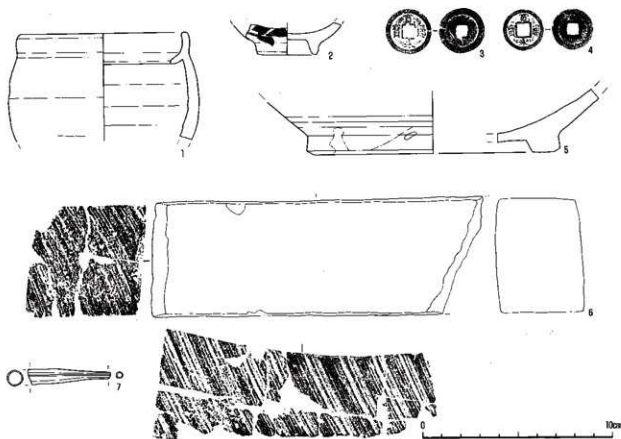


図64 近世以降の出土遺物

第7節 時代不明の遺構

1 溝跡

第2・3・4号溝跡 (SD02・03・04) (図65)

概要 平行する3条の溝跡が一体となって機能したものと考えられるが、調査区域外に伸びているため、全長については不明である。調査区東部の平坦部の端(斜面際)に沿って構築されており、地形と無関係ではないものと言える。

重複 SD02はSK17と重複し、本溝跡の方が新しい。

構造 3条とも北東～南西方向に延びる。02、03、04ともにわずかな広狭はみられるものの、ほぼ均一な幅を保っている。幅・深さは、02→03→04の順に広く、深く構築されており、斜面に近くなるほど大きく掘り込まれている。断面形は、02と03は皿形を呈すが、04は半楕円形～逆台形を呈し、底面の平坦部分が多い。長さ、検出長(直線長)で02が45.4m、03が45.6m、04が46.4mを測る。確認面における幅は02が20～60cm、03が30～60cm、04が80～140cmを測る。深さは02が10～13cm前後、03が15～18cm前後、04が60～63cm前後を測る。

土層 黒褐色を基調とし、ローム粒が混入する。堆積土のラインと混入物の状態よりみて、自然堆積であると思われる。

出土遺物 数点の土師器、須恵器の小破片が出土したのみである。これらのほとんどは自然に混入したものと考えられる。

(木村 高)

2 ビット群

第1号ビット群 (図66)

概要 ほぼ1Hと2Hの間、グリッド0Z～D、148～156ラインの範囲で、第IV層上面に46基のビットを検出した。一部に掘立柱建物跡のような規則的な配列が認められる(線で結んでいるもの)が、建物跡としては認定できない。

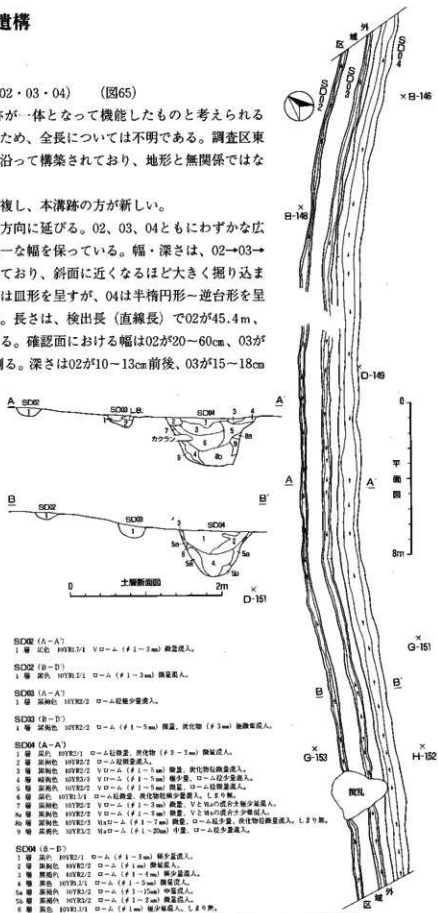


図65 第2・3・4号溝跡

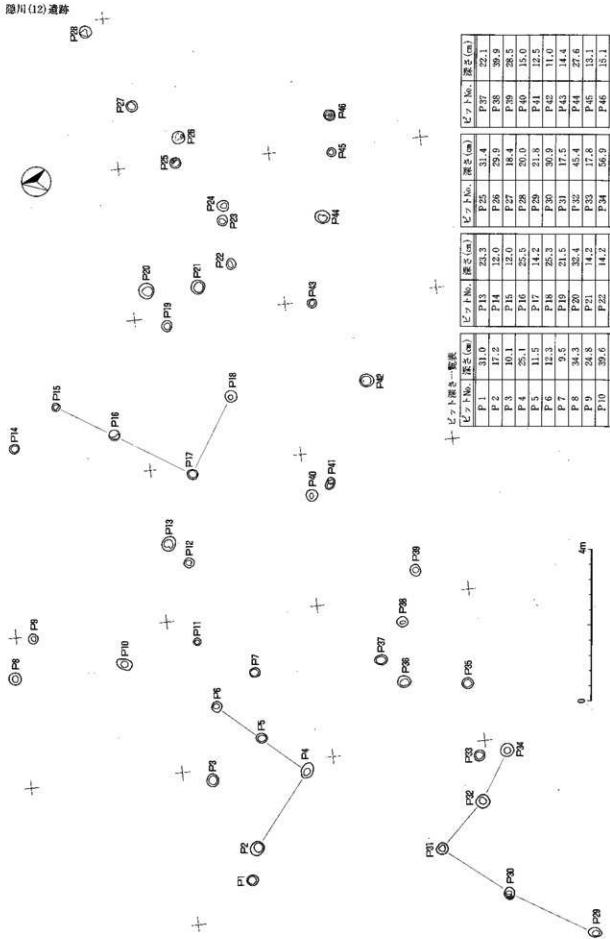


図66 ピット群

出土遺物 出土遺物は、数点の土師器、須恵器の小破片が出土したのみである。これらのほとんどは自然に混入したものと考えられる。

構築時期 構築時期は明確ではないが、ほとんどのピットの覆土は本遺跡における平安期の遺構の堆積土に近いものであったことと、図中に引いた線が掘立柱建物跡の一部であると仮定すれば、軸方向が住居跡と近いものになることから、これらの構築は平安時代である可能性が高いと思われる。

(木村 高)

ニニチュエス土器

図号	原 洞 名	時期	層別	外面調整	内面調整	色調(外側)	特 徴	底	口径	底径	高(約)	容積	出 土 数	出 土 場所
46 01	遺跡外	D-150-9	1-2層	ナテ	ナテ	10R7/灰土中, 突起			38.0	33	34	43	9	91
46 02	遺跡外	D-148-15	1-2層	ナテ	ナテ	5R67/灰土下層, 口縁部皿取り			11.7	5.8	(43)		2	39
46 03	遺跡外	D-150-15	1-2層	ナテ	ナテ	5R67/灰土下層, 口縁部皿取り			8.0	3.9	(43)		3	37
46 04	遺跡外	D-150-10	1-2層	ナテ	ナテ	10R14/灰土, 内面滑			18.7	3.8	3.8		6	36
46 05	遺跡外	D-154-16	1-2層	ナテ	ナテ	10R14/灰土, 内面滑			11.3	(60)	(48)		6	43
46 07	遺跡外	D-160	須賀段	ナテ	ナテ	10R14/灰土, 口縁部皿取り			58.8	(58)	(62)		11	53
46 08	遺跡外	D-148	1-2層	ナテ	ナテ	5R67/灰土			5.8	3.2	(35)		8	37
46 09	遺跡外	D-152-9	1-2層	ナテ	ナテ	10R15/灰土, 口縁部皿取り			13.7	3.3	2.2	木目	5	50
46 10	遺跡外	B-157	1-2層	ナテ	ナテ	10R15/灰土, 口縁部皿取り			2.5	1.9	1.9	木目	10	6
46 11	遺跡外	D-152-2	1-2層	ナテ	ナテ	7.5R17/灰土			2.1	1.8	1.8	木目	3	100
46 12	遺跡外	D-146	1-2層	ナテ	ナテ	10R15/灰土上層			11.8	(55)	(45)		9	62
46 13	遺跡外	D-149	1-2層	不明	不明	7.5R15/灰土, (保正<)			7.9	4.5	(24)		7	47
46 14	遺跡外	D-157-5	1-2層	ナテ	ナテ	7.5R15/灰土, (保正<)			6.2	(37)	(4)		7	47
46 15	遺跡外	D-148	1-2層	ナテ	ナテ	7.5R15/灰土上層			4.6	2.0	(15)		8	58
46 16	遺跡外	D-147	1-2層	ナテ	ナテ	7.5R15/灰土上層			3.5	(20)	(25)		8	58
46 17	遺跡外	D-152-10	1-2層	ナテ	ナテ	5R67/灰土, 口縁部皿取り			3.2	(22)	(21)		7	50
46 18	遺跡外	D-144	1-2層	ナテ	ナテ	5R67/灰土, 口縁部皿取り			3.7	(27)	(19)		7	59
46 19	遺跡外	S10	1-2層	ナテ	ナテ	5R67/灰土上層, 口縁部皿取り			2.1	(26)	(18)		4	67
46 20	遺跡外	D-152-8	1-2層	ナテ	ナテ	5R67/灰土上層, 口縁部皿取り			1.8	(20)	(13)		9	48
46 21	遺跡外	D-152-8	1-2層	ナテ	ナテ	5R67/灰土上層, 口縁部皿取り			2.1	(23)	(20)		9	41
46 22	遺跡外	D-147-11	1-2層	ナテ	ナテ	10R14/灰土			4.8	(37)	(33)		2	46
46 23	遺跡外	D-150-6	1-2層	ナテ	ナテ	10R14/灰土			4.8	(37)	(33)		2	46
46 24	遺跡外	D-147-12	1-2層	ナテ	ナテ	10R14/灰土			4.8	(37)	(33)		2	46
46 25	遺跡外	D-148-13	1-2層	ナテ	ナテ	10R14/灰土下層			6.3	(31)	(44)		6	46
46 26	遺跡外	D-160-2	1-2層	不明	不明	10R14/灰土上層, 突起			17.2	(48)	(22)		10	52
46 27	遺跡外	S004	1-2層	ナテ	ナテ	10R14/灰土上層, 突起			6.3	(31)	(30)		9	54
46 28	遺跡外	D-147-3	1-2層	ナテ	ナテ	10R14/灰土上層			3.8	(28)	(21)		10	39
46 29	遺跡外	D-160-16	1-2層	ナテ	ナテ	5R67/灰土上層			9.1	(28)	(37)		11	44

扇川(12)遺跡

土 製 品

図-26	種別	分類	出土位置	出土位置	層位	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	特 徴	備 考
41-2	丸 土	1Aa1	遺構外側	E-115-7	第1層	10.1	11.0	3.0	1.3	内面ミガキ。	
41-3	丸 土	1Aa1	遺構外側	E-150-9	第1層	10.5	11.5	3.0	1.5	内面ミガキ。	
41-4	丸 土	1Aa3	遺構外側	F-151-9	第1層	9.5	9.5	2.0	0.5		
41-5	丸 土	1Aa3	S K 2 0 F	F-153-7	第1層	10.5	10.0	10.0	1.0	平面不整。	
41-6	丸 土	1Aa7	2 H F	F-153-7	第1層	10.1	12.0	3.0	1.0	底面ぶらつく。一部欠損。	
41-7	丸 土	1Aa1	2 H F	F-153-10	第1層	14.5	13.0	11.5	2.1	縁部作内面状。	
41-8	丸 土	1Aa1	2 H F	F-153	第1層	9.0	9.4	8.2	0.7	内面ミガキ。内面磨削付。	
41-9	丸 土	1Aa3	S H 1	F-160-3	第1層	10.0	10.7	10.0	0.3	底面磨削付。2分の1以上欠損。	
41-10	丸 土	1Aa3	S K 2 0 F	F-153-10	第1層	9.0	5.7	3.0	0.4	底面磨削付。孔は大きい。	
41-10	丸 土	1Aa7	2 H F	F-152-5	第1層	10.0	10.0	3.0	0.9		
41-11	丸 土	1Aa3	2 H F	F-153-16	第1層	9.0	9.5	7.0	0.7		
41-12	丸 土	1Aa1	2 H F	F-153-9	第1層	9.5	9.0	10.0	0.3	穿孔部の粘土のめくれを押しつぶしている。	
41-13	丸 土	1Aa1	2 H F	F-153-9	第1層	7.5	7.0	7.2	0.4	内面ミガキ。	
41-14	丸 土	1Aa1	2 H F	F-153-9	第1層	7.0	4.5	7.0	0.4	底面磨削付。しわ多し。	
41-15	丸 土	1Aa3	1001 C 3 0 F	F-168-1	底層部	8.0	5.0	8.1	0.8	底面磨削付。	
41-16	丸 土	1Aa7	遺構外側	A-148	第1層	20.0	21.5	12.1	5.1	底面磨削付。	
41-17	丸 土	1B 0 A	2 H F	F-152-4	第1層	25.5	18.5	12.0	5.0	外面尖突ミガキ。内面磨削付。凹凸。	
41-18	丸 土	1B 0 A	2 H F	F-152-7	第1層	23.0	18.5	13.0	2.1	外面尖突ミガキ。内面磨削付。凹凸。	
41-19	丸 土	1B 0 A	2 H F	F-152-7	第1層	18.0	12.0	15.0	4.3	口部に欠け。かすかにしわあり。	
41-20	碁石状丸土	遺構外側	A-149-14	第1層	25.0	25.0	17.1	9.8	外面鋭いミガキ。縁部磨削付。石炭粒付入。		
41-21	碁石状丸土	遺構外側	A-148	第1層	23.0	24.0	12.0	8.4	外面鋭いミガキ。縁部磨削付。石炭粒付入。指紋あり。		
41-22	碁石状丸土	遺構外側	B-140-11	第1層	19.0	19.0	7.0	2.3	底面磨削付。石炭粒付入。指紋あり。		
41-23	碁石状丸土	2 H F	F-152-6	第1層	18.0	12.0	11.0	3.0	縁部磨削付。石炭粒付入。指紋あり。		
41-24	丸 土	遺構外側	F-147-3	第1層	21.0	21.0	8.0	7.0	口内に尖突ミガキ。縁部磨削付。凹凸あり。体形内面欠損。		
41-25	丸 土	遺構外側	F-147-3	第1層	16.0	15.0	11.0	9.1	表面不整。縁部磨削付。めくれあり。爪痕あり。		
41-26	丸 土	遺構外側	F-147-1	第1層	18.0	14.0	12.5	7.9	口内尖突ミガキ。		
41-27	丸 土	2 H F	F-152-2	第1層	17.0	13.0	12.0	2.5	底面凹溝。ナデあり。		
41-28	丸 土	2 H F	F-152-9	第1層	10.0	10.0	3.0	3.0	縁部は口時のヒビ多し。体磨削付。		
41-29	丸 土	遺構外側	F-149	第1層	10.2	13.0	12.5	0.9	口内欠け。ミガキあり。粘土のしわ多し。		
41-30	丸 土	遺構外側	F-149	第1層	15.0	11.5	12.0	1.5	外面ミガキ。10分の1程度ひびく。		
41-31	碁石状丸土	2 H F	F-152-3	第1層	31.0	30.0	20.0	21.6	外面ミガキ。底面磨削付。爪痕あり。指紋あり。		
41-32	碁石状丸土	遺構外側	F-148-8	第1層	37.0	39.0	30.0	14.3	口内尖突。平削ミガキなし。平削縁上部のしわ多し。		
41-33	碁石状丸土	遺構外側	F-153-2	第1層	15.0	10.5	10.0	1.0	穿孔部ミガキなし。平削縁上部磨削付。		

土師質特殊遺物

図-26	種別	分類	出土位置	出土位置	層位	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	特 徴	備 考
41-1	焼 土	4 H	C-159-11	灰 土	10.0	47.0	12.5	15.4		片高線物性線断面。赤色の土層より。	
41-2	粘土板状	遺構外側	F-148-7	B-7 中	28.0	11.5	7.0	1.7		粘土板とヒビあり。底面の粘土付着。	
41-3	粘土板状	2 H F	F-152-4	第1層	32.5	8.0	7.0	1.2		粘土時のヒビあり。	
41-4	粘土板状	2 H F	F-152-10	第1層	26.0	17.5	9.0	2.0		底面凹溝あり。	
41-5	粘土板状	遺構外側	F-151	第1層	26.5	14.5	10.2	2.1		粘土時のヒビ多し。縁部性線断面あり。	
41-6	粘土板状	S K 2 0 F	F-153-10	第1層	47.0	13.5	10.0	5.7		折戻りつきあり。	
41-7	粘土板状	遺構外側	F-147	B-7 中	14.0	10.0	6.5	0.7		粘土時のヒビあり。	
41-8	粘土板状	遺構外側	F-151	第1層	18.0	13.0	8.0	2.3		表面凹溝の付着。裏面凹溝あり。	
41-9	丸 土	2 H F	F-152-10	第1層	13.0	14.0	5.2	1.6		折戻りつきによるしわあり。	
41-10	丸 土	2 H F	F-152-10	第1層	17.0	11.0	8.0	2.1		口内に凹溝あり。	
41-11	丸 土	遺構外側	F-148-13	B-7 中	15.0	10.0	11.5	2.4		粘土時のしわ多し。	
41-12	丸 土	2 H F	F-152-11	第1層	15.0	17.5	11.0	2.8		縁部ツブシ。	
41-13	小 壺	遺構外側	B-123	第1層	25.0	18.5	14.0	4.8		底面は貫通孔。指紋あり。孔のまわり粘土めくれ。	
41-14	丸 土	遺構外側	C-145	B-Ta 中	13.0	10.0	8.0	2.5		粘土時のしわ付に多し。縁部は凸凹。	
41-15	丸 土	遺構外側	A-147	第1層	34.0	12.0	7.0	7.1		口内凹溝付。底面性線断面。	
41-16	丸 土	4 H F	F-159-3	灰 土	19.5	31.0	15.0	4.5		表面凹溝にふりやう。縁部のめくれ。	
41-17	丸 土	遺構外側	F-148	第1層	25.0	20.0	7.0	2.5		表面平削。底面ツブシ。粘土時のツブシによるしわ多し。	
41-18	丸 土	遺構外側	F-148-12	第1層	15.0	24.5	7.4	4.1		粘土時のしわ・ヒビ多し。縁部性線断面。	
41-19	丸 土	遺構外側	F-148	第1層	15.0	11.5	6.5	1.1		縁部性線断面。粘土時のツブシとヒビ。	
41-20	丸 土	遺構外側	C-151	第1層	19.0	14.2	8.5	2.0		縁部(帯)凹溝。口内磨削付。指紋あり。	
41-21	丸 土	2 H F	F-152-9	第1層	28.0	20.0	8.0	2.0		底面凹溝に平削。底面凹溝あり。	
41-22	丸 土	S K 2 0 F		第1層	25.0	21.0	8.0	1.5		深くのぼれた粘土帯を一定角削げ。	
41-23	丸 土	遺構外側	C-155	第1層	25.0	17.5	6.0	2.0		深くのぼれた粘土帯。指紋あり。	
41-24	丸 土	S K 2 0 F	F-153-1	第1層	15.0	16.5	3.0	0.7		表面異常に平削。縁部性線断面。	
41-25	丸 土	S D X 0 1 C	F-153-1	第1層	15.0	13.5	6.0	1.0		表面やや平削。底面性線断面。	
41-26	小 壺	遺構外側	B-150	第1層	21.5	20.0	12.0	2.2		底面凹溝あり。	
41-27	小 壺	遺構外側	A-147	第1層	21.0	18.0	11.0	3.1		粘土時のしわ多し。底面性線断面あり。	
41-28	小 壺	2 H F	F-159-2	灰 土	41.0	10.0	14.0	3.2		底面凹溝に穴あり。粘土時のヒビあり。	
41-29	小 壺	4 H F	F-159-1	灰 土	19.0	16.0	8.0	2.1		軟質の成形。	
41-30	小 壺	S K 2 0 F		第1層	24.0	21.5	13.0	3.8		表面やや平削。底面性線断面。	
41-31	小 壺	S K 2 0 F		第1層	13.0	10.5	6.0	0.7			
41-32	小 壺	遺構外側	C-124	第1層	19.0	12.0	8.0	1.9		底面粘土時のヒビ。	
41-33	丸 土	2 H F	F-152-14	第1層	24.0	22.0	12.0	4.1		底面性線断面あり。表面粘土時のしわ。	
41-34	丸 土	遺構外側	C-147	B-7 中	21.0	33.0	13.5	7.2		底面粘土時のしわ・ヒビ多し。2つの粘土接着。折戻りあり。	
41-35	小 壺	遺構外側	C-120	B-Ta 中	35.0	19.0	19.0	10.1		底面粘土時のヒビ多し。爪痕3箇所。	
41-36	小 壺	2 H F	F-152-15	第1層	21.5	19.0	12.0	6.2		底面凹溝あり。粘土時のしわ多量。	図-分 11 0

粘 土 塊

図-26	種別	分類	出土位置	出土位置	層位	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	特 徴	備 考
10-1	-	2	2 H	F-151-13	灰 土	149.5	86.0	42.5	331.9	灰れ目に植物性の繊維。赤色小壺や丸土。全体の灰に。	図-分 11 1
10-2	-	1	S K 2 0 F	F-153-2	灰 土	21.0	16.0	18.0	41.1	縁部の平削。石炭粒多量付入。底面凹溝が形成していない。	図-分 11 2

焼成粘土塊

図-26	種別	分類	出土位置	出土位置	層位	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	特 徴	備 考
31-1	-	1	S K 1 0 F	F-160-4	第1層	43.0	32.0	16.0	10.9	表面丸み。ケズリ付。内面植物性繊維断面。底面磨削付。	
31-2	-	1	遺構外側	F-125	第1層	51.5	55.0	21.0	58.8	黒褐色。表面凹溝。全面底面丸み。底面ツブシ。	
31-3	-	1	遺構外側	C-148	B-7 中	53.5	54.0	18.0	32.8	底面植物性繊維断面。内面平削。表面粗一底面凹溝の付着。	
31-4	-	1	S K 1 0 F	F-159-9	第1層	58.0	42.0	37.5	23.1	表面平削。底面性線断面。	
31-5	-	2	4 H S D 0 1 C	F-159-2	灰 土	27.0	16.0	17.5	3.1	底面性線断面あり。	
31-6	-	2	4 H S D 0 1 C	F-159-2	灰 土	109.0	82.0	43.5	265.2	底面ツブシ。表面粗。底面植物性繊維断面。全体の灰に。	図-分 11 3
31-7	-	2	2 H F	F-152-1	灰 土	89.0	75.0	43.0	208.1	底面植物性繊維断面。底面平削。表面凹溝あり。やや軟質。	図-分 11 4

須恵器窯壁片

図-36	種別	分類	出土位置	出土位置	層位	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	特 徴	備 考	
32-1	1	2	S	K 0.9	Ⅱ	112.5	89.5	5.8	331.2	表面磨光、表面磨光で化粧。		
32-2	1	2	S	K 0.9	Ⅱ	125.0	151.5	8.2	841.5	表面磨光、面化粧で化粧。	絵分13.9	
32-3	1	2	H	H-159-7	Ⅱ	167.0	126.0	65.5	903.6	表面磨光、表面磨光で化粧。		
32-4	1	2	H	H-152-3	Ⅱ	116.0	182.0	47.8	347.3	表面磨光、表面磨光で化粧。		
32-5	1	2	A	H-160-13	Ⅱ	89.0	129.0	7.0	422.3	表面磨光、表面磨光で化粧、表面化粧あり。		
32-6	1	2	A	H-162-14	Ⅱ	81.0	105.0	14.0	331.5	表面磨光、表面磨光で化粧、表面化粧あり。		
32-7	1	2	H	H-159-7	Ⅱ	163.0	154.0	23.1	124.1	表面磨光、表面磨光で化粧。	絵分13.5	
32-8	1	1	S	K 0.9	Ⅱ	113.3	153.3	63.0	508.7	表面磨光、表面磨光で化粧。		
32-9	1	1	B	H-160-13	Ⅱ	116.0	165.0	65.5	783.8	表面磨光、表面磨光で化粧、表面2次。	絵分14.3	
32-10	1	1	A	S K 0.8 F-159-11	Ⅱ	102.0	134.0	38.5	524.2	表面磨光、表面磨光で化粧、表面化粧あり、表面磨光で化粧。		
32-11	1	2	H	H-159-7	Ⅱ	193.0	174.0	14.5	222.9	表面磨光、表面磨光で化粧、表面の部に磨光で化粧。	絵分14.7	
32-12	1	2	B	H-162-11	Ⅱ	159.0	178.5	35.0	206.6	表面磨光、表面磨光で化粧。	絵分15.1	
32-13	1	1	H	H-152-7	Ⅱ	179.0	181.9	22.1	315.3	表面磨光、表面磨光で化粧、表面磨光で化粧。		
32-14	1	1	A	表面磨光	E-147-16	Ⅱ	112.0	115.0	110.0	139.8	表面磨光、表面磨光で化粧。	絵分15.9
32-15	1	1	A	S K 0.8 F-159-11	Ⅱ	201.0	136.0	84.0	821.2	表面磨光、表面磨光で化粧、表面化粧あり、表面磨光で化粧。	絵分16.1	

石製品・礫

図-37	種別	分類	出土位置	出土位置	層位	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	特 徴	備 考
34-1	1	1	S	K 0.9 F-159-11	Ⅱ	46.0	61.0	14.0	31.3	刃は打痕。	製成別
34-2	1	1	S	K 0.8	Ⅱ	44.0	67.0	30.0	117.0	表面磨光、表面一部磨光がある。	製成別
34-3	1	1	S	K 0.8 F-159-11	Ⅱ	60.5	28.0	42.0	127.3	表面磨光、表面一部磨光がある。	製成別
34-4	1	1	H	H-160-4	Ⅱ	60.0	91.0	38.0	136.4	表面磨光、表面一部磨光がある。	製成別
34-5	1	1	H	H-162-11	Ⅱ	132.0	132.0	28.0	271.2	表面磨光、表面の一部に磨光で化粧。	製成別
34-6	1	1	H	H-160-14	Ⅱ	71.0	109.5	37.2	248.5	表面磨光、表面磨光で化粧。	製成別
34-7	1	1	S	K 0.8	Ⅱ	106.0	84.0	20.5	154.8	表面磨光、表面磨光で化粧。	製成別
34-8	1	1	H	H-160-13	Ⅱ	244.0	187.0	85.0	2000.0	表面磨光、表面磨光で化粧。	製成別
34-9	1	1	A	211号	Ⅱ	202.0	222.0	73.0	359.0	表面磨光、表面磨光で化粧、表面磨光で化粧。	絵分17.5
34-10	1	1	A	H-162-7	Ⅱ	218.0	174.0	51.0	835.2	表面磨光、表面磨光で化粧、表面磨光で化粧。	絵分17.9
34-11	1	1	S	K 0.8	Ⅱ	46.0	61.0	14.0	31.3	表面磨光、表面磨光で化粧、表面磨光で化粧。	絵分18.1

鉄 製 品

図-38	種別	分類	出土位置	出土位置	層位	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	特 徴	備 考
35-1	1	1	H	H-160-12	Ⅱ	27.0	48.0	11.0	11.3	表面磨光。	未処理
35-2	1	1	H	H-160-5	Ⅱ	40.5	59.8	6.0	8.5	表面磨光、表面磨光。	未処理
35-3	1	1	H	H-160-5	Ⅱ	23.0	18.0	3.0	1.3	表面磨光。	未処理
35-4	1	1	H	H-160-5	Ⅱ	16.0	8.0	1.0	0.3	表面磨光。	未処理
35-5	1	1	H	H-160-5	Ⅱ	18.0	15.0	3.0	2.1	表面磨光。	未処理

縄文土器

図-39	種別	出土位置	出土位置	分類	形状	層位	地文	説明	その他の特徴
38-01	4H	A-159	Ⅱ	深鉢	胴部	---	---	---	表面磨光、コンクリート、表面一部磨光
38-02	4H	A-159	Ⅱ	深鉢	胴部	---	---	---	表面磨光、表面一部磨光
38-03	4H	H-160	Ⅱ	深鉢	口縁	---	---	---	表面磨光、表面一部磨光
38-04	SK08	---	Ⅱ	深鉢	口縁	---	---	---	表面磨光、表面一部磨光
38-05	深鉢外	A-171	Ⅱ	深鉢	口縁	---	---	---	表面磨光、表面一部磨光
38-06	深鉢外	B-147	Ⅱ	深鉢	口縁	---	---	---	表面磨光、表面一部磨光
38-07	深鉢外	B-160	Ⅱ	深鉢	口縁	---	---	---	表面磨光、表面一部磨光
38-08	深鉢外	B-160	Ⅱ	深鉢	口縁	---	---	---	表面磨光、表面一部磨光
38-09	深鉢外	B-160	Ⅱ	深鉢	口縁	---	---	---	表面磨光、表面一部磨光
38-10	深鉢外	B-160	Ⅱ	深鉢	口縁	---	---	---	表面磨光、表面一部磨光
38-11	4H	H-160	Ⅱ	深鉢	底面	多顆粒茶色	---	---	表面磨光、表面一部磨光
38-12	深鉢外	D-155	Ⅲ	深鉢	口縁	---	---	---	表面磨光、表面一部磨光
38-13	深鉢外	G-159	Ⅲ	深鉢	口縁	---	---	---	表面磨光、表面一部磨光
38-14	深鉢外	H-150	Ⅳ	深鉢	口縁	---	---	---	表面磨光、表面一部磨光
38-15	SK11	---	Ⅳ	深鉢	胴部	KL	---	---	表面磨光、表面一部磨光
38-16	SK08	---	Ⅳ	深鉢	胴部	---	---	---	表面磨光、表面一部磨光
38-17	SK08	---	Ⅳ	深鉢	胴部	---	---	---	表面磨光、表面一部磨光
38-18	深鉢外	J-127	Ⅳ	深鉢	口縁	---	---	---	表面磨光、表面一部磨光
38-19	SK08	---	Ⅳ	深鉢	胴部	不明	---	---	表面磨光、表面一部磨光
38-20	深鉢外	0C-160	V	深鉢	口縁	LR	---	---	表面磨光、表面一部磨光
38-21	深鉢外	H-160	V	深鉢	口縁	LR	---	---	表面磨光、表面一部磨光
38-22	深鉢外	A-156	V	深鉢	口縁	LR	---	---	表面磨光、表面一部磨光
38-23	深鉢外	0-168	V	深鉢	口縁	不明	---	---	表面磨光、表面一部磨光
38-24	深鉢外	1-153	V	深鉢	口縁	LR	---	---	表面磨光、表面一部磨光
38-25	深鉢外	SK09	F-154	V	深鉢	口縁	LR	---	表面磨光、表面一部磨光
38-26	深鉢外	0C-161	V	深鉢	口縁	---	---	---	表面磨光、表面一部磨光
38-27	深鉢外	1-152	VI	不明	底面	---	---	---	表面磨光、表面一部磨光
38-28	SK05	---	V	深鉢	胴部	茶色	---	---	表面磨光、表面一部磨光
38-29	SK11	---	V	深鉢	口縁	茶色	---	---	表面磨光、表面一部磨光
38-30	SK11	---	V	深鉢	口縁	茶色	---	---	表面磨光、表面一部磨光
38-31	SK11	---	V	深鉢	口縁	茶色	---	---	表面磨光、表面一部磨光
38-32	SK11	---	V	深鉢	口縁	茶色	---	---	表面磨光、表面一部磨光
38-33	4H	G-160	Ⅲ	深鉢	胴部	LR	---	---	表面磨光、表面一部磨光
38-34	深鉢外	A-140	Ⅲ	深鉢	口縁	---	---	---	表面磨光、表面一部磨光
38-35	深鉢外	1-151	Ⅲ	深鉢	口縁	---	---	---	表面磨光、表面一部磨光
38-36	SK22	---	Ⅲ	深鉢	口縁	LR	---	---	表面磨光、表面一部磨光

土製品(縄文)

図-40	種別	分類	出土位置	出土位置	層位	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	特 徴	備 考
39-11	1	1	H	H-159-7	Ⅱ	19.5	12.0	10.0	3.3	4個並列して化粧、4個並列して化粧。	

石器・礫 (縄文)

図No.	種別	分類	出土位置1	出土位置2	層位	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	特徴	備考
55-1	石 槌	1A	遺構外 C-188		第1層	31.0	15.0	3.3	1.3	—	縄文貝類
55-2	石 槌	1A	遺構外 C-188		第1層	31.0	15.0	3.3	1.3	—	縄文貝類
55-3	石 槌	1A	遺構外 A-157		第1層	39.3	14.3	3.3	2.1	表面基部被熱によるほじけ。	縄文貝類
55-4	石 槌	1A	遺構外 B-137		第1層	32.0	16.0	4.0	1.8	先端欠損。	縄文貝類
55-5	石 槌	1B	4 H	C-160-15	床 面	35.0	15.0	3.3	1.7	—	縄文貝類
55-6	石 槌	1B	遺構外 B-135		第1層	33.0	16.0	3.0	0.5	表面被熱によるほじけ。	縄文貝類
55-7	石 槌	1C	遺構外 C-148-4		第1層	35.5	16.0	3.7	1.7	表面の主要割線跡は垂直向。	縄文貝類
55-8	石 槌	1C	遺構外 B-149-15		第1層	39.0	12.0	3.3	0.8	—	縄文貝類
55-9	石 槌	1C	遺構外 B-141		第1層	36.0	15.0	4.3	1.6	表面被熱によるほじけ。	縄文貝類
55-10	石 槌	1C	遺構外 B-134-7		第1層	34.5	13.0	4.3	2.3	先端欠損。基部被熱。	縄文貝類
55-11	石 槌	1C	遺構外 B-151-0		第1層	36.5	14.0	4.0	2.0	先端と基部欠損。	縄文貝類
55-12	石 槌	1C	遺構外 C-144-16		第1層	47.0	17.0	4.3	3.3	左側や中間部状の刃。右側緩やかな凹加。割線の可能性も大。	縄文貝類
55-13	石 槌	1D	遺構外 B-150		第1層	39.5	17.0	3.3	0.9	1層欠損。基部被熱によるほじけ。	縄文貝類
55-14	石 槌	1E	遺構外 B-145-8		第1層	32.0	12.0	4.0	1.7	基部欠損。	縄文貝類
55-15	石 槌	1E	遺構外 B-162		第1層	31.0	14.0	3.0	1.5	被熱による欠損。	縄文貝類
55-16	石 槌	1E	遺構外 B-157-4		第1層	27.0	16.0	3.0	1.2	—	縄文貝類
55-17	石 槌	1E	遺構外 C-167		第1層	28.0	11.0	4.0	1.3	表面中央の高い部分がバルブ。縦長割線付。先端と基部欠損。	縄文貝類
55-18	石 槌	1E	遺構外 B-141-12		第1層	32.0	19.0	3.3	1.0	先端欠損。表面被熱によるほじけ。	縄文貝類
55-19	石 槌	1	遺構外 B-143		第1層	24.5	11.0	3.3	1.1	先端と基部欠損。	縄文貝類
55-20	石 槌	1	遺構外 F-143-11		第1層	29.0	15.0	3.3	1.6	基部欠損。上下不明。	縄文貝類
55-21	石 槌	1	遺構外 B-159		第1層	31.5	15.0	4.0	1.9	基部欠損。上下不明。	縄文貝類
55-22	石 槌	1	3 H	B-158-11	層 土	21.0	15.5	4.0	1.8	先端？基部？欠損。上下不明。	縄文貝類
60-1 2P4A-C	2A2	遺構外 B-160-12		第1層	46.0	22.0	8.0	12.1	尖頭部。つまみ部はバルブ。表面左側部ポリッシュ。	縄文貝類	
60-2 2P4A-C	2A2	遺構外 C-141-11		第1層	39.0	35.5	7.5	16.5	つまみ部バルブあり。右側縁使用による微細割線。左側縁方面。	縄文貝類	
60-3 2P4A-C	2A2	遺構外 C-160-0		層 土	35.0	33.0	9.0	24.8	両面と両端面右側縁使用による微細割線。右側縁方面。	縄文貝類	
60-4 2P4A-C	2A2	遺構外 C-138		第1層	53.5	39.0	9.0	17.5	下部欠損。両面左側縁使用による微細割線。	縄文貝類	
60-5 2P4A-C	2A2	遺構外 C-142-7		第1層	54.0	32.0	5.0	12.3	表面左側縁使用による微細割線。左側縁方面。	縄文貝類	
60-6 2P4A-C	2B	遺構外 C-150		第1層	39.0	32.5	5.0	8.9	上部欠損。表面左側縁。表面左側縁調整面。	縄文貝類	
60-7 2P4A-C	2B	遺構外 B-161		第1層	73.5	57.0	12.0	55.8	表面下部及び右側縁の 部に調整面跡。	縄文貝類	
60-8 2P4A-C	2A-C	遺構外 B-148-14		第1層	42.0	43.0	11.0	61.1	表面下部ポリッシュ。	縄文貝類	
60-9 2P4A-C	2A-C	遺構外 B-157-1		第1層	40.0	43.0	8.0	43.4	表面下部ポリッシュ。	縄文貝類	
60-10 2P4A-C	2A-C	遺構外 F-155		第1層	51.5	36.0	11.0	28.3	表面上部調整面あり。	縄文貝類	
60-11 2P4A-C	2A-C	遺構外 B-150-4		第1層	64.0	43.0	14.0	32.2	表面被熱によるほじけ。表面下部ポリッシュ。	縄文貝類	
60-12 2P4A-C	2A-C	遺構外 F-153		第1層	52.0	43.5	16.0	41.2	表面下部ポリッシュ。上端は被熱面。	縄文貝類	
60-13 2P4A-C	2A-C	遺構外 B-148		第1層	46.2	35.0	10.0	21.3	先端欠損。	縄文貝類	
60-14 2P4A-C	2A-C	遺構外 C-151		第1層	36.0	22.0	5.0	11.1	先端欠損。	縄文貝類	
61-1 2P4A-C	2B	S-K 4-11		7層 土	44.0	40.0	16.5	82.8	両面右側縁・両面左側縁調整面。	縄文貝類	
61-2 2P4A-C	2B	遺構外 B-157		第1層	42.5	37.0	13.0	24.5	下部左側縁部欠損。	縄文貝類	
61-3 2P4A-C	2D	遺構外 B-134		第1層	44.0	30.0	9.0	16.1	表面右側縁使用による微細割線あり上部欠損。	縄文貝類	
61-4 2P4A-C	2D	4 H S D H C-138		層 土	39.0	25.0	8.0	8.3	表面右側縁調整面。	縄文貝類	
61-5 2P4A-C	2D	遺構外 E-122		第1層	19.5	45.5	14.0	9.9	右側縁部尖角。	縄文貝類	
61-6 2P4A-C	2D	遺構外 F-143		第1層	41.0	25.0	9.0	12.8	表面右側縁調整面尖角あり。	縄文貝類	
61-7 2P4A-C	2D	4 H C-150-2		層 土	43.0	38.5	8.0	18.1	表面右側縁調整面尖角あり。	縄文貝類	
61-8 2P4A-C	2D	遺構外 C-145		第1層	42.0	41.0	13.5	20.3	表面右側縁の後端2割欠。	縄文貝類	
61-9 2P4A-C	2C	遺構外 C-143		第1層	30.5	32.0	9.0	9.3	表面右側縁調整面。	縄文貝類	
61-10 2P4A-C	2C	遺構外 C-144		B-7m 中	47.0	39.0	6.0	12.8	表面右側縁使用による微細割線。表面右側縁の約4分の3欠損。	縄文貝類	
61-11 2P4A-C	2C	遺構外 C-148		第1層	47.0	30.0	23.0	74.9	両側調整面跡による凹部付着。表面被熱。調整面あり。割線。	縄文貝類	
62-1 調整面跡4	遺構外 B-160-0		第1層	72.0	47.0	26.0	149.0	表面被熱。	山 出 石		
62-2 調整面跡4	遺構外 B-154-12		第1層	21.5	12.0	3.0	2.0	—	山 出 石		
62-3 磨石16	S H E-153-5		層 土	123.0	93.0	97.5	310.2	表面黒色物質付着。表面の 一部磨滅。	磨 石		
62-4 磨石16	S H		床 面	172.5	77.5	48.0	303.0	—	山 出 石		
62-5 磨石16	遺構外 B-147		B-7a上層	136.0	67.0	33.0	481.2	扇形磨滅部。表面黒色物質付着に磨滅。	磨 石		
62-6 磨石16	遺構外 B-151		第1層	69.0	60.5	40.0	394.2	磨滅部分の磨滅。上端は平たく磨滅されている。	磨 石		
62-7 磨石16	古刀工型 B-157-3		層 土	90.3	39.0	15.0	334.1	表面黒色物質付着。表面被熱。調整面による黒化等しい。	磨 石		
62-8 磨石16	遺構外 F-159		第1層	113.0	39.0	30.0	242.5	上端の欠損は磨滅のもの。	磨 石		
62-9 石 槌	1	遺構外 E-147-0		B-7a上層	137.0	69.0	48.0	531.0	中心部は尖角の磨滅。	山 出 石	
62-10 調整面跡1	遺構外 E-143		第1層	117.0	67.0	46.0	341.1	表面黒色物質付着。	磨 石		

石製品 (縄文)

図No.	種別	分類	出土位置1	出土位置2	層位	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	特徴	備考
63-12	—	—	4 H	C-160	床 面	62.0	70.0	18.0	139.0	調整面つなげ。	調整面跡4

弥生土器

図No.	時期	分類	出土位置1	出土位置2	層位	種別	用途	加工	特徴	備考	
63-1	前期弥生	1	遺構外 A-154		第1層	底 底 底	底	底	底	底	底
63-2	後 期	4	S-K 11	B-158	層 土	丸 底 鉢 形	—	天 下 山 出 石	調整面跡(10132/71)・調整面跡(10135/3)・調整面跡(10136/2)・調整面跡(10137/1)・調整面跡(10138/2)・調整面跡(10139/1)・調整面跡(10140/1)・調整面跡(10141/1)・調整面跡(10142/1)・調整面跡(10143/1)・調整面跡(10144/1)・調整面跡(10145/1)・調整面跡(10146/1)・調整面跡(10147/1)・調整面跡(10148/1)・調整面跡(10149/1)・調整面跡(10150/1)・調整面跡(10151/1)・調整面跡(10152/1)・調整面跡(10153/1)・調整面跡(10154/1)・調整面跡(10155/1)・調整面跡(10156/1)・調整面跡(10157/1)・調整面跡(10158/1)・調整面跡(10159/1)・調整面跡(10160/1)・調整面跡(10161/1)・調整面跡(10162/1)・調整面跡(10163/1)・調整面跡(10164/1)・調整面跡(10165/1)・調整面跡(10166/1)・調整面跡(10167/1)・調整面跡(10168/1)・調整面跡(10169/1)・調整面跡(10170/1)・調整面跡(10171/1)・調整面跡(10172/1)・調整面跡(10173/1)・調整面跡(10174/1)・調整面跡(10175/1)・調整面跡(10176/1)・調整面跡(10177/1)・調整面跡(10178/1)・調整面跡(10179/1)・調整面跡(10180/1)・調整面跡(10181/1)・調整面跡(10182/1)・調整面跡(10183/1)・調整面跡(10184/1)・調整面跡(10185/1)・調整面跡(10186/1)・調整面跡(10187/1)・調整面跡(10188/1)・調整面跡(10189/1)・調整面跡(10190/1)・調整面跡(10191/1)・調整面跡(10192/1)・調整面跡(10193/1)・調整面跡(10194/1)・調整面跡(10195/1)・調整面跡(10196/1)・調整面跡(10197/1)・調整面跡(10198/1)・調整面跡(10199/1)・調整面跡(10200/1)・調整面跡(10201/1)・調整面跡(10202/1)・調整面跡(10203/1)・調整面跡(10204/1)・調整面跡(10205/1)・調整面跡(10206/1)・調整面跡(10207/1)・調整面跡(10208/1)・調整面跡(10209/1)・調整面跡(10210/1)・調整面跡(10211/1)・調整面跡(10212/1)・調整面跡(10213/1)・調整面跡(10214/1)・調整面跡(10215/1)・調整面跡(10216/1)・調整面跡(10217/1)・調整面跡(10218/1)・調整面跡(10219/1)・調整面跡(10220/1)・調整面跡(10221/1)・調整面跡(10222/1)・調整面跡(10223/1)・調整面跡(10224/1)・調整面跡(10225/1)・調整面跡(10226/1)・調整面跡(10227/1)・調整面跡(10228/1)・調整面跡(10229/1)・調整面跡(10230/1)・調整面跡(10231/1)・調整面跡(10232/1)・調整面跡(10233/1)・調整面跡(10234/1)・調整面跡(10235/1)・調整面跡(10236/1)・調整面跡(10237/1)・調整面跡(10238/1)・調整面跡(10239/1)・調整面跡(10240/1)・調整面跡(10241/1)・調整面跡(10242/1)・調整面跡(10243/1)・調整面跡(10244/1)・調整面跡(10245/1)・調整面跡(10246/1)・調整面跡(10247/1)・調整面跡(10248/1)・調整面跡(10249/1)・調整面跡(10250/1)・調整面跡(10251/1)・調整面跡(10252/1)・調整面跡(10253/1)・調整面跡(10254/1)・調整面跡(10255/1)・調整面跡(10256/1)・調整面跡(10257/1)・調整面跡(10258/1)・調整面跡(10259/1)・調整面跡(10260/1)・調整面跡(10261/1)・調整面跡(10262/1)・調整面跡(10263/1)・調整面跡(10264/1)・調整面跡(10265/1)・調整面跡(10266/1)・調整面跡(10267/1)・調整面跡(10268/1)・調整面跡(10269/1)・調整面跡(10270/1)・調整面跡(10271/1)・調整面跡(10272/1)・調整面跡(10273/1)・調整面跡(10274/1)・調整面跡(10275/1)・調整面跡(10276/1)・調整面跡(10277/1)・調整面跡(10278/1)・調整面跡(10279/1)・調整面跡(10280/1)・調整面跡(10281/1)・調整面跡(10282/1)・調整面跡(10283/1)・調整面跡(10284/1)・調整面跡(10285/1)・調整面跡(10286/1)・調整面跡(10287/1)・調整面跡(10288/1)・調整面跡(10289/1)・調整面跡(10290/1)・調整面跡(10291/1)・調整面跡(10292/1)・調整面跡(10293/1)・調整面跡(10294/1)・調整面跡(10295/1)・調整面跡(10296/1)・調整面跡(10297/1)・調整面跡(10298/1)・調整面跡(10299/1)・調整面跡(10300/1)・調整面跡(10301/1)・調整面跡(10302/1)・調整面跡(10303/1)・調整面跡(10304/1)・調整面跡(10305/1)・調整面跡(10306/1)・調整面跡(10307/1)・調整面跡(10308/1)・調整面跡(10309/1)・調整面跡(10310/1)・調整面跡(10311/1)・調整面跡(10312/1)・調整面跡(10313/1)・調整面跡(10314/1)・調整面跡(10315/1)・調整面跡(10316/1)・調整面跡(10317/1)・調整面跡(10318/1)・調整面跡(10319/1)・調整面跡(10320/1)・調整面跡(10321/1)・調整面跡(10322/1)・調整面跡(10323/1)・調整面跡(10324/1)・調整面跡(10325/1)・調整面跡(10326/1)・調整面跡(10327/1)・調整面跡(10328/1)・調整面跡(10329/1)・調整面跡(10330/1)・調整面跡(10331/1)・調整面跡(10332/1)・調整面跡(10333/1)・調整面跡(10334/1)・調整面跡(10335/1)・調整面跡(10336/1)・調整面跡(10337/1)・調整面跡(10338/1)・調整面跡(10339/1)・調整面跡(10340/1)・調整面跡(10341/1)・調整面跡(10342/1)・調整面跡(10343/1)・調整面跡(10344/1)・調整面跡(10345/1)・調整面跡(10346/1)・調整面跡(10347/1)・調整面跡(10348/1)・調整面跡(10349/1)・調整面跡(10350/1)・調整面跡(10351/1)・調整面跡(10352/1)・調整面跡(10353/1)・調整面跡(10354/1)・調整面跡(10355/1)・調整面跡(10356/1)・調整面跡(10357/1)・調整面跡(10358/1)・調整面跡(10359/1)・調整面跡(10360/1)・調整面跡(10361/1)・調整面跡(10362/1)・調整面跡(10363/1)・調整面跡(10364/1)・調整面跡(10365/1)・調整面跡(10366/1)・調整面跡(10367/1)・調整面跡(10368/1)・調整面跡(10369/1)・調整面跡(10370/1)・調整面跡(10371/1)・調整面跡(10372/1)・調整面跡(10373/1)・調整面跡(10374/1)・調整面跡(10375/1)・調整面跡(10376/1)・調整面跡(10377/1)・調整面跡(10378/1)・調整面跡(10379/1)・調整面跡(10380/1)・調整面跡(10381/1)・調整面跡(10382/1)・調整面跡(10383/1)・調整面跡(10384/1)・調整面跡(10385/1)・調整面跡(10386/1)・調整面跡(10387/1)・調整面跡(10388/1)・調整面跡(10389/1)・調整面跡(10390/1)・調整面跡(10391/1)・調整面跡(10392/1)・調整面跡(10393/1)・調整面跡(10394/1)・調整面跡(10395/1)・調整面跡(10396/1)・調整面跡(10397/1)・調整面跡(10398/1)・調整面跡(10399/1)・調整面跡(10400/1)・調整面跡(10401/1)・調整面跡(10402/1)・調整面跡(10403/1)・調整面跡(10404/1)・調整面跡(10405/1)・調整面跡(10406/1)・調整面跡(10407/1)・調整面跡(10408/1)・調整面跡(10409/1)・調整面跡(10410/1)・調整面跡(10411/1)・調整面跡(10412/1)・調整面跡(10413/1)・調整面跡(10414/1)・調整面跡(10415/1)・調整面跡(10416/1)・調整面跡(10417/1)・調整面跡(10418/1)・調整面跡(10419/1)・調整面跡(10420/1)・調整面跡(10421/1)・調整面跡(10422/1)・調整面跡(10423/1)・調整面跡(10424/1)・調整面跡(10425/1)・調整面跡(10426/1)・調整面跡(10427/1)・調整面跡(10428/1)・調整面跡(10429/1)・調整面跡(10430/1)・調整面跡(10431/1)・調整面跡(10432/1)・調整面跡(10433/1)・調整面跡(10434/1)・調整面跡(10435/1)・調整面跡(10436/1)・調整面跡(10437/1)・調整面跡(10438/1)・調整面跡(10439/1)・調整面跡(10440/1)・調整面跡(10441/1)・調整面跡(10442/1)・調整面跡(10443/1)・調整面跡(10444/1)・調整面跡(10445/1)・調整面跡(10446/1)・調整面跡(10447/1)・調整面跡(10448/1)・調整面跡(10449/1)・調整面跡(10450/1)・調整面跡(10451/1)・調整面跡(10452/1)・調整面跡(10453/1)・調整面跡(10454/1)・調整面跡(10455/1)・調整面跡(10456/1)・調整面跡(10457/1)・調整面跡(10458/1)・調整面跡(10459/1)・調整面跡(10460/1)・調整面跡(10461/1)・調整面跡(10462/1)・調整面跡(10463/1)・調整面跡(10464/1)・調整面跡(10465/1)・調整面跡(10466		